

履 修 要 覧

2026 年度入学者用

白百合女子大学

白百合女子大学履修要覧 2026 年度入学者用

本冊子は、在籍している間、卒業・修了まで続けて使用することになりますので、各自で大切に保管してください
開講授業科目表、授業時間割表、学事日程（授業日・各種手続日程等）は、大学ホームページで確認してください
大学ホームページ > キャンパスライフ > 授業・履修（CAMPUS SQUARE のリンクからもアクセス可）

もくじ

文学部・人間総合学部 共通事項

授業・履修.....	4
卒業論文・卒業研究.....	12

文学部

教育課程

卒業認定に関する方針／教育課程の編成及び実施に関する方針.....	15
卒業要件単位数.....	19
宗教学科目.....	21
共通科目.....	25
外国語科目.....	29
国語国文学科.....	33
フランス語フランス文学科.....	37
英語英文学科.....	41

プログラム等

文学部で履修できるプログラム等.....	45
白百合 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム.....	47
国語国文学科スペシャリストプログラム.....	51
フランス語特別強化プログラム.....	55
オールイングリッシュプログラム.....	59
キリスト教文化探究プログラム.....	63
ジェンダープログラム.....	67
社会課題プログラム.....	71
複言語・複文化海外研修プログラム.....	75
カルチュラルリテラシープログラム.....	79
デジタルリテラチャープログラム.....	83
文芸創作プログラム.....	87
舞台芸術実践プログラム.....	91
グローバルビジネスプログラム.....	95
ホスピタリティ・マネジメントプログラム.....	101
国際スキルとコミュニケーションプログラム.....	107
児童英語プログラム.....	111
中学・高校教員免許取得プログラム.....	115
登録日本語教員養成プログラム.....	129
司書資格取得プログラム.....	133
司書教諭資格取得プログラム.....	137
学校司書養成プログラム.....	141
TOEIC 対策プログラム.....	145

人間総合学部

教育課程

卒業認定に関する方針／教育課程の編成及び実施に関する方針.....	151
卒業要件単位数.....	157
宗教学科目.....	159
共通科目.....	163
外国語科目.....	167
学部共通科目.....	171
児童文化学科.....	173
発達心理学科.....	177
初等教育学科.....	181

プログラム等

人間総合学部で履修できるプログラム等.....	205
白百合 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム.....	207
キリスト教文化探究プログラム.....	209
ジェンダープログラム.....	211
社会課題プログラム.....	213
グローバルビジネスプログラム.....	215
ホスピタリティ・マネジメントプログラム.....	217
国際スキルとコミュニケーションプログラム.....	219
児童英語プログラム.....	221
登録日本語教員養成プログラム.....	223
司書資格取得プログラム.....	225
司書教諭資格取得プログラム.....	227
学校司書養成プログラム.....	231
公認心理師カリキュラム.....	235

大学院 文学研究科

共通事項

修了認定に関する方針／教育課程の編成及び実施に関する方針.....	244
課程修了および学位取得スケジュール.....	253
指導教員.....	255
修了要件単位数およびカリキュラム.....	256
授業・履修.....	264
大学院科目履修取消申請.....	270
委託特別聴講生制度.....	271
修士論文および特定の課題についての研究の成果.....	272
博士学位論文（課程博士）.....	274
在学延長・単位取得退学.....	277
専修免許状の取得.....	278
公認心理師カリキュラム.....	282
臨床心理士カリキュラム.....	284
臨床発達心理士カリキュラム.....	286

文 学 部 ・ 人 間 総 合 学 部
共 通 事 項

文学部・人間総合学部

共通事項

授業・履修

卒業論文・卒業研究

授業・履修

1. 単位

1) 単位と卒業要件単位数

各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して計算されており(学則第27条)、科目を履修し、試験その他の適切な方法により、合格と評価された者に対して所定の単位が与えられます(学則第29条)。例えば、本学で多く開講されている半期2単位の講義・演習科目において必要な学修時間は90時間で、その内訳は、授業30時間(2時間×15回、90分授業を2時間とみなす)と授業外60時間になります。単位の修得には、授業時間とともに予習・復習・課題への取り組み・自主学習など授業時間外の学修が前提となっている点や、授業科目ごとの達成目標を満たしてはじめて合格と評価される点を理解しておくことが大切です。

卒業要件単位数は、文学部、人間総合学部ともに124単位です。詳細については、各学部の卒業要件単位数のページとともに、各科目区分の卒業の要件を十分に確認してください。

2) 履修登録単位数の上限(CAP)

履修科目として登録することができる単位数の上限が半期ごとに定められています。これは、単位の過剰登録を防ぎ、単位修得のために必要な学修時間を確保することを目的としていますが、一方で、1・2年次での修得単位数が極めて少ない場合、3・4年次で挽回しようとしても卒業に必要な授業科目・単位数のすべてを履修登録しきれず、4年間での卒業が困難になることも考えられます。計画的な履修と単位修得をこころがけてください。

1年次～4年次 履修登録単位数の上限 半期 24単位 ※

※以下の学生に限り、上記24単位に6単位以内の加算を認めます。

- ・人間総合学部児童文化学科に所属する学生のうち、司書資格取得プログラム、登録日本語教員養成プログラム、グローバルビジネスプログラム、および初等教職課程を履修する者。
- ・人間総合学部発達心理学科に所属する学生のうち、司書資格取得プログラム、登録日本語教員養成プログラム、グローバルビジネスプログラム、および初等教職課程を履修する者。
- ・人間総合学部初等教育学科に所属する学生のうち、司書資格取得プログラム、登録日本語教員養成プログラム、グローバルビジネスプログラム、および児童英語プログラムを履修する者。

※次の単位は履修登録単位数の上限の中に含めません。

- ・本学入学前において大学等で修得し、本学の単位として認定されたもの。
- ・本学と協定のある大学において修得し、本学の単位として認定されたもの。
- ・外国留学において修得し、本学の単位として認定されたもの。
- ・短期大学または高等専門学校の特攻科における学修、その他文部科学大臣が別に定める学修のうち、本学の単位として認定されたもの。
- ・集中講義科目。

※通年科目の単位数は、各学期につき半分の単位で計算してください。

2. 授業科目

1) 履修要覧

履修要覧は、大学の学修において必要な基本事項、卒業要件単位数、科目区分別カリキュラム、プログラム別カリキュラムなどが掲載されています。当該入学年度の履修要覧(冊子)は、在籍している間、卒業まで続けて使用します。大切に保管し、必要に応じて随時確認してください。

2) 開講授業科目表

当該年度に開講される授業科目の一覧表は、科目区分またはプログラムごとに大学ホームページで確認することができます。開講授業科目表には、授業科目名、担当教員名、科目区分、開講期、開講曜日・時限、必選区分、授業形態、対象年次・クラス、人数制限、他学科開放の有無、履修上の注意事項などが掲載されています。

3) 時間割表

当該年度に開講される授業科目の時間割は、曜日・時限ごとに大学ホームページで確認することができます。

4) シラバス

当該年度に開講される授業科目のシラバスは、CAMPUS SQUAREで確認することができます。シラバスには、授業科目の達成目標・概要・計画、履修上の注意、授業時間外学修の内容、教科書・参考書、成績評価方法・基準などが掲載されています。履修科目選択の際だけでなく、履修中のコースガイドとしても随時参照するようにしてください。

5) 科目区分

文学部の授業科目は、宗教学科目、共通科目、外国語科目および学科専門科目に区分されています。また、人間総合学部の授業科目は、宗教学科目、共通科目、外国語科目、学部共通科目および学科専門科目に区分されています。その他の区分として、教職に関する科目、司書に関する科目、司書教諭に関する科目が設けられています。

6) 開講期

授業科目には、開講期によって、前期科目、後期科目、通年科目（前期から後期まで通して行われる授業科目）、集中講義（春期または夏期休暇期間等に集中して行われる授業科目）の別があります。

7) 必選区分

授業科目には、必修科目（必ず履修して単位を修得すべき科目）、選択必修科目（指定科目群の中から所定の科目数または単位数以上を選んで履修して単位を修得すべき科目）、選択科目（自由に履修できる科目）の別があります。必選区分は、卒業、資格取得、あるいは、プログラム修了に対し、それぞれの単位修得の優先度合いを表すものです。所属学科や入学年度によっても異なりますので、当該カリキュラムをよく確認してください。なお、必修科目については、単位を修得できなかった場合、次学期または次年度以降に再履修することになります。

8) 対象年次

授業科目には、各カリキュラムにおいて履修するのに望ましい対象年次が示されています。対象年次が指定されている授業科目は、原則としてその年次において履修してください。ただし、自分より下級年次を対象とする授業科目を履修することは可能です。その履修に際しては、特に許可を得る必要はありません。

9) 授業形態

授業科目には、講義、演習、実験、実習、実技、または、それらを2つ以上組み合わせた授業形態があります。

10) 他学部他学科開放科目

各学科専門科目の中には、その学科に所属していない学生の履修が認められている授業科目もあります。開講授業科目表の他学科開放欄に「○」のある授業科目が該当します。自分の所属以外の学科専門科目を履修して修得した単位は、科目区分を特定しない自由選択単位（差の単位）となります。

11) 再度履修できる科目

原則として、過去に単位修得した授業科目を再び履修することはできません。ただし、例外として、年度別に異なる授業テーマが設定されるなどの理由で、単位修得済の同一名称科目を再び履修できる場合があります。開講授業科目表の備考欄に「再度履修可」と記載されている授業科目が該当します。

12) 授業科目と卒業認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）の対応

卒業認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）で示す本学での学びで身につけてほしい知識・能力と授業科目との対応関係を示した一覧を大学ホームページで公開しています。適宜確認の上、体系的な学びを理解し、計画的に学修をすすめてください。

13) 履修系統図

科目区分ごとの学びで身につけてほしい知識・能力と授業科目との対応関係を示した履修系統図を大学ホームページで公開しています。適宜確認の上、体系的な学びを理解し、計画的に学修をすすめてください。

14) 科目ナンバリング

学問上の分類や学修段階・順序を示した科目ナンバリングを大学ホームページで公開しています。履修科目を選択する際の一助としてください。

3. 科目履修登録申請

1) 科目履修登録申請と履修上の原則

科目履修登録申請（以下、履修登録という）は、その学期に履修するすべての授業科目を所定の期日までに届け出るものです。履修登録にあたっては、履修要覧、シラバス、開講授業科目表、時間割表や、各種ガイダンスでの説明、学科・センターの指示等をあらかじめよく確認し、自分にとって必要な手続きを確実に行うようにしてください。履修上の原則は、以下のとおりです。

- ・対象年次が指定されている授業科目は、その年次において履修すること
- ・再履修科目と当該年次必修科目の時間割が重複している場合は、再履修科目を優先して履修すること
- ・合格の評価を受けた科目について、同一授業科目を履修登録することはできない（再度履修可の場合を除く）
- ・設備および授業内容等の都合により履修調整を行うことがある

なお、原則として、所定の期日を過ぎてからの履修科目の登録・変更はできません*。必要な手続きを怠ったことにより発生する履修上の不利益は学生本人の責任とします。所定の期日までに履修登録を行うことのできないやむを得ない事情がある場合は、事前に教務課へ連絡して指示をうけてください。

※進級・卒業・資格取得要件に対してその条件を満たせない状態にある場合に限り、制限人数に達していない授業科目の中から、必要最低限の登録・変更を許可されることがあります。

2) 科目履修登録申請

履修登録の日程（前期 3月下旬～4月初旬、後期 9月中旬）

大学ホームページ > キャンパスライフ > 授業・履修

当該年度の履修登録日程については、大学ホームページで確認することができます。

履修登録の方法

履修登録には「事前登録申請」と「本登録申請」の2つのステップがあり、それぞれCAMPUS SQUAREで行います。操作方法詳細については、大学ホームページを参照してください。

履修計画

履修要覧、シラバス、時間割表などを参照し、あらかじめ履修計画を立てたうえで履修登録期間にのぞんでください。履修科目の決定にあたっては、単にその学期のことだけを考えるのではなく、卒業、資格取得やプログラム修了までに必要な科目や単位を把握し、おおまかにでも見通しをもったうえで検討することが大切です。

履修することがあらかじめ確定している授業科目の登録確認

CAMPUS SQUARE > 履修 > 履修登録・登録状況照会

当該年次必修科目や履修することが確定している授業科目については、各自の履修登録・登録状況照会画面にあらかじめ表示されています。履修すべき授業科目が正しく登録されているかを事前登録期間内に確認し、誤りがあればすみやかに教務課へ申し出てください。

事前登録申請

CAMPUS SQUARE > 履修 > 事前登録 > 事前登録 > カテゴリー選択 > 科目グループ選択 > 優先順位等*入力 > 確認 > 確認
※【優先順位欄】1科目のみの場合は「1」を入力 【合格希望科目数欄】科目グループ内で履修を希望する科目数を入力（入力欄がなければ入力不要）

人数制限科目（開講授業科目表に「制」マークのある科目）と再履修科目（指定された年次に単位を修得できなかった必修科目）を事前登録申請期間に登録します。

事前登録期間終了後に履修調整が行われますので、本登録期間になりましたらCAMPUS SQUAREで結果を確認して

ください。履修登録・登録照会画面には履修可能となった授業科目のみが表示されています。

なお、定員に余裕のある授業科目を本登録期間直前にCAMPUS SQUAREへ掲示します。履修希望科目があれば本登録期間に追加登録（先着順科目を登録）を行ってください。

本登録申請

CAMPUS SQUARE > 履修 > 履修登録・登録状況照会

のこりすべての授業科目を本登録申請期間に登録します。登録不備がないか十分に確認のうえ、登録作業を終えてください。なお、教室収容人数を超える履修者数となった授業科目については、本登録申請期間終了後に履修調整を行います。履修調整対象者へは、代替りの授業科目の追加登録方法とあわせてCAMPUS SQUAREでお知らせします。

履修登録申請内容の最終確認

CAMPUS SQUARE > 履修 > 履修登録・登録状況照会

授業開始日より1週間以内に、その学期に履修すべき科目が正しく登録できていることを最終確認してください。万一、重大な登録不備が見つかった場合は、ただちに教務課へ申し出てください。

履修取消申請（希望する場合のみ）

履修登録済の授業科目の内、単位を修得しない授業科目については、履修取消申請を行ってください。履修取消科目については、成績評価がなされず、GPAの計算にも含まれません。前期科目・集中講義は5月、後期科目は10月の、それぞれ学事日程で示されている期日までにWEBフォームより申請してください。WEBフォームのURLは、申請期間直前にCAMPUS SQUAREでお知らせします。

必修科目、卒業論文、卒業研究、卒業レポートおよび実習科目と、4年次後期に履修している授業科目については、履修取消を申請することはできません。また、前期に履修取消した単位数分を後期の履修登録単位数の上限に上乘せすることはできません。進級や卒業に関わる科目を取り消すことのないよう、十分に確認のうえ申請してください。

3) 大学院科目の先取り履修制度

大学院科目先取り履修制度は、所定の手続きにより、本学大学院への進学を志望する学部学生が卒業年次に進学志望専攻の大学院科目を履修し、院進後にその修得単位を入学前既修得単位として修了要件に含めることのできる制度です。先取り履修を希望する学生は、3年次学年末にCAMPUS SQUAREへ掲出される出願要項、対象授業科目リストをよく確認の上、出願申請を行ってください。

4. 履修

1) 学事日程

学事日程は、大学ホームページで確認することができます。例年3月中旬に翌年度の学事日程を公開します。授業日程はもちろんのこと、履修登録などの各種申請日程についても、各自でよく確認してください。

2) 授業の時間

授業の時間は、1限 8:50~10:20、2限 10:30~12:00、3限 13:00~14:30、4限 14:40~16:10、5限 16:20~17:50、6限 18:00~19:30 です。

3) 休講

授業科目の休講は、CAMPUS SQUAREでお知らせします。ただし、教室での対面授業に代えて遠隔授業が行われる場合は、担当教員より連絡します。配信日や配信方法など、担当教員の指示にしたがってください。また、緊急時（台風など）における休講措置については、大学ホームページ等でお知らせします。緊急時の休講措置基準については、学生生活ガイドブックを参照してください。

4) 補講

授業科目の補講は、CAMPUS SQUAREでお知らせします。補講は、学事日程に示されている補講日だけでなく、通常授業期間内に行われる場合もあります。また、通常と異なる曜日・時限・教室に補講を実施する場合もあります。CAMPUS SQUAREの補講情報とともに、担当教員からの事前連絡についてもよく確認してください。

5) 出席

授業科目ごとの方法により出席を確認します。出欠席の回数については、各自で責任をもって管理してください。なお、各科目につき、出席した時間数が出席すべき時間数の3分の2に満たない者は、学則第29条に定める方法(試験その他の適切な方法)による評価の対象とはならず、その科目修了の認定を受けることもできません(学則第31条)。授業科目への一定以上の出席は、あくまでも単位修得の最低条件であり、単位修得を保証するものではないという点を理解しておくようにしてください。

6) 遅刻・早退

授業時間開始後15分までに教室に入室した場合は、遅刻と認められる場合があります。また、授業時間終了予定時刻15分前以降に教室を退出する場合は、事前の申し出により早退と認められる場合があります。遅刻・早退はその種別なく合算し、計3回をもって1回の欠席とみなされます。

交通機関遅延による遅刻(15分以上の遅刻含む)については、当該交通機関窓口発行の遅延証明書を当日中に担当教員へ提出することで遅刻と認められる場合があります。詳細については大学ホームページを確認してください。

7) 欠席

授業科目の欠席については、特に連絡の必要はありません。ただし、試験欠席の場合や授業内発表担当などの場合は、事前に(遅くとも当日中までに)メール等で担当教員へ直接連絡し、必要な指示を仰いでください。

8) 公認欠席

次にあげるものについては、所定の手続きを行うことにより公認欠席が認められます。ただし、初等教育学科の学生は、保育士養成課程科目に関しては、いかなる場合も公認欠席が認められません。手続方法は、大学ホームページで確認してください。

- ・教育実習(幼・小・中・高)、保育実習、日本語教育実習および介護等体験
- ・忌引
- ・学校保健安全法施行規則に定められている出席停止を要する感染症への罹患
- ・裁判員制度による裁判所への出頭
- ・その他特別な事情により、大学当局が認めたもの(本学では就職活動による欠席は公認欠席として扱われません)

9) 教室

授業科目が行われる教室は、CAMPUS SQUAREのMYスケジュールで確認することができます。教室の変更(一時的な変更含む)は、原則としてCAMPUS SQUAREでお知らせします。ただし、授業進行上の理由で、CAMPUS SQUAREのMYスケジュールには反映されず、担当教員より使用教室を直接指示される場合もあります。特に、授業期間開始直後は多くの授業科目において教室変更が発生します。各自で適宜確認してください。教室番号は4桁の数字で表され、左から1桁目が建物名、2桁目が階数、3・4桁目がフロア内通し番号となっています。例えば、R. 3201は、3号館2階01教室となります。なお、1桁目が「9」は本館、「L」は図書館を表しています。

10) 教科書

授業科目で使用する教科書は、アマピピア(購買部)のWEB販売サイトにて所定の販売期間に購入することができます。WEB販売サイトのURLや販売期間は、CAMPUS SQUAREにてお知らせします。必修科目など履修があらかじめ決まっている科目以外の教科書は、履修が確定してから購入するようにしてください。なお、教科書販売についての質問は、アマピピア(03-5313-1620/1号館地下)へ直接お問い合わせください。

11) 学習支援システム

本学における主な学習支援システムには、CAMPUS SQUARE (履修登録申請のほか、授業科目のシラバス・教室・休講・補講・授業連絡・成績、大学からのお知らせなどを確認できるポータルサイト)、manabacourse (授業科目の資料・コンテンツ配信、リアクションペーパー・レポート提出、オンラインテスト受験、授業指示や意見交換などが行われる学習支援システム)、白百合メール (@shirayuri.ac.jpの個別アカウント) などがあります。また、授業科目によっては、これら以外のツールを使用することもあります。学習支援システムを積極的に活用するとともに、自分にとって必要な情報を、日々責任をもって確認してください。

CAMPUS SQUARE <https://cs.shirayuri.ac.jp/campusweb/>
manabacourse <https://shirayuri.manaba.jp/>
白百合メール <https://mail.google.com/>

12) 大学ホームページ (授業・履修に関するページ)

履修要覧をはじめとする授業・履修に関する情報は、大学ホームページでも公開しています。スマートフォンなどから以下のページへアクセスして、必要な情報を適宜確認してください。

大学ホームページ > キャンパスライフ > 授業・履修 (CAMPUS SQUAREのリンクからもアクセス可)

5. 成績評価

1) 成績評価方法

成績評価方法は、試験、レポート、課題、発表、授業内外での取り組みなど、授業科目ごとにそれぞれ適切な方法が設定されています。シラバスに記載されている授業科目ごとの成績評価方法・基準を確認するとともに、評価物の提出期日・内容、試験の日程・出題範囲・条件などについては担当教員からの説明をよく聞いて学修にあたってください。なお、試験の受験上の注意やレポートに関する注意事項については、学生生活ガイドブックで確認することができます。

2) 成績評価

成績評価とその基準は、以下のとおりです。

評 点	表 記	評 価 基 準	合 否
100点～90点	S	達成目標を十分に満たし、秀でている。	合 格
89点～80点	A	達成目標を十分に満たしている。	
79点～70点	B	達成目標をほぼ満たしている。	
69点～60点	C	達成目標の最低水準を満たしている。	
59点～0点	F	達成目標の最低水準を満たしていない。	不 合 格
試験未済	未	試験未済	
欠席超過	超	欠席超過 (学則第31条*に基づく)	
成績認定	T	留学等、学外で履修した科目を本学の授業科目として認定する。	認 定

(通年科目の前期末の成績は中間点であり、最終的な成績評価は学年末に確定します。)

※ 学則第31条

各科目につき、出席した時間数が出席すべき時間数の3分の2に満たない者は、第29条に定める方法 (試験その他の適切な方法) による評価の対象とはならず、その科目修了の認定を受けることもできない。

3) GPA

GPA (グレード・ポイント・アベレージ) は、授業科目ごとに5段階 (S、A、B、C、F) で成績評価を行ったうえで、それぞれに対応するグレード・ポイント (4、3、2、1、0) を付与し、単位あたりの平均をだしたもので、本学では以下の式により計算します。学習状況を振り返る際のひとつの目安としてください。

$$GPA = \frac{(\text{履修登録科目の単位数} \times \text{当該科目のGP}) \text{の合計}}{\text{履修登録した科目の単位数合計}}$$

※授業科目の成績のGPは次のとおりとします。 S : 4、A : 3、B : 2、C : 1、F : 0、未 : 0、超 : 0

※他大学等で習得し単位認定された科目 (T)、本学が計算式に含めないと認めた科目、および、履修取消科目は、計算に含まれません。

※成績通知書には「学期GPA」「年度GPA」「通算GPA」が、学業成績証明書には「通算GPA」が表示されます。

※年度途中で休学・退学となった場合、履修中の通年科目は「履修取消」となり、GPAへは反映されません。

(ただし、通年科目の半期履修が適用された場合はGPAへも反映されます。)

また、学期途中で休学・退学となった場合、履修中の当該学期科目は「履修取消」となり、GPAへは反映されません。

4) 成績通知

成績は、前期は9月初旬、後期は3月初旬の学事日程で示されている成績発表日よりCAMPUS SQUAREで通知し、3月上旬には保証人へ成績通知書を郵送します。授業科目の成績 (通年科目の中間点を含む) については履修成績照会画面、修得済単位数およびGPAについては単位修得状況照会画面で確認してください。入学前既修得、留学、編入学、再入学などの理由により、学外で履修した学修を本学における授業科目の履修とみなして単位を認定された場合は、認定学期の成績発表日以降に、CAMPUS SQUAREの単位修得状況照会画面で認定科目名と単位数を確認することができます。なお、成績に関する明らかな疑義がある場合は、学事日程で示されている成績調査期間内に教務課へ申し出てください。

5) 履修指導

直前の学期GPAが1.0未満の場合、または、以下の表に該当する場合は、原則として学期のはじめに担当アドバイザーによる履修指導が行われます。学修上の課題についてアドバイザーへ相談し、今後のよりよい学びにつなげてください。

国語国文学科	1・2年次：進級要件に含まれる専門科目に不合格のある者 3・4年次：テーマ別研究、卒業論文に不合格のある者
フランス語フランス文学科	2年次：1年次のフランス語共通テストで50点未満の者 3年次：必修フランス語科目で2科目以上不合格のある者 4年次：必修フランス語科目で3科目以上不合格のある者、専門ゼミⅠ・Ⅱが不合格の者
英語英文学科	1～3年次：専門必修科目に不合格のある者
児童文化学科	1～4年次：専門必修科目 (卒業論文の履修条件である10科目20単位) に不合格のある者
発達心理学科	2年次：専門必修科目に不合格のある者 または 修得単位数の合計が30単位未満の者 3年次：専門必修科目に不合格のある者 または 修得単位数の合計が60単位未満の者 4年次：専門必修科目に不合格のある者 または 修得単位数の合計が90単位未満の者
初等教育学科	1～3年次：履修配当年次の専門必修科目に不合格のある者 または 年間の修得単位数が30単位未満である者

6) 再試験

卒業年次において履修登録した科目のうち、「(卒業要件・資格取得要件に関わる) 不合格となった科目」が合わせて2科目以内であることを条件に、再試験の受験が認められる場合があります。ただし、欠席超過により単位不認定となった科目、卒業論文・研究および学外実習科目は再試験の対象外となります。再試験の実施日は学事日程

で、再試験の対象外科目は学生生活ガイドブックで確認してください。なお、再試験の結果は合否のみで評価され、合格の場合でも 60 点となります。

6. その他

1) 学則および各種規程

白百合女子大学学則、各種規程は学生生活ガイドブックの巻末に掲載しています。

2) 学籍

休学、復学、退学、転学部・転学科等の手続きについては、学生生活ガイドブックで確認することができます。諸手続きには時間を要します。原則として期日を過ぎての手続きはできませんので、早めにアドバイザーまたは教務課への相談を開始してください。なお、進級・卒業要件不足による留年については、判定会議後にアドバイザーより連絡があるほか、保証人へも留年通知書を郵送します。

3) アドバイザー制度

学修上の困りごとについては、担当アドバイザーへ相談し、助言・指導を受けることができます。また、アドバイザー制度以外にも学修を支える多くのサポートが用意されています。学生生活ガイドブックの学生サポートのページを参照し、必要に応じたサポートを活用してください。

4) 授業・履修に関するサポート

授業・履修についての質問は、授業内容に関しては担当教員へ、それ以外は教務課または各教育センター・学科研究室へお問い合わせください。

卒業論文・卒業研究

1. 卒業論文・卒業研究の提出

卒業論文・卒業研究については、その提出を以下のとおりとします。

- 〔提出期間〕 当該年度学事日程に示す 12 月中旬の 3 日間（土日は含まない）
- 〔提出期限〕 上記期間の最終日の 15 時まで（時間厳守）
- 〔提出方法〕 所属学科指定の方法による

2. 卒業論文・卒業研究の提出に関する注意事項

卒業論文・卒業研究の提出に関する注意事項は以下のとおりです。

- ・卒業論文・卒業研究の提出は、所属学科指定の方法により、原則として学生本人が行うものとする。
- ・提出後の卒業論文・卒業研究の題目の変更は認められない。
- ・一度受理した卒業論文・卒業研究は、理由の如何を問わず返却は行わない。

3. 卒業論文・卒業研究の提出における特別措置について

1. に示す提出期限に遅れた卒業論文・卒業研究提出者のうち、以下の条件を満たす者に対しては特別措置を設けます。

- 〔条 件〕 完成した卒業論文・卒業研究を、提出期間最終日の 17 時までに所属学科指定の方法で提出すること
- 〔措置内容〕 特別措置の取り扱いについては以下のとおりとする
 - ① 正規に提出された卒業論文・卒業研究とは別に、受理・審査の手続きを行う
 - ② 成績評価は、「合格」または「不合格」の扱いとする
 - ③ 「合格」の場合、成績は「C」とする。

なお、以上に該当しない卒業論文・卒業研究未提出者は、卒業延期となります。

文学部

文学部

卒業認定に関する方針／教育課程の編成及び実施に関する方針

文学部 卒業認定に関する方針／教育課程の編成及び実施に関する方針

2026 年度入学者用

1. 卒業認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）

所定の年限在学し、各学科が定める所定の単位を修得することで、以下の能力を身につけた学生に、学位を授与する。

- ・建学の精神の根幹にあるキリスト教、特にカトリシズムの人間観と世界観を理解するとともに、その今日的な意義と課題について自己及び人間の在り方を省みつつ論じることができる。あわせて、他者との関わりを通して自己の生きる意義を探究する態度、他者のために自発的に行動し協働する意欲をもっている。
- ・時代を超えて普遍的に求められる深い教養と知性、大学生としての基礎的なスキルやリテラシーを身につけている。
- ・現代社会に求められる外国語学習を通じ、異文化への深い理解のために必要な能力を身につけている。
- ・専攻する言語と文学、文化に関して、専門的な知識と技能を身につけている。
- ・専攻する言語と文学、文化について、特定の問題を掘り下げ、自ら調査、研究して考えをまとめることができる。
- ・専攻する言語と文学、文化に関する教養をもとに、多様な人々と協働し、対話する能力を身につけている。

2. 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）

文学部の卒業認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる能力を身につけるために以下の方針に基づいてカリキュラムを編成する。

1. 建学の精神及び教育目標に基づき、学部で修得する知識・技能を自己の人格的成長及び他者への愛につなげることに資する宗教科目を1年次から4年次にわたって配置する。
 - ・建学の精神を理解しキリスト教の基本を学ぶための科目を、1年次に必修科目として置く。
 - ・キリスト教の人間観・世界観について歴史、現代世界の諸課題と関連づけて理解を深めつつその今日的意義を考察するための科目を、2年次に必修科目として置く。
 - ・教育目標「真・善・美」に向かって1・2年次の学びを学生各自の関心、専門、ライフ・デザインに応じて発展・深化又は拡張させるためのテーマ別科目群を、3・4年次に選択必修科目として置く。
 - ・4年次までの宗教科目及びそれに関連する活動を通じて学んだことを総括するための科目を、4年次後期に置く。
2. 幅広い教養を涵養し、学際的な視点から専門分野を捉える能力を育成するために以下の科目群を設置する。
 - (1) ライフ・リテラシー科目群（初年次教育を含む）
 - (2) 教養科目群（人文科学・社会科学・自然科学）
 - (3) 健康・スポーツ科目群
 - (4) 情報・データサイエンス科目群
3. グローバル社会に求められる語学力とコミュニケーション力、異文化への深い理解力を身につけるために、次の選択必修・選択科目を提供する。
 - ・英語、フランス語、ドイツ語、中国語、韓国語の外国語科目を設置し、少人数クラスで文法から発音、日常会話まで基礎からバランスよく学ぶ。
 - ・学生個々のレベルにあわせたクラス編成により、効率的にレベルアップを図る授業体制をとり、随時、ICT設備を利用する。
4. 専攻する言語と文学、文化に関する基本的な知識と技能を習得するために、1・2年次に基礎科目を設置する。

専攻する言語と文学、文化について、自ら調査、研究して考えを発表し、議論を通じて問題解決をはかる力を涵養するために、演習科目を設置する。

専攻する言語と文学、文化を多方面から理解し、多彩な専門知識を身につけるために、講義科目を設置する。

専攻する言語と文学、文化に関して、自ら設定した課題について考究し、卒業論文・レポートを完成させるために、3年次からゼミを設置する。

専攻する言語と文学、文化の学びを深めつつ、学科の枠を超えた教養を身につけ、言葉によるコミュニケーション力を涵養し、より幅広いキャリア形成を可能にするために、以下の3系統のプログラムを設置する。

- (1) 「専門を深めるプログラム」
- (2) 「キャリアとライフ・デザインのためのプログラム」
- (3) 「資格取得を目指すプログラム」

【国語国文学科】

文学部のカリキュラム・ポリシーに基づき、国語国文学科は以下のような方針でカリキュラムを編成する。

古代から現代に至る日本語日本文学の多様な世界を探求し、この学びをとおして、日本語による論理的思考力と想像力、表現能力を育み、そこから見出されるテーマを追究するために、以下の科目を置く。

- ・基本的知識を広く吸収するとともに、研究活動を行うための姿勢を培うため、少人数の基礎演習や基礎講読を置く。
- ・日本語学、日本文学、日本語教育の幅広い分野に目を向けるとともに、専門的に取り組みたい領域を模索し見定めるため、各領域を総合的に俯瞰する科目（総合研究）を置く。
- ・各領域について知見を深め、調査、研究する技能を高めるため、専門性の高い演習やさまざまな内容の講義科目を置く。
- ・学びの集大成となる卒業論文を執筆するため、自ら選択した専門領域における特定の問題を掘り下げて調査、研究し、議論を通して問題解決をはかる、ゼミ形式の演習（テーマ別研究）を置く。

【フランス語フランス文学科】

文学部のカリキュラム・ポリシーに基づき、フランス語フランス文学科は以下のような方針でカリキュラムを編成する。

世界の共通語の一つであるフランス語を習得し、幅広い時代のフランス文学にアプローチしながら、フランス語圏の社会・文化・歴史を総合的に探究する能力を身につけるために、以下の科目を置く。

- ・「リーディング」「ライティング」「ヒアリング」「スピーキング」の4技能をバランスよく伸ばすため、1・2年次に、少人数クラスによるフランス語の基礎科目を置く。
- ・フランス語圏の文学・文化・歴史・社会への関心を深め、専門的学習の基盤となる知識を習得することを目的とした基礎科目を1年次と2年次に置く。
- ・選択したコースに沿って専門科目を履修することで、それぞれの関心領域に応じて専門知識が体系的に身につくよう、「フランス語スペシャリスト」「フランス社会・生活文化」「フランス芸術・文学・歴史」の3つのコースを設置する。
- ・フランス語およびフランス語圏の文学・文化・歴史・社会について、専門的知見を身につけるために、多彩な講義科目を2～4年次に置く。
- ・フランス語およびフランス語圏の文学・文化・歴史・社会について、自ら調査、研究して考えを発表し、議論を通じて問題解決をはかる力を涵養するために、演習科目を3～4年次に置く。
- ・関心のあるテーマについての研究を掘り下げ、十分な時間をかけてレポート・卒業論文を執筆するため、2年次後期にゼミへの導入科目を、3～4年次に専門ゼミを置く。

【英語英文学科】

文学部のカリキュラム・ポリシーに基づき、英語英文学科は以下のような方針でカリキュラムを編成する。

英語という外国語を通して浮かびあがる現代グローバル社会について学び、今日の諸問題を読み解くために必要な歴史的・文化的リテラシーの獲得を目指す。

- ・早期に十分な英語力を身に着けるため、1年次から2年次にかけて英語スキル科目を必修とする。プレイスメ

- ント・テストによってレベル別の少人数クラスを設けて効果的な学習環境を整える一方、到達目標や成績評価方法においてクラス間の差異が生じないように共通シラバスを使用する。専門性のある教材を用いてインプットとアウトプットの質的な向上を図り、4技能統合型の授業によって英語力を総合的かつ実践的に発展させる。
- ・専門教育の中核を担う演習科目を、1年次から4年次に至るまで必修とする。1・2年次でアカデミック・リサーチの基礎と応用を学び、3年次では専門的な研究テーマに基づいてリサーチを遂行し、その成果を授業で発表する。4年次においては、本学科での学修の集大成となる卒業論文を教員の継続的な指導のもとに書き上げる。
 - ・専門的な知識・技能の修得を目的として、選択必修の講義科目を1年次から履修可能とする。「文化」と「教育」という二つの専門領域に講義科目を分類し、学生は学問的な関心に合わせて講義科目の履修計画を立てる。文化領域では、イギリス・アメリカを中心とする英語圏の文学や歴史、また、日本を含む現代グローバル社会について学ぶ。教育領域では、英語を言語学的手法で分析するだけでなく、教員養成を視野に入れた学びを行う。

文学部

卒業要件単位数

文学部 卒業要件単位数

文学部に在籍する学生は、以下の表に示す科目区分ごとの要件を満たした上で、合計 124 単位以上修得することが卒業の要件となります。「科目区分を特定しない自由選択単位」とは、「各科目区分の要件単位数の合計」と「卒業要件単位数（124 単位）」との「差」にあたる単位です。本学で開講されているすべての科目より履修可能な科目を選んで履修し、その差をうめるよう単位を修得してください。

なお、入学する前に大学または短期大学において履修した授業科目の修得単位について本学での単位認定を希望する場合は、入学年度前期の履修登録申請期間終了時まで、教務課へ申し出てください。

2026 年度入学者用

科目区分	学 科		
	国語国文学科	フランス語フランス文学科	英語英文学科
宗 教 学 科 目	8		
共 通 科 目	20		
外 国 語 科 目	8		
所 属 学 科 専 門 科 目	62		
科目区分を特定しない自由選択単位 (各科目区分の要件単位数合計と卒業要件単位数との「差の単位」)	26		
卒 業 要 件 単 位	124		

文学部

宗教学科目

1. カリキュラム
2. 卒業の要件
3. 履修の方法・留意事項
4. 登録

文学部 宗教学科目

1. カリキュラム

2026年度入学者用

()内の数字は科目の単位数

	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	修得単位	
学びの流れ	必修科目を通して私たちの生きる基盤がどこにあるかをイエス・キリストの教えを通じて学びます。キリスト教学入門Ⅰ・Ⅱではキリスト教の基礎を学び、建学の精神について理解し、キリスト教的人間論Ⅰ・Ⅱではキリスト教の人間観・価値観、建学の精神について理解を深めます。自分を越えた存在からの関わりに気づくことで、出会う他者を共感的に受け入れ、他者を自分と同じように大切にすることを学びます。		聖書、神学、哲学、歴史、文学、芸術、倫理、死生学、社会課題、霊性、宗教学等に関わる種々のテーマを扱う開設科目から選択し、キリスト教学入門Ⅰ・Ⅱ、キリスト教的人間論Ⅰ・Ⅱでの学びを各自の問題関心に応じて発展・深化させます。			
必修	キリスト教学入門Ⅰ (1) キリスト教学入門Ⅱ (1)	キリスト教的人間論Ⅰ (1) キリスト教的人間論Ⅱ (1)			4 単位	
選択必修			キリスト教と社会・文化AⅠ (2) キリスト教と社会・文化BⅠ (2) キリスト教と社会・文化CⅠ (2) キリスト教と社会・文化DⅠ (2) キリスト教と社会・文化EⅠ (2) キリスト教と社会・文化FⅠ (2) キリスト教と社会・文化GⅠ (2) キリスト教と社会・文化HⅠ (2) キリスト教と社会・文化JⅠ (2) キリスト教と社会・文化KⅠ (2) キリスト教と社会・文化LⅠ (2) キリスト教と社会・文化MⅠ (2) キリスト教と社会・文化NⅠ (2) キリスト教と社会・文化PⅠ (2) キリスト教と社会・文化QⅠ (2) キリスト教と社会・文化RⅠ (2) キリスト教学演習AⅠ (2) キリスト教学演習BⅠ (2) キリスト教学演習CⅠ (2) キリスト教学演習DⅠ (2)	キリスト教と社会・文化AⅡ (2) キリスト教と社会・文化BⅡ (2) キリスト教と社会・文化CⅡ (2) キリスト教と社会・文化DⅡ (2) キリスト教と社会・文化EⅡ (2) キリスト教と社会・文化FⅡ (2) キリスト教と社会・文化GⅡ (2) キリスト教と社会・文化HⅡ (2) キリスト教と社会・文化JⅡ (2) キリスト教と社会・文化KⅡ (2) キリスト教と社会・文化LⅡ (2) キリスト教と社会・文化MⅡ (2) キリスト教と社会・文化NⅡ (2) キリスト教と社会・文化PⅡ (2) キリスト教と社会・文化QⅡ (2) キリスト教と社会・文化RⅡ (2) キリスト教学演習AⅡ (2) キリスト教学演習BⅡ (2) キリスト教学演習CⅡ (2) キリスト教学演習DⅡ (2)	4 単位	8 単位
				キリスト教学総合演習 (2)		

2. 卒業の要件

1) 卒業の要件

文学部に在籍する学生は、カリキュラム表に示す必選区分の要件を満たした上で、宗教学科目を8単位以上修得することが卒業の要件となります。

3. 履修の方法・留意事項

1) 必修科目の履修

必修科目は指定された年次に履修し、単位を修得してください。単位を修得できなかった場合は、次年度以降に再履修することになります。

2) 選択必修科目の履修

選択必修科目は3～4年次のあいだで計画的に履修し、卒業の要件を満たすよう単位を修得してください。

3) アセンブリー行事「修養会」

「キリスト教学入門Ⅱ」「キリスト教的人間論Ⅱ」の履修者(再履修者含む)は、後期に行われるアセンブリー行事「修養会」へ必ず出席してください。修養会での取り組みも成績評価に含まれます。

4. 登録

1) 履修登録の日程

履修登録の日程については、大学のホームページ(キャンパスライフ > 授業・履修)で確認してください。CAMPUS SQUAREのリンクからもアクセスできます。

2) 履修することがあらかじめ確定している授業科目の登録確認

当該年次必修科目については、各自の履修登録・登録状況照会画面にあらかじめ表示されています。履修すべき授業科目が正しく登録されているかを確認し、誤りがあればすみやかに教務課へ申し出てください。

3) 再履修科目の登録

再履修科目(指定された年次に単位を修得できなかった必修科目)については、**事前登録**を行ってください。同一科目名で複数クラス開講されている場合は、いずれのクラスで再履修してもかまいません。

4) 人数制限科目の登録

人数制限科目(開講授業科目表に「制」マークのある科目)については、**事前登録**を行ってください。

事前登録期間終了後に履修調整が行われますので、**本登録期間**になりましたらCAMPUS SQUAREで**結果を確認**してください。履修登録・登録照会画面には履修可能となった授業科目のみが表示されています。

なお、定員に余裕のある授業科目を本登録期間直前にCAMPUS SQUAREへ掲示します。履修希望科目があれば本登録期間に追加登録(先着順科目を登録)を行ってください。

5) 宗教学科目の履修・登録に関するサポート

宗教学科目の履修・登録についての質問は、カトリック教育センターへお問い合わせください。

文学部

共通科目

1. カリキュラム
2. 卒業の要件
3. 履修の方法・留意事項
4. 登録

文学部 共通科目

1. カリキュラム

2026 年度入学者用

()内の数字は科目の単位数

	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	修得単位	
必修	ライフ・リテラシー入門 (2) はじめてのデータサイエンス (2)				4 単位	
選択 必修	ライフ・リテラシー科目群 ライフ・リテラシー応用 (2) ロジックを学ぶ (2) 身体を考える (2) 美しい日本語を話す (基礎) (2) 信頼づくりの作法 (2) 女性と起業 (2) 美しい日本語を話す (実践) (2) コミュニケーションの作法 (2) デザイン思考 (2) 教養としての日本語 (2) ライフ・マネージメント (2) インターンシップA (1) インターンシップB (2)				16 単位	20 単位
	教養科目群 (人文科学・社会科学・自然科学) 文化と人間Ⅰ (2) 政治学A (2) 国際協力論A (2) 数と形の世界A (2) 文化と人間Ⅱ (2) 経済学 (2) 観光文化論 (2) 数と形の世界B (2) 哲学Ⅰ (2) 憲法 (2) 食と環境 (2) 自然科学の世界A (2) 哲学Ⅱ (2) 法とは何か (2) ボランティア論 (2) 自然科学の世界B (2) 現代思想Ⅰ (2) ジェンダー基礎論 (2) 地域連携実践演習A (2) 地球と宇宙を知るための科学Ⅰ (2) 社会と倫理Ⅰ (2) 家族社会学 (2) 地域連携実践演習B (2) 地球と宇宙を知るための科学Ⅱ (2) 神話の世界A (2) 家族政策 (2) 教養セミナー (社会) A (2) 生活の中みる科学と技術Ⅰ (2) 西洋史Ⅰ (2) ワークライフ論 (2) 教養セミナー (社会) B (2) 生活の中みる科学と技術Ⅱ (2) 西洋史Ⅱ (2) 女性と人権 (2) 教養セミナー (自然) A (2) 日本史概説Ⅰ (2) 女性と法 (2) 教養セミナー (自然) B (2) 日本史概説Ⅱ (2) 子どもの権利と国際社会 (2) 歴史からみた現代 (2) 社会福祉と私たち (2) 歴史の中の音楽 (2) 報道に見る子どもと家族 (2) 教養セミナー (人文) (2) 国際政治と社会課題 (2)					
	健康・スポーツ科目群 スポーツ・身体運動実習A (1) スポーツ・身体運動実習C (1) スポーツ科学概論 (1) スポーツ・身体運動実習B (1) スポーツ・身体運動実習D (1)					
	情報・データサイエンス科目群 ICTベーシックB (2) プログラミングA (2) プログラミングB (2) Webデザインとマルチメディア (2) ICTベーシックA (2) データ分析演習A (2) コンピュータ概論 (2) IT実務演習 (2) データ分析演習B (2) 情報ネットワークとセキュリティ (2) データサイエンス演習 (2)					

2. 卒業の要件

1) 卒業の要件

文学部に在籍する学生は、カリキュラム表に示す必選区分の要件を満たした上で、共通科目を20単位以上修得することが卒業の要件となります。

3. 履修の方法・留意事項

1) 必修科目の履修

必修科目は指定された年次に履修し、単位を修得してください。単位を修得できなかった場合は、次年度以降に再履修することになります。

2) 選択必修科目の履修

選択必修科目は1～4年次のあいだで計画的に履修し、卒業の要件を満たすよう単位を修得してください。

なお、本学では、幅広い教養を涵養し、学際的な視点から専門分野を捉える能力を育成するために、4つの科目群（ライフ・リテラシー科目群／教養科目群（人文科学・社会科学・自然科学）／健康・スポーツ科目群／情報・データサイエンス科目群）を設置していますので、科目選択の参考にしてください。

また、共通科目において開講されている、プログラムに関連する科目の単位を修得した場合、それらはすべて共通科目の単位となります。

4. 登録

1) 履修登録の日程

履修登録の日程については、大学ホームページ（[キャンパスライフ](#) > 授業・履修）で確認してください。CAMPUS SQUAREのリンクからもアクセスできます。

2) 履修することがあらかじめ確定している授業科目の登録確認

当該年次必修科目については、各自の履修登録・登録状況照会画面にあらかじめ表示されています。履修すべき授業科目が正しく登録されているかを確認し、誤りがあればすみやかに教務課へ申し出てください。

3) 再履修科目の登録

再履修科目（指定された年次に単位を修得できなかった必修科目）については、**事前登録**を行ってください。同一科目名で複数クラス開講されている場合は、いずれのクラスで再履修してもかまいません。

4) 人数制限科目の登録

人数制限科目（開講授業科目表に「制」マークのある科目）については、**事前登録**を行ってください。

事前登録期間終了後に履修調整が行われますので、**本登録期間**になりましたらCAMPUS SQUAREで**結果を確認**してください。履修登録・登録照会画面には履修可能となった授業科目のみが表示されています。

なお、定員に余裕のある授業科目を本登録期間直前にCAMPUS SQUAREへ掲示します。履修希望科目があれば本登録期間に追加登録（先着順科目を登録）を行ってください。

5) その他の授業科目の登録

2)～4)を除くその他すべての授業科目については、**本登録**を行ってください。

6) 共通科目の履修・登録に関するサポート

共通科目の履修・登録についての質問は、情報・データサイエンス科目群については情報教育センター、それ以外の科目群についてはライフ・リテラシー教育センターへお問い合わせください。

文学部

外国語科目

1. カリキュラム
2. 卒業の要件
3. 履修の方法・留意事項
4. 登録

文学部 外国語科目

1. カリキュラム

2026年度入学者用

()内の数字は科目の単位数

		1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	修得単位	
必修 (選択言語別)	外国語科目群	英語 *1 国 フ	英語コミュニケーションⅠ (1) 英語コミュニケーションⅡ (1) 総合英語Ⅰ (1) 総合英語Ⅱ (1)	英語コミュニケーションⅢ (1) 英語コミュニケーションⅣ (1) 総合英語Ⅲ (1) 総合英語Ⅳ (1)			8 単位
		フランス語 *1 国 英	フランス語AⅠ (1) フランス語AⅡ (1) フランス語BⅠ (1) フランス語BⅡ (1)	フランス語AⅢ (1) フランス語AⅣ (1) フランス語BⅢ (1) フランス語BⅣ (1)			8 単位
		ドイツ語 *1 フ 英	ドイツ語AⅠ (1) ドイツ語AⅡ (1) ドイツ語BⅠ (1) ドイツ語BⅡ (1)	ドイツ語AⅢ (1) ドイツ語AⅣ (1) ドイツ語BⅢ (1) ドイツ語BⅣ (1)			8 単位
		中国語 *1 国 フ 英	中国語AⅠ (1) 中国語AⅡ (1) 中国語BⅠ (1) 中国語BⅡ (1)	中国語AⅢ (1) 中国語AⅣ (1) 中国語BⅢ (1) 中国語BⅣ (1)			8 単位
		韓国語 *1 国 フ 英	韓国語AⅠ (1) 韓国語AⅡ (1) 韓国語BⅠ (1) 韓国語BⅡ (1)	韓国語AⅢ (1) 韓国語AⅣ (1) 韓国語BⅢ (1) 韓国語BⅣ (1)			8 単位
選択	グローバル ハ ル 科 目 群	選択外国語	選択フランス語Ⅰ (1) 選択フランス語Ⅱ (1) 選択フランス語Ⅲ (1) 選択フランス語Ⅳ (1)	選択中国語Ⅰ (2)*2 選択中国語Ⅱ (2)*2 選択中国語Ⅲ (1) 選択中国語Ⅳ (1)	選択韓国語Ⅰ (2)*2 選択韓国語Ⅱ (2)*2 選択韓国語Ⅲ (1) 選択韓国語Ⅳ (1)		8 単位
		複言語・ 複文化 海外研修 プログラム	海外研修(英語圏)A (2) 海外研修(英語圏)B (2)	海外研修(中国語圏) (2) 海外研修(韓国) (2)	オンライン海外研修(英語圏)A (2) オンライン海外研修(英語圏)B (2)	オンライン海外研修(フランス語圏) (2)	
		グローバル ビジネス プログラム	EBCⅠ (2) リーダーシップ入門 (2)	EBCⅡ (2) リーダーシップ応用 (2) ビジネスの基礎知識 (2) ビジネススキル (2) 海外企業実地研修準備講座 (2)	物語ワークショップ (2) ビジネス・マーケティングA (2) 海外企業実地研修 (2)		
		ホスピタリティ マネジメント プログラム	ホスピタリティの英語Ⅰ (2)	ホスピタリティマネジメント概論 (2)	ホスピタリティマネジメント特講A (2)	ホスピタリティマネジメント特講B (2)	
		海外ホスピタリティ研修 (2)		ホスピタリティの英語Ⅱ (2)	ホスピタリティマネジメント演習 (2)	ホスピタリティインターンシップ研修 (2)	
	海外文化共創研修 (2)*3						

国際スキル とコミュニ ケーション プログラム	Introducing Global Skills (2)	Challenging Global Skills (2)		
	Second Culture Acquisition (2)	Becoming Bilingual (2)	English Clinic Basic (2)	English Clinic Challenge (2)
		Gender in Japan Media & Pop Culture (2)	Understanding Japanese History (2) Understanding Japanese Society (2)	Understanding Global History (2)
	舞台芸術実践 プログラム	舞台芸術実践演習 (2)		

*1 は、その言語を選択可能な学科（ 国語国文学科、 フランス語フランス文学科、 英語英文学科）を示しています。

*2 週2回授業です。

*3 複言語・複文化海外研修プログラム、グローバルビジネスプログラム、ホスピタリティ・マネジメントプログラムの対象科目です。

2. 卒業の要件

1) 卒業の要件

文学部に在籍する学生は、カリキュラム表に示すとおり、入学時（または外国語選択言語変更申請時）に選択した言語において、外国語必修科目を8単位修得することが卒業の要件となります。

3. 履修の方法・留意事項

1) 必修科目の履修

必修科目は指定された年次に履修し、単位を修得してください。単位を修得できなかった場合は、次年度以降に再履修することになります。

なお、英語の必修科目については、入学時（全入学者対象）と1年次学年末（英語選択者および受験希望者のみ対象）に実施される英語プレースメントテストの結果に基づきクラス分けが行われます。英語プレースメントテストの実施詳細については、対象者へ別途通知いたします。

2) 必修科目の選択言語変更

1年次必修科目のうち単位を修得できなかった科目がある場合には、翌年度4月から選択言語を変更することができます。変更を希望する場合は、前期の事前登録期間が始まる前までに、外国語選択言語変更願を教務課へ提出してください。なお、選択言語を変更した場合、変更後の言語のみで必修科目8単位を修得することが卒業の要件となります。

また、フランス語・ドイツ語・中国語・韓国語へ言語変更した場合は、変更初年度に1年次科目を、翌年度に2年次科目を順に履修し、単位を修得してください。英語へ言語変更した場合は、1年次科目と2年次科目の同時履修を可とします。

3) 必修科目の単位認定（TOEICの点数による外国語科目「英語」単位認定について）

TOEIC（TOEIC-IPテスト含む）の点数を自ら申し出ることにより、以下の表のとおり外国語科目「英語」の単位認定を受けることができます（再履修科目を除く）。単位認定を希望する場合は、事前登録期間が始まる前までに教務課へ連絡し、指示された方法で申請書類（①TOEICの点数による単位認定申請書、②申請より1年以内に発行された「Official Score Certificate（公式認定証、デジタル公式認定証のいずれも可）」）を提出してください。なお、申請は年度ごとに行う必要があります。

単位認定可能科目		最大認定単位	認定基準
1年次科目	英語コミュニケーションⅠ（1） 総合英語Ⅰ（1）	英語コミュニケーションⅡ（1） 総合英語Ⅱ（1）	4単位 TOEIC 600点以上
2年次科目	英語コミュニケーションⅢ（1） 総合英語Ⅲ（1）	英語コミュニケーションⅣ（1） 総合英語Ⅳ（1）	4単位 TOEIC 700点以上

※単位認定科目の成績は「T（成績認定）」となり、GPAへは反映されません。

※認定単位は履修登録単位数の上限には含まれません。

※認定単位は資格取得のための単位とすることができない場合があります。詳細については各プログラム等のページを参照してください。

※本制度で単位を認定された場合には、英語英文学科専門科目「TOEIC上級A」「TOEIC上級B」の履修を推奨します。

4) 選択科目の履修

選択科目は修得すべき単位数の条件はありません。必要や興味に応じて、プログラム等に必要な科目や学修を希望する科目を履修してください。

科目名に付与されているローマ数字は学習順序を表しています。ローマ数字の若い方から順に履修することを原則としていますが、相応の学習歴がある場合は、Ⅰ・Ⅱ（初級程度）を履修せずに、Ⅲ・Ⅳ（中級程度）から履修を開始することも可能です。

また、ドイツ語の選択科目は開講されていませんが、必修用のクラスを選択科目として履修することができます。システム上、自分では履修登録できませんので、希望者は事前登録・本登録期間中に教務課へ申し出てください。

4. 登録

1) 履修登録の日程

履修登録の日程については、大学のホームページ（[キャンパスライフ](#) > [授業・履修](#)）で確認してください。CAMPUS SQUAREのリンクからもアクセスできます。

2) 履修することがあらかじめ確定している授業科目の登録確認

当該年次必修科目については、各自の履修登録・登録状況照会画面にあらかじめ表示されています。履修すべき授業科目が正しく登録されているかを確認し、誤りがあればすみやかに教務課へ申し出てください。

3) 再履修科目の登録

再履修科目（指定された年次に単位を修得できなかった必修科目）については、**事前登録**を行ってください。英語は再履修用クラス、その他の言語は通常クラスで再履修することになります。

同一科目名で複数クラス開講されている場合は、いずれのクラスで再履修してもかまいません。

なお、科目名に付与されているローマ数字は学習順序を表しています。ローマ数字の若い方から順に履修することを原則としていますが、当該年次必修科目と再履修科目を同時履修する場合など、やむを得ない場合にはこの限りではありません。

4) 人数制限科目の登録

人数制限科目（開講授業科目表に「制」マークのある科目）については、**事前登録**を行ってください。

事前登録期間終了後に履修調整が行われますので、**本登録期間になりましたらCAMPUS SQUAREで結果を確認**してください。履修登録・登録照会画面には履修可能となった授業科目のみが表示されています。

なお、定員に余裕のある授業科目を本登録期間直前にCAMPUS SQUAREへ掲示します。履修希望科目があれば本登録期間に追加登録（先着順科目を登録）を行ってください。

5) その他の授業科目の登録

2)～4)を除くその他すべての授業科目については、**本登録**を行ってください。

6) 外国語科目の履修・登録に関するサポート

外国語科目の履修・登録についての質問は、グローバル言語・文化教育センターへお問い合わせください。

文学部

国語国文学科

1. カリキュラム
2. 卒業の要件
3. 進級の条件
4. 履修の方法・留意事項
5. 登録

文学部 国語国文学科

1. カリキュラム

2026年度入学者用

()内の数字は科目の単位数

	1年次	2年次	3年次	4年次	修得単位
学びの流れ	少人数クラスの基礎演習科目で、国語国文学科で学ぶために必要な基礎知識を広く吸収するとともに、研究活動を行うための姿勢を培う。	国語学や国文学の幅広い分野に目を向けるとともに、「総合研究」を履修して、自分が専門的に取り組みたい領域を模索する。	専門性の高い演習科目「テーマ別研究Ⅰ・Ⅱ」を履修し、自分の興味を掘り下げながら、4年次の卒業論文執筆につながる研究を実践する。	さらに発展的な「テーマ別研究Ⅲ・Ⅳ」で担当教員の指導を受けながら、4年間の学びの集大成となる卒業論文を執筆する。	
必修	国語国文学入門 (1) 基礎演習(古典)Ⅰ (1) 基礎演習(古典)Ⅱ (1) 基礎演習(近代)Ⅰ (1) 基礎演習(近代)Ⅱ (1) 基礎演習(日本語) (1) 基礎演習(変体仮名) (1) 基礎演習(漢文)A (1) または 基礎演習(漢文)B (1) *1 基礎講読A (2) 基礎講読B (2)	総合研究 (2) キャリア研究 (2)	テーマ別研究Ⅰ (2) テーマ別研究Ⅱ (2)	テーマ別研究Ⅲ (2) テーマ別研究Ⅳ (2) 卒業論文 (4)	38単位
	国語学概論Ⅰ (2) 国語学概論Ⅱ (2)	文学史A (2) 文学史B (2) 文学史C (2)			
選択必修Ⅰ		上代文学演習AⅠ (2) 上代文学演習AⅡ (2) 中古文学演習AⅠ (2) 中古文学演習AⅡ (2) 中古文学演習BⅠ (2) 中古文学演習BⅡ (2) 中世文学演習AⅠ (2) 中世文学演習AⅡ (2) 中世文学演習BⅠ (2) 中世文学演習BⅡ (2)	近代文学演習AⅠ (2) 近代文学演習AⅡ (2) 近代文学演習BⅠ (2) 近代文学演習BⅡ (2) 近代文学演習AⅠ (2) 近代文学演習AⅡ (2) 近代文学演習BⅠ (2) 近代文学演習BⅡ (2) 近代文学演習CⅠ (2) 近代文学演習CⅡ (2) 近代文学演習DⅠ (2)	近代文学演習DⅡ (2) 近代文学演習EⅠ (2) 近代文学演習EⅡ (2) 近代文学演習FⅠ (2) 近代文学演習FⅡ (2)	12単位
選択必修Ⅱ		上代文学講義AⅠ (2) 上代文学講義AⅡ (2) 中古文学講義AⅠ (2) 中古文学講義AⅡ (2) 中古文学講義BⅠ (2) 中古文学講義BⅡ (2) 中世文学講義AⅠ (2) 中世文学講義AⅡ (2)	中世文学講義BⅠ (2) 中世文学講義BⅡ (2) 近代文学講義AⅠ (2) 近代文学講義AⅡ (2) 近代文学講義BⅠ (2) 近代文学講義BⅡ (2)	近代文学講義CⅠ (2) 近代文学講義CⅡ (2) 国語学講義AⅠ (2) 国語学講義AⅡ (2) 国語学講義BⅠ (2) 国語学講義BⅡ (2)	12単位
選択	第二言語習得 (2) 異文化とコミュニケーション (2)	書道 (1) 書道Ⅱ (2)	日本中世史Ⅰ (2) 日本中世史Ⅱ (2)	日本近代史Ⅰ (2) 日本近代史Ⅱ (2)	
		日本語教育教授法Ⅰ (2) 日本語教育教授法Ⅱ (2) 国語科教育法特講A (2) 国語科教育法特講B (2)	日本語教育研究 (2) 日本語教育実習 (2) 国語科教育法ⅠA (2) 国語科教育法ⅠB (2)		
		漢文学講義Ⅰ (2) 漢文学講義Ⅱ (2) 中国文学講義Ⅰ (2) 中国文学講義Ⅱ (2) 現代語文法Ⅰ (2) 現代語文法Ⅱ (2)	対照言語学 (2) 言語と社会 (2) 方言学 (2) 接触場面研究 (2) 言語学講義Ⅰ (2) 言語学講義Ⅱ (2)	日本語史A (2) 日本語史B (2) デジタル文学入門演習 (2) 文芸創作演習 (2)	
			国語国文学特講(表現学)Ⅰ (2) 国語国文学特講(表現学)Ⅱ (2) 国語国文学特講(民俗学)Ⅰ (2)	国語国文学特講(民俗学)Ⅱ (2) 国語国文学特講(演劇)Ⅰ (2) 国語国文学特講(演劇)Ⅱ (2)	
留学生対象	総合日本語ⅠA (2)	総合日本語ⅠB (2)	総合日本語ⅡA (2)	総合日本語ⅡB (2)	

*1 中学・高校教員免許取得プログラム履修者が「基礎演習(漢文)B」を修得した場合、中高の教職免許状を取得するためには「基礎演習(漢文)B」を修得した年次の後に「基礎演習(漢文)A」を修得する必要があります。

2. 卒業の要件

1) 卒業の要件

国語国文学科に在籍する学生は、カリキュラム表に示す必選区分の要件を満たした上で、国語国文学科専門科目を62単位以上修得することが卒業の要件となります。

2) 「卒業論文」の提出条件（「テーマ別研究Ⅰ～Ⅳ」の再履修と関連して）

「テーマ別研究Ⅰ～Ⅳ」は、原則として3年次へ進級する時に決められた担当教員（当該教員がサバティカル年度の度は代わりの教員）の授業のみ履修できます。したがって、3年次に「テーマ別研究Ⅰ」「テーマ別研究Ⅱ」の単位を得られなかった場合、4年次にこれを再履修することになるため、「テーマ別研究Ⅲ」「テーマ別研究Ⅳ」、および、卒業論文の提出は、次年度以降となります。つまり、4年間で卒業できないことになるので、注意してください。なお、「テーマ別研究Ⅳ」の再履修だけを残して卒業延期となった場合は、「テーマ別研究Ⅲ」を「テーマ別研究Ⅳ」として履修することができます。この場合は、卒業論文を前期中に提出することができます。

3. 進級の条件

1) 進級の条件

2年次から3年次へ進級するにあたっては、以下の条件があります。

(1) 国語国文学科専門科目1, 2年次必修科目のうち「国語国文学入門」「基礎演習(古典)Ⅰ」「基礎演習(古典)Ⅱ」「基礎演習(近代)Ⅰ」「基礎演習(近代)Ⅱ」「基礎演習(日本語)」「総合研究」の単位をすべて修得していること、

(2) それ以外の1, 2年次必修9科目中6科目以上単位を修得していること、
この両方を満たさなければ3年次に進級することができない。

※「キャリア研究」は進級要件科目に含みません。

4. 履修の方法・留意事項

1) 必修科目の履修

必修科目は指定された年次に履修し、単位を修得してください。単位を修得できなかった場合は、次年度（または次学期）以降に再履修することになります。

2) 選択必修科目Ⅰの履修（演習）

選択必修科目Ⅰは2～4年次のあいだで計画的に履修し、卒業の要件を満たすよう単位を修得してください。なお、演習科目の履修にあたっては、それぞれ基礎にあたる科目の単位を修得していることが前提条件となっています。前提となる科目の単位を前学期までに修得していない場合は、対応する演習科目を履修できません。

演習科目名	演習科目を履修するための前提条件
上代文学演習AⅠ・AⅡ 中古文学演習AⅠ・AⅡ・BⅠ・BⅡ 中世文学演習AⅠ・AⅡ・BⅠ・BⅡ 近世文学演習AⅠ・AⅡ・BⅠ・BⅡ	← 基礎演習(古典)Ⅰ・Ⅱの両方の単位を修得していること
近代文学演習AⅠ・AⅡ・BⅠ・BⅡ・CⅠ・CⅡ・DⅠ・DⅡ EⅠ・EⅡ・FⅠ・FⅡ	← 基礎演習(近代)Ⅰ・Ⅱの両方の単位を修得していること
国語学演習AⅠ・AⅡ・BⅠ・BⅡ・CⅠ・CⅡ	← 基礎演習(日本語)の単位を修得していること

また、開講授業科目表の備考欄に「再度履修可」と記載されている科目は、既に単位を修得した科目でも再度履修することができます。

3) 選択必修科目Ⅱの履修（講義）

選択必修科目Ⅱは2～4年次のあいだで計画的に履修し、卒業の要件を満たすよう単位を修得してください。

4) 選択科目の履修

選択科目は修得すべき単位数の条件はありません。必要や興味に応じて、プログラムに必要な科目や学修を希望する科目を履修してください。なお、開講授業科目表の備考欄に「再度履修可」と記載されている科目は、既に単位を修得した科目でも再度履修することができます。

5. 登録

1) 履修登録の日程

履修登録の日程については、大学のホームページ（キャンパスライフ > 授業・履修）で確認してください。CAMPUS SQUAREのリンクからもアクセスできます。

2) 履修することがあらかじめ確定している授業科目の登録確認

当該年次必修科目については、各自の履修登録・登録状況照会画面にあらかじめ表示されています。履修すべき授業科目が正しく登録されているかを確認し、誤りがあればすみやかに教務課へ申し出てください。ただし、必修科目のうち「国語学概論Ⅰ」「国語学概論Ⅱ」「文学史A」「文学史B」「文学史C」については自身で履修登録する必要があります。

3) 再履修科目の登録

再履修科目（指定された年次に単位を修得できなかった必修科目）については、**事前登録**を行ってください。同一科目名で複数クラス開講されている場合は、いずれのクラスで再履修してもかまいません。なお、「基礎演習（漢文）A」の単位を修得できなかった場合は、「基礎演習（漢文）B」で再履修してください。また、再履修科目と当該年次必修科目の時間割が重複している場合は、国語国文学科研究室または教務課へ連絡し、指示をうけてください。原則として、再履修科目を優先した履修調整が行われます。

4) 人数制限科目の登録

人数制限科目（開講授業科目表に「制」マークのある科目）については、**事前登録**を行ってください。事前登録期間終了後に履修調整が行われますので、**本登録期間**になりましたらCAMPUS SQUAREで**結果を確認**してください。履修登録・登録照会画面には履修可能となった授業科目のみが表示されています。なお、定員に余裕のある授業科目を本登録期間直前にCAMPUS SQUAREへ掲示します。履修希望科目があれば本登録期間に追加登録（先着順科目を登録）を行ってください。

5) その他の授業科目の登録

2)～4)を除くその他すべての授業科目については、**本登録**を行ってください。

6) 国語国文学科専門科目の履修・登録に関するサポート

国語国文学科専門科目の履修・登録についての質問は、国語国文学科研究室へお問い合わせください。

文学部

フランス語フランス文学科

1. カリキュラム
2. 卒業の要件
3. 進級の条件
4. 履修の方法・留意事項
5. 登録

文学部 フランス語フランス文学科

1. カリキュラム

2026年度入学者用

()内の数字は科目の単位数

	1年次	2年次	3年次	4年次	修得単位	
学びの流れ	<p>少人数語学クラスで、「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」というフランス語の4技能の基礎を、バランス良く伸ばす。「フランス語圏文化概論」でフランス語圏の基礎知識とともに、調査や口頭発表の仕方を学ぶ。</p>	<p>フランス語の4技能をさらに伸ばしながら、「フランス文学概論」でフランス文学の概略とともに、レポート執筆の方法を学ぶ。「フランス語スペシャリスト」、「フランス芸術・文学・歴史」、「フランス社会・生活文化」のいずれかのコースの専門科目の履修を開始。「専門ゼミ準備研究」とあわせて、3・4年次での学びの土台を作る。</p>	<p>「フランス語スペシャリスト」、「フランス芸術・文学・歴史」、「フランス社会・生活文化」のいずれかのコースに沿って履修し、関心領域の知識を体系的に深めながら、演習科目をとおして主体的な学習・研究能力を育む。「専門ゼミ」では、関心領域について、自分のテーマを定めて深く掘り下げ、意欲のある学生は4年次に「卒業論文」を執筆する。</p>			
必修	<p>1年フランス語ⅠA (2) 1年フランス語ⅠB (2) 1年フランス語ⅠC (2) 1年フランス語ⅠD (1) 1年フランス語ⅡA (2) 1年フランス語ⅡB (2) 1年フランス語ⅡC (2) 1年フランス語ⅡD (1) フランス語圏文化概論Ⅰ (2) フランス語圏文化概論Ⅱ (2)</p>	<p>2年フランス語ⅠA (2) 2年フランス語ⅠB (2) 2年フランス語ⅠC (1) 2年フランス語ⅡA (2) 2年フランス語ⅡB (2) 2年フランス語ⅡC (1) フランス文学概論 (2) 専門ゼミ準備研究 (2) キャリア研究 (2)</p>	<p>専門ゼミⅠ (2) 専門ゼミⅡ (2)</p>	<p>専門ゼミⅠ (2) 専門ゼミⅡ (2)</p>	42単位	
選択必修Ⅰ フランス語スペシャリスト			<p>フランス語発展総合ⅠA (2) フランス語発展総合ⅠB (2) フランス語発展読解Ⅰ (2)</p>	<p>フランス語発展総合ⅡA (2) フランス語発展総合ⅡB (2) フランス語発展読解Ⅱ (2)</p>	12単位	自コースの選択必修Ⅰ・Ⅱ 20単位 *1
選択必修Ⅱ		<p>資格のためのフランス語A (2) 資格のためのフランス語D (2) フランス語アトリエA (2)</p>	<p>資格のためのフランス語B (2) 資格のためのフランス語E (2) フランス語アトリエB (2)</p>	<p>資格のためのフランス語C (2) 資格のためのフランス語F (2)</p>	8単位	
フランス芸術・文学・歴史 選択必修Ⅰ			<p>フランス語上級実践研究A (2) フランス語上級実践研究C (2)</p>	<p>フランス語上級実践研究B (2) フランス語上級実践研究D (2)</p>	10単位	
選択必修Ⅱ		<p>フランス芸術・文学・歴史研究A (2) フランス芸術・文学・歴史研究D (2) フランス芸術・文学・歴史研究G (2) フランス芸術・文学・歴史研究J (2)</p>	<p>フランス芸術・文学・歴史研究B (2) フランス芸術・文学・歴史研究E (2) フランス芸術・文学・歴史研究H (2)</p>	<p>フランス芸術・文学・歴史研究C (2) フランス芸術・文学・歴史研究F (2) フランス芸術・文学・歴史研究I (2)</p>	10単位	
フランス社会・生活文化 選択必修Ⅰ			<p>フランス芸術・文学・歴史演習ⅠA (2) フランス芸術・文学・歴史演習ⅠB (2) フランス芸術・文学・歴史演習ⅠC (2) フランス芸術・文学・歴史演習ⅠD (2)</p>	<p>フランス芸術・文学・歴史演習ⅡA (2) フランス芸術・文学・歴史演習ⅡB (2) フランス芸術・文学・歴史演習ⅡC (2) フランス芸術・文学・歴史演習ⅡD (2)</p>	10単位	
選択必修Ⅱ		<p>フランス社会・生活文化研究A (2) フランス社会・生活文化研究D (2) フランス社会・生活文化研究G (2) フランス社会・生活文化研究J (2)</p>	<p>フランス社会・生活文化研究B (2) フランス社会・生活文化研究E (2) フランス社会・生活文化研究H (2)</p>	<p>フランス社会・生活文化研究C (2) フランス社会・生活文化研究F (2) フランス社会・生活文化研究I (2)</p>	10単位	
選択			<p>仏語科教育法ⅠA (2) 仏語科教育法ⅠB (2)</p>	<p>仏語科教育法特講A (2) 仏語科教育法特講B (2) 卒業論文 (4)</p>		
			<p>フランス語実践研究A (2) フランス語実践研究C (2) フランス語実践研究E (2) フランス語教育実践研究A (2)</p>	<p>フランス語実践研究B (2) フランス語実践研究D (2) フランス語実践研究F (2) フランス語教育実践研究B (2)</p>		
	フランス語・文化入門演習 (1) *2					

*1 選択必修科目Ⅰ・Ⅱは、自コースに必要な単位数を満たした上で、他コースの科目を選択科目として履修可能です。

*2 入学前科目等履修生のみ履修可能です。

2. 卒業の要件

1) 卒業の要件

フランス語フランス文学科に在籍する学生は、カリキュラム表に示す必選区分の要件を満たした上で、フランス語フランス文学科専門科目を62単位以上修得することが卒業の要件となります。

3. 進級の条件

1) 進級の条件

2年次から3年次へ進級するにあたっては、以下の条件があります。

「1年フランス語ⅠA・ⅡA・ⅠB・ⅡB・ⅠC・ⅡC・ⅠD・ⅡD」のうち少なくとも6科目、「2年フランス語ⅠA・ⅡA・ⅠB・ⅡB・ⅠC・ⅡC」のうち少なくとも2科目の単位を修得していること。

これを満たさなければ、3年次に進級することができない。

4. 履修の方法・留意事項

1) 必修科目の履修

必修科目は指定された年次に履修し、単位を修得してください。単位を修得できなかった場合は、次年度（または次学期）以降に再履修することになります。

2) 選択必修科目Ⅰ・Ⅱの履修

選択必修科目Ⅰ・Ⅱは選択するコースによって次の表のとおり履修し、単位を修得してください。コースの選択は1年次終了時に行います。

なお、選択必修科目Ⅰ・Ⅱは、自コースに必要な単位数を満たした上で、他コースの科目を選択科目として履修することができます。

コース名	選択必修科目Ⅰ	選択必修科目Ⅱ
フランス語スペシャリストコース	(以下6科目12単位) フランス語発展総合ⅠA・ⅡA・ⅠB・ⅡB フランス語発展読解Ⅰ・Ⅱ	(以下から4科目8単位) 資格のためのフランス語A～F フランス語アトリエA・B フランス語上級実践研究A～D
フランス芸術・文学・歴史コース	(以下から5科目10単位) フランス芸術・文学・歴史演習ⅠA～ⅠD、ⅡA～ⅡD	(以下から5科目10単位) フランス芸術・文学・歴史研究A～J
フランス社会・生活文化コース	(以下から5科目10単位) フランス社会・生活文化演習ⅠA～ⅠD、ⅡA～ⅡD	(以下から5科目10単位) フランス社会・生活文化研究A～J

※ 中学・高校教員免許取得プログラム履修者は「フランス語スペシャリストコース」を履修してください。

3) 選択科目の履修

選択科目は修得すべき単位数の条件はありません。必要や興味に応じて、プログラムに必要な科目や学修を希望する科目を履修してください。

5. 登録

1) 履修登録の日程

履修登録の日程については、大学のホームページ（[キャンパスライフ](#) > [授業・履修](#)）で確認してください。

CAMPUS SQUAREのリンクからもアクセスできます。

2) 履修することがあらかじめ確定している授業科目の登録確認

当該年次必修科目については、各自の履修登録・登録状況照会画面にあらかじめ表示されています。履修すべき授

業科目が正しく登録されているかを確認し、誤りがあればすみやかに教務課へ申し出てください。

3) 再履修科目の登録

再履修科目（指定された年次に単位を修得できなかった必修科目）の登録は学科で行います。履修クラスは各自の履修登録・登録照会画面にあらかじめ表示されていますので確認してください。

4) 人数制限科目の登録

人数制限科目（開講授業科目表に「制」マークのある科目）については、**事前登録**を行ってください。

事前登録期間終了後に履修調整が行われますので、本登録期間になりましたらCAMPUS SQUAREで**結果を確認**してください。履修登録・登録照会画面には履修可能となった授業科目のみが表示されています。

なお、定員に余裕のある授業科目を本登録期間直前にCAMPUS SQUAREへ掲示します。履修希望科目があれば本登録期間に追加登録（先着順科目を登録）を行ってください。

5) その他の授業科目の登録

2)～4)を除くその他すべての授業科目については、**本登録**を行ってください。

6) フランス語フランス文学科専門科目の履修・登録に関するサポート

フランス語フランス文学科専門科目の履修・登録についての質問は、フランス語フランス文学科研究室へお問い合わせください。

文学部

英語英文学科

1. カリキュラム
2. 卒業の要件
3. 進級の条件
4. 履修の方法・留意事項
5. 登録

文学部 英語英文学科

1. カリキュラム

2026年度入学者用

()内の数字は科目の単位数

	1年次	2年次	3年次	4年次	修得単位
学びの流れ	必修科目のうち英語スキル科目ではインプット重視・アウトプット重視・4技能統合型の授業によって英語力を総合的に発展させ、セミナー科目ではアカデミック・リサーチの基礎と応用を学ぶ。 選択必修科目のうち文化領域では、英米を中心とする英語圏の文学や歴史、また、日本を含む現代グローバル社会について学び、教育領域では、英語を言語学的な観点から分析するだけでなく、教員養成を視野に入れた学びを行う。 プログラムの履修が本格的に始まる1年次後期・2年次からは、キャリア選択を意識しながら履修プランを立てる。		必修のセミナー科目では専門的な研究テーマに基づいてリサーチを遂行し、成果を授業で発表する。その他の科目では海外留学や英語系プログラムを通して、英語力を更に発展させる。	本学科での学修の集大成となる卒業論文を教員の継続的な指導のもとに書き上げる。	
必修	英語読解ⅠA (2) 英語読解ⅠB (2) 英語表現ⅠA (2) 英語表現ⅠB (2) Integrated English LearningⅠA (2) Integrated English LearningⅠB (2) 1年セミナーA (2) 1年セミナーB (2)	英語読解ⅡA (2) 英語読解ⅡB (2) 英語表現ⅡA (2) 英語表現ⅡB (2) Integrated English LearningⅡA (2) Integrated English LearningⅡB (2) 2年セミナーA (2) 2年セミナーB (2) キャリア研究 (2)	3年セミナーⅠ (2) 3年セミナーⅡ (2)	4年セミナーⅠ (2) 4年セミナーⅡ (2) 卒業論文 (4)	46単位
選択必修	文化領域 (文化・文学・社会・歴史) イギリス文学史A (2) アメリカ文学史Ⅰ (2) イギリス文学史B (2) アメリカ文学史Ⅱ (2) イギリス文化史Ⅰ (2) アメリカ文化概論Ⅰ (2) イギリス文化史Ⅱ (2) アメリカ文化概論Ⅱ (2) 異文化理解 (2) 英語圏文学 (2)		Japanese Culture A (2) Japanese Culture B (2) East Asian Studies A (2) East Asian Studies B (2)		16単位
	教育領域 (英語学・英語教育) 英語学概論Ⅰ (2) コミュニケーション概論Ⅰ (2) 英語学概論Ⅱ (2) コミュニケーション概論Ⅱ (2) 英語史Ⅰ (2) 英語教師のための英文法Ⅰ (2) 英語史Ⅱ (2) 英語教師のための英文法Ⅱ (2)		Journalism EnglishⅠ (2) Journalism EnglishⅡ (2)		
選択	TOEIC入門 (2) TOEIC初級 (2) TOEIC中級A (2) TOEIC中級B (2)	TOEIC上級A (2) TOEIC上級B (2) TOEIC S&W (2)	児童英語教育法 (2) 英語教育の理論と実践Ⅰ (2) 英語教育の理論と実践Ⅱ (2)	英日翻訳演習Ⅰ (2) 英日翻訳演習Ⅱ (2)	
		英語音声学Ⅰ (2) 英語音声学Ⅱ (2)	言語習得論Ⅰ (2) 言語習得論Ⅱ (2)		

62
単
位

2. 卒業の要件

1) 卒業の要件

英語英文学科に在籍する学生は、カリキュラム表に示す必選区分の要件を満たした上で、英語英文学科専門科目を62単位以上修得することが卒業の要件となります。

3. 進級の条件

1) 進級の条件

3年次から4年次へ進級するにあたっては、以下の条件があります。
英語英文学科専門科目の1, 2年次に修得すべき必修科目（但し「キャリア研究」を除く）すべての単位を3年次終了までに修得できなかった場合、4年次に進級することができない。

4. 履修の方法・留意事項

1) 必修科目の履修

必修科目は指定された年次に履修し、単位を修得してください。単位を修得できなかった場合は、次学期または次年度以降に再履修することになります。

2) 選択必修科目の履修

選択必修科目は1～4年次のあいだで計画的に履修し、要件を満たすよう単位を修得してください。

3) 選択科目の履修

選択科目は修得すべき単位数の条件はありません。必要や興味に応じて、プログラムに必要な科目や学修を希望する科目を履修してください。なお、「TOEIC入門」「TOEIC初級」「TOEIC中級A」「TOEIC中級B」「TOEIC上級A」「TOEIC上級B」「TOEIC S&W」については、各科目のシラバスを確認の上、自分のプレースメントテストのスコアに合致している科目、または、自分が目標とするスコアに対応している科目を選んで履修してください。

5. 登録

1) 履修登録の日程

履修登録の日程については、大学のホームページ（キャンパスライフ > 授業・履修）で確認してください。CAMPUS SQUAREのリンクからもアクセスできます。

2) 履修することがあらかじめ確定している授業科目の登録確認

当該年次必修科目については、各自の履修登録・登録状況照会画面にあらかじめ表示されています。履修すべき授業科目が正しく登録されているかを確認し、誤りがあればすみやかに教務課へ申し出てください。

3) 再履修科目の登録

再履修科目（指定された年次に単位を修得できなかった必修科目）については、**事前登録**を行ってください。同一科目名で複数クラス開講されている場合は、いずれのクラスで再履修してもかまいません。
なお、再履修科目と当該年次必修科目の時間割が重複している場合は、英語英文学科研究室または教務課へ連絡し、指示をうけてください。原則として、再履修科目を優先した履修調整が行われます。

4) 人数制限科目の登録

人数制限科目（開講授業科目表に「制」マークのある科目）については、**事前登録**を行ってください。
事前登録期間終了後に履修調整が行われますので、本登録期間になりましたらCAMPUS SQUAREで**結果を確認**してください。履修登録・登録照会画面には履修可能となった授業科目のみが表示されています。
なお、定員に余裕のある授業科目を本登録期間直前にCAMPUS SQUAREへ掲示します。履修希望科目があれば本登録期

間に追加登録（先着順科目を登録）を行ってください。

5) その他の授業科目の登録

2)～4)を除くその他すべての授業科目については、**本登録**を行ってください。

6) 英語英文学科専門科目の履修・登録に関するサポート

英語英文学科専門科目の履修・登録についての質問は、英語英文学科研究室へお問い合わせください。

文学部

プログラム等

1. 文学部で履修できるプログラム等一覧

文学部で履修できるプログラム等

1. 文学部で履修できるプログラム等一覧

文学部では、「専門を深めるプログラム」「キャリアとライフ・デザインのためのプログラム」「資格取得を目指すプログラム」の3系統のプログラムを設置しています。履修希望者は、各プログラム等のページをよく確認し、修了要件を満たすよう計画的に履修をすすめてください。なお、複数プログラムを履修する場合は、履修すべき授業科目の時間割が重複することも考えられます。あらかじめプログラムの優先順位を考えておくといよいでしょう。

2026年度入学用

	プログラム名等	履修可能な学科			履修開始年次	修了要件単位数			備 考
		国	フ	英		必修	選必	計	
全学	白百合 数理・データサイエンス・AI教育プログラム	○	○	○	1年次	2	—	2	共通科目必修「はじめてのデータサイエンス」の単位修得をもってプログラム修了
専門を深めるプログラム	国語国文学科スペシャリストプログラム	○	—	—	2年次～	—	12	12	
	フランス語特別強化プログラム	○	○	○	2年次～	—	10	10	
	オールイングリッシュプログラム	○	○	○	2年次～	—	6	6	
キャリアとライフ・デザインのためのプログラム	キリスト教文化探究プログラム	○	○	○	3年次～	2	6	8	
	ジェンダープログラム	○	○	○	2年次～	—	6	6	
	社会課題プログラム	○	○	○	2年次～	—	8	8	
	複言語・複文化海外研修プログラム	○	○	○	2年次～	—	4	4	少なくとも2言語圏を含むこと
	カルチュラルリテラシープログラム	○	○	○	2年次～	—	8	8	3学科が設置する科目を含むこと
	デジタルリテラチャープログラム	○	○	○	2年次～	2	6	8	
	文芸創作プログラム	○	○	○	2年次～	2	6	8	
	舞台芸術実践プログラム	○	○	○	2年次～	2	6	8	少なくとも2学科が設置する科目を含むこと
	グローバルビジネスプログラム	○	○	○	1年次～	14	4	18	
	ホスピタリティ・マネジメントプログラム	○	○	○	1年次～	6	—	6	
	国際スキルとコミュニケーションプログラム	○	○	○	1年次～	4	6	10	
児童英語プログラム	○	○	○	1年次～	6	4	10		
資格取得を目指すプログラム	中学・高校教員免許取得プログラム	○ 国語	○ フランス語	○ 英語	1年次～	プログラムの真参照			履修後に適正試験あり
	登録日本語教員養成プログラム	○	○	○	1年次～	プログラムの真参照			
	司書資格取得プログラム	○	○	○	2年次～	26	4	30	
	司書教諭資格取得プログラム	△	△	△	2年次～	10	—	10	△…中学・高校教員免許取得プログラム履修者のみ履修可能
	学校司書養成プログラム	△	△	△	2年次～	32	—	32	△…司書資格取得プログラムまたは中学・高校教員免許取得プログラム履修者のみ履修可能
	TOEIC対策プログラム	○	○	○	2年次～	—	4	4	スコアに関する修了要件あり
その他	初等教職課程 小学校教諭一種	△	△	△	初等教育学科の真参照			△…選考で合格した者のみ履修可能	
	初等教職課程 幼稚園教諭一種	△	△	△	初等教育学科の真参照			△…選考で合格した者のみ履修可能	

白百合 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム

1. 白百合 数理・データサイエンス・AI 教育プログラムについて
2. 白百合 数理・データサイエンス・AI 教育プログラムの履修について
3. 白百合 数理・データサイエンス・AI 教育プログラムに関する科目
4. 情報・データサイエンス科目群

白百合 数理・データサイエンス・AI教育プログラム

1. 白百合 数理・データサイエンス・AI教育プログラムについて

数理・データサイエンス・AIへの関心を高め、かつ、適切に理解し、それを活用する基礎的な能力（リテラシーレベル）を育成することを目的としたプログラムです。近年、コンピュータやネットワーク、スマートフォンの普及と技術革新により、私たちが手にすることができる情報は飛躍的に増大しました。その結果、収集・蓄積された膨大な情報（ビッグデータ）は、人工知能（AI）の技術によって分析・加工され、新しい価値やサービスを生み出し、社会に大きな影響を与えています。AIに関する正しい知識を持ち、それを日常生活や仕事の場で使いこなすための基礎的なリテラシーを習得することを最終目標としています。なお、本プログラムは、文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）」として認定されています（2028年3月31日まで有効）。



2. 白百合 数理・データサイエンス・AI教育プログラムの履修について

1) 対象

本プログラムは文学部および人間総合学部のすべての学生が履修できます。

2) 修了要件

プログラム必修科目「はじめてのデータサイエンス」の単位を修得することが修了の要件となります。修了要件を満たしたプログラム履修者には、3月中旬以降に本学が発行する学修証明書を授与します。

3) 履修登録単位数の上限（加算なし）

本プログラムは、履修登録単位数の上限への加算はありません。半期ごとの履修登録単位数の上限は24単位となりますので、計画的に履修をすすめてください。

4) 単位の取り扱い

本プログラムの科目は共通科目として開講しており、修得した単位は共通科目の単位となります。

5) プログラム履修の届出

履修の届出は必要ありません。科目の履修をもってプログラム履修の届出とみなします。

6) プログラムに関するサポート

本プログラムに関する質問は、情報教育センターへお問い合わせください。

3. 白百合 数理・データサイエンス・AI教育プログラムに関する科目

2026年度入学者用

	開講科目	科目区分	対象年次	単位数	備考
必修	はじめてのデータサイエンス	共通	1	2	AIとデータ活用のための基礎的な知識（統計）とスキルの習得 *数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム「数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）モデルカリキュラム」に準拠した内容です。 *対応する資格：ビジネス統計検定ベーシック
	プログラム修了に必要な単位数 合計			2	

4. 情報・データサイエンス科目群

2026年度入学者用

	開講科目	科目区分	対象年次	単位数	備考
情報・データサイエンス科目群	ICT ベーシック A	共通	1	2	アカデミックスキルとしてのICT活用
	ICT ベーシック B		1・2・3・4	2	Office系ソフトトレーニング
	プログラミング A		1・2・3・4	2	Python入門
	プログラミング B		1・2・3・4	2	Python基礎
	Web デザインとマルチメディア		1・2・3・4	2	Webとマルチメディア実習 (HTML, CSS, JavaScript) *対応する資格: Webデザイナー検定 (CG-Arts)
	データサイエンス演習		2・3・4	2	基本統計・仮説検定・相関分析・重回帰分析など データ分析スキルの獲得 *対応する資格: ビジネス統計スペシャリスト試験 (エクセル分析一般・エクセル分析上級)
	データ分析演習 A		2・3・4	2	Excelを利用した情報分析 *対応する資格: MOS Excel (MOS…Microsoft Office Specialist)
	データ分析演習 B		2・3・4	2	Excelの高度な機能を利用したデータ分析と評価 *対応する資格: MOS Excel Expert
	コンピュータ概論		2・3・4	2	コンピュータで情報を表現するための基礎: アルゴリズムとデータ構造、論理回路、ハードウェア *対応する資格: ITパスポート試験、基本情報技術者試験
	情報ネットワークとセキュリティ		2・3・4	2	情報ネットワークの基礎 (TCP/IP, LAN, Wi-Fi) と セキュリティ対策の講義と演習 *対応する資格: ITパスポート試験、基本情報技術者試験 情報セキュリティマネジメント試験
	IT実務演習		2・3・4	2	ITパスポート試験の3分野についての解説と演習 *対応する資格: ITパスポート試験

※上記は本プログラムの理解をさらに深めるための関連科目群です。修得すべき単位数はありません。

国語国文学科スペシャリストプログラム

1. 国語国文学科スペシャリストプログラムについて
2. 国語国文学科スペシャリストプログラムに関する科目
3. 国語国文学科スペシャリストプログラムの履修について

国語国文学科スペシャリストプログラム

1. 国語国文学科スペシャリストプログラムについて

1) 概要

国語国文学科の専門的な学びを追求したい人のためのプログラムです。大学の学びの集大成である「卒業論文」をより充実させたい人、あるいは、大学院進学を視野に入れている人向けです。国語学国文学分野の専門科目に加えて、文学研究や日本語研究を深めるための多種多様な授業により、さらにレベルの高い専門的知識と方法を身につけます。

2) 目標

本プログラムを履修することで、国語学国文学分野、および隣接分野に関する、広い視野と深い知識を身に付けることを目標とします。

2. 国語国文学科スペシャリストプログラムに関する科目

2026年度入学者用

	開講科目	科目区分	対象年次	単位数	修了に必要な単位数
選択必修A	国語国文学科専門科目の「選択必修Ⅰ（演習）」もしくは「選択必修Ⅱ（講義）」から卒業に必要な単位数（各12単位）を超えて4単位履修	文国	2・3・4	各2	4
選択必修B	異文化とコミュニケーション	文国	1・2・3・4	2	8
	現代語文法Ⅰ *1		2・3・4	2	
	現代語文法Ⅱ *1		2・3・4	2	
	漢文学講義Ⅰ		2・3・4	2	
	漢文学講義Ⅱ		2・3・4	2	
	中国文学講義Ⅰ		2・3・4	2	
	中国文学講義Ⅱ		2・3・4	2	
	日本中世史Ⅰ		1・2・3・4	2	
	日本中世史Ⅱ		1・2・3・4	2	
	日本近代史Ⅰ		1・2・3・4	2	
	日本近代史Ⅱ		1・2・3・4	2	
	言語学講義Ⅰ		2・3・4	2	
	言語学講義Ⅱ		2・3・4	2	
	言語と社会		2・3・4	2	
	方言学		2・3・4	2	
	接触場面研究		2・3・4	2	
	対照言語学		2・3・4	2	
	日本語史A		2・3・4	2	
	日本語史B		2・3・4	2	
	国語国文学特講（民俗学）Ⅰ		3・4	2	
国語国文学特講（民俗学）Ⅱ	3・4	2			
国語国文学特講（演劇）Ⅰ	3・4	2			
国語国文学特講（演劇）Ⅱ	3・4	2			
プログラム修了に必要な単位数 合計					12単位以上

*1 「現代語文法Ⅰ」の単位が修得できていない場合は、「現代語文法Ⅱ」の履修はできません。

3. 国語国文学科スペシャリストプログラムの履修について

1) 対象

本プログラムは文学部国語国文学科の学生が履修できます。履修開始は2年次からを原則としますが、3・4年次からの履修も可能です。

2) 修了要件

選択必修科目A 4単位と選択必修科目B 8単位のあわせて12単位以上修得することが修了の要件となります。修了要件を満たしたプログラム履修者には、本学が発行するプログラム修了証を授与します。

3) 履修登録単位数の上限（加算なし）

本プログラムは、履修登録単位数の上限への加算はありません。半期ごとの履修登録単位数の上限は24単位となりますので、計画的に履修をすすめてください。

4) 単位の取り扱い

本プログラムの科目は国語国文学科専門科目として開講しており、修得した単位は国語国文学科専門科目の単位となります。

5) プログラム履修開始までの流れ

本プログラムの履修開始までの流れは以下のとおりです。

ガイダンス動画の視聴

プログラム履修を希望する学生は、1年次（あるいは履修開始前年度）の1月に公開される動画によるガイダンスを必ず視聴してください。

プログラム履修の申し込み

プログラム履修の申し込み方法については、プログラムのガイダンスで説明します。

プログラム履修開始前に修得した単位の取り扱い

プログラム履修開始前に履修した授業科目の修得単位についても修了要件に含めることができます。

6) プログラム履修に関する費用

プログラム履修費はかかりません。

7) プログラム履修の留意事項

本プログラムへの登録は、卒業時までにはプログラム修了に必要な単位の修得を保証するものではありません。また、プログラムに関する科目とそれ以外の科目との時間割の調整は行いません。履修を希望する授業科目同士の時間割重複もあり得ることから、下級年次から計画的かつ積極的に履修をすすめてください。

8) プログラム履修の辞退

本プログラムを辞退する場合は、国語国文学科研究室へお申し出ください。

9) プログラムに関するサポート

本プログラムに関する質問は、国語国文学科研究室へお問い合わせください。

フランス語特別強化プログラム

1. フランス語特別強化プログラムについて
2. フランス語特別強化プログラムに関する科目
3. フランス語特別強化プログラムの履修について

フランス語特別強化プログラム

1. フランス語特別強化プログラムについて

1) 概要

フランス語の実践的能力を強化するプログラムです。実用フランス語技能検定（仏検）をはじめとするフランス語の資格取得を目指す一方で、フランス語でのコミュニケーションを実際に体験しながら、スピーチのフランス語や、仕事に役立つフランス語など、具体的なニーズに応じた「使えるフランス語」を修得します。

2) 目標

フランス語に限らず、はじめての外国語を学ぶときには、基礎的な文法事項や語彙・表現をはじめ、理解すべきこと、覚えるべきことが沢山あります。どうしてもインプット中心の学習になりますし、会話練習などを行ったとしても、シチュエーションは限定的なものになりがちです。

本プログラムは、これまで学んできたフランス語を実際に使えるものにすることを目標にします。海外のフランス語話者との交流やスピーチ、ロールプレイなどを通して、フランス語で実際にコミュニケーションをとる経験を重ね、仏検をはじめとするフランス語の資格試験で自分の現在の位置を客観的に把握しながら、実践的な語学力を向上させていきます。

最低限の知識さえあればレベルに応じたフランス語でのコミュニケーションは可能で、むしろコミュニケーションの体験こそがレベル向上の強いモチベーションになります。フランス語力に不安のある人も積極的に履修してください。意欲のある人には、中級以上の文法や作文力を含めた発展的なフランス語を学ぶ科目も用意されています。フランス人ティーチングアシスタント（NS・TA）のサポートも受けられます。

本プログラムを修了するには、以下の「フランス語資格取得準備科目群」から2単位以上、「フランス語実践科目群」と「フランス語発展科目群」から4単位以上をあわせて10単位以上修得することが必要です。各自の具体的な目的・興味・関心にあわせて履修科目を選択してください。

【フランス語資格取得準備科目群】

「資格のためのフランス語」A・B・C・D・E・F

実用フランス語検定試験（仏検）の受験対策の科目群です。4級から2級までをカバーする、多様なレベルのクラスがあります。筆記試験（語彙・活用・文法・表現）と面接試験からなる総合型資格試験の対策をおし、現在のレベルと得意分野、不得意分野をよく理解し、各自の課題に応じた学習を組み立てられます。

【フランス語実践科目群】

「フランス語アトリエ」A・B、「フランス語実践研究」A・B・C・D

フランス語での実践的コミュニケーションを体験する科目群です。フランス語でまとまった文章を作る、フランス語でスピーチをする、フランス語で日本文化を紹介する、仕事で用いるフランス語をロールプレイで学ぶ、海外の日本語を学ぶフランス語話者とそれぞれの目標言語を使ってオンラインで交流するなど、さまざまな授業があります。

【フランス語発展科目群】

「フランス語上級実践研究」A・B・C・D

通常の大学のフランス語カリキュラムより、一歩進んだフランス語力を身につけます。各自の目的に応じて履修することができます。

2. フランス語特別強化プログラムに関する科目

2026 年度入学者用

	科目群	開講科目	科目区分	対象年次	単位数	修了に必要な単位数
選択必修Ⅰ	フランス語資格取得準備科目	資格のためのフランス語A	文フ	2・3・4	2	2 単位以上
		資格のためのフランス語B		2・3・4	2	
		資格のためのフランス語C		2・3・4	2	
		資格のためのフランス語D		2・3・4	2	
		資格のためのフランス語E		2・3・4	2	
		資格のためのフランス語F		2・3・4	2	
選択必修Ⅱ	フランス語実践科目	フランス語アトリエA	文フ	2・3・4	2	4 単位以上
		フランス語アトリエB		2・3・4	2	
		フランス語実践研究A		3・4	2	
		フランス語実践研究B		3・4	2	
		フランス語実践研究C		3・4	2	
		フランス語実践研究D		3・4	2	
	フランス語発展科目	フランス語上級実践研究A		3・4	2	
		フランス語上級実践研究B		3・4	2	
		フランス語上級実践研究C		3・4	2	
		フランス語上級実践研究D		3・4	2	
プログラム修了に必要な単位数 合計						10 単位以上

3. フランス語特別強化プログラムの履修について

1) 対象

本プログラムは文学部のフランス語の基礎的知識がある学生が履修できます。履修開始は2年次からを原則としますが、3・4年次からの履修も可能です。

2) 修了要件

選択必修科目Ⅰ 2 単位以上と選択必修科目Ⅱ 4 単位以上をあわせて 10 単位以上修得することが修了の要件となります。修了要件を満たしたプログラム履修者には、本学が発行するプログラム修了証を授与します。

3) 履修登録単位数の上限（加算なし）

本プログラムは、履修登録単位数の上限への加算はありません。半期ごとの履修登録単位数の上限は 24 単位となりますので、計画的に履修をすすめてください。

4) 単位の取り扱い

本プログラムの科目はフランス語フランス文学科専門科目として開講しています。修得した単位の取り扱いについては、所属学科により異なります。

フランス語フランス文学科の学生

フランス語フランス文学科専門科目の単位

なお、派遣／交換留学先で修得した単位は、フランス語資格取得準備科目群のうち最大4単位、フランス語実践科目群のうち最大4単位、合計で最大4単位分を本プログラム指定科目に振替可能です。

プログラム履修を認められたフランス語フランス文学科以外の学生

他学科専門科目の単位（「科目区分を特定しない自由選択単位（差の単位）」となります。）

5) プログラム履修開始までの流れ

本プログラムの履修開始までの流れは以下のとおりです。

ガイダンス動画の視聴

プログラム履修を希望する学生は、1年次（あるいは履修開始前年度）の1月に公開される動画によるガイダンスを必ず視聴してください。

プログラム履修届の提出

プログラムを構成する科目を履修登録したうえで、4月の指定期日までにプログラム履修届と登録したプログラム指定科目一覧をフランス語フランス文学科研究室に提出してください。プログラム登録後は、当該学期の履修科目の有無にかかわらず、卒業まで毎年度4月と9月に登録科目および修得済科目一覧を提出する必要があります。詳細はCAMPUSSQUAREにてお知らせします。

プログラム履修開始前に修得した単位の取り扱い

プログラム履修開始前に履修した授業科目の修得単位についても修了要件に含めることができます。

6) プログラム履修に関する費用

プログラム履修費はかかりません。

7) プログラム履修の留意事項

本プログラムへの登録は、卒業時までにはプログラム修了に必要な単位の修得を保証するものではありません。また、プログラムに関する科目とそれ以外の科目との時間割の調整は行いません。履修を希望する授業科目同士の時間割重複もあり得ることから、下級年次から計画的かつ積極的に履修をすすめてください。

8) プログラム履修の辞退

本プログラムを辞退する場合は、フランス語フランス文学科研究室へお申し出ください。

9) プログラムに関するサポート

本プログラムに関する質問は、フランス語フランス文学科研究室へお問い合わせください。

文学部

オールイングリッシュプログラム

1. オールイングリッシュプログラムについて
2. オールイングリッシュプログラムに関する科目
3. オールイングリッシュプログラムの履修について

オールイングリッシュプログラム

1. オールイングリッシュプログラムについて

1) 概要

日本を含む現代グローバル社会について、メディア、ジャーナリズム、ポップカルチャー、歴史など様々な視点から、オールイングリッシュ（英語のみ）で学びます。実践的英語力に加えて、世界中に自分の考えを発信できる力を身につけます。

2) 目標

グローバルな世界で国際的な女性として活躍するために十分な英語力を伸ばすこと、日常会話を超えた大学レベルの複雑なテーマについて研究し、自分の考えに自信を持って発表・議論できることを目標とします。

2. オールイングリッシュプログラムに関する科目

2026 年度入学者用

	開講科目	科目区分	対象年次	単位数	修了に必要な単位数
選 択 必 修	East Asian Studies A	文英	1・2・3・4	2	6
	East Asian Studies B		1・2・3・4	2	
	Japanese Culture A		1・2・3・4	2	
	Japanese Culture B		1・2・3・4	2	
	Journalism English I		1・2・3・4	2	
	Journalism English II		1・2・3・4	2	
プログラム修了に必要な単位数 合計					6単位以上

3. オールイングリッシュプログラムの履修について

1) 対象

本プログラムは文学部のすべての学生が履修できます。履修開始は2年次からを原則としますが、3・4年次からの履修も可能です。

2) 修了要件

選択必修科目6単位以上を修得することが修了の要件となります。修了要件を満たしたプログラム履修者には、本学が発行するプログラム修了証を授与します。

3) 履修登録単位数の上限（加算なし）

本プログラムは、履修登録単位数の上限への加算はありません。半期ごとの履修登録単位数の上限は24単位となりますので、計画的に履修をすすめてください。

4) 単位の取り扱い

本プログラムの科目は英語英文学科専門科目として開講しています。修得した単位の取り扱いについては、所属学科により異なります。

英語英文学科の学生

英語英文学科専門科目の単位

プログラム履修を認められた英語英文学科以外の学生

他学科専門科目の単位（「科目区分を特定しない自由選択単位（差の単位）」となります。）

5) プログラム履修開始までの流れ

本プログラムの履修開始までの流れは以下のとおりです。

ガイダンス動画の視聴

プログラム履修を希望する学生は、1年次（あるいは履修開始前年度）の1月に公開される動画によるガイダンスを必ず視聴してください。

プログラム履修の申し込み

プログラム履修の申し込み方法については、プログラムのガイダンスで説明します。

プログラム履修開始前に修得した単位の取り扱い

プログラム履修開始前に履修した授業科目の修得単位についても修了要件に含めることができます。

6) プログラム履修に関する費用

プログラム履修費はかかりません。

7) プログラム履修の留意事項

本プログラムへの登録は、卒業時までにはプログラム修了に必要な単位の修得を保証するものではありません。また、プログラムに関する科目とそれ以外の科目との時間割の調整は行いません。履修を希望する授業科目同士の時間割重複もあり得ることから、下級年次から計画的かつ積極的に履修をすすめてください。

8) プログラム履修の辞退

本プログラムを辞退する場合は、英語英文学科研究室へお申し出ください。

9) プログラムに関するサポート

本プログラムに関する質問は、英語英文学科研究室へお問い合わせください。

文学部

キリスト教文化探究プログラム

1. キリスト教文化探究プログラムについて
2. キリスト教文化探究プログラムに関する科目
3. キリスト教文化探究プログラムの履修について

キリスト教文化探究プログラム

1. キリスト教文化探究プログラムについて

1) 概要

宗教学科目に関しては、全学科共通で、1年次に必修でキリスト教入門Ⅰ・Ⅱを、2年次に必修でキリスト教的人間論Ⅰ・Ⅱを履修し、その学びを土台として、3・4年次には選択必修科目として、聖書、神学、哲学、歴史、文学、芸術、倫理、死生学、社会課題、霊性、宗教学等にわたる多彩なテーマを掲げた科目群（キリスト教と社会・文化AⅠ～RⅡ、キリスト教演習AⅠ～DⅡ）から、各自の関心に応じて2科目を選択履修することが卒業要件となっています。

キリスト教文化探究プログラムは、その宗教学科目の卒業要件の範囲をこえて、キリスト教関連の学びをもう少し深めたり広げたりしたいと思う人のためのプログラムです。特定のテーマを中心に据えたり、多角的に学ぶことを旨としたり等、各自なりの「探究課題」を立てて、キリスト教と社会・文化AⅠ～RⅡ及びキリスト教演習AⅠ～DⅡから1科目以上を追加履修し、最後に総合演習でキリスト教関連の学びを総括します。

2) 目標

4年間の宗教学科目の学びの総括として、キリスト教総合演習においてそれまでの学修成果を探究課題に応じた仕方で形にすることがゴールとなります。

2. キリスト教文化探究プログラムに関する科目

2026年度入学者用

	開講科目	科目区分	対象年次	単位数	修了に必要な単位数
必修	キリスト教総合演習	宗教	4	2	2
選択必修	キリスト教と社会・文化AⅠ～RⅡ キリスト教演習AⅠ～DⅡ より、自身の探究テーマに沿って自由に科目を選択	宗教	3・4	各2	6
プログラム修了に必要な単位数 合計					8単位以上*

* 宗教学科目における選択必修科目の卒業要件単位数（4単位）を含みます。

3. キリスト教文化探究プログラムの履修について

1) 対象

本プログラムは文学部および人間総合学部のすべての学生が履修できます。履修開始は3年次からを原則としますが、4年次からの履修も可能です。

2) 修了要件

必修科目2単位と選択必修科目6単位のあわせて8単位以上を修得することが修了の要件となります。修了要件を満たしたプログラム履修者には、本学が発行するプログラム修了証を授与します。

3) 履修登録単位数の上限（加算なし）

本プログラムは、履修登録単位数の上限への加算はありません。半期ごとの履修登録単位数の上限は24単位となりますので、計画的に履修をすすめてください。

4) 単位の取り扱い

本プログラムの科目は宗教学科目として開講しており、修得した単位は宗教学科目の単位となります。

5) プログラム履修開始までの流れ

本プログラムの履修開始までの流れは以下のとおりです。

ガイダンス動画の視聴

プログラム履修を希望する学生は、2年次（あるいは履修開始前年度）の1月に公開される動画によるガイダンスを必ず視聴してください。

プログラム履修の申し込み

3年次前期、3年次後期、または4年次前期の各履修登録期間前の指定期日までに定められた方法でプログラム履修を希望する旨をカトリック教育センターへ申し出てください。

プログラム履修開始前に修得した単位の取り扱い

プログラム履修開始前に履修した授業科目の修得単位についても修了要件に含めることができます。

6) プログラム履修に関する費用

プログラム履修費はかかりません。

7) プログラム履修の留意事項

本プログラムへの登録は、卒業時までにはプログラム修了に必要な単位の修得を保証するものではありませんが、本プログラムの一環として履修する科目に関しては、履修希望者数が制限人数を超えた場合にも履修機会を得られるよう配慮を受けることができます。なお、プログラムに関する科目とそれ以外の科目との時間割の調整は行いません。履修を希望する授業科目同士の時間割重複もあり得ることから、下級年次から計画的かつ積極的に履修をすすめてください。

8) プログラム履修の辞退

本プログラムを辞退する場合は、カトリック教育センターへお申し出ください。

9) プログラムに関するサポート

本プログラムに関する質問は、カトリック教育センターへお問い合わせください。

文学部

ジェンダープログラム

1. ジェンダープログラムについて
2. ジェンダープログラムに関する科目
3. ジェンダープログラムの履修について

ジェンダープログラム

1. ジェンダープログラムについて

1) 概要

ジェンダーの知識と考え方を学び、社会の中にあるジェンダーにかかわる問題について考えます。女子大であることを活かし、女性の生涯や家族、女性の人権と法律の学修を通して、ジェンダーの視点から物事を考えられる力の獲得を目指します。

2) 目標

ジェンダーに関する基礎知識を身につけ、社会課題をジェンダーの視点から多角的に分析できる批判的思考力を養うことを目的としています。家族、労働、法律、政策、起業など具体的な分野における課題を把握し、解決策を提案・実行する実践力を培うとともに、多様な性や生き方を尊重する共感力を育み、社会で主体的に活躍する力を身につけることを目指します。

2. ジェンダープログラムに関する科目

2026 年度入学者用

	開講科目	科目区分	対象年次	単位数	修了に必要な単位数
選 択 必 修	ジェンダー基礎論	共通	1・2・3・4	2	6
	ワークライフ論		1・2・3・4	2	
	家族社会論		1・2・3・4	2	
	家族政策		1・2・3・4	2	
	女性と人権		1・2・3・4	2	
	女性と法		1・2・3・4	2	
	女性と起業		1・2・3・4	2	
	プログラム修了に必要な単位数 合計				6単位以上

3. ジェンダープログラムの履修について

1) 対象

本プログラムは文学部および人間総合学部のすべての学生が履修できます。履修開始は2年次からを原則としますが、3・4年次からの履修も可能です。

2) 修了要件

選択必修科目6単位以上を修得することが修了の要件となります。修了要件を満たしたプログラム履修者には、本学が発行するプログラム修了証を授与します。

3) 履修登録単位数の上限（加算なし）

本プログラムは、履修登録単位数の上限への加算はありません。半期ごとの履修登録単位数の上限は24単位となりますので、計画的に履修をすすめてください。

4) 単位の取り扱い

本プログラムの科目は共通科目として開講しており、修得した単位は共通科目の単位となります。

5) プログラム履修の流れ

本プログラムの履修の流れは以下のとおりです。

プログラム科目の履修

プログラムの履修開始にあたり、事前の申し込みは不要です。プログラム履修を希望する学生は、履修要覧をよく読み、修了要件に必要な授業科目を履修してください。

プログラム修了の申し出

プログラム修了証の発行を希望する場合は、修了要件を満たしてから、もしくは、修了要件を満たす見込みの学期に、ライフ・リテラシー教育センターへお申し出ください。申し出の期限は、前期末からの発行を希望する場合は6月末まで、学年末からの発行を希望する場合は12月末までとします。

6) プログラム履修に関する費用

プログラム履修費はかかりません。

7) プログラム履修の留意事項

プログラムに関する科目とそれ以外の科目との時間割の調整は行いません。履修を希望する授業科目同士の時間割重複もあり得ることから、下級年次から計画的かつ積極的に履修をすすめてください。

8) プログラムに関するサポート

本プログラムに関する質問は、ライフ・リテラシー教育センターへお問い合わせください。

文学部

社会課題プログラム

1. 社会課題プログラムについて
2. 社会課題プログラムに関する科目
3. 社会課題プログラムの履修について

社会課題プログラム

1. 社会課題プログラムについて

1) 概要

グローバル化した社会の中で、私たちが解決しなければならない「社会課題」について考えます。環境問題、SDGs、国際平和と移民や難民の問題、少子高齢化と社会福祉、子どもの貧困と人権などを学び、社会課題に取り組むための資質と能力の獲得をめざします。

2) 目標

「いのち」の問題にみる文化と人間との関係性、国際社会と国際協力、子どもの人権侵害、社会福祉の現状と課題、食と環境のつながりなど、現代社会には様々な「社会課題」があります。このプログラムでは、私たちの身近にある「社会課題」に気づき、その背景を分析し、多角的視点から解決策を探り、課題解決のための実践につなげる力の獲得を目標としています。

2. 社会課題プログラムに関する科目

2026年度入学者用

	開講科目	科目区分	対象年次	単位数	修了に必要な単位数
選 択 必 修	文化と人間Ⅰ	共通	1・2・3・4	2	8
	文化と人間Ⅱ		1・2・3・4	2	
	社会と倫理Ⅰ		1・2・3・4	2	
	国際協力論A		1・2・3・4	2	
	国際政治と社会課題		1・2・3・4	2	
	子どもの権利と国際社会		1・2・3・4	2	
	社会福祉と私たち		1・2・3・4	2	
	報道に見る子どもと家族		1・2・3・4	2	
	食と環境		1・2・3・4	2	
	ボランティア論		1・2・3・4	2	
	地域連携実践演習A		1・2・3・4	2	
	地域連携実践演習B		1・2・3・4	2	
プログラム修了に必要な単位数 合計					8単位以上

3. 社会課題プログラムの履修について

1) 対象

本プログラムは文学部および人間総合学部のすべての学生が履修できます。履修開始は2年次からを原則としますが、3・4年次からの履修も可能です。

2) 修了要件

選択必修科目8単位以上を修得することが修了の要件となります。修了要件を満たしたプログラム履修者には、本学が発行するプログラム修了証を授与します。

3) 履修登録単位数の上限（加算なし）

本プログラムは、履修登録単位数の上限への加算はありません。半期ごとの履修登録単位数の上限は24単位となりますので、計画的に履修をすすめてください。

4) 単位の取り扱い

本プログラムの科目は共通科目として開講しており、修得した単位は共通科目の単位となります。

5) プログラム履修の流れ

本プログラムの履修の流れは以下のとおりです。

プログラム科目の履修

プログラムの履修開始にあたり、事前の申し込みは不要です。プログラム履修を希望する学生は、履修要覧をよく読み、修了要件に必要な授業科目を履修してください。

プログラム修了の申し出

プログラム修了証の発行を希望する場合は、修了要件を満たしてから、もしくは、修了要件を満たす見込みの学期に、ライフ・リテラシー教育センターへお申し出ください。申し出の期限は、前期末からの発行を希望する場合は6月末まで、学年末からの発行を希望する場合は12月末までとします。

6) プログラム履修に関する費用

プログラム履修費はかかりません。

7) プログラム履修の留意事項

プログラムに関する科目とそれ以外の科目との時間割の調整は行いません。履修を希望する授業科目同士の時間割重複もあり得ることから、下級年次から計画的かつ積極的に履修をすすめてください。

8) プログラムに関するサポート

本プログラムに関する質問は、ライフ・リテラシー教育センターへお問い合わせください。

複言語・複文化海外研修プログラム

1. 複言語・複文化海外研修プログラムについて
2. 複言語・複文化海外研修プログラムに関する科目
3. 複言語・複文化海外研修プログラムの履修について

複言語・複文化海外研修プログラム

1. 複言語・複文化海外研修プログラムについて

1) 概要

本学では、夏休みまたは春休みの期間に、英語圏、フランス語圏、中国語圏、韓国の4つの言語圏での海外研修（短期語学留学）を実施しています。また、語学研修と異文化交流ワークショップを組み合わせた海外文化共創研修も実施しています。さらに、英語圏とフランス語圏ではオンラインによる海外研修もあり、これらの海外研修はいずれも本学の授業科目として開講され、合格すれば2単位が認められます。また、授業科目外の研修としてフランスの文化に触れるフランス文化研修も実施されています。

これらのさまざまな海外研修のどれか一つにでも参加することは、語学力を向上し、異文化を肌で体感する貴重な経験となります。しかし、国際的な視野を持ったグローバルコミュニケーターを目指すには、一つの言語圏、文化圏に止まらず、2つ以上の言語を学び、文化を知ることにより広く世界を見る視点が求められます。

本プログラムはグローバルコミュニケーターを目指し、将来エア・ラインや観光業、国際ビジネスの分野で活躍したい人に最適なプログラムです。

2) 目標

本プログラムでは、英語圏、フランス語圏、中国語圏、韓国語の4つの言語圏から2つ以上の言語圏の海外研修に参加することで、言語と文化の多様性を身をもって体験し、複数の外国の言語・文化に触れてこそ獲得できる複言語・複文化能力を伸ばすことを目標としています。

「複言語・複文化能力」とは一人ひとりの個人が複数の言語を身につけ、その言語の背景にある複数の文化を理解することで、言語も文化も異なる他者を尊重できるこれからの時代のグローバルコミュニケーターの基礎となる力です。このプログラムをとおして、所属する学科での専門的な学びに加えて複言語・複文化能力を身につけることで国際的に活躍するグローバルコミュニケーターを育みます。

2. 複言語・複文化海外研修プログラムに関する科目

2026年度入学者用

		開講科目	科目区分	対象年次	単位数	修了に必要な単位数
選 択 必 修	英 語 圏	海外研修（英語圏）A	外国	1・2・3・4	2	4 少なくとも 2言語圏を含むこと
		海外研修（英語圏）B		1・2・3・4	2	
		オンライン海外研修（英語圏）A		1・2・3・4	2	
		オンライン海外研修（英語圏）B		1・2・3・4	2	
		海外文化共創研修 *1		1・2・3・4	2	
	フ ラ ン ス 語 圏	海外研修（フランス語圏）A	外国	2・3・4	2	
		海外研修（フランス語圏）B		2・3・4	2	
		オンライン海外研修（フランス語圏）		1・2・3・4	2	
		フランス文化研修 *2	授業科目外	1・2・3・4	—	
	中 国 語 圏	海外研修（中国語圏）	外国	1・2・3・4	2	
韓国語		海外研修（韓国）		1・2・3・4	2	
プログラム修了に必要な単位数 合計						4単位以上

*1 アメリカまたはカンボジアでの海外研修となります。カンボジアでの研修では英語を用います。

*2 授業科目ではありませんので修了に必要な単位数には含まれませんが、本研修への参加で言語圏に関する要件を満たすことは可能です。

3. 複言語・複文化海外研修プログラムの履修について

1) 対象

本プログラムは文学部のすべての学生が履修できます。履修開始は2年次からを原則としますが、3・4年次からの履修も可能です。

2) 修了要件

選択必修科目から2つ以上の言語圏の海外研修を選んで履修し、4単位以上修得することが修了の要件となります。修了要件を満たしたプログラム履修者には、本学が発行するプログラム修了証を授与します。

3) 履修登録単位数の上限（加算なし）

本プログラムは、履修登録単位数の上限への加算はありません。半期ごとの履修登録単位数の上限は24単位となりますので、計画的に履修をすすめてください。

4) 単位の取り扱い

本プログラムの科目は外国語科目として開講しており、修得した単位は外国語科目の単位となります（フランス文化研修を除く）。

5) プログラム履修開始までの流れ

本プログラムの履修開始までの流れは以下のとおりです。

ガイダンスへの参加

プログラム履修を希望する学生は、1年次（あるいは履修開始前年度）1月実施のガイダンスへ参加してください。

プログラム履修の申し込み

4月の指定期日までに定められた方法でプログラム履修を希望する旨を申し出てください。

プログラム履修開始前に修得した単位の取り扱い

プログラム履修開始前に履修した授業科目の修得単位についても修了要件に含めることができます。

6) プログラム履修に関する費用

本プログラムを履修するにあたりプログラム履修費は不要ですが、学外における授業・研修のために必要な交通費（渡航費）・滞在費・研修費等は、実費負担となります。

7) プログラム履修の留意事項

本プログラムへの登録は、卒業時までにはプログラム修了に必要な単位の修得を保証するものではありません。また、プログラムに関する科目とそれ以外の科目との日程の調整は行いません。履修を希望する授業科目同士の日程重複もあり得ることから、下級年次から計画的かつ積極的に履修をすすめてください。

8) プログラム履修の辞退

本プログラムを辞退する場合は、グローバル言語・文化教育センターへお申し出ください。

9) プログラムに関するサポート

本プログラムに関する質問は、グローバル言語・文化教育センターへお問い合わせください。

文学部

カルチュラルリテラシープログラム

1. カルチュラルリテラシープログラムについて
2. カルチュラルリテラシープログラムに関する科目
3. カルチュラルリテラシープログラムの履修について

カルチュラルリテラシープログラム

1. カルチュラルリテラシープログラムについて

1) 概要

文学部の3学科では、日本の民俗学、フランスの生活文化、イギリスの文化史などそれぞれの学科が専門とする地域の「文化」を学ぶ科目が開講されています。そうした3つの文化圏の文化を学ぶ科目を組み合わせることで、一つの国にとどまらない文化の多様性を知ると同時に、さまざまな文化を読み解く力＝カルチュラルリテラシーを身につけます。

カルチュラルリテラシーは自分の国の文化を理解するだけでなく、他の国の文化を理解し尊重するための基本的な力であり、多様な文化の人々と交流するグローバルコミュニケーターには欠かすことのできない力です。

将来、海外でビジネスや、援助などの分野で活躍したい人、国内の観光業をはじめとするインバウンド業界やエア・ラインなど多様な文化の人々と関わる仕事を目指している人にぜひ履修してほしいプログラムです。

2) 目標

本プログラムは、英語圏、フランス語圏、そして日本の文化を多角的に学ぶことで、文化を読み解く力（カルチュラルリテラシー）を養うことを目標とします。カルチュラルリテラシーは、文化を表層的に眺めるだけでなく、それぞれの文化の深層を読み取り、文化的相互理解に達するための力です。カルチュラルリテラシーを身につけることで、文化と文化の掛け橋となり、多様な文化圏で活躍できるグローバルコミュニケーターを育みます。

2. カルチュラルリテラシープログラムに関する科目

2026 年度入学者用

	開講科目	科目区分	対象年次	単位数	修了に必要な単位数
選 択 必 修	国語国文学特講（民俗学）Ⅰ	文国	3・4	2	8 3学科が設置する 科目を含むこと
	国語国文学特講（民俗学）Ⅱ		3・4	2	
	国語国文学特講（演劇）Ⅰ		3・4	2	
	国語国文学特講（演劇）Ⅱ		3・4	2	
	フランス語実践研究A	文フ	3・4	2	
	フランス社会・生活文化研究C		2・3・4	2	
	フランス社会・生活文化研究D		2・3・4	2	
	フランス社会・生活文化研究E		2・3・4	2	
	フランス社会・生活文化研究G		2・3・4	2	
	イギリス文化史Ⅰ	文英	1・2・3・4	2	
	イギリス文化史Ⅱ		1・2・3・4	2	
	アメリカ文化概論Ⅰ		1・2・3・4	2	
	アメリカ文化概論Ⅱ		1・2・3・4	2	
	Japanese Culture A		1・2・3・4	2	
	Japanese Culture B		1・2・3・4	2	
	プログラム修了に必要な単位数 合計				

3. カルチュラルリテラシープログラムの履修について

1) 対象

本プログラムは文学部のすべての学生が履修できます。履修開始は2年次からを原則としますが、3・4年次からの履修も可能です。

2) 修了要件

選択必修科目を8単位以上修得すること、選択必修科目の履修には3学科が設置する科目を含むこと、この2つが修了の要件となります。修了要件を満たしたプログラム履修者には、本学が発行するプログラム修了証を授与します。

3) 履修登録単位数の上限（加算なし）

本プログラムは、履修登録単位数の上限への加算はありません。半期ごとの履修登録単位数の上限は24単位となりますので、計画的に履修をすすめてください。

4) 単位の取り扱い

本プログラムの科目は、設置学科および所属学科によって修得単位の取り扱いが異なります。

自分の所属する学科が設置している科目

所属学科専門科目の単位

自分の所属ではない他学科が設置している科目

他学科専門科目の単位（「科目区分を特定しない自由選択単位（差の単位）」となります。）

5) プログラム履修開始までの流れ

本プログラムの履修開始までの流れは以下のとおりです。

ガイダンスへの参加

プログラム履修を希望する学生は、1年次（あるいは履修開始前年度）1月実施のガイダンスへ参加してください。

プログラム履修の申し込み

4月の指定期日までに定められた方法でプログラム履修を希望する旨を申し出てください。

プログラム履修開始前に修得した単位の取り扱い

プログラム履修開始前に履修した授業科目の修得単位についても修了要件に含めることができます。

6) プログラム履修に関する費用

プログラム履修費はかかりません。

7) プログラム履修の留意事項

本プログラムへの登録は、卒業時までにはプログラム修了に必要な単位の修得を保証するものではありません。また、プログラムに関する科目とそれ以外の科目との時間割の調整は行いません。履修を希望する授業科目同士の時間割重複もあり得ることから、下級年次から計画的かつ積極的に履修をすすめてください。

8) プログラム履修の辞退

本プログラムを辞退する場合は、グローバル言語・文化教育センターへお申し出ください。

9) プログラムに関するサポート

本プログラムに関する質問は、グローバル言語・文化教育センターへお問い合わせください。

文学部

デジタルリテラチャープログラム

1. デジタルリテラチャープログラムについて
2. デジタルリテラチャープログラムに関する科目
3. デジタルリテラチャープログラムの履修について

デジタルリテラチャープログラム

1. デジタルリテラチャープログラムについて

1) 概要

AIを含め近年急速に発展するデジタル技術はどのようなものか、それが文学にどう関わるのかを学ぶプログラムです。国語国文学科で開講されている関連科目と共通科目の関連科目を組み合わせる履修を進め、デジタル技術を用いたアート制作にも挑戦します。

2) 目標

ITスキルの基礎やAIの実践的な活用例などを習得するとともに、その背景にある哲学的問題を学び、私たちの文学的想像力、創造力を広げることをめざします。

2. デジタルリテラチャープログラムに関する科目

2026年度入学者用

	開講科目	科目区分	対象年次	単位数	修了に必要な単位数
必修	デジタル文学入門演習	文国	2・3・4	2	2
選択必修	ICT ベーシックA	共通	1	2	6
	ICT ベーシックB		1・2・3・4	2	
	プログラミングA		1・2・3・4	2	
	プログラミングB		1・2・3・4	2	
	データ分析演習A		2・3・4	2	
	データ分析演習B		2・3・4	2	
	コンピュータ概論		2・3・4	2	
	Web デザインとマルチメディア		1・2・3・4	2	
	情報ネットワークとセキュリティ		2・3・4	2	
	IT 実務演習		2・3・4	2	
	データサイエンス演習		2・3・4	2	
	近代文学講義AⅠ	文国	2・3・4	2	
	近代文学講義AⅡ		2・3・4	2	
プログラム修了に必要な単位数 合計					8単位以上

3. デジタルリテラチャープログラムの履修について

1) 対象

本プログラムは文学部のすべての学生が履修できます。履修開始は2年次からを原則としますが、3・4年次からの履修も可能です。

2) 修了要件

必修科目2単位と選択必修科目6単位のあわせて8単位以上を修得することが修了の要件となります。修了要件を満たしたプログラム履修者には、本学が発行するプログラム修了証を授与します。

3) 履修登録単位数の上限（加算なし）

本プログラムは、履修登録単位数の上限への加算はありません。半期ごとの履修登録単位数の上限は24単位となりますので、計画的に履修をすすめてください。

4) 単位の取り扱い

本プログラムの科目は、設置学科および所属学科によって修得単位の取り扱いが異なります。なお、共通科目については、所属学科に関わらず、修得した単位は共通科目の単位となります。

自分の所属する学科が設置している科目

所属学科専門科目の単位

自分の所属ではない他学科が設置している科目

他学科専門科目の単位（「科目区分を特定しない自由選択単位（差の単位）」となります。）

5) プログラム履修開始までの流れ

本プログラムの履修開始までの流れは以下のとおりです。

ガイダンスへの参加

プログラム履修を希望する学生は、1年次（あるいは履修開始前年度）1月実施のガイダンスへ参加してください。

プログラム履修の申し込み

プログラム履修の申し込み方法については、プログラムのガイダンスで説明します。

プログラム履修開始前に修得した単位の取り扱い

プログラム履修開始前に履修した授業科目の修得単位についても修了要件に含めることができます。

6) プログラム履修に関する費用

プログラム履修費はかかりません。

7) プログラム履修の留意事項

本プログラムへの登録は、卒業時までにはプログラム修了に必要な単位の修得を保証するものではありません。また、プログラムに関する科目とそれ以外の科目との時間割の調整は行いません。履修を希望する授業科目同士の時間割重複もあり得ることから、下級年次から計画的かつ積極的に履修をすすめてください。

8) プログラム履修の辞退

本プログラムを辞退する場合は、国語国文学科研究室へお申し出ください。

9) プログラムに関するサポート

本プログラムに関する質問は、国語国文学科研究室へお問い合わせください。

文学部

文芸創作プログラム

1. 文芸創作プログラムについて
2. 文芸創作プログラムに関する科目
3. 文芸創作プログラムの履修について

文芸創作プログラム

1. 文芸創作プログラムについて

1) 概要

第一線で活躍している実作者の先生を講師にお招きし、その指導のもとで、俳句、短歌など文芸作品の実作を試みます。国語国文学科・フランス語フランス文学科・英語英文学科でそれぞれ開講されている関連の科目を組み合わせ、履修を進め、小説、評論や、言語の垣根を超えた詩歌創作にも挑戦します。

2) 目標

クリエイティブな思考、批判的な分析力を身に付け、創造する喜びを体験しながら、言語芸術の深い意味を学ぶことを目標とします。

2. 文芸創作プログラムに関する科目

2026 年度入学者用

	開講科目	科目区分	対象年次	単位数	修了に必要な単位数
必修	文芸創作演習	文国	2	2	2
選択必修	中世文学講義 A I	文国	2・3・4	2	6
	中世文学講義 A II		2・3・4	2	
	近世文学演習 B I		2・3・4	2	
	近世文学演習 B II		2・3・4	2	
	国語国文学特講（表現学） I		3・4	2	
	国語国文学特講（表現学） II		3・4	2	
	フランス芸術・文学・歴史研究 B	文フ	2・3・4	2	
	フランス語実践研究 E		3・4	2	
	フランス語実践研究 F		3・4	2	
	英日翻訳演習 I	文英	1・2・3・4	2	
英日翻訳演習 II	1・2・3・4		2		
プログラム修了に必要な単位数 合計					8 単位以上

3. 文芸創作プログラムの履修について

1) 対象

本プログラムは文学部のすべての学生が履修できます。履修開始は2年次からを原則としますが、3・4年次からの履修も可能です。

2) 修了要件

必修科目2単位と選択必修科目6単位のあわせて8単位以上を修得することが修了の要件となります。修了要件を満たしたプログラム履修者には、本学が発行するプログラム修了証を授与します。

3) 履修登録単位数の上限（加算なし）

本プログラムは、履修登録単位数の上限への加算はありません。半期ごとの履修登録単位数の上限は24単位となりますので、計画的に履修をすすめてください。

4) 単位の取り扱い

本プログラムの科目は、設置学科および所属学科によって修得単位の取り扱いが異なります。

自分の所属する学科が設置している科目

所属学科専門科目の単位

自分の所属ではない他学科が設置している科目

他学科専門科目の単位（「科目区分を特定しない自由選択単位（差の単位）」となります。）

5) プログラム履修開始までの流れ

本プログラムの履修開始までの流れは以下のとおりです。

ガイダンスへの参加

プログラム履修を希望する学生は、1年次（あるいは履修開始前年度）1月実施のガイダンスへ参加してください。

プログラム履修の申し込み

プログラム履修の申し込み方法については、プログラムのガイダンスで説明します。

プログラム履修開始前に修得した単位の取り扱い

プログラム履修開始前に履修した授業科目の修得単位についても修了要件に含めることができます。

6) プログラム履修に関する費用

プログラム履修費はかかりません。

7) プログラム履修の留意事項

本プログラムへの登録は、卒業時までにはプログラム修了に必要な単位の修得を保証するものではありません。また、プログラムに関する科目とそれ以外の科目との時間割の調整は行いません。履修を希望する授業科目同士の時間割重複もあり得ることから、下級年次から計画的かつ積極的に履修をすすめてください。

8) プログラム履修の辞退

本プログラムを辞退する場合は、国語国文学科研究室へお申し出ください。

9) プログラムに関するサポート

本プログラムに関する質問は、国語国文学科研究室へお問い合わせください。

文学部

舞台芸術実践プログラム

1. 舞台芸術実践プログラムについて
2. 舞台芸術実践プログラムに関する科目
3. 舞台芸術実践プログラムの履修について

舞台芸術実践プログラム

1. 舞台芸術実践プログラムについて

1) 概要

舞台芸術実践プログラムは、現役の演出家を講師に招いて一つの舞台を実際に制作する実習科目を必修に据え、国語国文学科・フランス語フランス文学科・英語英文学科でそれぞれ開講されている舞台芸術系の科目を組み合わせ、履修をすすめていく文学部ならではのプログラムです。日本の伝統芸能である歌舞伎や文楽から、フランス古典演劇、シェークスピア、オペラ、バレエまで、世界の舞台芸術に関心をもつ学生同士の学科の垣根を超えた積極的な学び合いを期待しています。

2) 目標

本プログラムを履修することで、舞台芸術、演劇に関する深い知識と国際的な視野を身につけること、所属学科で習得する知識や能力も活かしながら日本あるいは外国の文化や社会、歴史などの知識と教養をさらに高めることを目標とします。

2. 舞台芸術実践プログラムに関する科目

舞台芸術実践プログラムに関する科目は、当該年度に文学部で開講される舞台芸術系科目によって構成されます。選択必修科目は年度毎に変更の可能性があります。当該年度プログラム対象科目一覧は、3月下旬にCAMPUS SQUAREにてお知らせします。

【参考：2027年度プログラム対象科目（予定）】

必修区分	開講科目	科目区分	対象年次	単位数	修了に必要な単位数
必修	舞台芸術実践演習	外国	2・3・4	2	2
選択必修	近世文学講義AⅠ	文国	2・3・4	2	6 少なくとも 2学科が設置する 科目を含むこと
	近世文学講義AⅡ		2・3・4	2	
	国語国文学特講（演劇）Ⅰ		3・4	2	
	国語国文学特講（演劇）Ⅱ		3・4	2	
	フランス芸術・文学・歴史研究A	文フ	2・3・4	2	
	フランス芸術・文学・歴史研究C		2・3・4	2	
	フランス芸術・文学・歴史研究G		2・3・4	2	
	フランス芸術・文学・歴史研究H		2・3・4	2	
	イギリス文学史A	文英	1・2・3・4	2	
プログラム修了に必要な単位数 合計					8単位以上

3. 舞台芸術実践プログラムの履修について

1) 対象

本プログラムは文学部のすべての学生が履修できます。履修開始は2年次からを原則としますが、3・4年次からの履修も可能です。

2) 修了要件

必修科目2単位と選択必修科目6単位のあわせて8単位以上修得すること、選択必修科目の履修には少なくとも2学科が設置する科目を含むこと、この2つが修了の要件となります。修了要件を満たしたプログラム履修者には、本学が発行するプログラム修了証を授与します。

3) 履修登録単位数の上限（加算なし）

本プログラムは、履修登録単位数の上限への加算はありません。半期ごとの履修登録単位数の上限は24単位となりますので、計画的に履修をすすめてください。

4) 単位の取り扱い

本プログラムの科目は、設置学科および所属学科によって修得単位の取り扱いが異なります。

自分の所属する学科が設置している科目

所属学科専門科目の単位

自分の所属ではない他学科が設置している科目

他学科専門科目の単位（「科目区分を特定しない自由選択単位（差の単位）」となります。）

5) プログラム履修開始までの流れ

本プログラムの履修開始までの流れは以下のとおりです。

ガイダンスへの参加

プログラム履修を希望する学生は、1年次（あるいは履修開始前年度）1月実施のガイダンスへ参加してください。

プログラム履修届の提出

プログラム必修科目「舞台芸術実践演習」を履修登録したうえで、4月の指定期日までにプログラム履修届をグローバル言語・文化教育センターへ提出してください。詳細はCAMPUS SQUAREにてお知らせします。

プログラム履修開始前に修得した単位の取り扱い

プログラム履修開始前に履修した授業科目の修得単位についても修了要件に含めることができます。

6) プログラム履修に関する費用

プログラム履修費はかかりません。

7) プログラム履修の留意事項

本プログラムへの登録は、卒業時までにはプログラム修了に必要な単位の修得を保証するものではありません。また、プログラムに関する科目とそれ以外の科目との時間割の調整は行いません。履修を希望する授業科目同士の時間割重複もあり得ることから、下級年次から計画的かつ積極的に履修をすすめてください。

8) プログラム履修の辞退

本プログラム履修を辞退する場合は、グローバル言語・文化教育センターへお申し出ください。

9) プログラムに関するサポート

本プログラムに関する質問は、グローバル言語・文化教育センターへお問い合わせください。

グローバルビジネスプログラム

1. グローバルビジネスプログラムについて
2. グローバルビジネスプログラムに関する科目
3. グローバルビジネスプログラムの履修について

グローバルビジネスプログラム

1. グローバルビジネスプログラムについて

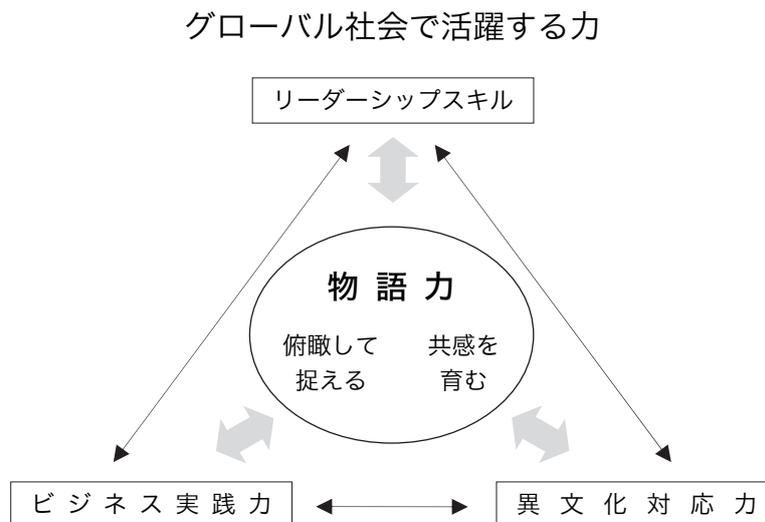
1) 概要

グローバルビジネスプログラム（GBP）は、学内の専門教育によって養われる力のひとつである「物語力（モノガタリリョク）」を基盤として、グローバル社会で活躍する人材の育成をめざすものです。

「物語力」とは、「共感を育み、物事を俯瞰（ふかん）して捉えることができる力」のことです。企業のAI化、グローバル化が顕著に進む現在だからこそ、今まで以上にその重要性も高まっています。この力は、生涯にわたるキャリアを見据え、社会に出てからもさまざまな場面で活躍できる人材となるための基礎となります。グローバルビジネスプログラムでは、本学の学びであるこの物語力を体感し、実践できるようなアウトプットの場を設けています。そしてこの強みを生かして主体的にキャリアを構築できるように支援します。

2) 目標

本プログラムは、「物語力」を土台に、グローバル社会で活躍するための基礎を育みます。この力を援用して、キャリア形成の際にはみなさんの素養を十分に発揮できる準備を行います。さらにグローバルに活躍できる人材に不可欠な知識と実践とを重視した科目群を通し、「リーダーシップスキル」「ビジネス実践力」「異文化対応力」の3つを身につけられるようになることを目標とします。実践力を高めるために、企業との連携によるプロジェクトや海外で実際に働くことのできるインターンシップなども用意しています。



2. グローバルビジネスプログラムに関する科目

2026 年度入学者用

	開講科目	科目区分	対象年次	単位数	修了に必要な単位数
必修	EBC I *1	外国	1	2	14
	EBC II *1		2	2	
	リーダーシップ入門		1	2	
	リーダーシップ応用		2	2	
	ビジネスの基礎知識		2	2	
	ビジネススキル		2	2	
	物語力ワークショップ		3	2	
選択必修	データ分析演習A	共通	2・3 *4	2	4
	ビジネス・マーケティングA *2	外国	3	2	
	ビジネス・マーケティングB *2		2・3	2	
	英語メディアで学ぶビジネス		2・3	2	
	英語で考える SDGs		2・3	2	
	自己表現の技術と知識		2・3	2	
	海外企業実地研修準備講座 *3		2	2	
	海外企業実地研修 *3		3	2	
	海外文化共創研修		1・2・3 *4	2	
プログラム修了に必要な単位数 合計					18 単位以上

- *1 「EBC I」「EBC II」については、TOEICのスコアが一定以上であり、かつ、その旨グローバル言語・文化教育センターに申し出があれば履修免除となります。その場合のプログラム修了に必要な単位数は、修了に必要な単位数の合計より免除となった単位数を差し引くものとします。
EBC I・・・TOEIC 650 点以上
EBC II・・・TOEIC 700 点以上
- *2 「ビジネス・マーケティングA」と「ビジネス・マーケティングB」は、いずれか一方のみしか履修できません。
- *3 「海外企業実地研修」の履修を希望する学生は、「海外企業実地研修準備講座」をあわせて履修しなくてはなりません（長期留学により履修できない場合を除く）。なお、「海外企業実地研修」の履修を希望しない場合でも、「海外企業実地研修準備講座」のみ履修することは可能です。
- *4 各科目区分の対象年次とは別に、本プログラムで履修するのに望ましい対象年次を示しています。

3. グローバルビジネスプログラムの履修について

1) 対象

本プログラムは文学部および人間総合学部のすべての学生が履修できます。履修開始は1年次からを原則としますが、2年次からの履修も可能です。

なお、プログラムに登録していない学生でも、定員に余裕がある場合は、一部科目を履修することが可能です。

2) 修了要件

必修科目14単位と選択必修科目4単位をあわせて18単位以上を修得することが修了の要件となります。修了要件を満たしたプログラム履修者には、本学が発行するプログラム修了証を授与します。

3) 履修登録単位数の上限

本プログラム履修者のうち、人間総合学部に所属する学生に限り、半期ごとの履修登録単位数の上限が30単位（半期6単位以内の加算）となります。

4) 単位の取り扱い

本プログラムの科目は共通科目・外国語科目として開講しており、修得した単位はそれぞれ共通科目・外国語科目の単位となります。

5) プログラム履修開始までの流れ

本プログラムの履修開始までの流れは以下のとおりです。

ガイダンスへの参加

プログラム履修を希望する学生は、4月実施のガイダンスへ必ず参加してください。

プログラム履修の申し込みと履修費の納入

指定期日までにプログラム履修の申し込みと履修費の納入を行ってください。

1年次後期より履修開始

1年次後期に開講される「EBC I」「リーダーシップ入門」より履修がスタートします。

(時間割重複等の理由で、同科目の履修が翌年度以降になる場合もあります。)

「EBC I」については、プログラム履修者決定後にグローバル言語・文化教育センターにて履修登録を行います。その他の授業科目については、自身で履修をすすめてください。

プログラム履修開始前に修得した単位の取り扱い

プログラム履修開始前に履修した授業科目の修得単位についても修了要件に含めることができます。

6) プログラム履修に関する費用

本プログラムを履修するには、プログラム履修費8,000円（「EBC I」履修年度5～6月納入）が必要となります。納入方法詳細はCAMPUS SQUAREにて該当者へお知らせします。なお、一旦、納入された履修費は、いかなる理由があっても返還することはできません。

また、学外における授業・研修のために必要な交通費（渡航費）・滞在費・研修費等は、実費負担となります。そのほか、学内実施のTOEIC IPテストを受験の際は、別途受験料がかかります。（参考：海外企業実地研修 約30～80万円、TOEIC IPテスト受験料〔学内実施〕3,130円/回※）

※本学はTOEICを運営する（財）国際ビジネスコミュニケーション協会の賛助会員となっています。そのため、本学学生は、通常4,230円のIPテスト受験料について賛助会員割引が適用されます。学内におけるテストは年4回（5月・10月・12月・2月）の実施が予定されています。

7) 「海外企業実地研修」について

「海外企業実地研修」は、3～4週間にわたり海外で実施する企業実習のため、一定の語学力が必要です。以下の履修条件を確認してください。

「海外企業実地研修」の履修条件（2年次10月頃の履修者募集時点）

- ① 海外企業実地研修準備講座を履修すること
- ② 「EBC I」を履修済、もしくは履修中であること
- ③ 海外研修参加にあたっての事前選考面接を受け、研修に参加する明確な目的と意志を持っていること

※2年次に長期留学をしていた場合、上記①～③の条件が一部免除されることがあります。

※グローバル言語・文化教育センターでは、英語力向上のための教材なども用意しています。積極的に活用して、事前の準備を十分に行ってください。

「海外企業実地研修」の履修が決定した学生は、「事前・事後指導」と「研修報告プレゼンテーション」へ必ず出席してください。研修レポートとプレゼンテーションによって成績評価が行われます。なお、2～3月研修の場合は翌年度集中科目（成績通知：翌年度前期末）として、8月研修の場合は同年度集中科目（成績通知：学年末）として、グローバル言語・文化教育センターによって履修登録が行われます。

8) プログラム履修の留意事項

本プログラムへの登録は、卒業時までにはプログラム修了に必要な単位の修得を保証するものではありません。また、プログラムに関する科目とそれ以外の科目との時間割の調整は行いません。履修を希望する授業科目同士の時間割重複もあり得ることから、下級年次から計画的かつ積極的に履修をすすめてください。

9) プログラム履修の辞退

本プログラム履修を辞退する場合は、担当教員と相談の上、グローバル言語・文化教育センターへ辞退届を提出してください。

10) プログラムに関するサポート

本プログラムに関する質問は、グローバル言語・文化教育センターへお問い合わせください。

ホスピタリティ・マネジメントプログラム

1. ホスピタリティ・マネジメントプログラムについて
2. ホスピタリティ・マネジメントプログラムに関する科目
3. ホスピタリティ・マネジメントプログラムの履修について

ホスピタリティ・マネジメントプログラム

1. ホスピタリティ・マネジメントプログラムについて

1) 概要

ホスピタリティ・マネジメントプログラムは、ホスピタリティを学問的・実務的に幅広く学ぶことを通して、ホスピタリティ業界に優秀な人材を輩出することをめざすものです。ホスピタリティ業界とは、人の移動や交流によって生み出される経済現象に関わる業界のことで、主に旅行、宿泊、交通（航空）などの接客サービスを伴う業種のことですが、教育、医療、福祉などの業種にも応用が可能です。そもそも「ホスピタリティ」とは、他者の幸せを願い、共感し、役に立ちたいと思う心です。「おもてなし」や歓待、気配りなどは押しつけになることもあります。ホスピタリティは決して押しつけない、相手の心に寄り添う「深い思いやり」です。これは「人間一人ひとりをかけがえのない存在として大切に思い、自ら進んで他者に仕え、社会に貢献しようとする心」というシャルトル聖パウロ修道女会の精神や本学の建学の精神（＝「白百合のこころ」）ともつながるものです。本プログラムを通して、「白百合のこころ」をもって社会に貢献する卒業生の活躍の場が広がることを強く期待しています。

2) 目標

本プログラムは、相手の心に寄り添う「深い思いやり」の心、すなわち「ホスピタリティの心」をベースとして、ホスピタリティの「語学」「理論」「実務」をバランスよく学び、学問的・実践的な力を身につけることを目標とします。

1. 「ホスピタリティの語学」では、英語を中心に、国内外のホスピタリティ業界で働くために必要な実践的語学力を身につけ、その過程でホスピタリティの基礎を学びます。
2. 「ホスピタリティの理論」では、「ホスピタリティ」の概念とその歴史をたどり、現代社会において持つ意味を理解します。そのうえで、企業活動としてホスピタリティを実践するためには何が必要かを考えます。
3. 「ホスピタリティの実務」では、産官学連携の授業や学外授業としての企業視察を通して、ホスピタリティ業界の実務に対する理解を深めます。

また、本プログラムには必修科目のほかに任意で履修や参加ができるオプション科目や授業外産官学連携イベントがあります。応用に踏み込んだ実践的語学力のほか、ホスピタリティ産業におけるサービスやコミュニケーション、ホスピタリティ業界と関わりの深い観光についての理論と実践、さらには国内外での研修などの授業がオプションとして用意され、自由参加の授業外イベントでも多様な知識や経験を積むことができます（イベントによっては参加費用がかかります）。さらに、本プログラムは学生一人ひとりが自分の専攻で習得する知識や能力を活かせる内容になっています。文学部で学ぶ日本あるいは外国の文化や社会、歴史の知識、人間総合学部で学ぶ人の成長や人への支援に関わるさまざまな知見は、「ホスピタリティの心」と結びつくことで、実社会との接点を獲得し、専門性に裏打ちされた実践的教養として、その価値をさらに高めることでしょう。

2. ホスピタリティ・マネジメントプログラムに関する科目

2026 年度入学者用

	開講科目	科目区分	対象年次	単位数	備 考
必修	ホスピタリティの英語Ⅰ	外国	1・2・3・4	2	
	ホスピタリティマネジメント概論		1・2・3・4	2	
	ホスピタリティマネジメント演習		2・3・4	2	
プログラム修了に必要な単位数 合計				6単位	

(オプション科目)

	開講科目	科目区分	対象年次	単位数	備 考
オプション	ホスピタリティの英語Ⅱ	外国	2・3・4	2	
	ホスピタリティマネジメント特講A		1・2・3・4	2	
	ホスピタリティマネジメント特講B		1・2・3・4	2	
	ホスピタリティインターンシップ研修		2・3・4	2	8月～9月に実施
	海外ホスピタリティ研修		1・2・3	2	2月～3月に実施
	海外文化共創研修		1・2・3・4	2	8月～9月に実施
	観光文化論	共通	1・2・3・4	2	
	Webデザインとマルチメディア		1・2・3・4	2	
	フランス語実践研究D	文フ	3・4	2	
(オプション科目の履修は任意、修得すべき単位数なし)				—	

3. ホスピタリティ・マネジメントプログラムの履修について

1) 対象

本プログラムは文学部および人間総合学部のすべての学生が履修できます。履修開始は1年次からを原則としますが、2・3年次からの履修も可能です。

2) 修了要件

必修科目6単位を修得することが修了の要件となります。修了要件を満たしたプログラム履修者には、本学が発行するプログラム修了証を授与します。

3) オプション科目

修了に必須ではありませんが、プログラムと深くかかわる内容を学ぶオプション科目があります。オプション科目の一部は、プログラムに登録していない学生でも定員に余裕がある場合は履修することが可能です。

4) 履修登録単位数の上限（加算なし）

本プログラムは、履修登録単位数の上限への加算はありません。半期ごとの履修登録単位数の上限は24単位となりますので、計画的に履修をすすめてください。

5) 単位の取り扱い

本プログラムの科目（オプション科目含む）は、設置学科および所属学科によって修得単位の取り扱いが異なります。なお、共通科目・外国語科目については、所属学科に関わらず、修得した単位はそれぞれ共通科目・外国語科目の単位となります。

自分の所属している学科が設置している科目

所属学科専門科目の単位

自分の所属ではない他学科が設置している科目

他学科専門科目の単位（「科目区分を特定しない自由選択単位（差の単位）」となります。）

6) プログラム履修開始までの流れ

本プログラムの履修開始までの流れは以下のとおりです。

ガイダンスへの参加

プログラム履修を希望する学生は、4月実施のガイダンスへ必ず参加してください。

プログラム履修の申し込みと履修費の納入

指定期日までにプログラム履修の申し込みと履修費の納入を行ってください。

1年次後期より履修開始

1年次後期に開講される「ホスピタリティの英語Ⅰ」より履修がスタートします。

（時間割重複等の理由で、同科目の履修が翌年度以降になる場合もあります。）

同科目については、プログラム履修者決定後にグローバル言語・文化教育センターにて履修登録を行います。

その他の科目については、自身で履修をすすめてください。

7) プログラム履修に関する費用

本プログラムを履修するには、プログラム履修費8,000円（「ホスピタリティの英語Ⅰ」履修年度5月～6月納入）が必要となります。納入方法詳細はCAMPUS SQUAREにて該当者へお知らせします。なお、一旦、納入された履修費は、いかなる理由があっても返還することはできません。

8) 「海外ホスピタリティ研修」について

2月～3月実施の「海外ホスピタリティ研修」の履修を希望する学生は、前年度後期中に行われる説明会へ必ず参加してください。なお、同科目については、翌年度集中科目としてグローバル言語・文化教育センターにより履修登録が行われ、その成績は翌年度前期末に通知されます。

9) 「ホスピタリティインターンシップ研修」「海外文化共創研修」について

8月～9月実施の「ホスピタリティインターンシップ研修」「海外文化共創研修」の履修を希望する学生は、前期中に行われる説明会へ必ず参加してください。なお、同科目については、集中科目としてグローバル言語・文化教育センターにより履修登録が行われ、その成績は学年末に通知されます。

10) プログラム履修の留意事項

本プログラムへの登録は、卒業時までにはプログラム修了に必要な単位の修得を保証するものではありません。また、プログラムに関する科目とそれ以外の科目との時間割の調整は行いません。履修を希望する授業科目同士の時間割重複もあり得ることから、下級年次から計画的かつ積極的に履修をすすめてください。

11) プログラム履修の辞退

本プログラム履修を辞退する場合は、グローバル言語・文化教育センターへ辞退届を提出してください。

12) プログラムに関するサポート

本プログラムに関する質問は、グローバル言語・文化教育センターへお問い合わせください。

国際スキルとコミュニケーションプログラム

1. 国際スキルとコミュニケーションプログラムについて
2. 国際スキルとコミュニケーションプログラムに関する科目
3. 国際スキルとコミュニケーションプログラムの履修について

国際スキルとコミュニケーションプログラム

1. 国際スキルとコミュニケーションプログラムについて

1) 概要

「自信ある声、広がる視野」 “Confident Voices, Global Perspectives”

国際スキルとコミュニケーションプログラムは、相互に結びついた世界の中で、自信を持ってコミュニケーションをし、どんな人とでも協働できるグローバルな視野を持った学生を育成します。このプログラムを履修することで、ますます国際化が進む日本社会や海外での主体的な活動に備えることができます。本プログラムには、グローバルスキル、日本社会・文化、東アジア研究、メディア・ポップカルチャー、歴史、ジェンダー、バイリンガルコミュニケーションなどの科目が含まれます。学生は関心に応じて科目を選択できます。授業は英語で行うものが中心ですが、単なる語学講座ではなく、どの授業でもディスカッション、リサーチ、プロジェクト型学習などの活動を行います。プログラム修了には最低10単位の修得が必要です。

2) 目標

「世界のどこでも輝ける女性を育てる」 “Empowering women to thrive anywhere in the world”

本プログラムは、共に学ぶことのできる学習コミュニティを作り、その中で幅広い国際感覚とグローバルな視野、そして実践的英語能力を備えた高度なコミュニケーション力を持つ女性を育成することを目指します。特定の職業に特化したスキルを磨くのではなく、教育関連から国際ビジネス、メディア、観光業界までどのような分野であっても活躍できる人材を育成することを目指しています。本プログラムを履修した学生は、授業を通じてグローバルスキル、多様な文化への理解力を養い、最終的に、自分の考えを自信を持って発表できる「発信力」、異なる背景を持った他者といっしょに問題に取り組む「協働力」、そして複雑なテーマについて多角的に分析し、客観的に評価する「批判的思考力」を身につけます。プログラムを修了することで、日本国内外で活躍するための知識と能力を獲得し、国際的な視野に立って主体的に行動できるグローバルな女性を目指しましょう。

2. 国際スキルとコミュニケーションプログラムに関する科目

2026 年度入学者用

	開講科目	科目区分	対象年次	単位数	修了に必要な単位数
必修	Introducing Global Skills	外国	1・2・3	2	4
	Challenging Global Skills		1・2・3	2	
選択必修	Gender in Japan	外国	2・3・4	2	6 (4)
	Media & Pop Culture		2・3・4	2	
	Understanding Japanese History		2・3・4	2	
	Understanding Japanese Society		2・3・4	2	
	Understanding Global History		2・3・4	2	
	Second Culture Acquisition		2・3・4	2	
	Becoming Bilingual	2・3・4	2		
	East Asian Studies A	文英	1・2・3・4	2	
	East Asian Studies B		1・2・3・4	2	
選択	English Clinic Basic	外国	1・2・3・4	2	(2)
	English Clinic Challenge		1・2・3・4	2	
	異文化とコミュニケーション	文国	1・2・3・4	2	
プログラム修了に必要な単位数 合計					10 単位以上

3. 国際スキルとコミュニケーションプログラムの履修について

1) 対象

本プログラムは文学部および人間総合学部のすべての学生が履修できます。履修開始は1年次からを原則としますが、2・3年次からの履修も可能です。

2) 修了要件

カリキュラム表に示す要件を満たした上で、10単位以上修得することが修了の要件となります。修了要件を満たしたプログラム履修者には、本学が発行するプログラム修了証を授与します。

3) 履修登録単位数の上限（加算なし）

本プログラムは、履修登録単位数の上限への加算はありません。半期ごとの履修登録単位数の上限は24単位となりますので、計画的に履修をすすめてください。

4) 単位の取り扱い

本プログラムの科目は、設置学科および所属学科によって修得単位の取り扱いが異なります。なお、外国語科目については、所属学科に関わらず、修得した単位は外国語科目の単位となります。

自分の所属する学科が設置している科目

所属学科専門科目の単位

自分の所属ではない他学科が設置している科目

他学科専門科目の単位（「科目区分を特定しない自由選択単位（差の単位）」となります。）

5) プログラム履修開始までの流れ

本プログラムの履修開始までの流れは以下のとおりです。

ガイダンスへの参加

プログラム履修を希望する学生は、4月実施のガイダンスへ参加してください。

プログラム履修の申し込み

プログラム履修の申し込み方法については、プログラムのガイダンスで説明します。

プログラム履修開始前に修得した単位の取り扱い

プログラム履修開始前に履修した授業科目の修得単位についても修了要件に含めることができます。

6) プログラム履修に関する費用

プログラム履修費はかかりません。

7) プログラム履修の留意事項

本プログラムへの登録は、卒業時までにはプログラム修了に必要な単位の修得を保証するものではありません。また、プログラムに関する科目とそれ以外の科目との時間割の調整は行いません。履修を希望する授業科目同士の時間割重複もあり得ることから、下級年次から計画的かつ積極的に履修をすすめてください。

8) プログラム履修の辞退

本プログラムを辞退する場合は、グローバル言語・文化教育センターへお申し出ください。

9) プログラムに関するサポート

本プログラムに関する質問は、グローバル言語・文化教育センターへお問い合わせください。

文学部

児童英語プログラム

1. 児童英語プログラムについて
2. 児童英語プログラムに関する科目
3. 児童英語プログラムの履修について

児童英語プログラム

1. 児童英語プログラムについて

1) 概要

子どもに英語を教えることに関心のある人を対象とするプログラムです。世界の多くの国では、公立・私立の小学校ばかりでなく、民間の教育機関や小グループでの指導を含めた子どもたちへの外国語指導の実践がなされてきました。日本においても、2020年度より小学校において外国語（英語）教育が始まりました。それに伴い、子どもたちを対象とする外国語教育の必要性がますます高まっています。

プログラム修了後に想定されるキャリア・プランとしては、児童英語教室で教える、小学校の外国語・外国語活動の授業支援者（アシスタント）となる、児童英語教材のデザイナーになる等の幅広い分野での活動が期待できます。

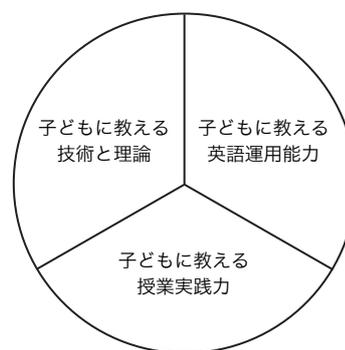
2) 目標

本プログラムでは、子どもたちに英語を教える指導者に求められる資質を、

1. 子どもに教える技術と理論
2. 子どもに教える英語運用力
3. 子どもに教える授業実践力

の3つの領域から成るものと考え、これら3つの力をバランスよく身に付けた上で、実際に小学生を相手に英語の授業を行うことを目標としています。

子どもに英語を教える力



2. 児童英語プログラムに関する科目

2026年度入学者用

	開講科目	科目区分	対象年次	単位数	修了に必要な単位数
必修	児童英語教育法	文英	1・2・3・4	2	6
	英語教育の理論と実践Ⅰ		1・2・3・4	2	
	英語教育の理論と実践Ⅱ		1・2・3・4	2	
選択	言語習得論Ⅰ	文英	2・3・4	2	2
	言語習得論Ⅱ		2・3・4	2	
必修	英語音声学Ⅰ	文英	2・3・4	2	2
	英語音声学Ⅱ		2・3・4	2	
	プログラム修了に必要な単位数 合計				10単位以上

3. 児童英語プログラムの履修について

1) 対象

本プログラムは原則として文学部のすべての学生および初等教育学科の学生が履修できます。履修開始は1年次からを原則としますが、2・3・4年次からの履修も可能です。

2) 修了要件

必修科目6単位と選択必修科目4単位をあわせて10単位以上修得することが修了の要件となります。修了要件を満たしたプログラム履修者には、本学が発行するプログラム修了証を授与します。

3) 履修登録単位数の上限

本プログラム履修者のうち、人間総合学部初等教育学科に所属する学生に限り、半期ごとの履修登録単位数の上限が30単位（半期6単位以内の加算）となります。

4) 単位の取り扱い

本プログラムの科目は英語英文学科専門科目として開講しています。修得した単位の取り扱いについては、所属学科により異なります。

英語英文学科の学生

英語英文学科専門科目の単位

プログラム履修を認められた英語英文学科以外の学生

他学科専門科目の単位（「科目区分を特定しない自由選択単位（差の単位）」となります。）

5) プログラム履修開始までの流れ

本プログラムの履修開始までの流れは以下のとおりです。

ガイダンスへの参加

プログラム履修を希望する学生は、4月実施のガイダンスへ参加してください。

プログラム履修の申し込み

ガイダンスにて直接申し出る、もしくは、4月の指定期日までに児童英語プログラム担当教員(jidoeigo@shirayuri.ac.jp)へメールでプログラム履修を希望する旨を申し出てください。

プログラム履修開始前に修得した単位の取り扱い

プログラム履修開始前に履修した授業科目の修得単位についても修了要件に含めることができます。

6) プログラム履修に関する費用

本プログラムの履修にあたりプログラム履修費は不要ですが、学外における授業や研修のために必要な交通費等は実費負担となります。

7) プログラム履修の留意事項

本プログラムへの登録は、卒業時までにはプログラム修了に必要な単位の修得を保証するものではありません。また、プログラムに関する科目とそれ以外の科目との時間割の調整は行いません。履修を希望する授業科目同士の時間割重複もあり得ることから、下級年次から計画的かつ積極的に履修をすすめてください。

8) プログラム履修の辞退

原則として年度途中でのプログラム辞退は認められません。毎年度末（2月～3月）、履修者全員へメールにて翌年度もプログラム履修を継続するか意思確認を行います。辞退を希望する場合はそのタイミングで申し出てください。なお、年度途中で辞退の意思を固めている場合は、プログラム科目を自身で履修取消申請してもかまいません。本プログラムを辞退する場合は、児童英語プログラム担当教員へお申し出ください。

9) プログラムに関するサポート

本プログラムに関する質問は、英語英文学科研究室へお問い合わせください。

中学・高校教員免許取得プログラム

国語国文学科・フランス語フランス文学科・英語英文学科

1. 中学・高校教員免許取得プログラムについて
2. 中等教職課程履修費
3. 教育職員免許状の種類及び教科について
4. 教育職員免許状を取得するための条件
5. 履修方法
6. 教育実習
7. 教職実践演習（中・高）
8. 教育職員免許状取得
9. 登録
10. 辞退
11. 中等教職課程年間予定

文学部 中学・高校教員免許取得プログラム

1. 中学・高校教員免許取得プログラムについて

中学・高校教員免許取得プログラム（以下、中等教職課程）とは、教育職員免許法に定められた科目の単位を修得し、中学校及び高等学校の教育職員免許状を取得するための課程です。

中学校教諭免許状及び高等学校教諭免許状を取得するために必要な科目等は若干異なりますが、本学では中学校教諭免許状及び高等学校教諭免許状の両免許状を併せて取得することを原則としています。これらの免許状を取得するにあたっては、3～4週間（15日以上）の教育実習や、合計7日間の介護等体験を行う必要があります。実習や体験の日程は、受け入れ先の学校や施設の都合に合わせて設定されます。

中等教職課程履修者は、学内はもとより、教育実習校や介護等体験先等において、「教員を目指す者」とみなされます。中等教職課程の履修を希望する場合は、これらを十分認識し、自覚を持って臨むとともに、計画的に授業科目の履修を進めていくことが必要です。

なお、中等教職課程を履修するにあたっては、必ず履修申請を行ってください。申請方法等につきましては、入学時のお知らせ等を参照してください。入学時以外の申請も不可能ではありませんが、時期によっては、4年間での免許状取得が困難となります。

また、最終的な履修者（教育実習実施者）は、各学科の選考等により決定されます（選考時期は各学科により異なります）。

2. 中等教職課程履修費

中等教職課程を履修するには、中等教職課程履修費が必要となります。なお、一旦納入された履修費は、いかなる理由があっても返還することはできません（納入時期・納入金額等は2025年度の実績）。

納入時期： 教育実習実施年度 4月（原則4年次）

納入金額： 22,000円

納入方法： 証明書発行機（11号館2階）にて期限内に納入

3. 教育職員免許状の種類及び教科について

本学において取得できる免許状と学科の組み合わせは、以下のとおりです。

認定を受けた学科	免許状の種類	免許教科
国語国文学科	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	国語
フランス語フランス文学科	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	外国語（フランス語）
英語英文学科	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	外国語（英語）

4. 教育職員免許状を取得するための条件

本学において中学校教諭一種免許状及び高等学校教諭一種免許状を取得するためには、以下のとおり必要条件が定められています。

- ① 「教科及び教科の指導法に関する科目」の履修
- ② 「教育の基礎的理解に関する科目等」の履修
「教育の基礎的理解に関する科目等」とは「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」及び「教育実践に関する科目」のことを示す。（以下、同様）
- ③ 「大学が独自に設定する科目」の履修
- ④ 「教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目」の履修
- ⑤ 介護等体験の実施
- ⑥ 基礎資格を有する（学士の学位を取得＝大学を卒業すること）

2026 年度入学者用

必要条件 免許状の種類	⑥ 基礎資格	最低修得単位数及び科目										⑤ 介護等体験の実施
		① 教科及び教科の指導法に関する科目	② 教育の基礎的理解に関する科目等	③ 大学が独自に設定する科目	①②③ 合計	④ 教育職員免許法施行規則 第 66 条の 6 に定める科目				⑤ 介護等体験の実施		
						日本国憲法	体育	外国語コミュニケーション	数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作			
											④	
中学校教諭一種免許状	学士の学位を有すること。	教育職員免許法施行規則に定められた最低修得単位数	28	27	4	59	2	2	2	2	必要	
		本学における最低修得単位数	国語	28	31	*	59	2	2	2	2	必要
			フランス語	28	31	*	59					
			英語	28	31	*	59					
高等学校教諭一種免許状	学士の学位を有すること。	教育職員免許法施行規則に定められた最低修得単位数	24	23	12	59	2	2	2	2		
		本学における最低修得単位数	国語	28	29	2*	59	2	2	2	2	
			フランス語	28	29	2*	59					
			英語	28	29	2*	59					

* 「大学が独自に設定する科目」の単位の修得方法は、「5. ③ 大学が独自に設定する科目」を参照してください。

注) 高等学校教諭一種免許状取得にあたっては、中学校教諭一種免許状を取得することを前提としています。

5. 履修方法

上記①～④の科目は、さらに免許状の種類や教科に応じて各科目区分ごとに履修すべき授業科目と最低修得単位数が定められています。本学における各科目の履修方法及び介護等体験の詳細については後述します。

また、本学では、中学校教諭及び高等学校教諭の両免許状を併せて取得するよう指導しています。中学校教諭と高等学校教諭では免許状取得のために必要な科目等が若干異なりますので、履修計画を立て、両免許状取得に必要な科目等を履修してください。

※ 本学に入学する以前に、他の大学や短期大学等において修得した単位は、本学における教育職員免許状取得のための単位として使用できる場合があります。該当する場合は、教務課（資格担当）に申し出て指導を受けてください。

※ 留学等において認定された単位や TOEIC 等の点数により認定された単位等は、①～④の授業科目として使用することはできません。

① 教科及び教科の指導法に関する科目：国語

認定を受けた学科：国語国文学科

2026年度入学者用

免許法施行規則に定める科目区分等			本学における開設授業科目等 ()内の数字は単位数				
科目区分	各科目に含めることが必要な事項	最低修得単位数		左記に対応する開設授業科目	最低修得単位数		
		中学	高校		中学	高校	
教科に関する専門的事項	国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）	28	24	◎国語学概論Ⅰ (2) ◎国語学概論Ⅱ (2) 基礎演習（日本語） (1) 日本語史B (2) 日本語史A (2)	4	選択科目から6単位以上修得*1	4 選択科目から7単位以上修得*2
	国文学（国文学史を含む。）			◎文学史A (2) ◎文学史B (2) ◎文学史C (2) 国語国文学入門 (1) 基礎演習（古典）Ⅰ (1) 基礎演習（古典）Ⅱ (1) 基礎演習（近代）Ⅰ (1) 基礎演習（近代）Ⅱ (1)	6	6	
	漢文学			◎基礎演習（漢文）A (1) 漢文学講義Ⅰ (2) 漢文学講義Ⅱ (2) 中国文学講義Ⅰ (2) 中国文学講義Ⅱ (2)	1	1	
	書道（書写を中心とする。）			◎書道 (1)	1		
各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）	8単位以上	4単位以上	◎国語科教育法特講A (2) ◎国語科教育法特講B (2) ◎国語科教育法ⅠA (2) ◎国語科教育法ⅠB (2) ◎国語科教育法Ⅱ (2)	10	10		
合計	28	24	本学が定める最低修得単位数		28	28	

◎：中等教職課程履修者必修科目

—（下線）：一般的包括的な内容を含む科目

*1 「国語学」「国文学」「漢文学」「書道」の選択科目の中から6単位以上修得してください。

*2 「国語学」「国文学」「漢文学」の選択科目の中から7単位以上修得してください。

よって、中高の両免許状を取得するためには、中等教職課程履修者必修科目（22単位）を修得したうえで、「国語学」「国文学」「漢文学」の選択科目の中から7単位以上修得してください。

履修上の注意事項

- 「教科に関する専門的事項」において、中学校教諭免許状取得にあたっては、各科目に含めることが必要な事項（「国語学」「国文学」「漢文学」「書道」）から、それぞれ「一般的包括的な内容を含む科目」を含み、最低1科目以上履修してください。
- 「教科に関する専門的事項」において、高等学校教諭免許状取得にあたっては、各科目に含めることが必要な事項（「国語学」「国文学」「漢文学」）から、それぞれ「一般的包括的な内容を含む科目」を含み、最低1科目以上履修してください。
- 「国語学」においては、「国語学概論Ⅰ」及び「国語学概論Ⅱ」の単位をすべて修得することで、「一般的包括的な内容を含む科目」を履修したことになります。
- 「国文学」においては、「文学史A」「文学史B」及び「文学史C」の単位をすべて修得することで、「一般的包括的な内容を含む科目」を履修したことになります。
- 「書道（書写を中心とする。）」は、高等学校教諭免許状取得のために必要な科目として含めることはできません。
- 「国語科教育法Ⅱ」は「国語科教育法ⅠA」及び「国語科教育法ⅠB」を履修済で、かつ、年度当初指示された実習課題等を実施した場合のみ受講及び履修登録をすることができます。
- 留学等において認定された単位は、「教科及び教科の指導法に関する科目」の単位として使用することはできません。

① 教科及び教科の指導法に関する科目：フランス語

認定を受けた学科：フランス語フランス文学科

2026年度入学者用

免許法施行規則に定める科目区分等			本学における開設授業科目等 ()内の数字は単位数				
科目区分	各科目に含めることが必要な事項	最低修得単位数		左記に対応する開設授業科目	最低修得単位数		
		中学	高校		中学	高校	選 択 科 目 か ら 6 単 位 以 上 修 得 *1
教科に関する専門的事項	仏語学	28	24	◎フランス語発展読解Ⅱ (2) フランス語上級実践研究A (2) フランス語上級実践研究B (2)	2	2	選 択 科 目 か ら 6 単 位 以 上 修 得 *1
	仏語文学			◎フランス文学概論 (2) フランス芸術・文学・歴史研究A (2) フランス芸術・文学・歴史研究B (2)	2	2	選 択 科 目 か ら 6 単 位 以 上 修 得 *2
	仏語コミュニケーション			◎フランス語発展総合ⅡA (2) フランス語実践研究A (2) ◎フランス語発展総合ⅡB (2) フランス語実践研究B (2)	4	4	
	異文化理解			◎フランス語圏文化概論Ⅰ (2) フランス芸術・文学・歴史研究C (2) フランス社会・生活文化研究B (2) ◎フランス語圏文化概論Ⅱ (2) フランス芸術・文学・歴史研究D (2) フランス社会・生活文化研究C (2)	4	4	
各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)	8 単 位 以 上	4 単 位 以 上	◎仏語科教育法ⅠA (2) ◎仏語科教育法ⅠB (2) ◎仏語科教育法Ⅱ (2) ◎仏語科教育法特講A (2) ◎仏語科教育法特講B (2)	10	10		
合計		28	24	本学が定める最低修得単位数	28	28	

◎：中等教職課程履修者必修科目

— (下線)：一般的包括的な内容を含む科目

*1 「仏語学」「仏語文学」「仏語コミュニケーション」「異文化理解」の選択科目の中から6単位以上修得してください。

*2 「仏語学」「仏語文学」「仏語コミュニケーション」「異文化理解」の選択科目の中から6単位以上修得してください(中高の両免許状を取得することを前提に6単位以上としてあります)。

履修上の注意事項

- 「教科に関する専門的事項」において、中学校教諭免許状及び高等学校教諭免許状の取得にあたっては、各科目に含めることが必要な事項(「仏語学」「仏語文学」「仏語コミュニケーション」「異文化理解」)から、それぞれ「一般的包括的な内容を含む科目」を含み、最低1科目以上履修してください。
- 「仏語コミュニケーション」においては、「フランス語発展総合ⅡA」及び「フランス語発展総合ⅡB」の単位をすべて修得することで、「一般的包括的な内容を含む科目」を履修したことになります。
- 「異文化理解」においては、「フランス語圏文化概論Ⅰ」及び「フランス語圏文化概論Ⅱ」の単位をすべて修得することで、「一般的包括的な内容を含む科目」を履修したことになります。
- 「仏語科教育法Ⅱ」は「仏語科教育法ⅠA」及び「仏語科教育法ⅠB」を履修済で、かつ、年度当初指示された実習課題等を実施した場合のみ受講及び履修登録をすることができます。
- 留学等において認定された単位は、「教科及び教科の指導法に関する科目」の単位として使用することはできません。

① 教科及び教科の指導法に関する科目：英語

認定を受けた学科：英語英文学科

2026年度入学者用

免許法施行規則に定める科目区分等			本学における開設授業科目等 ()内の数字は単位数							
科目区分	各科目に含めることが必要な事項	最低修得単位数		左記に対応する開設授業科目	最低修得単位数					
		中学	高校		中学	高校				
教科に関する専門的事項	英語学	28	24	○英語学概論Ⅰ (2)	○：1科目以上選択必修 履修上の注意事項2)参照	2	選択科目から選択必修科目として履修した科目を除き10単元以上修得科目			
	○英語学概論Ⅱ (2)			英語教師のための英文法Ⅰ (2)				英語教師のための英文法Ⅱ (2)		
	英語文学			◎英語圏文学 (2)	アメリカ文学史Ⅰ (2)			アメリカ文学史Ⅱ (2)	2	2
	英語コミュニケーション			◎Integrated English LearningⅠA (2)	Integrated English LearningⅠB (2)			Integrated English LearningⅡA (2)	Integrated English LearningⅡB (2)	2
異文化理解	◎異文化理解 (2)	アメリカ文化概論Ⅰ (2)	アメリカ文化概論Ⅱ (2)	イギリス文化史Ⅰ (2)	イギリス文化史Ⅱ (2)	2	2			
各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)	8単元以上	4単元以上	◎英語科教育法特講A (2)	◎英語科教育法特講B (2)	◎英語科教育法ⅠA (2)	◎英語科教育法ⅠB (2)	◎英語科教育法Ⅱ (2)	10	10	
合計	28	24	本学が定める最低修得単位数			28	28			

◎：中等教職課程履修者必修科目

○：中等教職課程履修者選択必修科目

— (下線)：一般的包括的な内容を含む科目

- *1 「英語学」「英語文学」「英語コミュニケーション」「異文化理解」の選択科目の中から、選択必修科目として履修した授業科目を除き10単元以上修得してください。
- *2 「英語学」「英語文学」「英語コミュニケーション」「異文化理解」の選択科目の中から、選択必修科目として履修した授業科目を除き10単元以上修得してください(中高の両免許状を取得することを前提に10単元以上としてあります)。

履修上の注意事項

- 1) 「教科に関する専門的事項」において、中学校教諭免許及び高等学校教諭免許状の取得にあたっては、各科目に含めることが必要な事項(「英語学」「英語文学」「英語コミュニケーション」「異文化理解」)から、それぞれ「一般的包括的な内容を含む科目」を含み、最低1科目以上履修してください。
- 2) 「英語学」においては、「英語学概論Ⅰ」又は「英語学概論Ⅱ」の単位を修得することで、「一般的包括的な内容を含む科目」を履修したことになります。
- 3) 「英語科教育法Ⅱ」は「英語科教育法ⅠA」及び「英語科教育法ⅠB」を履修済で、かつ、年度当初指示された実習課題等を実施した場合のみ受講及び履修登録をすることができます。
- 4) 留学等において認定された単位は、「教科及び教科の指導法に関する科目」の単位として使用することはできません。

② 教育の基礎的理解に関する科目等

2026年度入学者用

■ 教育の基礎的理解に関する科目等のカリキュラム（「各教科の指導法」を含む）

（ ）内の数字は単位数

	1年次	2年次	3年次	4年次
本学における開設授業科目等	保育教職概論A (2) 教育心理学 (2) 特別支援教育・保育概論 (2)	教育原理 (2) 教育の制度と経営 (2) 総合的な学習・探究の時間の指導法 (2) 教育方法（ICT活用の理論と実践を含む。） (2)	カリキュラム論 (2) 道徳教育 (2) 特別活動 (2) 生徒指導・進路指導 (2) 教育相談 (2)	教育実習A（中・高）*1 (5) （教育実習B（中・高）*1(3)） 保育教職実践演習 (2)
		〔各教科の指導法〕 国語科教育法特講A *2 (2) 国語科教育法特講B *2 (2) 英語科教育法特講A *2 (2) 英語科教育法特講B *2 (2)	〔各教科の指導法〕 国語科教育法ⅠA *2 (2) 国語科教育法ⅠB *2 (2) 仏語科教育法ⅠA *2 (2) 仏語科教育法ⅠB *2 (2) 英語科教育法ⅠA *2 (2) 英語科教育法ⅠB *2 (2)	〔各教科の指導法〕 国語科教育法Ⅱ (2) 仏語科教育法Ⅱ (2) 仏語科教育法特講A *2 (2) 仏語科教育法特講B *2 (2) 英語科教育法Ⅱ (2)

*1 中高の両免許状を併せて取得するため、「教育実習A（中・高）」（5単位）を履修します。

*2 「各学科の専門科目」として開講されています。

履修上の注意事項

- 1) 教育の基礎的理解に関する科目等は、特別な場合（学科の必修科目等と重複し、曜日・時限を変更することができない場合など）を除き、原則として指定された年次に履修してください。
- 2) 各教科の指導法は、当該免許教科によって「教育法特講A」「教育法特講B」「教育法ⅠA」「教育法ⅠB」及び「教育法Ⅱ」が必修となります。特別な場合を除き、必ず指定された年次に履修してください。
- 3) 「各教科の指導法Ⅱ」は「各教科の指導法ⅠA」及び「各教科の指導法ⅠB」を履修済で、かつ、年度当初指示された実習課題等を実施した場合のみ受講及び履修登録をすることができます。
詳細については「9.5」「国語科教育法Ⅱ」「仏語科教育法Ⅱ」「英語科教育法Ⅱ」を参照してください。
- 4) 「教科に関する専門的事項」のカリキュラムは、各学科のカリキュラムを参照してください。

■ 教育の基礎的理解に関する科目等

2026 年度入学者用

免許法施行規則に定める科目区分等				本学における開設授業科目等					
科目	各科目に含めることが 必要な事項	最低修得単位数		左記に対応する 開設授業科目	最低修得単位数			対象 学年	
		中一種	高一種		中一種	高一種			
						必修	必修		選択
教育の基礎的理解 に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10	10	教育原理	2	2		2	
	教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)			保育教職概論A	2	2		1	
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)			教育の制度と経営	2	2		2	
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程			教育心理学	2	2		1	
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解			特別支援教育・保育概論	2	2		1	
	教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)			カリキュラム論	2	2		3	
道徳、総合的な学 習の時間等の指導 法及び生徒指導、 教育相談等に関す る科目	道徳の理論及び指導法	10	8	道徳教育	2			3	
	総合的な学習の時間の指導法			総合的な学習・探究 の時間の指導法	2			2	
	総合的な探究の時間の指導法					2			
	特別活動の指導法			特別活動	2	2		3	
	教育の方法及び技術			教育方法(ICT活用の 理論と実践を含む。)*1	2	2		2	
	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法			*1					
	生徒指導の理論及び方法			生徒指導・進路指導	*2	2	2		3
	教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法			教育相談	2	2		3	
	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法			*2					
教育実践に関する 科目	教育実習	5	3	教育実習A(中・高)*3	5	5		4	
				教育実習B(中・高)*3			3	4	
	教職実践演習	2	2	保育教職実践演習*4	2	2		4	
合計		27	23	本学が定める最低修得単位数	31	29			

*1 「教育方法(ICT活用の理論と実践を含む。)」に「情報通信技術を活用した教育の理論及び方法」の事項を1単位含みます。

*2 「生徒指導・進路指導」に「進路指導及びキャリア教育の理論及び方法」の事項を含みます。

*3 「教育実習A(中・高)」及び「教育実習B(中・高)」には、事前及び事後の指導を1単位含みます。

*4 「保育教職実践演習」は、教育実習を実施済又は実施予定であり、当該年度に免許状の申請が可能な状態である場合、また、自己評価シート(履修カルテ)を既習科目すべてについて入力済である場合のみ履修登録をすることができます。

※ 高等学校教諭一種免許状取得のために本学が定める最低修得単位数は29単位となります(「教育実習A(中・高)」(5単位)を履修)。ただし、本学においては、中学校教諭一種免許及び高等学校教諭一種免許の両免許状を併せて取得するよう指導していますので、中学校教諭免許状取得のために必要な最低修得単位数(31単位)を修得してください。

③ 大学が独自に設定する科目

「大学が独自に設定する科目」の単位の修得については、「大学が独自に設定する科目」として認定を受けた科目又は最低修得単位数を超えて履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」又は「教育の基礎的理解に関する科目等」について、併せて法定単位数以上を修得してください。

■ 大学が独自に設定する科目

2026 年度入学者用

免許法施行規則に定める科目区分等			本学における開設授業科目等					
科目区分	最低修得単位数		左記に対応する開設授業科目	最低修得単位数				対象学年
	中学校教諭 一種免許状	高等学校教諭 一種免許状		中学校教諭 一種免許状		高等学校教諭 一種免許状		
				必修	選択	必修	選択	
大学が独自に設定する科目	4	12	道徳教育				2	3
			教育体験Ⅰ（中・高）		2		2	1-4
			教育体験Ⅱ（中・高）		2		2	1-4
合計	4	12	本学が定める最低修得単位数	—		2*		

* 「道徳教育（中）」の2単位を示します。

※中学校教諭一種免許状を取得する場合の具体的な単位の修得方法

本学の場合は、「教育の基礎的理解に関する科目等」において、本学が定める最低修得単位数を修得することにより、免許法施行規則に定める「大学が独自に設定する科目」の最低修得単位数（4単位）を満たすことになります。よって、必要に応じて各科目区分の選択科目を履修してください。

※高等学校教諭一種免許状を取得する場合の具体的な単位の修得方法（中学校教諭一種免許状も取得することを前提）

本学の場合は、「教科及び教科の指導法に関する科目」、「教育の基礎的理解に関する科目等」及び「大学が独自に設定する科目」（「道徳教育」は中学校教諭一種免許状を取得するための必修科目）において、本学が定める最低修得単位数を修得することにより、免許法施行規則に定める「大学が独自に設定する科目」の最低修得単位数（12単位）を満たすことになります。よって、必要に応じて各科目区分の選択科目を履修してください。

④ 教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目

2026 年度入学者用

免許法施行規則に定める科目区分等		本学における開設授業科目等				
科目区分	最低修得単位数 (中高共通)	左記に対応する開設授業科目等	本学における科目区分	最低修得単位数 (中高共通)		備考
				必修	選択必修	
日本国憲法	2	憲法	共通科目	2		
体育	2	スポーツ科学概論 スポーツ・身体運動実習A スポーツ・身体運動実習B スポーツ・身体運動実習C スポーツ・身体運動実習D	共通科目	1	1 1 1 1	これらの科目から1単位選択必修
外国語コミュニケーション	2	英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ 英語コミュニケーションⅢ 英語コミュニケーションⅣ フランス語AⅠ フランス語AⅡ フランス語AⅢ フランス語AⅣ ドイツ語AⅠ ドイツ語AⅡ ドイツ語AⅢ ドイツ語AⅣ 中国語AⅠ 中国語AⅡ 中国語AⅢ 中国語AⅣ 韓国語AⅠ 韓国語AⅡ 韓国語AⅢ 韓国語AⅣ	外国語科目		1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	これらの科目から2単位選択必修
数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作	2	はじめてのデータサイエンス	共通科目	2		

履修上の注意事項

- この表に示す授業科目は、「本学における科目区分」において開講されています。なお、学科の卒業要件等により、表に示す教育職員免許状取得のための最低修得単位数以上の単位を修得しなければならない場合があります。
- この表に記載されている授業科目以外は、「教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目」として認められません。
- 「体育」については、「スポーツ科学概論」を1単位修得し、「スポーツ・身体運動実習A」、「スポーツ・身体運動実習B」、「スポーツ・身体運動実習C」又は「スポーツ・身体運動実習D」から1単位以上修得することで、免許法施行規則に定める最低修得単位数（2単位）を満たしてください。
- 原則として、認定された単位は、教職課程の単位とすることはできないため、「外国語コミュニケーション」における最低修得単位数（2単位）は本学で修得してください（他の科目区分も同様）。

⑤ 介護等体験

■介護等体験とは

「小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係わる教育職員免許法の特例等に関する法律（平成9年法律第90号）」により、1998（平成10）年度以降に入学した者が、小学校及び中学校の教諭の普通免許状を取得しようとする場合は、7日間（原則として、特別支援学校で2日間、社会福祉施設で5日間）の介護等の体験を行う必要があります。本学では原則として2年次に、特別支援学校で2日間、社会福祉施設で5日間の体験を実施しています。介護等体験を行うにあたっては、介護等体験実施の前年度（1年次）に行われる「次年度介護等体験実施予定者説明会」（12月を予定）に出席し、体験実施年度（2年次）に行われる「介護等体験の事前事後指導」（4回程度を予定）に必ず出席してください。

なお、介護等体験の実施にあたっては、体験実施年度の4月に大学で行われる健康診断の受診が必須となります。何らかの事情で受診できなかった場合は、外部の医療機関において各自で受診（自費）していただきます。麻疹等の抗体検査の結果証明書*を求められた場合は、必要に応じて外部の医療機関等で検査を受けてください。詳細は上記の説明会でお知らせします。

*本学の入学前後に追加予防接種をし、その証明ができる場合又は抗体検査の結果が陽性であり、その証明ができる場合は原則として検査の必要はありません。但し、体験先から体験実施年度の証明書を求められた場合は、体験先の指示に従ってください。

※介護等体験が免除される者

以下の該当する者は介護等体験が免除されます（希望があれば体験することは可能）。

ア) 保健師、助産師、看護師、准看護師、特別支援学校教員、理学療法士、作業療法士、社会福祉士、介護福祉士又は義肢装具士の免許・資格を既に有している者。

イ) 身体障害者手帳に、障害の程度が1級から6級であるものとして記載されている者。

■介護等体験費

介護等体験を行うためには、介護等体験費が必要となります。その他に、腸内細菌検査費・交通費・食事代・証明書発行手数料等の実費が必要となる場合がありますが、それらの費用は自己負担となります。

なお、一旦納入された費用は、いかなる理由があっても返還することはできません（納入時期・納入金額等は2025年度の実績）。

納入時期： 介護等体験実施前年度 1月（原則1年次）

納入金額： 15,000円

納入方法： 証明書発行機(11号館2階)にて期限内に納入

6. 教育実習

教育実習は「実習校での実習」と「実習の事前及び事後指導」（本学での授業における事前・事後の指導や実習先における反省会等）から成り立っています。

なお、中学校教諭免許と高等学校教諭免許では、免許状取得に必要な教育実習の単位数が異なります。本学においては、中学校教諭と高等学校教諭の両免許状を取得できるよう、中学校又は高等学校において3～4週間（15日以上）の実習を行い、5単位を修得してください。

また、教育実習の実施にあたっては、実習実施年度の4月に大学で行われる健康診断の受診が必須となります。何らかの事情で受診できなかった場合は、外部の医療機関において各自で受診（自費）していただきます。麻疹等の抗体検査の結果証明書*を求められた場合は、必要に応じて外部の医療機関等で検査を受けていただきます。

*本学の入学前後に追加予防接種をし、その証明ができる場合又は抗体検査の結果が陽性であり、その証明ができる場合は原則として検査の必要はありません。但し、実習先から実習実施年度の証明書を求められた場合は、実習先の指示に従ってください。

免許状の種類	免許状取得に必要な実習期間	免許状取得に必要な授業科目及び単位数	備考
中学校教諭免許状 及び 高等学校教諭免許状	3～4週間 (15日以上)	「教育実習A（中・高）」 (5単位)	実習事前指導 4月～5月 実習校実習 主に5月～9月（実習校による） 実習事後指導 7月～11月

注：本学では中学校教諭免許状と高等学校教諭免許状の両免許状を併せて取得することとしているので、「教育実習A（中・高）」（5単位）を履修することで、両免許状取得に必要な単位数を満たすことができます。

【実習実施条件】

- ① 教育実習事前指導にすべて出席していること。
- ② 中等教職課程に関するガイダンスに出席し、諸手続きをすべて行っていること。なお、やむを得ない理由により欠席（又は提出遅延）する場合は、事前に教務課（資格担当）に届け出ること。
- ③ 教育実習を実施する資質・能力が備わっていること（当該学科により判断）。
- ④ 以下に指定する授業科目を履修済であること。

国語国文学科	「国語科教育法特講A」「国語科教育法特講B」 「国語科教育法ⅠA」「国語科教育法ⅠB」「国語科教育法Ⅱ」
フランス語フランス文学科	「仏語科教育法ⅠA」「仏語科教育法ⅠB」「仏語科教育法Ⅱ」
英語英文学科	「英語科教育法特講A」「英語科教育法特講B」 「英語科教育法ⅠA」「英語科教育法ⅠB」「英語科教育法Ⅱ」

「各教科の教育法ⅠA」及び「各教科の教育法ⅠB」の単位を修得できなかった場合は、「各教科の教育法Ⅱ」を受講することはできません。ただし、学則に定める留学をした場合は、履修順序が変わることがあります。

「各教科の教育法Ⅱ」の詳細は、「9.5）「国語科教育法Ⅱ」「仏語科教育法Ⅱ」「英語科教育法Ⅱ」」を参照してください。

- ⑤ 原則として、3年次（教育実習実施の前年度）までに、4年次必修科目を除く「教育の基礎的理解に関する科目等」の単位をすべて修得済であること。

※関係法令、実習先の定め、及び本学の諸規程等に照らし、教育実習を実施するのに相応しくないと判断される場合には、教育実習の実施を認めないことがある。

7. 保育教職実践演習

「保育教職実践演習」は、中等教職課程の総まとめの科目として位置づけられており、原則として、4年次の後期に行われます。したがって、履修登録を行う際には、以下の条件を満たす必要があります（対象者はあらかじめ登録されています）。

- ① 教育実習を実施済又は実施予定であり、当該年度に免許状の申請が可能な状態であること。
- ② 既習科目すべてについての自己評価を自己評価シート（履修カルテ）に入力済であること。

8. 教育職員免許状取得

教育職員免許状取得条件（授与条件）を満たした者は、都道府県教育委員会に申請することにより、当該免許状を取得することができます。本学の規定に基づいて、免許状取得に必要な条件を満たした学生については、本人に代わり、大学が東京都教育委員会に免許状の申請をすることができます（以下、大学一括申請）。大学一括申請を希望する学生は、4年次に所定の手続き（宣誓書への署名、本籍地の確認等）を期日までに行い、免許状交付手数料等を納入してください。申請に関する手続きの連絡等は、原則としてCAMPUS SQUAREの掲示板又はE-mailで行いますので、適宜確認してください。教育職員免許状は、学位記授与式当日に、各学科を通してお渡しする予定です。なお、卒業延期の対象者となった場合等は、大学一括申請の対象から除外します。その他にも、事情により大学一括申請の対象とならない場合は、個人申請となります。

9. 登録

1) 履修登録の日程

履修登録の日程については、大学のホームページ（[キャンパスライフ](#) > 授業・履修）で確認してください。CAMPUS SQUAREのリンクからもアクセスできます。

2) 履修することがあらかじめ確定している授業科目の登録確認

「国語科教育法ⅠA・ⅠB・Ⅱ」、「仏語科教育法ⅠA・ⅠB・Ⅱ」、「英語科教育法ⅠA・ⅠB・Ⅱ」、「教育実習A（中・高）」「保育教職実践演習」

については、各自の履修登録・登録状況照会画面にあらかじめ表示されています。授業履修すべき科目が正しく登録されているかを確認し、誤りがあればすみやかに教務課へ申し出てください。

3) 人数制限科目の登録

人数制限科目（開講授業科目表に「制」マークのある科目）については、**事前登録**を行ってください。

事前登録期間終了後に履修調整が行われますので、**本登録期間**になりましたらCAMPUS SQUAREで**結果を確認**してください。履修登録・登録照会画面には履修可能となった授業科目のみが表示されています。

なお、定員に余裕のある授業科目を本登録期間直前にCAMPUS SQUAREへ掲示します。履修希望科目があれば本登録期間に追加登録（先着順科目を登録）を行ってください。

4) その他の授業科目の登録

2)～3)を除くその他すべての授業科目については、**本登録**を行ってください。

5) 「国語科教育法Ⅱ」「仏語科教育法Ⅱ」「英語科教育法Ⅱ」

次年度に教育実習を行う学生（主に学部3年生）を対象とし、2月後半（5日間程度）に集中で行われる予定です。日程等の詳細につきましては、担当教員の指示に従ってください。なお、この授業科目の履修登録及び評価は次年度（主に学部4年生）に行います。

6) 「教育体験Ⅰ（中・高）」「教育体験Ⅱ（中・高）」

「教育体験Ⅰ（中・高）」「教育体験Ⅱ（中・高）」は、曜日・時限が定められていません。そのため、この授業科目を履修登録した場合は、各自で考えて時間割を調整する必要があります。詳細は、中等教職課程ガイダンス等で説明します。

7) 中等教職課程科目の履修・登録に関するサポート

中等教職課程科目の履修・登録についての質問は、教務課へお問い合わせください。

10. 辞退

やむを得ず中等教職課程の履修を辞退する場合は、必要に応じて担当教員と相談のうえ、所定用紙に必要事項を記入し、教務課（資格担当）に提出してください。ただし、介護等体験の申し込みを行った場合や、教育実習先が既に決まっている場合は、自己都合による実習等の辞退は原則として認められませんので、責任をもって実習等を行ってください。

11. 中等教職課程年間予定

年次	時期	内容	備考
1年次	4月	中等教職課程ガイダンス、履修申請	中等教職課程全体の説明等、履修開始
	9月	「学校一日体験」（日本カトリック学校連合会）	希望者
	12月	次年度介護等体験実施予定者説明会 東京都等教員採用試験説明会（学内）	介護等体験の概要及び事務手続きについての説明 キャリア支援課主催
	1月	介護等体験費納入	期限内に所定の金額を証明書発行機で納入
	3月	中等教職課程履修者決定（国文） 中等教職課程ガイダンス（新2年生）	中等教職課程全体の説明及び登録等
2年次	4月	介護等体験事前指導（全般） 介護等体験事前指導（特別支援学校）	介護等体験全般について 特別支援学校について
	5月	介護等体験日程決定及び体験開始（特別支援学校）	5月から11月頃の2日間（連続とは限らない。）
	6月	介護等体験日程決定（社会福祉施設） 介護等体験事前指導（社会福祉施設）	中旬頃（決定までは8月以降の予定を入れないこと。） 社会福祉施設について
	8月	介護等体験開始（社会福祉施設）	8月から11月頃の5日間（原則、5日間連続）
	9月	「学校一日体験」（日本カトリック学校連合会）	希望者
	11月	教職採用試験対策講座の開講（～翌年7月）	キャリア支援課主催（大学3年生前倒し選考準備）
	12月	東京都等教員採用試験説明会（学内）	キャリア支援課主催
	1月	中等教職課程ガイダンス（2年生）	教育実習校依頼手続き、誓約書提出等について
	2月	教育実習依頼開始	結果や経過等について随時教務課（資格担当）に連絡
	3月	中等教職課程ガイダンス（新3年生） 教員採用候補者選考実施要綱発表（下旬） ^{*1}	履修に関する注意事項、教育実習依頼状況の確認等について 中等教職課程関連授業科目の履修状況確認（各自）
3年次	4月	教員採用候補者選考受験申込（上旬～） ^{*1}	
	7月	教員採用候補者選考（第一次選考） ^{*1}	教職教養、専門教養
	8月	教員採用候補者選考（第一次選考）合格発表 ^{*1}	
	9月	「学校一日体験」（日本カトリック学校連合会）	希望者
	11月	教員採用試験対策講座の開講（～翌年7月）	キャリア支援課主催
	12月	東京都等教員採用試験説明会（学内） 東京都立学校教育実習受入決定等	キャリア支援課主催
	2月	中等教職課程履修者決定（フ文） 「国語科教育法Ⅱ」「仏語科教育法Ⅱ」「英語科教育法Ⅱ」	集中授業（履修登録と評価は4年次）、面談
	3月	中等教職課程ガイダンス（新4年生） 教育実習期間等の確認（未定の学生） 教員採用候補者選考実施要綱発表（下旬） ^{*2}	履修に関する注意事項、教育実習に関する関係書類の配付、教育実習に関する事務手続等について 中等教職課程関連授業科目の履修状況確認（各自） 随時、教務課（資格担当）に連絡
4年次	4月	中等教職課程履修費納入 （教育実習事前指導） 教員採用候補者選考学長推薦学内選考試験 教員採用候補者選考受験申込（上旬～） ^{*2}	期限内に所定の金額を証明書発行機で納入 キャリア支援課主催
	5月	教育実習開始	実習校による
	7月	（教育実習事後指導） 教員採用候補者選考（第一次選考） ^{*2}	7月～（予定）
	8月	教員採用候補者選考（第一次選考）結果発表 ^{*2} 教員採用候補者選考（第二次選考） ^{*2}	
	9月	「学校一日体験」（日本カトリック学校連合会） 教員採用候補者選考（第二次選考）結果発表（下旬） ^{*2}	希望者
	11月	教育職員免許状大学一括申請関係手続 免許状交付手数料等納入	宣誓書への署名、本籍地の確認等 期限内に所定の金額を証明書発行機で納入
	3月	教育職員免許状受領	学位記授与式当日（各学科経由）

注：本履修要覧作成時の予定であり、変更になる場合があります。変更が生じた場合は、必要に応じて、CAMPUS SQUAREの掲示板等でお知らせします。
特に教員採用候補者選考関係の日程等は、必ず各自で確認してください（教育委員会により異なります。今後、大幅に変更となる可能性があります）。

*1：東京都立学校教員採用候補者選考（大学3年生前倒し選考）の予定

*2：東京都立学校教員採用候補者選考の予定

登録日本語教員養成プログラム

1. 登録日本語教員養成プログラムについて
2. 登録日本語教員養成課程
3. 登録実践研修課程
4. 登録
5. その他

文学部 登録日本語教員養成プログラム

1. 登録日本語教員養成プログラムについて

1) 概要

登録日本語教員養成プログラムは、国家資格である「登録日本語教員」を目指すプログラムです。本プログラムは、「登録日本語教員養成課程」と「登録実践研修課程(申請中)」から構成されています。本学の「登録日本語教員養成課程」は2024年に「登録日本語教員」を養成する登録日本語教員養成機関として文部科学省に認可されました。本課程を修了した方は、申請により「日本語教員試験」の基礎試験の免除を受けることができます。

2. 登録日本語教員養成課程

1) 対象

本課程は文学部および人間総合学部のすべての学生が履修できます。履修開始は原則1年次後期からとなります。

2) 修了要件

必修科目26単位を修得することが修了の要件となります。修了要件を満たした履修者には、修了証書の発行が可能となります。

3) カリキュラム

2026年度入学者用

	文部科学省令で定める科目 *1	本学における開講科目	科目区分	対象年次 *2	単位数
必修	社会・文化・地域	日本語教育研究	文国	3	2
		日本語史B		2	2
	言語と社会	言語と社会		2	2
	言語と心理	第二言語習得		1	2
		接触場面研究		2	2
	言語と教育	日本語教育教授法Ⅰ *3		2	2
		日本語教育教授法Ⅱ *3		2	2
		異文化とコミュニケーション		1	2
	言語	国語学概論Ⅰ		1	2
		国語学概論Ⅱ		1	2
		現代語文法Ⅰ *3		2	2
		現代語文法Ⅱ *3		2	2
		対照言語学		2	2
登録日本語教員養成課程修了に必要な単位数 合計					26

*1 日本語教育の適正かつ確実な実施を図るための日本語教育機関の認定等に関する法律第六十二条第二項第一号の文部科学省令で定める科目。

*2 学科の定める対象年次とは別に、登録日本語教員養成課程で履修するのに望ましい対象年次を示しています。

*3 「日本語教育教授法Ⅰ」の単位が修得できていない場合は、「日本語教育教授法Ⅱ」の履修はできません。同様に、「現代語文法Ⅰ」の単位が修得できていない場合は、「現代語文法Ⅱ」の履修はできません。

4) 履修開始までの流れ

本課程の履修開始までの流れは以下のとおりです。

なお、編入生、大学院学生で履修を希望する場合は、入学後、指定の日時まで教務課へ申し出てください。

履修希望者対象説明会への参加 と「履修希望届」の提出

履修を希望する学生は、1年次6月実施のガイダンスへ必ず参加し、必要書類を提出してください。

登録日本語教員養成課程・履修エントリー

「登録日本語教員養成課程・履修エントリー（履修開始時点の学修状況を確認するもの）」は1年次7月に実施し、8月にCAMPUS SQUAREにて履修決定者をお知らせします。

履修者対象ガイダンスへの参加

9月実施の履修者対象ガイダンスへ必ず参加してください。

履修費の納入

指定期日までに履修費を納入してください。

課程履修開始前に修得した単位の取り扱い

課程履修開始前に履修した授業科目の修得単位についても修了要件に含めることができます。

5) 履修費

本課程を履修するには、履修費45,000円が必要となります。納入期間・方法等詳細はCAMPUS SQUAREにて該当者へお知らせします。なお、一旦納入された履修費はいかなる理由があっても返還することはできません。また、期日までに納入されない場合、履修を取り消されることがあります。

3. 登録実践研修課程（※申請中）

1) 履修条件

以下の登録日本語教員養成課程の科目が全て修得済であることが履修の条件となります。

「国語学概論Ⅰ」「国語学概論Ⅱ」「第二言語習得」「異文化とコミュニケーション」
「現代語文法Ⅰ」「現代語文法Ⅱ」「日本語教育教授法Ⅰ」「日本語教育教授法Ⅱ」

2) 修了要件

「日本語教育実習」（2単位）を修得することが修了の要件となります。修了要件を満たした履修者には、修了証書の発行が可能となります。

3) カリキュラム

2026年度入学者用

	文部科学省令で定める科目 *1	本学における開講科目	科目区分	対象年次	単位数
必修	言語と教育	日本語教育実習	文国	3	2
登録実践研修課程修了に必要な単位数 合計					2

*1 日本語教育の適正かつ確実な実施を図るための日本語教育機関の認定等に関する法律第六十二条第二項第一号の文部科学省令で定める科目。

4) 履修費

本課程を履修するには、履修費が必要となります。納入期間・方法等詳細はCAMPUS SQUAREにて該当者へお知らせします。なお、一旦納入された履修費はいかなる理由があっても返還することはできません。また、期日までに納入されない場合、履修を取り消されることがあります。国内・海外実習に必要な交通費（渡航費）・滞在費・研修費等は、実費負担となります。

4. 登録

1) 履修登録単位数の上限

本プログラム履修者のうち、人間総合学部 に所属する学生に限り、半期ごとの履修登録単位数の上限が30単位（半期6単位以内の加算）となります。

2) 単位の取り扱い

本プログラムの科目は国語国文学科専門科目として開講しています。修得した単位の取り扱いについては、所属学科により異なります。

国語国文学科の学生

国語国文学科専門科目の単位

プログラム履修が認められた国語国文学科以外の学生

他学科専門科目の単位（「科目区分を特定しない自由選択単位（差の単位）」となります。）

5. その他

1) プログラム履修の留意事項

本プログラムへの登録は、卒業時までにはプログラム修了に必要な単位の修得を保証するものではありません。また、プログラムに関する科目とそれ以外の科目との時間割の調整は行いません。履修を希望する授業科目同士の時間割重複もあり得ることから、下級年次から計画的かつ積極的に履修をすすめてください。

2) プログラム履修の辞退

本プログラムを辞退する場合は、国語国文学科研究室へお申し出ください。

3) プログラムに関するサポート

本プログラムに関する質問は、国語国文学科研究室へお問い合わせください。

文学部

司書資格取得プログラム

1. 司書資格取得プログラムについて
2. 司書資格取得プログラムに関する科目
3. 司書資格取得プログラムの履修について

司書資格取得プログラム

1. 司書資格取得プログラムについて

1) 概要

司書資格取得プログラムは図書館法に定められた「司書となる資格を得るための課程を履修するプログラム」です。司書とは、図書館法第4条に規定されている図書館において専門的事務に従事する職員のことをいい、都道府県や市町村の公共図書館等で図書館資料の選択、発注及び受け入れから、分類、目録作成、貸出業務、読書案内等を行う専門的職員です。

2. 司書資格取得プログラムに関する科目

2026年度入学者用

	図書館法施行規則科目	単位数	本学における開講科目	対象年次	単位数	修了に必要な単位数
必修	生涯学習概論	2	生涯学習概論	2・3・4	2	2
	図書館概論	2	図書館情報学概論 *1	2・3・4	2	2
	図書館制度・経営論	2	図書館制度・経営論	2・3・4	2	2
	図書館情報技術論	2	図書館情報技術論	2・3・4	2	2
	図書館サービス概論	2	図書館サービス概論 *1	2・3・4	2	2
	情報サービス論	2	情報サービス論 *1	2・3・4	2	2
	児童サービス論	2	児童サービス論	3・4	2	2
	情報サービス演習	2	情報サービス演習Ⅰ	3・4	2	2
			情報サービス演習Ⅱ	3・4	2	2
	図書館情報資源概論	2	図書館情報資源概論	2・3・4	2	2
	情報資源組織論	2	情報資源組織論 *1	2・3・4	2	2
情報資源組織演習	2	情報資源組織演習(目録)	3・4	2	2	
		情報資源組織演習(分類)	3・4	2	2	
選択必修 (2科目のみ履修可) *2	図書館基礎特論	1	図書館基礎特論	3・4	2	4 (5) *4
	図書館サービス特論	1	図書館サービス特論(学校) *3	3・4	2	
	図書館情報資源特論	1	図書館情報資源特論	2・3・4	2	
	図書・図書館史	1	図書・図書館史	2・3・4	2	
	図書館施設論	1	図書館施設論	2・3・4	2	
	図書館総合演習	1	図書館総合演習	3・4	2	
	図書館実習	1	図書館実習	3・4	3	
本学における司書資格取得プログラム修了に必要な単位数 合計						30 (31) *4

*1 「図書館情報学概論」「図書館サービス概論」「情報サービス論」「情報資源組織論」は、できるかぎり2年次で履修してください。

*2 選択必修科目は「2科目のみ」履修可能です。3科目以上は履修できません。また、選択必修科目は隔年開講となります(「図書館実習」を除く)。履修希望科目については、開講された年度に先送りすることなく履修してください。

*3 学校司書養成課程プログラム履修者は、「図書館サービス特論(学校)」の単位を修得する必要があります。司書資格取得プログラム選択必修と

- して履修可能な2科目のうちの1科目として、同科目を必ず含めるようにしてください。また、本科目は隔年開講となります。学校司書養成プログラムの修了のためには、開講された年度に先送りすることなく必ず履修してください。
- *4 選択必修科目として履修可能な2科目のうちの1科目として「図書館実習」の単位を修得した場合のみ、修了に必要な単位数が（ ）内の単位数となります。

3. 司書資格取得プログラムの履修について

1) 対象

本プログラムは文学部および人間総合学部のすべての学生が履修できます。履修開始は2年次（編入生の場合は3年次）からのみとなります。

2) 修了要件

必修科目26単位と選択必修科目4単位（「図書館実習」履修者は5単位）のあわせて30単位（「図書館実習」履修者は31単位）修得することが修了の要件となります。修了要件を満たした履修者には、図書館法施行規則第9条により卒業時に司書資格証明書が授与されます。

3) 履修登録単位数の上限

本プログラム履修者のうち、人間総合学部に所属する学生に限り、半期ごとの履修登録単位数の上限が30単位（半期6単位以内の加算）となります。

4) 単位の取り扱い

本プログラムの科目は、「科目区分を特定しない自由選択単位（差の単位）」として卒業の単位に含まれます。

5) プログラム履修開始までの流れ

本プログラムの履修開始までの流れは以下のとおりです。

登録説明会への参加

司書資格取得プログラムの履修を希望する学生は、1年次後期実施の登録説明会へ必ず参加してください。

履修申込書の提出 および 履修費の納入

4月の指定期日までに履修申込書の提出とプログラム履修費の納入を行ってください。

なお、編入生、大学院学生、科目等履修生については、4月の事前登録申請期間終了前日までに、教務課へ連絡し、指定期日までに履修開始に必要な手続きを行ってください。

6) プログラム履修に関する費用

本プログラムを履修するには、履修費45,000円（履修初年度4月納入）が必要となります。納入期間・方法等詳細はCAMPUS SQUAREにて該当者へお知らせします。なお、一旦、納入された履修費は、いかなる理由があっても返還することはできません。また、「図書館実習」の履修者は、プログラム履修費とは別に、図書館実習費2,000円（履修年度4月納入）が必要です。

7) プログラム履修の留意事項

本プログラムへの履修者登録は、卒業時までにはプログラム修了に必要な単位の修得を保証するものではありません。また、司書課程に関する科目とそれ以外の科目との時間割の調整は行いません。履修を希望する授業科目同士の時間割重複もあり得ることから、下級年次から計画的かつ積極的に履修をすすめてください。

8) プログラム履修の辞退

本プログラムの履修を辞退する場合は、教務課へ辞退届を提出してください。

9) プログラムに関するサポート

本プログラムに関する質問は、教務課へお問い合わせください。

文学部

司書教諭資格取得プログラム

1. 司書教諭資格取得プログラムについて
2. 司書教諭資格取得プログラムに関する科目（文学部）
3. 司書教諭資格取得プログラムの履修について

文学部 司書教諭資格取得プログラム

1. 司書教諭資格取得プログラムについて

1) 概要

司書教諭資格取得プログラムは、学校図書館法（1953年・法律185号）に定められた「司書教諭となる資格を得るための課程を履修するプログラム」です。司書教諭とは、学校図書館法第5条の規定に基づいて設けられている（小・中・高等）学校図書館において専門職務に従事する教員のことをいいます。本学では、履修資格として「教育職員免許状（幼稚園教諭免許状を除く）を有する者、または卒業時に教育職員免許状（幼稚園教諭免許状を除く）取得見込みである者」であることが求められます。

2. 司書教諭資格取得プログラムに関する科目（文学部）

2026年度入学者用

	学校図書館司書教諭講習規程の科目	単位数	本学における開講科目	対象年次	単位数
必	学校経営と学校図書館	2	学校経営と学校図書館	2・3・4	2
	学校図書館メディアの構成	2	学校図書館メディアの構成	2・3・4	2
	学習指導と学校図書館	2	学習指導と学校図書館	2・3・4	2
修	読書と豊かな人間性	2	読書と豊かな人間性	2・3・4	2
	情報メディアの活用	2	情報メディアの活用	2・3・4	2
本学における司書教諭資格取得プログラム修了に必要な単位数 合計					10

3. 司書教諭資格取得プログラムの履修について

1) 対象

本プログラムは中学・高校教員免許取得プログラム履修者のみが履修できます。履修開始は2年次からとなります。なお、文学部に所属していても人間総合学部初等教育学科児童教育コースを他学科履修している学生は、「人間総合学部 司書教諭資格取得プログラム」のページを確認してください。

2) 修了要件

必修科目10単位を修得することが修了の要件となります。修了要件を満たした履修者には、学校図書館司書教諭講習規程第6条により修了証書が文部科学省より交付されます。なお、修了証書の交付はすべての単位を修得した年度末から1年後（予定）となります。

3) 履修登録単位数の上限（加算なし）

本プログラムは、履修登録単位数の上限への加算はありません。半期ごとの履修登録単位数の上限は24単位となりますので、計画的に履修をすすめてください。

4) 単位の取り扱い

本プログラムの科目は、「科目区分を特定しない自由選択単位（差の単位）」として卒業の単位に含まれます。

5) プログラム履修開始までの流れ

本プログラムの履修開始までの流れは以下のとおりです。

履修手続きの確認

中学・高校教員免許取得プログラムガイダンスにて配布される資料「『司書教諭資格取得プログラム』履修手続き」をよく読んでください。

履修申込フォームの入力・送信 および 履修費の納入

3月末の指定期日までに履修申込フォームの入力・送信を、4月の指定期日までにプログラム履修費の納入を行ってください。

6) プログラム履修に関する費用

本プログラムを履修するには、履修費 20,000 円（履修初年度4月納入）が必要となります。納入期間・方法等詳細はCAMPUS SQUAREにて該当者へお知らせします。なお、一旦、納入された履修費は、いかなる理由があっても返還することはできません。また、修了証書の申請には、別途、手数料が必要になります（合計 400 円（前年度実績））。

7) プログラム履修の留意事項

本プログラムへの履修者登録は、卒業時までにはプログラム修了に必要な単位の修得を保証するものではありません。また、本プログラムに関する科目とそれ以外の科目との時間割の調整は行いません。履修を希望する授業科目同士の時間割重複もあり得ることから、下級年次から計画的かつ積極的に履修をすすめてください。

8) プログラム履修の辞退

本プログラムの履修を辞退する場合は、教務課へ辞退届を提出してください。

9) プログラムに関するサポート

本プログラムに関する質問は、教務課へお問い合わせください。

文学部

学校司書養成プログラム

1. 学校司書養成プログラムについて
2. 学校司書養成プログラムに関する科目（文学部）
3. 学校司書養成プログラムの履修について

文学部 学校司書養成プログラム

1. 学校司書養成プログラムについて

1) 概要

学校司書とは、学校図書館を運営していくために必要な専門的・技術的職務に従事しながら、学校図書館を活用した授業やその他の教育活動を教員とともに進める職員です。学校図書館法（1953年・法律185号）が2014年に改正され、学校には学校司書を置くよう努めなければならないと規定されました。

本学の学校司書養成プログラムは「学校司書のモデルカリキュラム」（2016年・文部科学省通知〔28文科初第1172号〕）に基づいており、所定の科目を履修することで学校司書のモデルカリキュラムの履修証明を得ることができます。

2. 学校司書養成プログラムに関する科目（文学部）

2026年度入学者用

	学校司書のモデルカリキュラム (文部科学省通知科目)	単位数	本学における開講科目	科目区分	対象年次	単位数
必修	学校図書館概論	2	学校経営と学校図書館	司教	2・3・4	2
	図書館情報技術論	2	図書館情報技術論	司書	2・3・4	2
	図書館情報資源概論	2	図書館情報資源概論	司書	2・3・4	2
	情報資源組織論	2	情報資源組織論	司書	2・3・4	2
	情報資源組織演習	2	情報資源組織演習（目録）	司書	3・4	2
			情報資源組織演習（分類）	司書	3・4	2
	学校図書館サービス論	2	図書館サービス特論（学校） *1	司書	3・4	2
	学校図書館情報サービス論	2	情報サービス論	司書	2・3・4	2
			情報サービス演習Ⅰ	司書	3・4	2
			情報サービス演習Ⅱ	司書	3・4	2
	学校教育概論	2	教育原理	教職	2 *2	2
			教育心理学	教職	1 *2	2
			特別支援教育・保育概論	教職	1 *2	2
			カリキュラム論	教職	3 *2	2
学習指導と学校図書館	2	学習指導と学校図書館	司教	2・3・4	2	
読書と豊かな人間性	2	読書と豊かな人間性	司教	2・3・4	2	
本学における学校司書養成プログラム修了に必要な単位数 合計						32

*1 司書資格取得プログラムを履修している学生は、司書資格取得プログラム選択必修として履修可能な2科目のうちの1科目として、「図書館サービス特論（学校）」を必ず含めるようにしてください。また、本科目は隔年開講となります。学校司書養成プログラムの修了のためには、開講された年度に先送りすることなく必ず履修してください。

*2 中学・高校教員免許取得プログラムにおける対象年次を示しています。中学・高校教員免許取得プログラムを履修していない学生は、上の表で示されている対象年次以降に履修してもかまいません。

3. 学校司書養成プログラムの履修について

1) 対象

文学部の学校司書養成プログラムは司書資格取得プログラムまたは中学・高校教員免許取得プログラムを履修している学生が履修できます。履修開始は原則2年次からとなります。3年次以降の履修開始を希望する場合は、前期の事前登録期間終了までに教務課へ申し出ることによって履修を認められることがあります。なお、文学部に所属していても人間総合学部初等教育学科児童教育コースを他学科履修している学生は、「人間総合学部 学校司書養成プログラム」のページを確認してください。

2) 修了要件

本プログラムは、必修科目32単位を修得することが修了の要件となります。修了要件を満たしたプログラム履修者には、卒業時に本学が発行する履修証明書「学校司書のモデルカリキュラム修了証」を授与します。

3) 履修登録単位数の上限（加算なし）

本プログラムは、履修登録単位数の上限への加算はありません。半期ごとの履修登録単位数の上限は24単位となりますので、計画的に履修をすすめてください。

4) 単位の取り扱い

本プログラムの科目は、司書に関する科目、司書教諭に関する科目、教職に関する科目から成り、修得した単位は「科目区分を特定しない自由選択単位（差の単位）」として卒業の単位に含まれます。

5) プログラム履修開始までの流れ

本プログラムの履修開始までの流れは以下のとおりです。

登録説明会への参加

プログラム履修を希望する学生は、1年次後期実施の登録説明会へ必ず参加してください。

履修届の提出

指定期日までに履修届を提出してください。

6) プログラム履修の留意事項

本プログラムへの登録は、卒業時までにはプログラム修了に必要な単位の修得を保証するものではありません。また、プログラムに関する科目とそれ以外の科目との時間割の調整は行いません。履修を希望する授業科目同士の時間割重複もあり得ることから、下級年次から計画的かつ積極的に履修をすすめてください。

7) プログラム履修の辞退

本プログラムの履修を辞退する場合は、教務課へ辞退届を提出してください。

8) プログラムに関するサポート

本プログラムに関する質問は、教務課へお問い合わせください。

文学部

TOEIC 対策プログラム

1. TOEIC 対策プログラムについて
2. TOEIC 対策プログラムに関する科目
3. TOEIC 対策プログラムの履修について

TOEIC対策プログラム

1. TOEIC対策プログラムについて

1) 概要

TOEICは、英語のコミュニケーション能力を測る世界共通の検定試験で、就職活動にも役立つテストです。本プログラムでは、TOEIC Listening & Reading Testの対策として、入門・初級・中級・上級の6科目と、TOEIC Speaking & Writing Testsの対策として1科目が用意されています。そのため、一人ひとりの英語レベルや目的に合わせて最適なクラスを選び、スコアアップを目指すことができます。さらに、このTOEICを活用することで、目標を持った英語学習が可能となり、自分の英語スキル習熟度を客観的に把握することができます。

TOEICには、聞く・読む力の2技能を測るTOEIC Listening & Reading Testと、話す・書く力の2技能を測るTOEIC Speaking & Writing Testsの2種類があります。それぞれのTOEICテストの特徴は以下の通りです。

	TOEIC Listening & Reading Test	TOEIC Speaking & Writing Tests
テスト内容	リスニング 45分+リーディング 75分 ※学内団体受験（TOEIC IPテスト）の場合は、あわせて約 60 分	スピーキング 20分+ライティング 60分
テスト方式	マークシート方式	パソコンとヘッドセットを使用
テスト結果	リスニング: 0~495点 リーディング: 0~495点 合計 990点満点、5点刻みのスコアで評価	スピーキング: 0~200点 ライティング: 0~200点 合計 400点満点、10点刻みのスコアで評価

2) 目標

修了時に受験するTOEIC IPテストで授業科目履修前のスコアから 100 点アップを目標として、就職活動はもちろんのこと、卒業後のキャリアにも役立つスコアの獲得を目指します。

2. TOEIC対策プログラムに関する科目

2026 年度入学者用

	開講科目	科目区分	対象年次	単位数	修了に必要な単位数
選 択 必 修	TOEIC 入門	文英	1・2・3・4	2	4
	TOEIC 初級		1・2・3・4	2	
	TOEIC 中級 A		1・2・3・4	2	
	TOEIC 中級 B		1・2・3・4	2	
	TOEIC 上級 A		1・2・3・4	2	
	TOEIC 上級 B		1・2・3・4	2	
	TOEIC S&W		1・2・3・4	2	
	プログラム修了に必要な単位数 合計				4 単位以上*

* プログラム修了には、上表以外にもTOEIC L&R Test（IPテストを含む）スコアに関する要件があります。詳細については「3. TOEIC対策プログラムの履修について 2) 修了要件」を参照してください。

3. TOEIC対策プログラムの履修について

1) 対象

本プログラムは文学部のすべての学生が履修できます。履修開始は2年次からを原則としますが、3・4年次からの履修も可能です。

2) 修了要件

選択必修科目4単位（2科目）以上を修得すること、以下の①～③の要件を満たすこと、この2つが修了の要件となります。修了要件を満たしたプログラム履修者には、本学が発行するプログラム修了証を授与します。

① 2科目目の授業開始前にTOEIC L&R Test（IPテストを含む）を以下のいずれかの方法で受験

A) 1年次入学時の英語プレースメントテスト

B) 1年次12月の英語プレースメントテスト

C) 本学入学以降に自主的に受験したもの

② 2科目目の授業開始後から4年次12月までの間にTOEIC L&R Test（IPテストを含む）を受験

③ ②のスコアが①のスコアを上回っていること

3) 履修登録単位数の上限（加算なし）

本プログラムは、履修登録単位数の上限への加算はありません。半期ごとの履修登録単位数の上限は24単位となりますので、計画的に履修をすすめてください。

4) 単位の取り扱い

本プログラムの科目は英語英文学科専門科目として開講しています。修得した単位の取り扱いについては、所属学科により異なります。

英語英文学科の学生

英語英文学科専門科目の単位

プログラム履修を認められた英語英文学科以外の学生

他学科専門科目の単位（「科目区分を特定しない自由選択単位（差の単位）」となります。）

5) プログラム履修開始までの流れ

本プログラムの履修開始までの流れは以下のとおりです。

ガイダンス動画の視聴

プログラム履修を希望する学生は、1年次（あるいは履修開始前年度）の1月に公開される動画によるガイダンスを必ず視聴してください。

プログラム履修の申し込み

2科目目の授業開始直後の指定期日までにプログラム履修を希望する旨をグローバル言語・文化教育センターへ申し出てください。

プログラム履修開始前に修得した単位の取り扱い

プログラム履修開始前に履修した1科目目の修得単位は修了要件に含まれます。

6) プログラム履修に関する費用

本プログラムの履修にあたりプログラム履修費は不要ですが、TOEIC L&R Test（IPテストを含む）の受験料は実費負担となります。

7) プログラム履修の留意事項

本プログラムへの登録は、卒業時までにはプログラム修了に必要な単位の修得を保証するものではありません。また、プログラムに関する科目とそれ以外の科目との時間割の調整は行いません。履修を希望する授業科目同士の時間割重複もあり得ることから、下級年次から計画的かつ積極的に履修をすすめてください。

8) プログラム履修の辞退

本プログラムを辞退する場合は、グローバル言語・文化教育センターへお申し出ください。

9) プログラムに関するサポート

本プログラムに関する質問は、グローバル言語・文化教育センターへお問い合わせください。

人 間 総 合 学 部

人間総合学部

卒業認定に関する方針／教育課程の編成及び実施に関する方針

人間総合学部 卒業認定に関する方針／教育課程の編成及び実施に関する方針

2026年度入学者用

1. 卒業認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）

【児童文化学科】

所定の年限在学し、本学科が定める所定の単位を修得することで、次に掲げるような力量を身につけた学生に学位を授与する。

建学の精神の根幹にあるキリスト教、特にカトリシズムの人間観と世界観を理解するとともに、その今日的な意義と課題について自己及び人間の在り方を省みつつ論じることができる。あわせて、他者との関わりを通して自己の生きる意義を探究する態度、他者のために自発的に行動し協働する意欲をもっている。

時代を超えて普遍的に求められる深い教養と知性、大学生としての基礎的なスキルやリテラシーを身につけている。現代社会に求められる外国語学習を通じ、異文化への深い理解のために必須な能力を身につけている。

本学の教養教育を基礎としながら、人間総合学部の「学部共通科目」を設定している。その学修を通じて、人間存在について客観的・科学的な理解にもとづき共感的な人間観を身につけている。

子どもを起点としつつ生涯にわたる発達過程と発達像について学ぶことで、人間のもつ多様性と可能性について理解している。

それらの知識を実践するための、社会や文化、教育や保育活動の現状および可能性についての知識を獲得している。子どもの頃親しみ今も関心をもっている児童文化・児童文学について、自身の興味を活かし、自ら問いをたて、主体的に探究することができる。

子どもと大人が共有する文化の多様性を把握し、現代社会が求める文化の創造にかかわる知識・発想力・思考力・表現力を身につけている。

人間の原点である「子ども」の視点に立って文化を見直し、子どもを通して伝承されてきた文化や次世代を担う子どもの視点を活かした文化に関与しうる知識やコミュニケーション力を身につけている。

【発達心理学科】

所定の年限在学し、本学科が定める所定の単位を修得することで、次に掲げるような力量を身につけた学生に学位を授与する。

建学の精神の根幹にあるキリスト教、特にカトリシズムの人間観と世界観を理解するとともに、その今日的な意義と課題について自己及び人間の在り方を省みつつ論じることができる。あわせて、他者との関わりを通して自己の生きる意義を探究する態度、他者のために自発的に行動し協働する意欲をもっている。

時代を超えて普遍的に求められる深い教養と知性、大学生としての基礎的なスキルやリテラシーを身につけている。現代社会に求められる外国語学習を通じ、異文化への深い理解のために必須な能力を身につけている。

本学の教養教育を基礎としながら、人間総合学部の「学部共通科目」を設定している。その学修を通じて、人間存在について客観的・科学的な理解にもとづき共感的な人間観を身につけている。

子どもを起点としつつ生涯にわたる発達過程と発達像について学ぶことで、人間のもつ多様性と可能性について理解している。

それらの知識を実践するための、社会や文化、教育や保育活動の現状および可能性についての知識を獲得している。心理学の主要分野の基礎的理論を理解し、人間の心を探求する基本的なデータサイエンススキル（知識・技能）を身につけている。

人間は遺伝的・生得的に規定されると同時に、社会文化的文脈によっても大きく左右されるという生涯発達心理学の考え方（思考・判断能力）を身につけている。

発達心理学および発達臨床心理学に関する専門知識を有し、その知識を適切に表現し、説明する力（表現力・説明力）を身につけている。

現代社会における発達心理学的課題に関心を持ち、その課題解決に向けて自発的に取り組む姿勢（関心・意欲・態度）を身につけている。

【初等教育学科】

所定の年限在学し、本学科が定める所定の単位を修得することで、次に掲げるような力量を身につけた学生に学位を授与する。

建学の精神の根幹にあるキリスト教、特にカトリシズムの人間観と世界観を理解するとともに、その今日的な意義と課題について自己及び人間の在り方を省みつつ論じることができる。あわせて、他者との関わりを通して自己の生きる意義を探求する態度、他者のために自発的に行動し協働する意欲をもっている。

時代を超えて普遍的に求められる深い教養と知性、大学生としての基礎的なスキルやリテラシーを身につけている。現代社会に求められる外国語学習を通じ、異文化への深い理解のために必須な能力を身につけている。

本学の教養教育を基礎としながら、人間総合学部の「学部共通科目」を設定している。その学修を通じて、人間存在について客観的・科学的な理解にもとづき共感的な人間観を身につけている。

子どもを起点としつつ生涯にわたる発達過程と発達像について学ぶことで、人間のもつ多様性と可能性について理解している。

それらの知識を実践するための、社会や文化、教育や保育活動の現状および可能性についての知識を獲得している。保育者・教師としての実践の基礎となる知識や技能を身につけ、その基盤となる保育・教育に関する諸理論について理解できている。

大学で修得した理論や知識及び技能を、保育・教育の現場で活用することの意義と課題について理解できている。保育・教育に関わる者として生涯学び続けるための探究の方法を身につけ、自ら取り組むべき課題について見通しを持っている。

2. 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）

【児童文化学科】

児童文化学科の卒業認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる力量を身につけるために以下の方針に基づいてカリキュラムを編成する。

1. 建学の精神及び教育目標に基づき、学部で修得する知識・技能を自己の人格的成長及び他者への愛につなげることに資する宗教科目を1年次から4年次にわたって配置する。
 - ・建学の精神を理解しキリスト教の基本を学ぶための科目を、1年次に必修科目として置く。
 - ・キリスト教の人間観・世界観について歴史、現代世界の諸課題と関連づけて理解を深めつつその今日的意義を考察するための科目を、2年次に必修科目として置く。
 - ・教育目標「真・善・美」に向かって1・2年次の学びを学生各自の関心、専門、ライフ・デザインに応じて発展・深化又は拡張させるためのテーマ別科目群を、3・4年次に選択必修科目として置く。
 - ・4年次までの宗教科目及びそれに関連する活動を通じて学んだことを総括するための科目を、4年次後期に置く。
2. 幅広い教養を涵養し、学際的な視点から専門分野を捉える能力を育成するために以下の科目群を設置する。
 - (1) ライフ・リテラシー科目群（初年次教育を含む）
 - (2) 教養科目群（人文科学・社会科学・自然科学）
 - (3) 健康・スポーツ科目群
 - (4) 情報・データサイエンス科目群
3. グローバル社会に求められる語学力とコミュニケーション力、異文化への深い理解力を身につけるために、次の必修・選択科目を提供する。
 - ・英語、フランス語、ドイツ語、中国語、韓国語の外国語科目を設置し、少人数クラスで文法から発音、

日常会話まで基礎からバランスよく学ぶ。

- ・学生個々のレベルにあわせたクラス編成により、効率的にレベルアップを図る授業体制をとり、随時、ICT設備を利用する。

4. 各学科の専門性の中から領域横断的「学部共通科目」を設置している。学習者の進度や興味に応じて、視野を広げるべく、履修の順序や対象学年の制約を設けず、1～4年次に履修できるようにしている。
5. 児童文学・児童文化・制作創作の3分野にわたって〔選択科目〕を置き、自身の関心に合わせて主体的に履修することを重視する。それらの学修成果を結びつけて自己ステップアップができるように1年次から4年次までの各年次に〔必修科目〕を置く。

〔選択科目〕

自ら知的関心を持って主体的に学べるように、学生が子どもの頃や今も関心を抱いている「絵本」「児童文学」「マンガ」「おもちゃ」「人形」「キャラクター」等に関する科目を1年次から履修できるように配備する。また、「伝承文学」「ファンタジー」「YA文学」「ライトノベル」「アニメ」等、子どもに限らず大人も共有する分野にかかわる科目を設け、ボーダーレス化が進む現代社会の文化について学べるようにする。

〔必修科目〕

選択科目で得たものを、専門的な知識とともに自身の発想力・思考力・表現力・コミュニケーション力の養成に役立て、自ら確認し成長していけるように必修科目を設ける。

1年次では、「児童文化入門」「児童文学入門」等を履修し、専門分野の基礎となる知識や考え方を学ぶ。2年次「基礎演習」では、半期ずつ異なる領域（児童文学・児童文化・制作創作）から履修することにより、自身の関心や学修方法を見極めることを目指す。3年次「演習」では、履修してきた科目や基礎演習の学修をもとに、専任教員が開くゼミを選択し、卒業論文・卒業制作に向けて、より専門的な知識を修得しつつ思考力や表現力を磨く。4年次では、4年間の学修の集大成として、自らの関心を活かしたテーマを選び、分析し考察し表現する形で卒業論文・卒業制作を完成させる。

【発達心理学科】

発達心理学科の卒業認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる力量を身につけるために以下の方針に基づいてカリキュラムを編成する。

1. 建学の精神及び教育目標に基づき、学部で修得する知識・技能を自己の人格的成長及び他者への愛につなげることに資する宗教科目を1年次から4年次にわたって配置する。
 - ・建学の精神を理解しキリスト教の基本を学ぶための科目を、1年次に必修科目として置く。
 - ・キリスト教の人間観・世界観について歴史、現代世界の諸課題と関連づけて理解を深めつつその今日的意義を考察するための科目を、2年次に必修科目として置く。
 - ・教育目標「真・善・美」に向かって1・2年次の学びを学生各自の関心、専門、ライフ・デザインに応じて発展・深化又は拡張させるためのテーマ別科目群を、3・4年次に選択必修科目として置く。
 - ・4年次までの宗教科目及びそれに関連する活動を通じて学んだことを総括するための科目を、4年次後期に置く。
2. 幅広い教養を涵養し、学際的な視点から専門分野を捉える能力を育成するために以下の科目群を設置する。
 - (1) ライフ・リテラシー科目群（初年次教育を含む）
 - (2) 教養科目群（人文科学・社会科学・自然科学）
 - (3) 健康・スポーツ科目群
 - (4) 情報・データサイエンス科目群
3. グローバル社会に求められる語学力とコミュニケーション力、異文化への深い理解力を身につけるために、次の必修・選択科目を提供する。
 - ・英語、フランス語、ドイツ語、中国語、韓国語の外国語科目を設置し、少人数クラスで文法から発音、日常会話まで基礎からバランスよく学ぶ。

- ・学生個々のレベルにあわせたクラス編成により、効率的にレベルアップを図る授業体制をとり、随時、ICT設備を利用する。
- 4. 各学科の専門性の中から領域横断的「学部共通科目」を設置している。学習者の進度や興味に応じて、視野を広げるべく、履修の順序や対象学年の制約を設けず、1～4年次に履修できるようにしている。
- 5. 心理学の基礎的領域・発達心理学および発達臨床心理学に特化した高度な専門領域・発達心理学の応用領域の3つの領域にわたって科目を設置している。

[心理学の基礎的領域]

1・2年次では、心理学全般に関する概論や基本的方法論を学ぶ実習科目を通じて、心理学の基礎的理論と各種方法論(実験・調査・観察・面接・検査、文献講読)について学ぶ。また、実証科学としての心理学の基礎である心理統計学について、基本的な考え方と基礎的なデータ分析法を修得する。3・4年次では、認知心理学、パーソナリティ心理学、社会心理学、教育心理学、健康・医療心理学、犯罪心理学などについての講義科目を通して、心理学の主要分野について幅広く理解する。

[発達心理学及び発達臨床心理学に特化した専門領域]

1・2年次では、発達心理学と発達臨床心理学に関する概論および基礎的な演習科目を通じて、生涯にわたる心理的発達の様相とそれぞれの発達段階での臨床的支援の課題について理解する。

3・4年次では、発達心理学及び発達臨床心理学に特化した専門的・臨床的な理論と方法論について、各自の興味・関心に応じた多様な講義と演習科目を通じて学ぶ。また、公認心理師資格科目の履修者については、指定講義・演習科目のほか、学外の臨床関連施設(病院・福祉施設・学校・司法矯正機関など)での学外実習をおこなう。

[発達心理学の応用領域]

3年次には研究方法に関する演習科目を通して、卒論に向けた具体的な課題設定をおこない、研究計画の立案や具体的なデータ収集・分析の作業を通じて研究方法論を修得する。4年次には学修の集大成として、人間の生涯にわたる発達や心の健康に関する発達心理学的課題について実証的な検討をおこない、卒業論文を作成する。

【初等教育学科】

初等教育学科の卒業認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)に掲げる力量を身につけるために以下の方針に基づいてカリキュラムを編成する。

1. 建学の精神及び教育目標に基づき、学部で修得する知識・技能を自己の人格的成長及び他者への愛につながることに資する宗教科目を1年次から4年次にわたって配置する。
 - ・建学の精神を理解しキリスト教の基本を学ぶための科目を、1年次に必修科目として置く。
 - ・キリスト教の人間観・世界観について歴史、現代世界の諸課題と関連づけて理解を深めつつその今日的意義を考察するための科目を、2年次に必修科目として置く。
 - ・教育目標「真・善・美」に向かって1・2年次の学びを学生各自の関心、専門、ライフ・デザインに応じて発展・深化又は拡張させるためのテーマ別科目群を、3・4年次に選択必修科目として置く。
 - ・4年次までの宗教科目及びそれに関連する活動を通じて学んだことを総括するための科目を、4年次後期に置く。
2. 幅広い教養を涵養し、学際的な視点から専門分野を捉える能力を育成するために以下の科目群を設置する。
 - (1) ライフ・リテラシー科目群(初年次教育を含む)
 - (2) 教養科目群(人文科学・社会科学・自然科学)
 - (3) 健康・スポーツ科目群
 - (4) 情報・データサイエンス科目群
3. グローバル社会に求められる語学力とコミュニケーション力、異文化への深い理解力を身につけるために、次の必修・選択科目を提供する。
 - ・英語、フランス語、ドイツ語、中国語、韓国語の外国語科目を設置し、少人数クラスで文法から発音、

日常会話まで基礎からバランスよく学ぶ。

・学生個々のレベルにあわせたクラス編成により、効率的にレベルアップを図る授業体制をとり、随時、ICT設備を利用する。

4. 各学科の専門性の中から領域横断的な「学部共通科目」を設置している。学習者の進度や興味に応じて、視野を広げるべく、履修の順序や対象学年の制約を設けず、1～4年次に履修できるようにしている。
5. 幼稚園教諭・保育士と小学校教諭の養成を学科の目標とするが、学校・園の種別による教育内容・教育方法の違いに対応できるように、履修上のコースとして、幼児教育コースと児童教育コースを設定する。いずれのコースにおいても、教育職員免許状、また保育士資格が取得できるように、法令に準拠したカリキュラムとして設定する。

まず、幼稚園・小学校で取り扱われる教育内容の基盤となる知識や技能を養う科目としての「領域及び保育内容の指導法に関する科目」や「教科及び教科の指導法に関する科目」、教育及び教育的指導に関する基礎的・理論的また実践的な内容を取り扱う科目としての「教育の基礎的理解に関する科目等」を学ぶ。

「保育に関する科目」においても、保育に関する理論と知識・技能、またそれらを実践の場で活かすための内容を学ぶ。

次に、学校や園において子どもとともに活動する体験を通じて学ぶ【教育体験】【保育体験】、そして【教育実習】【保育実習】では、現場の保育者・教師の指導のもとに、子どもの活動を見守り、支え、指導する経験から学ぶ。総まとめとして履修する【保育実践演習】【教職実践演習】では、幼稚園・小学校教職課程、保育士養成課程の学修を総括し、実践的な力量形成を目指す。

そして、専門的職業人としての教師・保育者は、自ら課題を設定し、学修・研究を深めていくこともまた重要である。教科内容や教職に直接係わる課題、さらに教育学や保育学の研究領域について広く関心を持ち、理論と実践を結びつけながら自らの興味に基づいて研究していただくだけの力量を形成することを目指す。総まとめとしての【卒業研究】に向けて、2年次の【初等教育基礎演習】、3年次の【初等教育演習】を中心として、隣接領域科目としての児童文化学科、発達心理学科の科目履修も視野に入れながら、学生の関心に応じた幅広く専門的な学修に発展するよう配慮していく。

人間総合学部

卒業要件単位数

人間総合学部 卒業要件単位数

人間総合学部に在籍する学生は、以下の表に示す科目区分ごとの要件を満たした上で、合計 124 単位以上修得することが卒業の要件となります。「科目区分を特定しない自由選択単位」とは、「各科目区分の要件単位数合計」と「卒業要件単位数（124 単位）」との「差」にあたる単位です。本学で開講されているすべての科目より履修可能な科目を選んで履修し、その差をうめるよう単位を修得してください。

なお、入学する前に大学または短期大学において履修した授業科目の修得単位について本学での単位認定を希望する場合は、入学年度前期の履修登録申請期間終了時まで、教務課へ申し出てください。

2026 年度入学者用

科目区分 \ 学 科	児童文化学科	発達心理学科	初等教育学科
宗 教 学 科 目	8	8	8
共 通 科 目	12	12	12
外 国 語 科 目	8	8	8
学 部 共 通 科 目	8	8	8
所 属 学 科 専 門 科 目	70	78	88
科目区分を特定しない自由選択単位 (各科目区分の要件単位数合計と卒業要件単位数との「差の単位」)	18	10	—
卒 業 要 件 単 位	124		

人間総合学部

宗教学科目

1. カリキュラム
2. 卒業の要件
3. 履修の方法・留意事項
4. 登録

人間総合学部 宗教学科目

1. カリキュラム

2026 年度入学者用

()内の数字は科目の単位数

	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	修得単位	
学びの流れ	必修科目を通して私たちの生きる基盤がどこにあるかをイエス・キリストの教えを通じて学びます。キリスト教学入門Ⅰ・Ⅱではキリスト教の基礎を学び、建学の精神について理解し、キリスト教的人間論Ⅰ・Ⅱではキリスト教の人間観・価値観、建学の精神について理解を深めます。自分を越えた存在からの関わりに気づくことで、出会う他者を共感的に受け入れ、他者を自分と同じように大切にすることを学びます。		聖書、神学、哲学、歴史、文学、芸術、倫理、死生学、社会課題、霊性、宗教学等に関わる種々のテーマを扱う開設科目から選択し、キリスト教学入門Ⅰ・Ⅱ、キリスト教的人間論Ⅰ・Ⅱでの学びを各自の問題関心に応じて発展・深化させます。			
必修	キリスト教学入門Ⅰ (1) キリスト教学入門Ⅱ (1)	キリスト教的人間論Ⅰ (1) キリスト教的人間論Ⅱ (1)			4 単位	
選択必修			キリスト教と社会・文化AⅠ (2) キリスト教と社会・文化BⅠ (2) キリスト教と社会・文化CⅠ (2) キリスト教と社会・文化DⅠ (2) キリスト教と社会・文化EⅠ (2) キリスト教と社会・文化FⅠ (2) キリスト教と社会・文化GⅠ (2) キリスト教と社会・文化HⅠ (2) キリスト教と社会・文化JⅠ (2) キリスト教と社会・文化KⅠ (2) キリスト教と社会・文化LⅠ (2) キリスト教と社会・文化MⅠ (2) キリスト教と社会・文化NⅠ (2) キリスト教と社会・文化PⅠ (2) キリスト教と社会・文化QⅠ (2) キリスト教と社会・文化RⅠ (2) キリスト教学演習AⅠ (2) キリスト教学演習BⅠ (2) キリスト教学演習CⅠ (2) キリスト教学演習DⅠ (2)	キリスト教と社会・文化AⅡ (2) キリスト教と社会・文化BⅡ (2) キリスト教と社会・文化CⅡ (2) キリスト教と社会・文化DⅡ (2) キリスト教と社会・文化EⅡ (2) キリスト教と社会・文化FⅡ (2) キリスト教と社会・文化GⅡ (2) キリスト教と社会・文化HⅡ (2) キリスト教と社会・文化JⅡ (2) キリスト教と社会・文化KⅡ (2) キリスト教と社会・文化LⅡ (2) キリスト教と社会・文化MⅡ (2) キリスト教と社会・文化NⅡ (2) キリスト教と社会・文化PⅡ (2) キリスト教と社会・文化QⅡ (2) キリスト教と社会・文化RⅡ (2) キリスト教学演習AⅡ (2) キリスト教学演習BⅡ (2) キリスト教学演習CⅡ (2) キリスト教学演習DⅡ (2)	4 単位	8 単位
				キリスト教学総合演習 (2)		

2. 卒業の要件

1) 卒業の要件

人間総合学部¹に在籍する学生は、カリキュラム表に示す必選区分の要件を満たした上で、宗教学科目を8単位以上修得することが卒業の要件となります。

3. 履修の方法・留意事項

1) 必修科目の履修

必修科目は指定された年次に履修し、単位を修得してください。単位を修得できなかった場合は、次年度以降に再履修することになります。

2) 選択必修科目の履修

選択必修科目は3～4年次のあいだで計画的に履修し、卒業の要件を満たすよう単位を修得してください。

3) アセンブリー行事「修養会」

「キリスト教学入門Ⅱ」「キリスト教の人間論Ⅱ」の履修者(再履修者含む)は、後期に行われるアセンブリー行事「修養会」へ必ず出席してください。修養会での取り組みも成績評価に含まれます。

4. 登録

1) 履修登録の日程

履修登録の日程については、大学のホームページ(キャンパスライフ > 授業・履修)で確認してください。CAMPUS SQUAREのリンクからもアクセスできます。

2) 履修することがあらかじめ確定している授業科目の登録確認

当該年次必修科目については、各自の履修登録・登録状況照会画面にあらかじめ表示されています。履修すべき授業科目が正しく登録されているかを確認し、誤りがあればすみやかに教務課へ申し出てください。

3) 再履修科目の登録

再履修科目(指定された年次に単位を修得できなかった必修科目)については、**事前登録**を行ってください。同一科目名で複数クラス開講されている場合は、いずれのクラスで再履修してもかまいません。

4) 人数制限科目の登録

人数制限科目(開講授業科目表に「制」マークのある科目)については、**事前登録**を行ってください。

事前登録期間終了後に履修調整が行われますので、**本登録期間**になりましたらCAMPUS SQUAREで**結果を確認**してください。履修登録・登録照会画面には履修可能となった授業科目のみが表示されています。

なお、定員に余裕のある授業科目を本登録期間直前にCAMPUS SQUAREへ掲示します。履修希望科目があれば本登録期間に追加登録(先着順科目を登録)を行ってください。

5) 宗教学科目の履修・登録に関するサポート

宗教学科目の履修・登録についての質問は、カトリック教育センターへお問い合わせください。

人間総合学部

共通科目

1. カリキュラム
2. 卒業の要件
3. 履修の方法・留意事項
4. 登録

人間総合学部 共通科目

1. カリキュラム

2026 年度入学者用

()内の数字は科目の単位数

	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	修得単位	
必修	ライフ・リテラシー入門 (2) はじめてのデータサイエンス (2)				4 単位	
選択 必修	ライフ・リテラシー科目群 ライフ・リテラシー応用 (2) ロジックを学ぶ (2) 身体を考える (2) 美しい日本語を話す (基礎) (2) 信頼づくりの作法 (2) 女性と起業 (2) 美しい日本語を話す (実践) (2) コミュニケーションの作法 (2) デザイン思考 (2) 教養としての日本語 (2) ライフ・マネージメント (2)				8 単位	12 単位
	インターンシップA (1)	インターンシップB (2)				
	教養科目群 (人文科学・社会科学・自然科学) 文化と人間Ⅰ (2) 政治学A (2) 国際協力論A (2) 数と形の世界A (2) 文化と人間Ⅱ (2) 経済学 (2) 観光文化論 (2) 数と形の世界B (2) 哲学Ⅰ (2) 憲法 (2) 食と環境 (2) 自然科学の世界A (2) 哲学Ⅱ (2) 法とは何か (2) ボランティア論 (2) 自然科学の世界B (2) 現代思想Ⅰ (2) ジェンダー基礎論 (2) 地域連携実践演習A (2) 地球と宇宙を知るための科学Ⅰ (2) 社会と倫理Ⅰ (2) 家族社会学 (2) 地域連携実践演習B (2) 地球と宇宙を知るための科学Ⅱ (2) 神話の世界A (2) 家族政策 (2) 教養セミナー (社会) A (2) 生活の中みる科学と技術Ⅰ (2) 西洋史Ⅰ (2) ワークライフ論 (2) 教養セミナー (社会) B (2) 生活の中みる科学と技術Ⅱ (2) 西洋史Ⅱ (2) 女性と人権 (2) 教養セミナー (自然) A (2) 日本史概説Ⅰ (2) 女性と法 (2) 教養セミナー (自然) B (2) 日本史概説Ⅱ (2) 子どもの権利と国際社会 (2) 歴史からみた現代 (2) 社会福祉と私たち (2) 歴史の中の音楽 (2) 報道に見る子どもと家族 (2) 教養セミナー (人文) (2) 国際政治と社会課題 (2)					
	健康・スポーツ科目群 スポーツ・身体運動実習A (1) スポーツ・身体運動実習C (1) スポーツ科学概論 (1) スポーツ・身体運動実習B (1) スポーツ・身体運動実習D (1)					
	情報・データサイエンス科目群 ICTベーシックB (2) プログラミングA (2) プログラミングB (2) Webデザインとマルチメディア (2) ICTベーシックA (2) データ分析演習A (2) コンピュータ概論 (2) IT実務演習 (2) データ分析演習B (2) 情報ネットワークとセキュリティ (2) データサイエンス演習 (2)					

2. 卒業の要件

1) 卒業の要件

人間総合学部 に在籍する学生は、カリキュラム表に示す必選区分の要件を満たした上で、共通科目を12単位以上修得することが卒業の要件となります。

3. 履修の方法・留意事項

1) 必修科目の履修

必修科目は指定された年次に履修し、単位を修得してください。単位を修得できなかった場合は、次年度以降に再履修することになります。

2) 選択必修科目の履修

選択必修科目は1～4年次のあいだで計画的に履修し、卒業の要件を満たすよう単位を修得してください。

なお、本学では、幅広い教養を涵養し、学際的な視点から専門分野を捉える能力を育成するために、4つの科目群（ライフ・リテラシー科目群／教養科目群（人文科学・社会科学・自然科学）／健康・スポーツ科目群／情報・データサイエンス科目群）を設置していますので、科目選択の参考にしてください。

また、共通科目において開講されている、プログラムに関連する科目の単位を修得した場合、それらはすべて共通科目の単位となります。

4. 登録

1) 履修登録の日程

履修登録の日程については、大学ホームページ（[キャンパスライフ](#) > 授業・履修）で確認してください。
CAMPUS SQUAREのリンクからもアクセスできます。

2) 履修することがあらかじめ確定している授業科目の登録確認

当該年次必修科目については、各自の履修登録・登録状況照会画面にあらかじめ表示されています。履修すべき授業科目が正しく登録されているかを確認し、誤りがあればすみやかに教務課へ申し出てください。

3) 再履修科目の登録

再履修科目（指定された年次に単位を修得できなかった必修科目）については、**事前登録**を行ってください。
同一科目名で複数クラス開講されている場合は、いずれのクラスで再履修してもかまいません。

4) 人数制限科目の登録

人数制限科目（開講授業科目表に「制」マークのある科目）については、**事前登録**を行ってください。

事前登録期間終了後に履修調整が行われますので、**本登録期間**になりましたらCAMPUS SQUAREで**結果を確認**してください。履修登録・登録照会画面には履修可能となった授業科目のみが表示されています。

なお、定員に余裕のある授業科目を本登録期間直前にCAMPUS SQUAREへ掲示します。履修希望科目があれば本登録期間に追加登録（先着順科目を登録）を行ってください。

5) その他の授業科目の登録

2)～4)を除くその他すべての授業科目については、**本登録**を行ってください。

6) 共通科目の履修・登録に関するサポート

共通科目の履修・登録についての質問は、情報・データサイエンス科目群については情報教育センター、それ以外の科目群についてはライフ・リテラシー教育センターへお問い合わせください。

人間総合学部

外国語科目

1. カリキュラム
2. 卒業の要件
3. 履修の方法・留意事項
4. 登録

人間総合学部 外国語科目

1. カリキュラム

2026年度入学者用

()内の数字は科目の単位数

		1年次	2年次	3年次	4年次	修得単位		
必修	外国語科目群	英語コミュニケーションⅠ (1) 英語コミュニケーションⅡ (1) 総合英語Ⅰ (1) 総合英語Ⅱ (1)	英語コミュニケーションⅢ (1) 英語コミュニケーションⅣ (1) 総合英語Ⅲ (1) 総合英語Ⅳ (1)			8単位		
		ドイツ語AⅠ (1) ドイツ語AⅡ (1) ドイツ語BⅠ (1) ドイツ語BⅡ (1)	ドイツ語AⅢ (1) ドイツ語AⅣ (1) ドイツ語BⅢ (1) ドイツ語BⅣ (1)					
選択	外国語科目群	選択フランス語Ⅰ (1) 選択フランス語Ⅱ (1) 選択フランス語Ⅲ (1) 選択フランス語Ⅳ (1)	選択中国語Ⅰ (2)*1 選択中国語Ⅱ (2)*1 選択中国語Ⅲ (1) 選択中国語Ⅳ (1)	選択韓国語Ⅰ (2)*1 選択韓国語Ⅱ (2)*1 選択韓国語Ⅲ (1) 選択韓国語Ⅳ (1)	海外研修(英語圏)A (2) 海外研修(英語圏)B (2) 海外研修(中国語圏) (2) 海外研修(韓国) (2) オンライン海外研修(英語圏)A (2) オンライン海外研修(英語圏)B (2) オンライン海外研修(フランス語圏) (2)			
			海外研修(フランス語圏)A (2) 海外研修(フランス語圏)B (2)					
	グローバル科目群	グローバルビジネスプログラム	EBCⅠ (2) リーダーシップ入門 (2)	EBCⅡ (2) リーダーシップ応用 (2) ビジネスの基礎知識 (2) ビジネススキル (2) 海外企業実地研修準備講座 (2)	物語カワークショップ (2) ビジネス・マーケティングA (2) 海外企業実地研修 (2)		8単位	
				ビジネス・マーケティングB (2) 英語メディアで学ぶビジネス (2)	英語で考えるSDGs (2) 自己表現の技術と知識 (2)			
			海外文化共創研修 (2)					
		ホスピタリティ・マネジメントプログラム	ホスピタリティの英語Ⅰ (2)	ホスピタリティマネジメント概論 (2)	ホスピタリティマネジメント特講A (2)	ホスピタリティマネジメント特講B (2)		
				ホスピタリティの英語Ⅱ (2)	ホスピタリティマネジメント演習 (2)	ホスピタリティインターンシップ研修 (2)		
			海外ホスピタリティ研修 (2)					
		国際スキルとコミュニケーションプログラム	Introducing Global Skills (2)	Challenging Global Skills (2)				
Second Culture Acquisition (2)	Becoming Bilingual (2)		English Clinic Basic (2)	English Clinic Challenge (2)				
	Gender in Japan (2) Media & Pop Culture (2)		Understanding Japanese History (2) Understanding Japanese Society (2)	Understanding Global History (2)				
		舞台芸術実践演習 (2)						

*1 週2回授業です。

卒業の要件

1) 卒業の要件

人間総合学部 に在籍する学生は、カリキュラム表に示すとおり、外国語必修科目を8単位修得することが卒業の要件となります。

2. 履修の方法・留意事項

1) 必修科目の履修

必修科目は指定された年次に履修し、単位を修得してください。単位を修得できなかった場合は、次年度以降に再履修することになります。

なお、英語の必修科目については、入学時と1年次学年末に実施される英語プレイスメントテストの結果に基づきクラス分けが行われます。英語プレイスメントテストの実施詳細については、対象者へ別途通知いたします。

2) 必修科目の単位認定（TOEICの点数による外国語科目「英語」単位認定について）

TOEIC（TOEIC-IPテスト含む）の点数を自ら申し出ることにより、以下の表のとおり外国語科目「英語」の単位認定を受けることができます（再履修科目を除く）。単位認定を希望する場合は、事前登録期間が始まる前までに教務課へ連絡し、指示された方法で申請書類（①TOEICの点数による単位認定申請書、②申請より1年以内に発行された「Official Score Certificate（公式認定証、デジタル公式認定証のいずれも可）」）を提出してください。なお、申請は年度ごとに行う必要があります。

単位認定可能科目		最大認定単位	認定基準
1年次科目	英語コミュニケーションⅠ（1） 総合英語Ⅰ（1）	英語コミュニケーションⅡ（1） 総合英語Ⅱ（1） 4単位	TOEIC 600点以上
2年次科目	英語コミュニケーションⅢ（1） 総合英語Ⅲ（1）	英語コミュニケーションⅣ（1） 総合英語Ⅳ（1） 4単位	TOEIC 700点以上

※単位認定科目の成績は「T（成績認定）」となり、GPAへは反映されません。

※認定単位は履修登録単位数の上限には含まれません。

※認定単位は資格取得のための単位とすることができない場合があります。詳細については各プログラムのページを参照してください。

※本制度で単位を認定された場合には、英語英文学科専門科目「TOEIC上級A」「TOEIC上級B」の履修を推奨します。

3) 選択科目の履修

選択科目は修得すべき単位数の条件はありません。必要や興味に応じて、プログラム等に必要な科目や学修を希望する科目を履修してください。

科目名に付与されているローマ数字は学習順序を表しています。ローマ数字の若い方から順に履修することを原則としていますが、相応の学習歴がある場合は、Ⅰ・Ⅱ（初級程度）を履修せずに、Ⅲ・Ⅳ（中級程度）から履修を開始することも可能です。

なお、ドイツ語は、文学部の必修科目のクラスを選択科目として履修することができます。システム上、自分では履修登録できませんので、希望者は事前登録・本登録期間中に教務課へ申し出てください。

3. 登録

1) 履修登録の日程

履修登録の日程については、大学のホームページ（[キャンパスライフ](#) > 授業・履修）で確認してください。

CAMPUS SQUAREのリンクからもアクセスできます。

2) 履修することがあらかじめ確定している授業科目の登録確認

当該年次必修科目については、各自の履修登録・登録状況照会画面にあらかじめ表示されています。履修すべき授業科目が正しく登録されているかを確認し、誤りがあればすみやかに教務課へ申し出てください。

3) 再履修科目の登録

再履修科目（指定された年次に単位を修得できなかった必修科目）については、**事前登録**を行ってください。
英語は再履修用クラスで再履修することになります。

同一科目名で複数クラス開講されている場合は、いずれのクラスで再履修してもかまいません。

なお、科目名に付与されているローマ数字は学習順序を表しています。ローマ数字の若い方から順に履修することを原則としていますが、当該年次必修科目と再履修科目を同時履修する場合など、やむを得ない場合にはこの限りではありません。

4) 人数制限科目の登録

人数制限科目（開講授業科目表に「制」マークのある科目）については、**事前登録**を行ってください。

事前登録期間終了後に履修調整が行われますので、**本登録期間**になりましたらCAMPUS SQUAREで**結果を確認**してください。履修登録・登録照会画面には履修可能となった授業科目のみが表示されています。

なお、定員に余裕のある授業科目を本登録期間直前にCAMPUS SQUAREへ掲示します。履修希望科目があれば本登録期間に追加登録（先着順科目を登録）を行ってください。

5) その他の科目の授業登録

2)～4)を除くその他すべての授業科目については、**本登録**を行ってください。

6) 外国語科目の履修・登録に関するサポート

外国語科目の履修・登録についての質問は、グローバル言語・文化教育センターへお問い合わせください。

人間総合学部

学部共通科目

1. カリキュラム
2. 卒業の要件
3. 履修の方法・留意事項
4. 登録

人間総合学部 学部共通科目

1. カリキュラム

2026年度入学者用

()内の数字は科目の単位数

	1年次	2年次	3年次	4年次	修得単位
選択必修	子どものイメージ (2) 子どもとファンタジー (2) 子どもと社会 (2)	学校と発達 (2) 家庭の教育・地域の教育 (2) 子どもと福祉 (2)	子育て支援論 (2) ジェンダーと社会 (2) 現代社会と生涯発達 (2)		8単位

2. 卒業の要件

1) 卒業の要件

人間総合学部 に在籍する学生は、カリキュラム表に示すとおり、学部共通科目を8単位以上修得することが卒業の要件となります。

3. 履修の方法・留意事項

1) 選択必修科目の履修

選択必修科目は1～4年次のあいだで計画的に履修し、卒業の要件を満たすよう単位を修得してください。

4. 登録

1) 履修登録の日程

履修登録の日程については、大学のホームページ（キャンパスライフ > 授業・履修）で確認してください。
CAMPUS SQUAREのリンクからもアクセスできます。

2) 選択必修科目の登録

すべての授業科目について**本登録**を行ってください。

3) 学部共通科目の履修・登録に関するサポート

学部共通科目の履修・登録についての質問は、各自の所属学科研究室もしくは教務課へお問い合わせください。

人間総合学部

児童文化学科

1. カリキュラム
2. 卒業の要件
3. 履修の方法・留意事項
4. 登録

人間総合学部 児童文化学科

1. カリキュラム

2026 年度入学者用

()内の数字は科目の単位数

	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	修得単位	
学びの流れ	「児童文学入門」や「児童文化入門」をはじめとする科目を履修し、子どもに関わる文学と文化の基礎を学ぶ。		「基礎演習」などを履修しながら自らの関心を絞り込むとともに、専門領域の研究の仕方やリサーチの手法、創作や制作を実践的に学ぶ。		卒業論文・卒業制作を視野に入れながら、「演習」などを通じて自分が取り組みたいテーマや方向性を確立する。	
必修	児童文学入門A (2) 児童文学入門B (2) 児童文学史・日本Ⅰ (2) 児童文学史・日本Ⅱ (2) 児童文化入門A (2) 児童文化入門B (2)	児童文学史・英語圏Ⅰ (2) 児童文学史・英語圏Ⅱ (2) 基礎演習A (2) 基礎演習B (2) キャリア研究 (2)	演習 (4)	卒業論文 (8)	34 単位	
選択必修	児童文学・日本A (2) 児童文学・日本B (2) 児童文学・ドイツA (2) 児童文学・ドイツB (2) 児童文学・イギリスA (2) 児童文学・イギリスB (2) 児童文学・フランスA (2) 児童文学・フランスB (2) 児童文学・アメリカA (2) 児童文学・アメリカB (2) 児童文学・カナダ (2) 児童文学・北欧 (2) 児童文学・韓国 (2)	おもちゃ論A (2) おもちゃ論B (2) キャラクター論 (2) キャラクター文化研究 (2) マンガ論A (2) マンガ論B (2) サブカルチャー論 (2) 人形文化論A (2) 人形文化論B (2) 絵本文化論A (2) 絵本文化論B (2) ストーリーテリング研究Ⅰ (2) ストーリーテリング研究Ⅱ (2)	わらべうた研究 (2) マザーグース研究 (2) 映像制作Ⅰ (2) 映像制作Ⅱ (2) 編集研究 (2) アニメーション制作A (2) アニメーション制作B (2) 創作演習A (2) 創作演習BⅠ (2) 創作演習BⅡ (2) 翻訳演習Ⅰ (2) 翻訳演習Ⅱ (2)		36 単位	70 単位
		絵本論 (2) 幼年文学 (2) YA文学 (2) ライトノベル論 (2) ネオ・ファンタジーA (2) ネオ・ファンタジーB (2)	伝承文学 (2) 少女マンガ論 (2) アニメ論 (2) 児童文化・紙芝居 (2) 児童文化・民俗と子ども (2) 児童文化・子ども論 (2) ストーリーテリング研究Ⅲ (2)	出版演習Ⅰ (2) 出版演習Ⅱ (2) 絵本制作AⅠ (2) 絵本制作AⅡ (2) 絵本制作BⅠ (2) 絵本制作BⅡ (2) 絵本制作CⅠ (2) 絵本制作CⅡ (2)		

2. 卒業の要件

1) 卒業の要件

児童文化学科に在籍する学生は、カリキュラム表に示す必選区分の要件を満たした上で、児童文化学科専門科目を70単位以上修得することが卒業の要件となります。

2) 「卒業論文」の履修条件

4年次必修科目「卒業論文」の履修にあたっては、前年度までに1・2年次必修科目（但し「キャリア研究」を除く）を合計20単位修得していることが条件となります。

3. 履修の方法・留意事項

1) 必修科目の履修

必修科目は指定された年次に履修し、単位を修得してください。単位を修得できなかった場合は、次学期または次年度以降に再履修することになります。

2) 選択必修科目の履修

選択必修科目は1～4年次のあいだで計画的に履修し、卒業の要件を満たすよう単位を修得してください。

4. 登録

1) 履修登録の日程

履修登録の日程については、大学のホームページ（キャンパスライフ > 授業・履修）で確認してください。CAMPUS SQUAREのリンクからもアクセスできます。

2) 履修することがあらかじめ確定している授業科目の登録確認

当該年次必修科目については、各自の履修登録・登録状況照会画面にあらかじめ表示されています。履修すべき授業科目が正しく登録されているかを確認し、誤りがあればすみやかに教務課へ申し出てください。

3) 再履修科目の登録

再履修科目（指定された年次に単位を修得できなかった必修科目）については、**事前登録**を行ってください。

同一科目名で複数クラス開講されている場合は、いずれのクラスで再履修してもかまいません。

なお、再履修科目と当該年次必修科目の時間割が重複している場合は、児童文化学科研究室または教務課へ連絡し、指示をうけてください。原則として、再履修科目を優先した履修調整が行われます。

4) 人数制限科目の登録

人数制限科目（開講授業科目表に「制」マークのある科目）については、**事前登録**を行ってください。

事前登録期間終了後に履修調整が行われますので、**本登録期間になりましたらCAMPUS SQUAREで結果を確認**してください。履修登録・登録照会画面には履修可能となった授業科目のみが表示されています。

なお、定員に余裕のある授業科目を本登録期間直前にCAMPUS SQUAREへ掲示します。履修希望科目があれば本登録期間に追加登録（先着順科目を登録）を行ってください。

5) その他の授業科目の登録

2)～4)を除くその他すべての授業科目については、**本登録**を行ってください。

6) 児童文化学科専門科目の履修・登録に関するサポート

児童文化学科専門科目の履修・登録についての質問は、児童文化学科研究室へお問い合わせください。

人間総合学部

発達心理学科

1. カリキュラム
2. 卒業の要件
3. 履修の方法・留意事項
4. 登録

人間総合学部 発達心理学科

1. カリキュラム

2026 年度入学者用

()内の数字は科目の単位数

		1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	修得単位	
学びの流れ		心理学全体の概要を学びながら、発達心理学の講義・演習・研究法に関する基礎を学習。	演習形式の授業で基礎となる理論や知識を習得する。実験・調査を通じて研究のノウハウを身に付ける。	発達心理学のさまざまなテーマによる講義や演習を履修。3 年次末の卒論ゼミ決定を前に自由研究を進める。	発達心理学の基本的なテーマに沿った研究課題を決定。観察・実験・調査・分析等を行い、卒業論文を完成させる。		
必修		<u>心理学概論 A</u> (2) <u>心理学概論 B</u> (2) 発達心理学基礎演習 A (2) 発達心理学基礎演習 B (2) <u>心理学統計法 I A</u> (2) <u>臨床心理学概論</u> (2)	<u>発達心理学概論 A</u> (2) <u>発達心理学概論 B</u> (2) 発達臨床心理学概論 (2) <u>心理学実験 I</u> (4) <u>心理学実験 II</u> (4) <u>心理学統計法 I B</u> (2) <u>心理学統計法 II</u> (2) 論文講義基礎演習 (2) 英語論文講義演習 (2) キャリア研究 (2)	<u>心理学研究法</u> (2) 心理学専門演習 (2)	卒業論文 (8)	48 単位	78 単位
選択必修	特講科目			<u>知覚・認知心理学</u> (2) <u>感情・人格心理学</u> (2) <u>社会・集団・家族心理学</u> (2) 発達心理学特講 A (2) 発達心理学特講 B (2)	<u>教育・学校心理学</u> (2) <u>精神疾患とその治療</u> (2) <u>障害者・障害児心理学</u> (2) 臨床心理学特講 A (2) 臨床心理学特講 B (2)	10 単位以上	
	演習科目			発達心理学演習 A (2) 発達心理学演習 B (2) 発達心理学演習 C (2) 発達心理学演習 D (2) 発達心理学演習 E (2)	発達心理学演習 F (2) 発達心理学演習 G (2) 発達心理学演習 H (2) <u>心理的アセスメント A</u> (2) <u>心理的アセスメント B</u> (2)	8 単位以上	
選択		<u>公認心理師の職責</u> (2) <u>福祉心理学</u> (2) <u>健康・医療心理学</u> (2) <u>人体の構造と機能及び疾病</u> (2)	<u>司法・犯罪心理学</u> (2) <u>産業・組織心理学</u> (2)	<u>関係行政論</u> (2) <u>学習・言語心理学</u> (2)	<u>神経・生理心理学</u> (2) <u>心理学的支援法</u> (2)		
				<u>心理演習</u> (2) *2			
				<u>心理実習</u> (2) *2	児童文化・民俗と子ども (2) 児童文化・子ども論 (2)		

*1 公認心理師科目は太字・下線で表示されています。

*2 「心理演習」「心理実習」は、公認心理師カリキュラム志望届 (Web) を提出し、履修要件 (「人間総合学部 公認心理師カリキュラム 4. 心理演習 及び 5. 心理実習」参照) を満たした学生のみ履修できます。

2. 卒業の要件

1) 卒業の要件

発達心理学科に在籍する学生は、カリキュラム表に示す必選区分の要件を満たした上で、発達心理学科専門科目を78単位以上修得することが卒業の要件となります。

2) 「卒業論文」の履修条件

4年次必修科目「卒業論文」の履修にあたっては、前年度までに1・2年次必修科目(34単位、但し「キャリア研究」を除く)および選択必修科目(2単位以上)を含めて、発達心理学科専門科目を36単位以上修得していることが条件となります。

3. 履修の方法・留意事項

1) 必修科目の履修

必修科目は指定された年次に履修し、単位を修得してください。単位を修得できなかった場合は、次年度(または次学期)以降に再履修することになります。

2) 選択必修科目(特講科目・演習科目)の履修

選択必修科目は計画的に履修し、卒業の要件を満たすよう単位を修得してください。

なお、演習科目は、3年次に2科目(4単位)、4年次に2科目(4単位)を目安に履修計画を立ててください。

3) 選択科目の履修

選択科目は修得すべき単位数の条件はありません。必要や興味に応じて、プログラム等に必要な科目や学修を希望する科目を履修してください。

4) その他

必修科目、選択必修科目(特講科目・演習科目)の要件を満たした上で78単位に満たない分は、選択必修科目(特講科目・演習科目)の科目をさらに履修する、もしくは、選択科目を履修することで、残りの単位を修得してください。

4. 登録

1) 履修登録の日程

履修登録の日程については、大学のホームページ(キャンパスライフ > 授業・履修)で確認してください。

CAMPUS SQUAREのリンクからもアクセスできます。

2) 履修することがあらかじめ確定している授業科目の登録確認

当該年次必修科目については、各自の履修登録・登録状況照会画面にあらかじめ表示されています。履修すべき授業科目が正しく登録されているかを確認し、誤りがあればすみやかに教務課へ申し出てください。

3) 再履修科目の登録

再履修科目(指定された年次に単位を修得できなかった必修科目)については、**事前登録**を行ってください。

なお、再履修科目と当該年次必修科目の時間割が重複している場合は、発達心理学科研究室または教務課へ連絡し、指示をうけてください。原則として、再履修科目を優先した履修調整が行われます。

4) 人数制限科目の登録

人数制限科目(開講授業科目表に「制」マークのある科目)については、**事前登録**を行ってください。

事前登録期間終了後に履修調整が行われますので、**本登録期間**になりましたらCAMPUS SQUAREで**結果を確認**してください。履修登録・登録照会画面には履修可能となった授業科目のみが表示されています。

なお、定員に余裕のある授業科目を本登録期間直前にCAMPUS SQUAREへ掲示します。履修希望科目があれば本登録期

間に追加登録（先着順科目を登録）を行ってください。

5) その他の授業科目の登録

2)～4)を除くその他すべての授業科目については、**本登録**を行ってください。

6) 発達心理学科専門科目の履修・登録に関するサポート

発達心理学科専門科目の履修・登録についての質問は、発達心理学科研究室へお問い合わせください。

人間総合学部

初等教育学科

1. カリキュラム
2. 卒業の要件
3. 履修の方法・留意事項
4. 登録
5. 実習諸経費について
6. 小学校教諭一種免許状の取得について
7. 幼稚園教諭一種免許状の取得について
8. 保育士養成課程について
9. 年間予定

人間総合学部 初等教育学科

1. カリキュラム 【児童教育コース】

2026年度入学者用

()内の数字は科目の単位数

	1年次	2年次	3年次	4年次	修得単位	
学びの流れ	教職論など教職に関する基礎科目、小学校の教育内容と、算数・生活・道徳の指導法を学び始める。	小学校の教育課程や生徒指導、特別活動、各教科の指導法について学び、実際に小学校へ出向き、学校支援ボランティアを通じた教育体験を行う。	3年次後期に行う教育実習に備え、事前指導を受け、総合的な学習の時間、特別支援教育等について学び、卒業研究に向けて演習を選択する。	各自が選択したテーマで卒業研究に取り組むとともに、採用試験に向けて教職課程の学びを確認し、これまでの学修を振り返る。		
必修	教育原理 (2) *1 教育の制度と経営 (2) *1 教育心理学 (2) *1	初等教育基礎演習 A (2) 初等教育基礎演習 B (2) キャリア研究 (2) 教育方法 (ICT活用の理論と実践を含む。) (2) *1	初等教育演習 I (2) 初等教育演習 II (2) 特別支援教育・保育概論 (2) *1 教育相談 (2) *1	卒業研究 (4)	26 単位	
選択必修	国語 (2) *1 社会 (2) *1 算数 (2) *1 生活 (2) *1 音楽 (2) *1 図画工作 (2) *1 体育 (2) *1 初等算数科指導法 (2) *1 初等生活科指導法 (2) *1 保育教職概論 A (2) *1 道徳教育 (2) *1 教育体験 I (1) *1 領域健康 (1) 領域環境 (1) 領域言葉 (1) 保育原理 (2) 子ども家庭福祉 I (2) 社会福祉 (2) 保育の心理学 (2) 子どもの保健 (2) 保育体験 I (1) 統計データの理解と活用 (2) 心理学概論 A (2) 心理学概論 B (2)	理科 (2) *1 家庭 (2) *1 小学校外国語 (英語) (2) *1 初等国語科指導法 (2) *1 初等社会科指導法 (2) *1 初等理科指導法 (2) *1 初等音楽科指導法 (2) *1 初等図画工作科指導法 (2) *1 初等体育科指導法 (2) *1 初等外国語 (英語) 指導法 (2) *1 カリキュラム論 (2) *1 特別活動 (2) *1 生徒指導・進路指導 (2) *1 教育体験 II A (1) *1 教育体験 II B (1) *1 領域人間関係 (1) 領域表現 (1) 保育内容総論 (2) 子ども家庭支援論 (2) 社会的養護 I (2) 子ども家庭支援の心理学 (2) 子どもの食と栄養 (2) 乳児保育 I (2) 子どもの健康と安全 (2) 保育実習指導 I A (1) 保育体験 II A (1) 保育体験 II B (1) 学習指導法演習 (国語) (2) 発達心理学概論 A (2) 発達心理学概論 B (2) 発達臨床心理学概論 (2)	初等家庭科指導法 (2) *1 総合的な学習・探究の時間の指導法 (2) *1 教育実習 (幼・小) 事前事後指導 (1) *1 教育体験 III A (1) *1 教育体験 III B (1) *1 保育内容演習 (健康) (2) 保育内容演習 (人間関係) (2) 保育内容演習 (環境) (2) 保育内容演習 (言葉) (2) 保育内容演習 (表現) (2) 幼児理解 (2) 乳児保育 II (2) 社会的養護 II (2) 保育実習 I (4) 保育実習指導 I B (1) 保育実習 II (2) 保育実習指導 II (1)	保育教職実践演習 (2) *1 子育て支援 (2) 保育実習 III (2) 保育実習指導 III (1)	62 単位以上	88 単位
	音楽の視点からみた遊び (2) *1 おもちゃ論 A (2)	造形の視点からみた遊び (2) *1 絵本文化論 A (2)	運動の視点からみた遊び (2) *1 絵本文化論 B (2)			
		児童文化・子ども論 (2)				
			教育実習 (幼・小) (4) *1 学級経営論 (2) *1 学校臨床心理学 (2) 障害者・障害児心理学 (2)			
選択		学校経営と学校図書館 (2) *1 *3 学校図書館メディアの構成 (2) *1 *2 学習指導と学校図書館 (2) *1 *3 読書と豊かな人間性 (2) *1 *3 情報メディアの活用 (2) *1 *2				

*1 小学校教諭一種免許取得に関する授業科目です。

(小学校教諭一種免許取得のための教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目は含みません。資格取得における必修科目、選択必修科目及び選択科目の詳細については、各資格のページを参照してください。)

*2 「司書教諭資格取得プログラム」履修者のみ履修可能な授業科目です。

*3 「司書教諭資格取得プログラム」又は「学校司書養成プログラム」履修者のみ履修可能な授業科目です。

【幼児教育コース】

2026 年度入学者用

()内の数字は科目の単位数

	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	修得単位	
学びの流れ	教育原理、保育原理、子ども家庭福祉、保育者論など、教職及び保育に関する学びがスタートする。	保育の内容、方法に関して学び、1 年後期から始まる保育所での保育体験を通年で実施。後期に保育実習がスタートする。	5 領域を視点に保育内容・指導法に関する学びを深める。後期に行う教育実習に備え、事前指導や幼児理解について学ぶ。卒業研究に向けてのテーマを考え、演習を選択する。	前期には2 週間の本格的な教育実習を行う。各自が選択したテーマで卒業研究に取り組むとともに、保育・教職課程での学びを振り返る。		
必修	教育原理 (2) *1 教育の制度と経営 (2) *1 教育心理学 (2) *1	初等教育基礎演習 A (2) 初等教育基礎演習 B (2) キャリア研究 (2) 教育方法 (ICT活用の理論と実践を含む。) (2) *1	初等教育演習 I (2) 初等教育演習 II (2) 特別支援教育・保育概論 (2) *1 教育相談 (2) *1	卒業研究 (4)	26 単位	
選択必修	国語 (2) *1 社会 (2) 算数 (2) *1 生活 (2) *1 音楽 (2) *2 図画工作 (2) *2 体育 (2) *2 初等算数科指導法 (2) 初等生活科指導法 (2) 保育教職概論 A (2) *1 道徳教育 (小) (2) 教育体験 I (1) 領域健康 (1) *1 領域環境 (1) *1 領域言葉 (1) *1 保育原理 (2) *1 子ども家庭福祉 I (2) *1 社会福祉 (2) *3 保育の心理学 (2) *1 子どもの保健 (2) *3 教育体験 I (1) *3 統計データの理解と活用 (2) 心理学概論 A (2) 心理学概論 B (2)	理科 (2) 家庭 (2) 小学校外国語 (英語) (2) 初等国語科指導法 (2) 初等社会科指導法 (2) 初等理科指導法 (2) 初等音楽科指導法 (2) 初等図画工作科指導法 (2) 初等体育科指導法 (2) 初等外国語 (英語) 指導法 (2) 教育課程論 (小) (2) 特別活動 (小) (2) 生徒指導・進路指導 (小) (2) 教育体験 II A (1) 教育体験 II B (1) 領域人間関係 (1) *1 領域表現 (1) *1 保育内容総論 (2) *1 カリキュラム論 (2) *1 子ども家庭支援論 (2) *1 社会的養護 I (2) *1 子ども家庭支援の心理学 (2) *3 子どもの食と栄養 (2) *3 乳児保育 I (2) *3 子どもの健康と安全 (2) *3 保育実習指導 I A (1) *3 保育体験 II A (1) *3 保育体験 II B (1) *3 学習指導法演習 (国語) (2) 発達心理学概論 A (2) 発達心理学概論 B (2) 発達臨床心理学概論 (2)	初等家庭科指導法 (2) 総合的な学習の時間の指導法 (小) (2) 教育実習 (幼・小) 事前事後指導 (1) *2 教育体験 III A (1) 教育体験 III B (1) 保育内容演習 (健康) (2) *1 保育内容演習 (人間関係) (2) *1 保育内容演習 (環境) (2) *1 保育内容演習 (言葉) (2) *1 保育内容演習 (表現) (2) *1 幼児理解 (2) *1 乳児保育 II (2) *3 社会的養護 II (2) *3 保育実習 I (4) *3 保育実習指導 I B (1) *3 保育実習 II (2) *3 保育実習指導 II (1) *3	保育教職実践演習 (2) *1 子育て支援 (2) *3 保育実習 III (2) *3 保育実習指導 III (1) *3	62 単位以上	88 単位
	音楽の視点からみた遊び (2) おもちゃ論 A (2)	造形の視点からみた遊び (2) 絵本文化論 A (2)	運動の視点からみた遊び (2) 絵本文化論 B (2)			
		児童文化・子ども論 (2)				
			教育実習 (幼・小) (4) *2 学級経営論 (2) 学校臨床心理学 (2) 障害者・障害児心理学 (2)			
選択		学校経営と学校図書館 (2) *5 学校図書館メディアの構成 (2) *4 学習指導と学校図書館 (2) *5 読書と豊かな人間性 (2) *5 情報メディアの活用 (2) *4				

- *1 幼稚園教諭一種免許及び保育士資格取得に関する授業科目です。
(幼稚園教諭一種免許取得のための教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目及び保育士資格取得のための教養科目は含みません。資格取得における必修科目、選択必修科目及び選択科目の詳細については、各資格のページを参照してください。)
 - *2 幼稚園教諭一種免許取得に関する授業科目です。
(幼稚園教諭一種免許取得のための教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目は含みません。資格取得における必修科目、選択必修科目及び選択科目の詳細については、各資格のページを参照してください。)
 - *3 保育士資格取得に関する授業科目です。
(保育士資格取得のための教養科目は含みません。資格取得における必修科目、選択必修科目及び選択科目の詳細については、各資格のページを参照してください。)
 - *4 「司書教諭資格取得プログラム」履修者のみ履修可能な授業科目です。
 - *5 「司書教諭資格取得プログラム」又は「学校司書養成プログラム」履修者のみ履修可能な授業科目です。
- ※ 資格取得には、卒業の要件を超えた単位の修得が必要となります。

2. 卒業の要件

初等教育学科に在籍する学生は、入学時に選択した履修上のコース（幼児教育コース・児童教育コース）において、カリキュラム表に示す必選区分の要件を満たした上で、初等教育学科専門科目を88単位以上修得することが卒業の要件となります（資格取得には、卒業の要件を超えた単位を修得する必要があります）。

3. 履修の方法・留意事項

1) 必修科目の履修

必修科目は指定された年次に履修し、単位を修得してください。単位を修得できなかった場合は、次学期または次年度以降に再履修することになります。

2) 選択必修科目の履修

原則として、定められた年次に必要な授業科目を履修し、62単位以上を修得してください。資格取得における必修科目、選択必修科目及び選択科目の詳細については、各資格のページ（6. 7. 8）を参照してください。

3) 他コース科目の履修

自コースにない他コースの授業科目も履修することができます。ただし、履修にあたってはアドバイザーとよく相談してください。

4. 登録

1) 履修登録の日程

履修登録の日程については、大学のホームページ（キャンパスライフ > 授業・履修）で確認してください。CAMPUS SQUAREのリンクからもアクセスできます。

2) 履修することがあらかじめ確定している授業科目の登録確認

当該年次必修科目及び同一名称で複数開講されている科目（クラス指定あり）については、各自の履修登録・登録状況照会画面にあらかじめ表示されています。履修すべき授業科目が正しく登録されているかを確認し、誤りがあるばすみやかに教務課へ申し出てください。

3) 再履修科目の登録

再履修科目（指定された年次に単位を修得できなかった必修科目）については、**事前登録**を行ってください。同一科目名で複数クラス開講されている場合は、いずれのクラスで再履修してもかまいません。なお、再履修科目と当該年次必修科目の時間割が重複している場合は、初等教育学科研究室または教務課へ連絡し、指示をうけてください。原則として、再履修科目を優先した履修調整が行われます。

4) 人数制限科目の登録

人数制限科目（開講授業科目表に「制」マークのある科目）については、**事前登録**を行ってください。事前登録期間終了後に履修調整が行われますので、**本登録期間**になりましたらCAMPUS SQUAREで**結果を確認**してください。履修登録・登録照会画面には履修可能となった授業科目のみが表示されています。なお、定員に余裕のある授業科目を本登録期間直前にCAMPUS SQUAREへ掲示します。履修希望科目があれば本登録期間に追加登録（先着順科目を登録）を行ってください。

5) その他の授業科目の登録

2)～4)を除くその他のすべての授業科目については、**本登録**を行ってください。

6) 初等教育学科専門科目の履修・登録に関するサポート

初等教育学科専門科目の履修・登録についての質問は、初等教育学科研究室へお問い合わせください。

5. 実習諸経費について

初等教育学科では教育実習・保育実習等に伴う諸経費が必要となります。なお、一旦納入された実習諸経費は、いかなる理由があっても返還することはできません。実習諸経費の納入時期は1年次後期です。納入金額と納入方法につきましてはCAMPUSSQUAREにて該当者へお知らせします。

6. 小学校教諭一種免許状の取得について

1) 教育職員免許状を取得するための条件

本学において小学校教諭一種免許状を取得するためには、以下のとおり必要条件が定められています。

- ① 「教科及び教科の指導法に関する科目」の履修
- ② 「教育の基礎的理解に関する科目等」の履修
「教育の基礎的理解に関する科目等」とは「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」及び「教育実践に関する科目」のことを示す。(以下、同様)
- ③ 「大学が独自に設定する科目」の履修
- ④ 「教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目」の履修
- ⑤ 介護等体験の実施
- ⑥ 基礎資格を有すること(学士の学位を取得＝大学を卒業すること)

2026年度入学者用

必要条件 免許状の種類	⑥ 基礎資格	科目及び最低修得単位数								⑤ 介護等体験の実施	
		①	②	③	①②③ 合計	④					
		教科及び教科の指導法に関する科目	教育の基礎的理解に関する科目等	大学が独自に設定する科目		教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目					
						日本国憲法	体育	外国語コミュニケーション	数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作		
小学校教諭一種免許状	学士の学位を有すること。	教育職員免許法施行規則に定められた最低修得単位数	30	27	2	59	2	2	2	2	必要
	本学における最低修得単位数		30	31	2	63	2	2	2	2	必要

2) 履修方法

前記①～④の科目は、免許状の種類に応じて各科目区分における履修すべき授業科目と最低修得単位数が定められています。本学における各科目の履修方法等は次の通りとなっています。

※本学に入学する以前に、他の大学や短期大学等において修得した単位は、本学における教育職員免許状取得のための単位として使用できる場合があります。該当する場合は、初等教育学科研究室に申し出て指導を受けてください。

① 教科及び教科の指導法に関する科目

2026年度入学者用

免許法施行規則に定める科目区分等			本学における開設授業科目等					
科目区分	各科目に含めることが必要な事項	最低修得単位数	左記に対応する開設授業科目	最低修得単位数		共通開設		対象学年
				必修	選択	幼	保	
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	30	国語（書写を含む。）	2		幼	保	1
			社会	2				1
			算数	2		幼	保	1
			理科	2				2
			生活	2		幼	保	1
			音楽		2	幼		1
			音楽の視点からみた遊び		2			1-4
			図画工作		2	幼		1
			造形の視点からみた遊び		2			1-4
			家庭		2			2
	体育		2	幼		1		
	運動の視点からみた遊び		2			1-4		
	外国語		2			2		
	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）	初等国語科指導法	2				2	
		初等社会科指導法	2				2	
		初等算数科指導法	2				1	
		初等理科指導法	2				2	
		初等生活科指導法	2				1	
		初等音楽科指導法	2				2	
		初等図画工作科指導法	2				2	
初等家庭科指導法		2				3		
初等体育科指導法		2				2		
初等外国語（英語）指導法		2				2		
合計	30	本学が定める最低修得単位数	30					

② 教育の基礎的理解に関する科目等

2026年度入学者用

免許法施行規則に定める科目区分等			本学における開設授業科目等					
科目	各科目に含めることが必要な事項	最低修得単位数	左記に対応する開設授業科目	最低修得単位数		共通開設		対象学年
				必修	選択	幼	保	
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10	教育原理	2		幼	保	1
	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		保育教職概論A	2		幼	保	1
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		教育の制度と経営	2		幼	保	1
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		教育心理学	2		幼	保	1
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		特別支援教育・保育概論	2		幼	保	3
	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		カリキュラム論	2		幼	保	2
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳の理論及び指導法	10	道徳教育	2				1
	総合的な学習の時間の指導法		総合的な学習・探究の時間の指導法	2				3
	特別活動の指導法		特別活動	2				2
	教育の方法及び技術		教育方法（ICT活用の理論と実践を含む。）*1	2		幼	保	2
	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		*1					
	生徒指導の理論及び方法		生徒指導・進路指導 *2	2				2
	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		教育相談	2		幼	保	3
	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		*2					
教育実践に関する科目	教育実習	5	教育実習（幼・小）事前事後指導	1		幼		3
	教育実習（幼・小）		4		幼		3-4	
	教職実践演習	2	保育教職実践演習 *3	2		幼	保	4
合計		27	本学が定める最低修得単位数	31				

*1 「教育方法（ICT活用の理論と実践を含む。）」に「情報通信技術を活用した教育の理論及び方法」の事項を1単位含みます。

*2 「生徒指導・進路指導」に「進路指導及びキャリア教育の理論及び方法」の事項を含みます。

*3 「保育教職実践演習」は、教育実習を実施済又は実施予定であり、当該年度に免許状の申請が可能なお状態である場合、また、自己評価シート（履修カルテ）を既習科目すべてについて入力済である場合のみ履修登録をすることができます。

③ 大学が独自に設定する科目

「大学が独自に設定する科目」の単位の修得については、「大学が独自に設定する科目」として認定を受けた科目又は法定上の最低修得単位数を超えて履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」又は「教育の基礎的理解に関する科目等」について、併せて2単位以上を修得する必要があります。

本学では「大学が独自に設定する科目」の必修科目の履修によって、「大学が独自に設定する科目」の最低修得単位数を満たしています。したがって、以下の表の必修科目を履修し、必要に応じて選択科目を履修してください。

2026年度入学者用

免許法施行規則に定める科目区分等		本学における開設授業科目等			
科目区分	最低修得単位数	左記に対応する開設授業科目	最低修得単位数		対象学年
			必修	選択	
大学が独自に設定する科目	2	教育体験Ⅰ		1	1
		教育体験Ⅱ A	1		2
		教育体験Ⅱ B	1		2
		教育体験Ⅲ A		1	3
		教育体験Ⅲ B		1	3
		学級経営論		2	3-4
		学校経営と学校図書館 *2		2	2-4
		学校図書館メディアの構成 *1		2	2-4
		学習指導と学校図書館 *2		2	2-4
		読書と豊かな人間性 *2		2	2-4
		情報メディアの活用 *1		2	2-4
合計	2	本学が定める最低修得単位数	2		

- *1 司書教諭資格取得プログラム履修者のみ履修登録が可能な授業科目です。
司書教諭資格取得プログラムは、学校図書館法（1953年・法律185号）に定められた「司書教諭となる資格を得るための課程を履修するプログラム」です。授業科目の開講は2年次からとなります。「司書教諭資格取得プログラム」のページを参考にして、履修計画を立ててください（司書教諭の資格を得るためには、*2の科目を合わせ、5科目10単位が必要となります）。
- *2 司書教諭資格取得プログラム履修者又は学校司書養成プログラム履修者のみ履修登録が可能な授業科目です。
司書教諭資格取得プログラムは「司書教諭資格取得プログラム」のページを、「学校司書養成プログラム」は「学校司書養成プログラム」のページを参考にして、履修計画を立ててください。

④ 教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目

2026 年度入学者用

免許法施行規則に定める科目区分等		本学における開設授業科目等							
科目区分	最低修得単位数	左記に対応する開設授業科目等	本学における科目区分	最低修得単位数		備考	共通開設		
				必修	選択必修		幼	保	
日本国憲法	2	憲法	共通科目	2			幼		
体育	2	スポーツ科学概論	共通科目	1		これらの科目から1単位選択必修	幼	保	
		スポーツ・身体運動実習A					1	幼	保
		スポーツ・身体運動実習B					1	幼	保
		スポーツ・身体運動実習C					1	幼	保
		スポーツ・身体運動実習D					1	幼	保
外国語コミュニケーション	2	英語コミュニケーションⅠ	外国語科目			これらの科目から2単位選択必修	幼	保	
		英語コミュニケーションⅡ					1	幼	保
		英語コミュニケーションⅢ					1	幼	保
		英語コミュニケーションⅣ					1	幼	保
		フランス語AⅠ					1	幼	
		フランス語AⅡ					1	幼	
		フランス語AⅢ					1	幼	
		フランス語AⅣ					1	幼	
		ドイツ語AⅠ					1	幼	
		ドイツ語AⅡ					1	幼	
		ドイツ語AⅢ					1	幼	
		ドイツ語AⅣ					1	幼	
		中国語AⅠ					1	幼	
		中国語AⅡ					1	幼	
		中国語AⅢ					1	幼	
		中国語AⅣ					1	幼	
韓国語AⅠ	1	幼							
韓国語AⅡ	1	幼							
韓国語AⅢ	1	幼							
韓国語AⅣ	1	幼							
数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作	2	はじめてのデータサイエンス	共通科目	2			幼		

履修上の注意事項

- この表に示す授業科目は、「本学における科目区分」において開講されています。なお、学科の卒業要件等により、表に示す教育職員免許状取得のための最低修得単位数以上の単位を修得しなければならない場合があります。
- この表に記載されている授業科目以外は、「教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目」として認められません。
- 「体育」については、「スポーツ科学概論」を 1 単位修得し、「スポーツ・身体運動実習 A」、「スポーツ・身体運動実習 B」、「スポーツ・身体運動実習 C」又は「スポーツ・身体運動実習 D」から 1 単位以上修得することで、免許法施行規則に定める最低修得単位数（2 単位）を満たしてください。
- 原則として、認定された単位は、教職課程の単位とすることはできないため、「外国語コミュニケーション」における最低修得単位数（2 単位）は本学で修得してください（他の科目区分も同様）。
- 初等教育学科の学生は「外国語科目」として「英語コミュニケーションⅠ～Ⅳ」を履修しますので、「外国語コミュニケーション」の最低修得単位数はそれで満たしています。

⑤ 介護等体験

小学校教諭免許状を取得するためには、7日間（原則として、特別支援学校で2日間、社会福祉施設で5日間）の介護等の体験を行う必要があります。本学では、原則として2年次に、特別支援学校で2日間、社会福祉施設で5日間の介護等体験を実施しています。介護等体験を行うにあたっては、介護等体験実施の前年度（1年次）に行われる「次年度介護等体験実施予定者説明会」（12月を予定）に出席し、体験実施年度（2年次）に行われる「介護等体験の事前事後指導」（4回程度を予定）に必ず出席してください。

なお、介護等体験実施にあたっては、体験実施年度の4月に大学で行われる健康診断の受診が必須となります。何らかの事情で受診できなかった場合は、外部の医療機関において各自で受診（自費）していただきます。麻疹等の抗体検査の結果証明書*を求められた場合は、必要に応じて外部の医療機関等で検査を受けてください。詳細は上記の説明会でお知らせします。

* 本学の入学前後に追加予防接種をし、その証明ができる場合又は抗体検査の結果が陽性であり、その証明ができる場合は原則として検査の必要はありません。但し、体験先から体験実施年度の証明書を求められた場合は、体験先の指示に従ってください。

※介護等体験が免除される者

以下に該当する者は介護等体験が免除されます。該当者は介護等体験実施予定者説明会（12月を予定）までに初等教育学科研究室へ申し出てください（希望があれば体験することは可能）。

- ア) 保健師、助産師、看護師、准看護師、特別支援学校教員、理学療法士、作業療法士、社会福祉士、介護福祉士又は義肢装具士の免許・資格を既に有している者。
- イ) 身体障害者手帳に、障害の程度が1級から6級であるものとして記載されている者。

3) 教育実習

「教育実習（幼・小）」は「実習校又は実習園での実習」と「実習の事前及び事後指導」（本学での授業における事前・事後の指導や実習先における反省会等）から成り立っています。なお、「教育実習（幼・小）」を履修する前年度末までに、以下に指定されている授業科目の単位を修得していることが条件となります。実習条件を満たさずに教育実習を行った場合で、後日条件を満たしていないことが判明した時は、当該教育実習は無効となります。

また、教育実習の実施にあたっては、実習実施年度の4月に大学で行われる健康診断の受診が必須となります。何らかの事情で受診できなかった場合は、外部の医療機関において各自で受診（自費）していただきます。麻疹等の抗体検査の結果証明書*を求められた場合は、必要に応じて外部の医療機関等で検査を受けてください。

* 本学の入学前後に追加予防接種をし、その証明ができる場合又は抗体検査の結果が陽性であり、その証明ができる場合は原則として検査の必要はありません。但し、実習先から実習実施年度の証明書を求められた場合は、実習先の指示に従ってください。

「教科に関する専門的事項」

「国語」、「社会」、「算数」、「理科」、「生活」、「音楽」、「図画工作」、「家庭」、「体育」、
「小学校外国語（英語）」
の10科目のうち4科目以上履修済であること

「各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）」

「初等国語科指導法」、「初等社会科指導法」、「初等算数科指導法」、「初等理科指導法」、「初等生活科指導法」、
「初等音楽科指導法」、「初等図画工作科指導法」、「初等家庭科指導法」、「初等体育科指導法」、
「初等外国語（英語）指導法」
の10科目のうち6科目以上履修済であること

「教育の基礎的理解に関する科目等」

「教育原理」、「保育教職概論A」、「教育の制度と経営」、「教育心理学」、「特別支援教育・保育概論」、
「カリキュラム論」、「道徳教育」、「総合的な学習・探究の時間の指導法」、「特別活動」、
「教育方法（ICT活用の理論と実践を含む。）」、「生徒指導・進路指導」、「教育相談」
の12科目のうち
「教育原理」、「保育教職概論A」、「教育心理学」、「道徳教育」
を含む6科目以上履修済であること

「大学が独自に設定する科目」

「教育体験ⅡA」、「教育体験ⅡB」を履修済であること

4) 「保育教職実践演習」

「保育教職実践演習」は、教職課程の総まとめの科目として位置づけられており、4年次の後期に行われます。したがって、履修登録を行う際には、以下の条件を満たす必要があります（対象者はあらかじめ登録されています）。

原則として4年次前期までに「保育教職実践演習」以外の教職に係わる必修科目をすべて履修済みであり、既習科目すべてについての自己評価を自己評価シート（履修カルテ）へ入力済であること。

5) 教育職員免許状取得

教育職員免許状取得条件（授与条件）を満たした者は、都道府県教育委員会に申請することにより、当該免許状を取得することができます。本学の規定に基づいて、免許状取得に必要な条件を満たした学生については、本人に代わり、大学が東京都教育委員会に免許状の申請をすることができます（以下、大学一括申請）。大学一括申請を希望する学生は、4年次に所定の手続き（宣誓書への署名、本籍地の確認等）を期日までに行い、免許状交付手数料等を納入してください。申請に関する手続きの連絡等は、原則としてCAMPUS SQUAREの掲示板又はE-mailで行いますので、適宜確認してください。教育職員免許状は、学位記授与式当日に、各学科を通してお渡しする予定です。なお、卒業延期の対象者となった場合等は、大学一括申請の対象から除外します。その他にも、事情により大学一括申請の対象とならない場合は、個人申請となります。

7. 幼稚園教諭一種免許状の取得について

1) 教育職員免許状を取得するための条件

本学において幼稚園教諭一種免許状を取得するためには、以下のとおり必要条件が定められています。

- ①「領域及び保育内容の指導法に関する科目」の履修
- ②「教育の基礎的理解に関する科目等」の履修
「教育の基礎的理解に関する科目等」とは「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」及び「教育実践に関する科目」のことを示す。(以下、同様)
- ③「大学が独自に設定する科目」の履修
- ④「教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目」の履修
- ⑤ 基礎資格を有すること（学士の学位を取得＝大学を卒業すること）

2026年度入学者用

必要条件 免許状の種類	⑤ 基礎資格	科目及び最低修得単位数								
		①	②	③	①②③ 合計	④				
		領域及び保育内容の指導法に関する科目	教育の基礎的理解に関する科目等	大学が独自に設定する科目		教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目				
						日本国憲法	体育	外国語コミュニケーション	数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作	
幼稚園教諭一種免許状	学士の学位を有すること。	教育職員免許法施行規則に定められた最低修得単位数	16	21	14	51	2	2	2	2
		本学における最低修得単位数	17	25	10*	52	2	2	2	2

* 7. 2) ③で詳しく説明します。

2) 履修方法

前記①～④の科目は、免許状の種類に応じて各科目区分における履修すべき授業科目と最低修得単位数が定められています。本学における各科目の履修方法等は次の通りとなっています。

※本学に入学する以前に、他の大学や短期大学等において修得した単位は、本学における教育職員免許状取得のための単位として使用できる場合があります。該当する場合は、初等教育学科研究室に申し出て指導を受けてください。

① 領域及び保育内容の指導法に関する科目

2026年度入学者用

免許法施行規則に定める科目区分等			本学における開設授業科目等						
科目区分	各科目に含めることが必要な事項	最低修得単位数	左記に対応する開設授業科目	単位数		共通開設		対象学年	
				必修	選択必修	保	小		
領域及び保育内容の指導法に関する科目	領域に関する専門的事項	健康	領域健康	1		保		1	
		人間関係	領域人間関係	1		保		2	
		環境	領域環境	1		保		1	
		言葉	領域言葉	1		保		1	
		表現	領域表現	1		保		2	
	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		16	保育内容総論	2		保		2
				保育内容演習（健康）	2		保		3
				保育内容演習（人間関係）	2		保		3
				保育内容演習（環境）	2		保		3
				保育内容演習（言葉）	2		保		3
				保育内容演習（表現）	2		保		3
	合計		16	本学が定める最低修得単位数	17				

② 教育の基礎的理解に関する科目等

2025 年度入学者用

免許法施行規則に定める科目区分等			本学における開設授業科目等				
科目	各科目に含めることが必要な事項	最低修得単位数	左記に対応する開設授業科目	最低修得単位数	共通開設		対象学年
				必修	保	小	
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10	教育原理	2	保	小	1
	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		保育教職概論A	2	保	小	1
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		教育の制度と経営	2	保	小	1
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		教育心理学	2	保	小	1
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		特別支援教育・保育概論	2	保	小	3
	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		カリキュラム論	2	保	小	2
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）	4	教育方法（ICT 活用の理論と実践を含む。）	2	保	小	2
	幼児理解の理論及び方法		幼児理解	2	保		3
	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		教育相談	2	保	小	3
教育実践に関する科目	教育実習	5	教育実習（幼・小）事前事後指導	1		小	3
			教育実習（幼・小）	4		小	3-4
	教職実践演習	2	保育教職実践演習 *1	2	保	小	4
合計		21	本学が定める最低修得単位数	25			

*1 「保育・教職実践演習」は、教育実習を実施済又は実施予定であり、当該年度に免許状の申請が可能な状態である場合、また、自己評価シート（履修カルテ）を既習科目すべてについて入力済である場合のみ履修登録をすることができます。

③ 大学が独自に設定する科目

「大学が独自に設定する科目」の単位の修得については、「大学が独自に設定する科目」として認定を受けた科目又は法定上の最低修得単位数を超えて履修した「領域及び保育内容の指導法に関する科目」又は「教育の基礎的理解に関する科目等」について、併せて14単位以上を修得する必要があります。

本学では「教育の基礎的理解に関する科目等」及び「大学が独自に設定する科目」の必修科目の履修によって、「大学が独自に設定する科目」の最低修得単位数を満たしています。したがって、以下の表の必修科目を履修し、必要に応じて選択科目を履修してください。

2026年度入学者用

免許法施行規則に定める科目区分等		本学における開設授業科目等					
科目区分	最低修得単位数	左記に対応する開設授業科目	最低修得単位数		共通開設		対象学年
			必修	選択	保	小	
大学が独自に設定する科目	14	保育原理	2		保		1
		子ども家庭福祉Ⅰ	2		保		1
		社会的養護Ⅰ	2		保		2
		保育の心理学	2		保		1
		子ども家庭支援論	2		保		2
		国語		2	保	小	1
		算数		2	保	小	1
		生活		2	保	小	1
		音楽		2		小	1
		図画工作		2		小	1
		体育		2		小	1
合計	14	本学が定める最低修得単位数	10				

④ 教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目

2026 年度入学者用

免許法施行規則に定める科目区分等		本学における開設授業科目等						
科目区分	最低修得単位数	左記に対応する開設授業科目等	本学における科目区分	最低修得単位数		備考	共通開設	
				必修	選択必修		保	小
日本国憲法	2	憲法	共通科目	2				小
体育	2	スポーツ科学概論	共通科目	1		これらの科目から1単位選択必修	保	小
		スポーツ・身体運動実習A			1		保	小
		スポーツ・身体運動実習B			1		保	小
		スポーツ・身体運動実習C			1		保	小
		スポーツ・身体運動実習D			1		保	小
外国語コミュニケーション	2	英語コミュニケーションⅠ	外国語科目		1	これらの科目から2単位選択必修	保	小
		英語コミュニケーションⅡ			1		保	小
		英語コミュニケーションⅢ			1		保	小
		英語コミュニケーションⅣ			1		保	小
		フランス語AⅠ			1			小
		フランス語AⅡ			1			小
		フランス語AⅢ			1			小
		フランス語AⅣ			1			小
		ドイツ語AⅠ			1			小
		ドイツ語AⅡ			1			小
		ドイツ語AⅢ			1			小
		ドイツ語AⅣ			1			小
		中国語AⅠ			1			小
		中国語AⅡ			1			小
		中国語AⅢ			1			小
		中国語AⅣ			1			小
韓国語AⅠ	1		小					
韓国語AⅡ	1		小					
韓国語AⅢ	1		小					
韓国語AⅣ	1		小					
数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作	2	はじめてのデータサイエンス	共通科目	2				小

履修上の注意事項

- この表に示す授業科目は、「本学における科目区分」において開講されています。なお、学科の卒業要件等により、表に示す教育職員免許状取得のための最低修得単位数以上の単位を修得しなければならない場合があります。
- この表に記載されている授業科目以外は、「教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目」として認められません。
- 「体育」については、「スポーツ科学概論」を 1 単位修得し、「スポーツ・身体運動実習 A」、「スポーツ・身体運動実習 B」、「スポーツ・身体運動実習 C」又は「スポーツ・身体運動実習 D」から 1 単位以上修得することで、免許法施行規則に定める最低修得単位数（2 単位）を満たしてください。
- 原則として、認定された単位は、教職課程の単位とすることはできないため、「外国語コミュニケーション」における最低修得単位数（2 単位）は本学で修得してください（他の科目区分も同様）。
- 初等教育学科の学生は「外国語科目」として「英語コミュニケーションⅠ～Ⅳ」を履修しますので、「外国語コミュニケーション」の最低修得単位数はそれで満たしています。

3) 教育実習

「教育実習（幼・小）」は「実習園又は実習校での実習」と「実習の事前及び事後指導」（本学での授業における事前・事後の指導や実習先における反省会等）から成り立っています。なお、教育実習を行う前年度末までに、以下に指定されている授業科目の単位を修得していることが条件となります。ただし、幼稚園教職課程では教育実習を2回に分けて行いますので、2回目の教育実習までに以下に指定されている授業科目の単位を修得する必要があります。実習条件を満たさずに教育実習を行い、後日条件を満たしていないことが判明した場合は、当該教育実習は無効となります。また、教育実習の実施にあたっては、実習実施年度の4月に大学で行われる健康診断の受診が必須となります。何らかの事情で受診できなかった場合は、外部の医療機関において各自で受診（自費）していただきます。麻疹等の抗体検査の結果証明書*を求められた場合は、必要に応じて外部の医療機関等で検査を受けてください。

* 本学の入学前後に追加予防接種をし、その証明ができる場合又は抗体検査の結果が陽性であり、その証明ができる場合は原則として検査の必要はありません。但し、実習先から実習実施年度の証明書を求められた場合は、実習先の指示に従ってください。

「領域に関する専門的事項」

「領域健康」、「領域人間関係」、「領域環境」、「領域言葉」、「領域表現」をすべて履修済であること

「保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）」

「保育内容総論」、「保育内容演習（健康）」、「保育内容演習（人間関係）」、「保育内容演習（環境）」、「保育内容演習（言葉）」、「保育内容演習（表現）」をすべて履修済であること

「教育の基礎的理解に関する科目等」

「教育原理」、「保育教職概論A」、「教育の制度と経営」、「教育心理学」、「特別支援教育・保育概論」、「カリキュラム論」、「教育方法（ICT活用の理論と実践を含む。）」、「幼児理解」、「教育相談」の9科目のうち
「教育原理」、「保育教職概論A」、「教育心理学」、「カリキュラム論」、「幼児理解」を含む7科目以上を履修済であること

4) 「保育教職実践演習」

「保育教職実践演習」は、教職課程の総まとめの科目として位置づけられており、4年次の後期に行われます。したがって、履修登録を行う際には、以下の条件を満たす必要があります（対象者はあらかじめ登録されています）。

原則として4年次前期までに「保育教職実践演習」以外の教職に係わる必修科目をすべて履修済であり、既習科目すべてについての自己評価を自己評価シート（履修カルテ）へ入力済であること。

5) 教育職員免許状取得

教育職員免許状取得条件（授与条件）を満たした者は、都道府県教育委員会に申請することにより、当該免許状を取得することができます。本学の規定に基づいて、免許状取得に必要な条件を満たした学生については、本人に代わり、大学が東京都教育委員会に免許状の申請をすることができます（以下、大学一括申請）。大学一括申請を希望する学生は、4年次に所定の手続き（宣誓書への署名、本籍地の確認等）を期日までに行い、免許状交付手数料等を納入してください。申請に関する手続きの連絡等は、原則としてCAMPUS SQUAREの掲示板又はE-mailで行いますので、適宜確認してください。教育職員免許状は、学位記授与式当日に、各学科を通してお渡しする予定です。なお、卒業延期の対象者となった場合等は、大学一括申請の対象から除外します。その他にも、事情により大学一括申請の対象とならない場合は、個人申請となります。

8. 保育士養成課程について

1) 保育士資格を取得するための所要単位数

2026年度入学者用

科 目	厚生労働省告示による 最低修得単位数	本学における修得単位数
① 教養科目	8 単位以上	10 単位以上
② 必修科目	51 単位	63 単位
③ 選択必修科目	9 単位以上 ※保育実習 2 単位・保育実習指導 1 単位含む	9 単位以上

別表 保育士養成課程科目表

① 教養科目

2026年度入学者用

厚生労働省告示による教科目			本学における開講教科目					共通開設		
科 目	授業 形態	設置 単位	左記に対応して 開講されている教科目	授業 形態	単位数			対象 学年	幼	小
					必修	選択 必修	備考			
外国語、体育以外の科目	不問	6 以上	学校と発達	講義	2			1・2 3・4		
			初等教育基礎演習A	演習	2			2		
			初等教育基礎演習B	演習	2			2		
外国語	演習	2 以上	英語コミュニケーションⅠ	演習		1	これらの科目から2単位以上選択必修	1	幼	小
			英語コミュニケーションⅡ	演習		1		1	幼	小
			英語コミュニケーションⅢ	演習		1		2	幼	小
			英語コミュニケーションⅣ	演習		1		2	幼	小
体育	講義	1	スポーツ科学概論	講義	1		これらの科目から1単位以上選択必修	1・2 3・4	幼	小
	実技	1	スポーツ・身体運動実習A	実技		1			幼	小
			スポーツ・身体運動実習B	実技		1			幼	小
			スポーツ・身体運動実習C	実技		1			幼	小
			スポーツ・身体運動実習D	実技		1			幼	小
最低修得単位数	8 単位以上	本学が定める最低修得単位数	10 単位以上							

履修上の注意事項

- 「体育」については、「スポーツ科学概論」を1単位修得し、「スポーツ・身体運動実習A」、「スポーツ・身体運動実習B」、「スポーツ・身体運動実習C」又は「スポーツ・身体運動実習D」から1単位以上修得してください。
- 原則として、認定された単位は、教養科目における「外国語」の単位とすることはできないため、最低2単位は本学で修得してください。

② 必修科目

2026年度入学者用

厚生労働省告示による教科目				本学における開講教科目				共通開設	
系列	科目	授業形態	設置単位	左記に対応して開講されている教科目	授業形態	単位数	対象学年	幼	小
保育の本質・目的に関する科目	保育原理	講義	2	保育原理	講義	2	1	幼	
	教育原理	講義	2	教育原理	講義	2	1	幼	小
	子ども家庭福祉	講義	2	子ども家庭福祉Ⅰ	講義	2	1	幼	
	社会福祉	講義	2	社会福祉	講義	2	1		
	子ども家庭支援論	講義	2	子ども家庭支援論	講義	2	2	幼	
	社会的養護Ⅰ	講義	2	社会的養護Ⅰ	講義	2	2	幼	
	保育者論	講義	2	保育教職概論A	講義	2	1	幼	
保育の対象の理解に関する科目	保育の心理学	講義	2	保育の心理学	講義	2	1	幼	
	子ども家庭支援の心理学	講義	2	子ども家庭支援の心理学	講義	2	2		
	子どもの理解と援助	演習	1	幼児理解	演習	2	3	幼	
	子どもの保健	講義	2	子どもの保健	講義	2	1		
	子どもの食と栄養	演習	2	子どもの食と栄養	演習	2	2		
保育の内容・方法に関する科目	保育の計画と評価	講義	2	カリキュラム論	講義	2	2	幼	
	保育内容総論	演習	1	保育内容総論	演習	2	2	幼	
	保育内容演習	演習	5	保育内容演習（健康）	演習	2	3	幼	
				保育内容演習（人間関係）	演習	2	3	幼	
				保育内容演習（環境）	演習	2	3	幼	
				保育内容演習（言葉）	演習	2	3	幼	
				保育内容演習（表現）	演習	2	3	幼	
	保育内容の理解と方法	演習	4	領域健康	演習	1	1	幼	
				領域人間関係	演習	1	2	幼	
				領域環境	演習	1	1	幼	
				領域言葉	演習	1	1	幼	
				領域表現	演習	1	2	幼	
	乳児保育Ⅰ	講義	2	乳児保育Ⅰ	講義	2	2		
	乳児保育Ⅱ	演習	1	乳児保育Ⅱ	演習	2	3		
	子どもの健康と安全	演習	1	子どもの健康と安全	演習	2	2		
障害児保育	演習	2	特別支援教育・保育概論	演習	2	3	幼	小	
社会的養護Ⅱ	演習	1	社会的養護Ⅱ	演習	2	3			
子育て支援	演習	1	子育て支援	演習	2	4			
保育実習	保育実習Ⅰ	実習	4	保育実習Ⅰ	実習	4	3		
	保育実習指導Ⅰ	演習	2	保育実習指導ⅠA	演習	1	2		
				保育実習指導ⅠB	演習	1	3		
総合演習	保育実践演習	演習	2	保育教職実践演習	演習	2	4	幼	
最低修得単位数		51単位		本学が定める最低修得単位数			63単位		

③ 選択必修科目

2026年度入学者用

厚生労働省告示による教科目				本学における開講教科目						共通開設	
系 列	科 目	授業形態	設置単位	左記に対応して開講されている教科目	授業形態	単位数		対象学年	備考	幼	小
						選択必修	選択				
保育の本質・目的に関する科目	各指定保育士養成施設において設定		15 単 位 以 上	教育の制度と経営	講義		2	1		幼	小
				教育心理学	講義		2	1		幼	小
保育体験Ⅰ				演習		1	1				
教育方法（ICT活用の理論と実践を含む。）				講義		2	2		幼	小	
教育相談				講義		2	3		幼	小	
保育体験Ⅱ A				演習		1	2				
保育体験Ⅱ B				演習		1	2				
国語				講義		2	1		幼	小	
算数				講義		2	1		幼	小	
生活				講義		2	1		幼	小	
保育実習	保育実習Ⅱ又は保育実習Ⅲ	実習	2	保育実習Ⅱ	実習	2		3	保育実習Ⅱと保育実習指導Ⅱ又は保育実習Ⅲと保育実習指導Ⅲを履修する		
				保育実習Ⅲ	実習	2		4			
	保育実習指導Ⅱ又は保育実習指導Ⅲ	演習	1	保育実習指導Ⅱ	演習	1		3			
				保育実習指導Ⅲ	演習	1		4			
最低修得単位数		9単位以上 (保育実習2単位・保育実習指導1単位を含む)		本学が定める最低修得単位数			3単位	6単位以上			
							9単位以上				

2) 保育実習

「保育実習」は「保育所、乳児院や児童養護施設などの児童福祉施設での実習」と「実習の事前及び事後指導」から成り立っています。保育士養成課程における学外での実習の種別・期間(予定)等は次のとおりです。実習先決定後、一覧表を所定の掲示板に掲示しますので、日程・実習施設の確認を各自必ず行ってください。なお、決定した日程や、実習施設は原則として変更できません。よく確認をして、スケジュール管理をしてください。

■保育実習予定について

科目区分	科目名	単位数	実習施設		学年	実習時期	単位取得のための必要実習時間
必修	保育実習Ⅰ	4	公立・民間	保育所	2年	2月	90時間
			公立・民間	施設 ※1	3年	8月～2月	90時間
選択必修	保育実習Ⅱ	2	民間	保育所	3年	8月～9月	90時間
選択必修	保育実習Ⅲ	2	公立・民間	施設 ※2	4年	8月～12月	90時間

*実習時期・日程は実習先によって異なります。

※1 保育所以外の児童福祉施設

※2 ※1の他、児童館などの児童厚生施設、又は児童発達支援センターその他社会福祉関係諸法令の規定に基づき設置されている施設であって、保育実習を行う施設として適当なもの。

3) 保育教職実践演習

4年次にこの科目の履修登録を行う際には、「保育実習Ⅰ」と、「保育実習Ⅱ」又は「保育実習Ⅲ」を履修済又は履修中で、当該年度に保育士資格の登録申請が可能な状態であることが履修条件になりますので、計画的に履修を進めて下さい。(対象者はあらかじめ登録されています。)

4) 保育士登録

① 保育士登録

保育士として業務を行う者は、必ず保育士登録を受けなければなりません。ただし、保育士として業務を行わない場合は、必ずしも登録をする必要はなく、登録をしなくても資格がなくなるわけではありません。

② 保育士登録手続きについて

保育士登録を希望する学生は、4年次に所定の手続き(登録手数料等の支払いや必要書類の提出等)を行ってください。手続きに関する連絡等は、原則としてCAMPUS SQUAREの掲示板又はE-mailで行いますので、適宜確認してください。

登録資格	保育士登録を希望する指定保育士養成施設の最終学年に在籍する者であって、当該年度中に卒業することが見込まれる者(学生)であると当該指定保育士養成施設の長が認めた者(=「卒業見込者」)。
登録手数料	4,200円(国で定める標準額であり、最終的には都道府県の条例で定められます。)
保育士登録用証明書発行手数料	400円(予定)

9. 年間予定

1) 児童教育コース（小一免）

2026年度入学者用

	1年次	2年次	3年次	4年次
4月	児童教育コースガイダンス 健康診断	児童教育コースガイダンス 健康診断 教育体験ⅡA ※1	児童教育コースガイダンス 健康診断 教育実習(幼・小)事前事後指導	児童教育コースガイダンス 健康診断 教員採用試験学長推薦 学内選考試験 ※2
5月		介護等体験(2日間) 教育実習説明会		
6月				
7月				
8月		介護等体験(5日間)		
9月	教育体験Ⅰ ※1	教育体験ⅡB ※1		保育教職実践演習
10月	実習諸経費納入		教育実習開始	
11月			教育実習 ※1 (小学校で3～4週間)	教育職員免許状 大学一括申請関係手続き 免許状交付手数料等納入
12月	介護等体験実施予定者 説明会			
1月				
2月				
3月				(学位記授与式当日) 教育職員免許状受領

年間予定は、変更になる場合がありますので、CAMPUS SQUARE 及び掲示等に注意してください。

※1 「教育実習」(3年次・後期)だけでなく、「教育体験Ⅰ」(1年次・後期)、「教育体験ⅡA」(2年次・前期)、「教育体験ⅡB」(2年次・後期)で教育現場での体験学習を行います。

※2 推薦制度が変更された場合は、学内選考試験の時期も変わることがあります。

教員採用試験は、年度や自治体等によりスケジュールが異なり、3年生も対象に含まれる場合があります。1年次から情報収集を行うことを推奨します。授業外で採用試験対策講座を行いますので、学内掲示等を確認してください。

2) 幼児教育コース（幼一免・保育士）

2026 年度入学者用

	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
4 月	幼児教育コースガイダンス 健康診断	幼児教育コースガイダンス 健康診断 保育体験ⅡA ※2	幼児教育コースガイダンス 健康診断 保育実習指導ⅠB 教育実習（幼・小） 事前事後指導 保育実習指導Ⅱ ※1	幼児教育コースガイダンス 健康診断 教育実習（幼・小） 保育実習指導Ⅲ ※1
5 月				
6 月				【必修】 幼稚園教育実習 （2 回目）
7 月				
8 月			【必修】 保育実習Ⅰ （施設実習） （8～2 月まで順次）	【選択必修】 保育実習Ⅲ ※1 （施設実習） （8～12 月まで順次）
9 月	保育体験Ⅰ ※2	保育体験ⅡB ※2 保育実習指導ⅠA	【選択必修】 保育実習Ⅱ ※1 （保育所実習）	保育教職実践演習
10 月	実習諸経費納入			
11 月			【必修】 幼稚園教育実習 （1 回目）	保育士登録・教育職員免許状 大学一括申請関係手続き 保育士登録、教育職員免許状 に関する関係書類の配布等 ↓ 保育士登録申請関係書類提出 免許状交付手数料等納入
12 月				
1 月				
2 月		【必修】 保育実習Ⅰ （保育所実習）		
3 月				（学位記授与式当日） 指定保育士養成施設卒業証 明書受領 教育職員免許状受領

年間予定は変更になる場合がありますので、CAMPUS SQUARE及び掲示等に注意してください。

※1 「保育実習Ⅱ」と「保育実習Ⅲ」を履修する場合は、それぞれ「実習の事前及び事後指導」である「保育実習指導Ⅱ」と「保育実習指導Ⅲ」を併せて必ず履修して下さい。

※2 「保育体験Ⅰ、ⅡA、ⅡB」の履修については、幼児教育コースガイダンスで説明します。

人間総合学部

プログラム等

1. 人間総合学部で履修できるプログラム等一覧

人間総合学部で履修できるプログラム等

1. 人間総合学部で履修できるプログラム等一覧

人間総合学部では、以下のプログラム等を履修することができます。履修希望者は、各プログラム等のページをよく確認し、修了要件を満たすよう計画的に履修をすすめましょう。なお、複数プログラムを履修する場合は、履修すべき授業科目の時間割が重複することも考えられます。プログラムの優先順位を考えておくとよいでしょう。

2026 年度入学者用

	プログラム名等	履修可能な学科			履修開始年次	修了要件単位数			備 考
		児	発	初		必修	選必	計	
全学	白百合 数理・データサイエンス・AI教育プログラム	○	○	○	1年次	2	—	2	共通科目必修「はじめてのデータサイエンス」の単位修得をもってプログラム修了
人間総合学部で履修できるプログラム等	キリスト教文化探究プログラム	○	○	○	3年次～	2	6	8	
	ジェンダープログラム	○	○	○	2年次～	—	6	6	
	社会課題プログラム	○	○	○	2年次～	—	8	8	
	グローバルビジネスプログラム	○	○	○	1年次～	14	4	18	
	ホスピタリティ・マネジメントプログラム	○	○	○	1年次～	6	—	6	
	国際スキルとコミュニケーションプログラム	○	○	○	1年次～	4	6	10	
	児童英語プログラム	—	—	○	1年次～	6	4	10	
	登録日本語教員養成プログラム	○	○	○	1年次～	プログラムの頁参照			
	司書資格取得プログラム	○	○	○	2年次～	26	4	30	
	司書教諭資格取得プログラム	△	△	△	2年次～	10	—	10	△…初等教職課程（幼稚園教諭を除く）履修者のみ履修可能
	学校司書養成プログラム	△	△	△	2年次～	32	—	32	△…司書資格取得プログラムまたは初等教職課程（幼稚園教諭を除く）履修者のみ履修可能
	公認心理師カリキュラム	—	○	—	1年次～	66	—	66	
	初等教職課程 小学校教諭一種	△	△	○	初等教育学科の頁参照			△…選考で合格した者のみ履修可能	
	初等教職課程 幼稚園教諭一種	△	△	○	初等教育学科の頁参照			△…選考で合格した者のみ履修可能	
保育士養成課程	—	—	○	初等教育学科の頁参照					

人間総合学部

白百合 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム

文学部 当該プログラムのページを参照してください

人間総合学部

キリスト教文化探究プログラム

文学部 当該プログラムのページを参照してください

人間総合学部

ジェンダープログラム

文学部 当該プログラムのページを参照してください

人間総合学部

社会課題プログラム

文学部 当該プログラムのページを参照してください

人間総合学部

グローバルビジネスプログラム

文学部 当該プログラムのページを参照してください

人間総合学部

ホスピタリティ・マネジメントプログラム

文学部 当該プログラムのページを参照してください

人間総合学部

国際スキルとコミュニケーションプログラム

文学部 当該プログラムのページを参照してください

人間総合学部

児童英語プログラム

文学部 当該プログラムのページを参照してください

人間総合学部

登録日本語教員養成プログラム

文学部 当該プログラムのページを参照してください

人間総合学部

司書資格取得プログラム

文学部 当該プログラムのページを参照してください

人間総合学部

司書教諭資格取得プログラム

1. 司書教諭資格取得プログラムについて
2. 司書教諭資格取得プログラムに関する科目（人間総合学部）
3. 司書教諭資格取得プログラムの履修について

人間総合学部 司書教諭資格取得プログラム

1. 司書教諭資格取得プログラムについて

1) 概要

司書教諭資格取得プログラムは、学校図書館法（1953年・法律185号）に定められた「司書教諭となる資格を得るための課程を履修するプログラム」です。司書教諭とは、学校図書館法第5条の規定に基づいて設けられている（小・中・高等）学校図書館において専門職務に従事する教員のことをいいます。本学では、履修資格として「教育職員免許状（幼稚園教諭免許状を除く）を有する者、または卒業時に教育職員免許状（幼稚園教諭免許状を除く）取得見込みである者」であることが求められます。

2. 司書教諭資格取得プログラムに関する科目（人間総合学部）

2026年度入学者用

	学校図書館司書教諭講習規程の科目	単位数	本学における開講科目（初等教育学科専門科目）	対象年次	単位数
必	学校経営と学校図書館	2	学校経営と学校図書館	2・3・4	2
	学校図書館メディアの構成	2	学校図書館メディアの構成	2・3・4	2
	学習指導と学校図書館	2	学習指導と学校図書館	2・3・4	2
修	読書と豊かな人間性	2	読書と豊かな人間性	2・3・4	2
	情報メディアの活用	2	情報メディアの活用	2・3・4	2
本学における司書教諭資格取得プログラム修了に必要な単位数 合計					10

3. 司書教諭資格取得プログラムの履修について

1) 対象

本プログラムは人間総合学部初等教育学科児童教育コースの学生または同学科同コースを他学科・他コース履修している学生が履修できます。履修開始は2年次からとなります。

2) 修了要件

必修科目10単位を修得することが修了の要件となります。修了要件を満たした履修者には、学校図書館司書教諭講習規程第6条により修了証書が文部科学省より交付されます。なお、修了証書の交付はすべての単位を修得した年度末から1年後（予定）となります。

3) 履修登録単位数の上限（加算なし）

本プログラムは、履修登録単位数の上限への加算はありません。半期ごとの履修登録単位数の上限は24単位となりますので、計画的に履修をすすめてください。

4) 単位の取り扱い

本プログラムの科目は、初等教育学科専門科目として開講しています。修得した単位の取り扱いについては、所属学科により異なります。

初等教育学科の学生

初等教育学科専門科目の単位

初等教育学科児童コースを他学科履修している学生

他学科専門科目の単位（「科目区分を特定しない自由選択単位（差の単位）」となります。）

5) プログラム履修開始までの流れ

本プログラムの履修開始までの流れは以下のとおりです。

履修手続きの確認

初等教育学科より配布される資料「『司書教諭資格取得プログラム』履修手続き」をよく読んでください。

履修申込フォームの入力・送信 および 履修費の納入

3月末の指定期日までに履修申込フォームの入力・送信を、4月の指定期日までに司書教諭課程履修費の納入を行ってください。

6) プログラム履修に関する費用

本プログラムを履修するには、履修費 20,000 円（履修初年度4月納入）が必要となります。納入期間・方法等詳細はCAMPUS SQUAREにて該当者へお知らせします。なお、一旦、納入された履修費は、いかなる理由があっても返還することはできません。また、修了証書の申請には、別途、手数料が必要になります（合計 400 円（前年度実績））。

7) プログラム履修の留意事項

本プログラムへの履修者登録は、卒業時までにはプログラム修了に必要な単位の修得を保証するものではありません。また、本プログラムに関する科目とそれ以外の科目との時間割の調整は行いません。履修を希望する授業科目同士の時間割重複もあり得ることから、下級年次から計画的かつ積極的に履修をすすめてください。

8) プログラム履修の辞退

本プログラムの履修を辞退する場合は、教務課へ辞退届を提出してください。

9) プログラムに関するサポート

本プログラムに関する質問は、教務課へお問い合わせください。

人間総合学部

学校司書養成プログラム

1. 学校司書養成プログラムについて
2. 学校司書養成プログラムに関する科目（人間総合学部）
3. 学校司書養成プログラムの履修について

人間総合学部 学校司書養成プログラム

1. 学校司書養成プログラムについて

1) 概要

学校司書とは、学校図書館を運営していくために必要な専門的・技術的職務に従事しながら、学校図書館を活用した授業やその他の教育活動を教員とともに進める職員です。学校図書館法（1953年・法律185号）が2014年に改正され、学校には学校司書を置くよう努めなければならないと規定されました。

本学の学校司書養成プログラムは「学校司書のモデルカリキュラム」（2016年・文部科学省通知〔28文科初第1172号〕）に基づいており、所定の科目を履修することで学校司書のモデルカリキュラムの履修証明を得ることができます。

2. 学校司書養成プログラムに関する科目（人間総合学部）

2026年度入学者用

	学校司書のモデルカリキュラム (文部科学省通知科目)	単位数	本学における開講科目	科目区分	対象年次	単位数
必修	学校図書館概論	2	学校経営と学校図書館	人初	2・3・4	2
	図書館情報技術論	2	図書館情報技術論	司書	2・3・4	2
	図書館情報資源概論	2	図書館情報資源概論	司書	2・3・4	2
	情報資源組織論	2	情報資源組織論	司書	2・3・4	2
	情報資源組織演習	2	情報資源組織演習（目録）	司書	3・4	2
			情報資源組織演習（分類）	司書	3・4	2
	学校図書館サービス論	2	図書館サービス特論（学校） *1	司書	3・4	2
	学校図書館情報サービス論	2	情報サービス論	司書	2・3・4	2
			情報サービス演習Ⅰ	司書	3・4	2
			情報サービス演習Ⅱ	司書	3・4	2
	学校教育概論	2	教育原理	人初	1 *3	2
			教育心理学	人初	1 *3	2
			特別支援教育・保育概論	人初	3 *3	2
			カリキュラム論 *2	人初	2 *3	2
カリキュラム論 *2			教職	3 *4		
学習指導と学校図書館	2	学習指導と学校図書館	人初	2・3・4	2	
読書と豊かな人間性	2	読書と豊かな人間性	人初	2・3・4	2	
本学における学校司書養成プログラム修了に必要な単位数 合計						32

*1 司書資格取得プログラムを履修している学生は、司書資格取得プログラム選択必修として履修可能な2科目のうちの1科目として、「図書館サービス特論（学校）」を必ず含めるようにしてください。また、本科目は隔年開講となります。学校司書養成プログラムの修了のためには、開講された年度に先送りすることなく必ず履修してください。

*2 初等教育学科の学生および同他学科履修の学生は初等教育学科専門科目、司書資格取得プログラムを履修している学生は教職に関する科目の各科目区分より「カリキュラム論」を履修し、2単位を修得してください。

*3 初等教育学科における対象年次を示しています。初等教育学科以外の学生は、上の表で示されている対象年次以降に履修してもかまいません。

*4 中学・高校教員免許取得プログラムにおける対象年次を示しています。中学・高校教員免許取得プログラムを履修していない学生は、上の表で示されている対象年次以降に履修してもかまいません。

3. 学校司書養成プログラムの履修について

1) 対象

人間総合学部の学校司書養成プログラムは司書資格取得プログラムを履修している学生、人間総合学部初等教育学科児童教育コースの学生または同学科同コースを他学科・他コース履修している学生が履修できます。履修開始は原則2年次からとなります。3年次以降の履修開始を希望する場合は、前期の事前登録期間終了までに教務課へ申し出ることで履修を認められることがあります。

2) 修了要件

本プログラムは、必修科目32単位を修得することが修了の要件となります。修了要件を満たしたプログラム履修者には、卒業時に本学が発行する「学校司書のモデルカリキュラム修了証」を授与します。

3) 履修登録単位数の上限（加算なし）

本プログラムは、履修登録単位数の上限への加算はありません。半期ごとの履修登録単位数の上限は24単位となりますので、計画的に履修をすすめてください。

4) 単位の取り扱い

本プログラムの科目は、司書に関する科目、教職に関する科目、初等教育学科専門科目から成っています。初等教育学科の学生における初等教育学科専門科目を除き、修得した単位は「科目区分を特定しない自由選択単位（差の単位）」として卒業の単位に含まれます。

5) プログラム履修開始までの流れ

本プログラムの履修開始までの流れは以下のとおりです。

登録説明会への参加

プログラム履修を希望する学生は、1年次後期実施の登録説明会へ必ず参加してください。

履修届の提出

指定期日までに履修届を提出してください。

6) プログラム履修の留意事項

本プログラムへの登録は、卒業時までプログラム修了に必要な単位の修得を保証するものではありません。また、プログラムに関する科目とそれ以外の科目との時間割の調整は行いません。履修を希望する授業科目同士の時間割重複もあり得ることから、下級年次から計画的かつ積極的に履修をすすめてください。

7) プログラム履修の辞退

本プログラムの履修を辞退する場合は、教務課へ辞退届を提出してください。

8) プログラムに関するサポート

本プログラムに関する質問は、教務課へお問い合わせください。

公認心理師カリキュラム

1. カリキュラム（学部）
2. 公認心理師について
3. 本学における公認心理師カリキュラム（学部）の履修について
4. 心理演習
5. 心理実習
6. 公認心理師カリキュラム（学部）に対応する科目

人間総合学部 公認心理師カリキュラム

1. カリキュラム (学部)

2026 年度入学者用

()内の数字は科目の単位数

		1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	
公認心理師必修科目	心理学基礎科目	公認心理師の職責 (2) 心理学概論A (2) 心理学概論B (2) 臨床心理学概論 (2) 心理学統計法ⅠA (2)	心理学実験Ⅰ (4) 心理学実験Ⅱ (4) 心理学統計法ⅠB (2) 心理学統計法Ⅱ (2)	心理学研究法 (2)		
	基礎心理学		発達心理学概論A (2) 発達心理学概論B (2)	知覚・認知心理学 (2) 感情・人格心理学 (2) 社会・集団・家族心理学 (2) 障害者・障害児心理学 (2)	心理的アセスメントA (2) 心理的アセスメントB (2)	
		学習・言語心理学 (2)	神経・生理心理学 (2)	心理学的支援法 (2)		
	心理学発展科目	実践心理学	健康・医療心理学 (2) 福祉心理学 (2)	司法・犯罪心理学 (2) 産業・組織心理学 (2)	教育・学校心理学 (2)	
		心理学関連科目	人体の構造と機能及び疾病 (2)	関係行政論 (2)	精神疾患とその治療 (2)	
心理実習科目				心理演習 (2)		
				心理実習 (2)		

2. 公認心理師について

1) 公認心理師について

公認心理師は、公認心理師法で定められている国家資格です。公認心理師とは、公認心理師登録簿への登録を受け、公認心理師の名称を用いて、保健医療、福祉、教育その他の分野において、心理学に関する専門的知識及び技術をもって、次に掲げる行為を行うことを業とする者をいいます。

- (1) 心理に関する支援を要する者の心理状態の観察、その結果の分析
- (2) 心理に関する支援を要する者に対する、その心理に関する相談及び助言、指導その他の援助
- (3) 心理に関する支援を要する者の関係者に対する相談及び助言、指導その他の援助
- (4) 心の健康に関する知識の普及を図るための教育及び情報の提供

2) 公認心理師になるには

公認心理師になるには、次の3つのステップが必要です。大学(学部)で履修できるのは以下に記載している(1)のみで、さらに加えて(2)と(3)が必要であることを十分に理解した上で、今後の学修計画や進路選択を行きましょう。

- (1) 公認心理師カリキュラムをもつ大学において、所定の科目を履修し、卒業する。
- (2) 公認心理師カリキュラムをもつ大学院において、所定の科目を履修し、修了する。もしくは、指定された施設で学部卒業後2年間の実務経験を積む。
- (3) 国家試験である公認心理師試験に合格する。

3. 本学における公認心理師カリキュラム（学部）の履修について

1) 対象

公認心理師カリキュラム（学部）は、人間総合学部発達心理学科の学生が対象となります。

2) 履修

「1. カリキュラム表（学部）」および「6. 公認心理師カリキュラム（学部）に対応する科目」に示すとおり、公認心理師カリキュラム（学部）においては、文部科学省令・厚生労働省令で定められている所定の科目すべての単位を修得する必要があります。入学年度により履修科目名が異なりますので、履修にあたっては十分注意してください。特に、「5. 心理実習 1) 履修要件」にある科目は優先的に履修できるよう計画してください。

3) 履修登録単位数の上限（加算なし）

公認心理師カリキュラム（学部）は、履修登録単位数の上限への加算はありません。半期ごとの履修登録単位数の上限は24単位となりますので、計画的に履修をすすめてください。

4) カリキュラム履修の届出・辞退

公認心理師カリキュラム（学部）の履修を希望する学生は、公認心理師カリキュラムガイダンス（1年次5月）に出席し、所定の期日までに志望届（Web）を提出してください。また、2年次までに「公認心理師の職責」の単位を必ず修得してください。履修を取り下げる場合は、「心理実習」担当教員（主担当）に申し出て必要な手続きをしてください。

5) 公認心理師カリキュラム（学部）に関するサポート

公認心理師カリキュラム（学部）に関する質問は、発達心理学科研究室へお問い合わせください。

4. 心理演習

1) 履修要件

「心理演習」を履修するためには、以下の17科目38単位を前学期までに修得していることが必要です。

発達心理学科1年次必修科目（6科目12単位）

心理学概論A（2）、心理学概論B（2）、発達心理学基礎演習A（2）、発達心理学基礎演習B（2）、心理学統計法I A（2）、臨床心理学概論（2）

発達心理学科2年次必修科目（10科目24単位）

発達心理学概論A（2）、発達心理学概論B（2）、発達臨床心理学概論（2）、心理学実験I（4）、心理学実験II（4）、心理学統計法I B（2）、心理学統計法II（2）、論文講読基礎演習（2）、英語論文講読演習（2）、キャリア研究（2）

発達心理学科選択科目のうち対象学年1年次科目（1科目2単位）

公認心理師の職責（2）

2) 履修登録

3年次前期にあらかじめ研究室登録されています。事前登録申請期間に各自で確認してください。

5. 心理実習

1) 履修要件

「心理実習」を履修するためには、以下の21科目46単位を前学期までに修得していることが必要です。

発達心理学科1年次必修科目（6科目12単位）

心理学概論A（2）、心理学概論B（2）、発達心理学基礎演習A（2）、発達心理学基礎演習B（2）、心理学統計法I A（2）、臨床心理学概論（2）

発達心理学科2年次必修科目（10科目24単位）

発達心理学概論A（2）、発達心理学概論B（2）、発達臨床心理学概論（2）、心理学実験Ⅰ（4）、心理学実験Ⅱ（4）、心理学統計法ⅠB（2）、心理学統計法Ⅱ（2）、論文講読基礎演習（2）、英語論文講読演習（2）、キャリア研究（2）

発達心理学科選択科目のうち対象学年1年次科目（4科目8単位）

公認心理師の職責（2）、福祉心理学（2）、健康・医療心理学（2）、人体の構造と機能及び疾病（2）

発達心理学科3年次（前期）選択科目（1科目2単位）

心理演習（2）

2) 履修登録

3年次後期にあらかじめ研究室登録されています。事前登録申請期間に各自で確認してください。

3) 実習費

学外実習につき別途実習費の納入が必要になります。納入金額・方法等については、別途対象者へ連絡いたします。
（参考：約20,000円、9月中旬から10月初旬に証明書自動発行機にて納入）

期間内に納入手続きを行わない場合「心理実習」を履修することはできません。また、一旦納入された実習費は、いかなる理由があっても返還することはできません。

なお、実習費の他に、予防接種関係費用、白衣クリーニング代、交通費、食事代、証明書発行手数料等の実費が自己負担となります。

4) 実習期間・時間帯

3年次後期から4年次前期までの期間に実習が行われます。3年次後期の月3・4限に心理実習の履修が登録されますが、外部実習時の移動の関係で3年次後期の月曜5限も空けておくようにしてください。

また、月3・4限とは別枠で外部実習が行われます。春休みに単発もしくは連続で外部実習に行く他、主に木1・2限の時間帯に小学校実習を予定しています。詳しくは、実習ガイダンス、担当教員の指導にしたがってください。

5) 成績通知および単位認定時期

実習終了後の4年次学年末に成績が通知され、合格すると単位が認定されます。

6. 公認心理師カリキュラム（学部）に対応する科目

2026年度入学者用

	公認心理師法施行規則に定める科目	本学における開講科目	単位数	対象年次
公 認 心 理 師 必 修 科 目	① 公認心理師の職責	公認心理師の職責	2	1
	② 心理学概論	心理学概論A	2	1
		心理学概論B	2	1
	③ 臨床心理学概論	臨床心理学概論	2	1
	④ 心理学研究法	心理学研究法	2	3
	⑤ 心理学統計法	心理学統計法ⅠA	2	1
		心理学統計法ⅠB	2	2
		心理学統計法Ⅱ	2	2
	⑥ 心理学実験	心理学実験Ⅰ	4	2
		心理学実験Ⅱ	4	2
	⑦ 知覚・認知心理学	知覚・認知心理学	2	3・4
	⑧ 学習・言語心理学	学習・言語心理学	2	2・3・4
	⑨ 感情・人格心理学	感情・人格心理学	2	3・4
	⑩ 神経・生理心理学	神経・生理心理学	2	2・3・4
	⑪ 社会・集団・家族心理学	社会・集団・家族心理学	2	3・4
	⑫ 発達心理学	発達心理学概論A	2	2
		発達心理学概論B	2	2
	⑬ 障害者（児）心理学	障害者・障害児心理学	2	3・4
	⑭ 心理的アセスメント (この中で2単位を修得すること)	心理的アセスメントA *	2	3・4
		心理的アセスメントB *	2	3・4
	⑮ 心理学的支援法	心理学的支援法	2	2・3・4
	⑯ 健康・医療心理学	健康・医療心理学	2	1
	⑰ 福祉心理学	福祉心理学	2	1
	⑱ 教育・学校心理学	教育・学校心理学	2	3・4
	⑲ 司法・犯罪心理学	司法・犯罪心理学	2	2・3・4
⑳ 産業・組織心理学	産業・組織心理学	2	2・3・4	
㉑ 人体の構造と機能及び疾病	人体の構造と機能及び疾病	2	1	
㉒ 精神疾患とその治療	精神疾患とその治療	2	3・4	
㉓ 関係行政論	関係行政論	2	2・3・4	
㉔ 心理演習	心理演習	2	3	
㉕ 心理実習	心理実習	2	3・4	
本学が定める最低修得単位数			66単位	

* 心理的アセスメントAおよび心理的アセスメントBは1科目で公認心理師カリキュラムの要件を満たしますが、科目内容が異なるため、卒業までに両方を履修することを推奨します。

大学院 文学研究科

修了認定に関する方針

／教育課程の編成及び実施に関する方針

課程修了および学位取得スケジュール

指導教員

修了要件単位数およびカリキュラム

授業・履修

大学院科目履修取消申請

委託特別聴講生制度

修士論文および特定の課題についての研究の成果

博士学位論文（課程博士）

在学延長・単位取得退学

専修免許状の取得

公認心理師カリキュラム

臨床心理士カリキュラム

臨床発達心理士カリキュラム

修了認定に関する方針／教育課程の編成及び実施に関する方針

2026年度入学者用

【発達心理学専攻】

1. 教育研究上の目的

博士課程（前期）

発達心理学専攻（博士課程（前期））は、人間の生涯にわたる心と行動の発達とその臨床的な対応について、発達心理学および発達臨床心理学の立場から専門的に研究・教育を行い、専門的な知識、理論および技能を備え、他の領域の専門家とも連携しつつ幅広い分野で発達支援を行うことのできる人材の養成を目的とする。

博士課程（後期）

発達心理学専攻（博士課程（後期））は、人間の生涯にわたる心と行動の発達とその臨床的な対応について、発達心理学および発達臨床心理学の立場から専門的に研究・教育を行い、高度に専門的な知識、理論および技能を備え、他の領域の専門家とも連携しつつ幅広い分野で発達支援を行うことができる人材、またこの領域に関する理論と知識の創生に寄与しうる人材の養成を目的とする。

2. 修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

発達心理学専攻は、学生が修了する時点において、博士課程（前期）・博士課程（後期）それぞれの課程修了の要件を満たし、かつ、学業成績並びに学位論文に基づき、以下の能力を身につけたと認められる者に対し、それぞれ修士（心理学）、博士（心理学）の学位を授与する。

博士課程（前期）

- 1) 発達心理学および発達臨床心理学に関する専門的な理論や知識、技能を修得し、自らの研究関心に応じて必要なデータを収集・分析するための方法を身につけ、そこから得られた知見を専門的な論文によって発表する能力。
- 2) 発達支援に関する社会的な要請を理解し、臨床実践の場において、または研究の場において、専門的に貢献する能力。
- 3) 発達心理学および発達臨床心理学、さらには隣接する諸領域の研究動向に関心を持ち、これを総合的にまとめ、現実的問題に柔軟に対応する能力。

博士課程（後期）

- 1) 発達心理学および発達臨床心理学に関する広範かつ高度な専門的な理論や知識、技能を修得し、専門的かつ詳細なデータ分析を行い、そこから得られた知見を専門的な論文に発表し、その領域での研究者としての基盤を作る能力。
- 2) 発達支援に関する社会的な要請を理解し、臨床実践の場において、または研究の場において、専門家として貢献し、時に指導的な立場を担う能力。
- 3) 発達心理学および発達臨床心理学、さらには隣接する諸領域の研究動向に細心の注意を払い、それらをまとめて独自の理論を創造的・学問的に考える能力。

3. 論文審査基準

以上の目標を達成するために展開される教育活動および学修・研究活動の成果として提出される修士論文・博士論文については、以下の基準によって評価される。

修士論文

- 1) 発達心理学または発達臨床心理学の研究における学術的寄与、および知見の社会的意義
- 2) 研究テーマの学問的意義の適切性
- 3) 先行研究のレビューの適切性
- 4) 研究方法の適切性
- 5) 収集されたデータの質および量と、その分析の適切性

- 6) 論文の構成の適切性
- 7) 論旨の明確性と一貫性
- 8) 文章の表現・表記や、図表等の書式の適切性
- 9) 研究の倫理的適切性

博士論文

- 1) 発達心理学または発達臨床心理学の研究における学術的寄与、および知見の社会的意義
- 2) 研究テーマの学問的意義の適切性と創造性
- 3) 先行研究のレビューの広範囲な引用による適切性
- 4) 研究方法の適切性
- 5) 収集されたデータの質および量と、その高度な手法を用いた分析の適切性
- 6) 論文の構成の適切性
- 7) 論旨の明確性と一貫性
- 8) 文章の表現・表記や、図表等の書式の適切性
- 9) 研究の倫理的適切性

4. 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）

発達心理学専攻では、修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる能力を身につけるため、以下のように教育課程を編成・実施する。

博士課程（前期）

- 1) 発達心理学・発達障害および臨床心理学、さらには隣接諸領域に関する専門的な理論や知識、また研究方法や臨床的な技能を身につけるために、発達心理学を中心に心理学および臨床心理学の各領域にわたる演習科目を設置している。
- 2) 本学附属の発達臨床センターや学外の医療機関・学校等における実習科目を開設している。これは臨床心理士、及び公認心理師の資格試験の受験要件を満たすようにしている。加えて、生涯発達研究教育センターが開催する研究会に参加することを求め、学内外の研究者の研究発表と討論の場に参加して学ぶ機会を設けている。
- 3) 本課程の学修の集大成として修士論文研究を課している。発達心理学および発達臨床心理学、さらには隣接する諸領域の研究動向への関心に基づき、「修士論文指導」科目において指導教員から「論文審査基準」について指導を受けつつ研究を進める。その成果を「修士論文（中間）発表会」で口頭発表したり、『発達臨床センター紀要』・『生涯発達心理学研究（生涯発達研究教育センター紀要）』に投稿したりすることを通じて、研究発表の現実的な仕方についても学ぶことを期している。

博士課程（後期）

- 1) 「研究指導」科目においては、「論文審査基準」に掲げる各項目の内容に沿って指導教員とともに検討しながら、創造的な思考に基づき博士論文作成の過程を進めていく。あわせてこの科目では、国内外での学会発表におけるポスターや発表原稿の作成、口頭発表の行い方、ジャーナル・ペーパーの作成、そして最新の研究動向の把握など、研究者として必要な資質の育成も期している。
- 2) 本専攻のカリキュラムではないが、他の研究機関等でのプロジェクトへの参加や臨床現場での実務経験、非常勤講師の経験などを通じて、研究者・臨床家・教育者として指導的な立場になるための実践的な力量形成を図ることも奨励している。
- 3) 「心理学実験指導法」科目では、将来教育職に就く可能性を見通して、学部学生を対象として心理学の方法（実験法・調査法等の研究方法全般、データ分析と心理統計、レポート作成と発表）を指導する経験を通じて、この面での力量形成を期している。さらに、必要に応じて博士課程（前期）科目を履修することを認めており、研究を発展させる上での知識基盤の拡充を図る。

【児童文学専攻】

1. 教育研究上の目的

博士課程（前期）

児童文学専攻（博士課程（前期））は、児童の環境を形成する児童文学・児童文化の研究を通して、想像力と創造力に基づいた専門的知識をもった人材の養成を目的とする。

博士課程（後期）

児童文学専攻（博士課程（後期））は、児童の環境を形成する児童文学・児童文化の研究を通して、想像力と創造力に基づいた専門的知識および高度な研究能力をもった人材の養成を目的とする。

2. 修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

児童文学専攻は、学生が修了する時点において、博士課程（前期）・博士課程（後期）それぞれの課程修了の要件を満たし、かつ、学業成績並びに学位論文に基づき、以下の能力を身につけたと認められる者に対し、それぞれ修士（文学）、博士（文学）の学位を授与する。

博士課程（前期）

- 1) 児童文学および児童文化に関する広い視野と高度な知識に基づいた思考能力。
- 2) 研究倫理を遵守し、専門分野に関する適切な研究方法に従って、情報収集を行う能力および文献・資料を読み解く能力。
- 3) 独自性のある研究成果を導き出し、それを的確な表現力をもって発信する能力。
- 4) 専門分野に関する社会的要請を理解し、専門的な知識に基づいて現実的諸問題に対応する能力。

博士課程（後期）

- 1) 児童文学および児童文化における深い学術的知見に基づき、独自の研究課題を追求する能力。
- 2) 博士課程（前期）で培った調査力・分析力・考察力をさらに発展させ、独創的かつ自立した研究を遂行し、その成果を正確かつ高度な表現力をもって発信する能力。
- 3) 専門分野およびそれらに隣接する領域の動向に関心を持ち、柔軟な想像力・創造力を用いて学問的・実践的諸問題に対応する能力。
- 4) 専門分野に関する社会的要請を理解し、実践および研究・教育の場において、精深な学識に基づいて寄与・貢献する能力。

3. 論文審査基準

上記の目標を踏まえ、修士論文・博士論文は、以下の基準によって評価される。

修士論文

- 1) 児童文学または児童文化の研究における学術的寄与および知見の社会的意義
- 2) 研究テーマの学問的意義の適切性
- 3) 先行研究の参照の適切性
- 4) 研究方法の適切性
- 5) 収集した資料の質および量とその分析・解釈の適切性
- 6) 論文の構成の適切性
- 7) 論旨の明確性と一貫性
- 8) 文章の表現・表記や図表・画像等の書式の適切性
- 9) 研究の倫理的適切性

博士論文

- 1) 児童文学または児童文化の研究における高度の学術的寄与および知見の社会的意義と具体的な貢献の可能性
- 2) 研究テーマの学問的意義の適切性
- 3) 先行研究の参照の適切性
- 4) 研究方法の適切性
- 5) 収集した資料の質および量とその分析・解釈の適切性

- 6) 論文の構成の適切性
- 7) 論旨の明確性と一貫性
- 8) 文章の表現・表記や図表・画像等の書式の適切性
- 9) 研究の倫理的適切性

4. 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）

児童文学専攻では、修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる能力を身につけるため、以下のよう
に教育課程を編成・実施する。

博士課程（前期）

- 1) 学生が児童文学・児童文化に関する専門的な知識や理論および研究方法を身につけ、自らの想像力・創造力を
発展させるために、児童文学・文化に特化した科目を設置する。
- 2) 学生が学修の成果を修士論文にまとめるために、「修士論文指導」科目を設置する。学生は複数の教員の指導
を受け、「課程修了および学位取得スケジュール」に基づき、本専攻の修士論文審査基準にしたがって、修士
論文を執筆していく。
- 3) 学生は、本学附属の「児童文化研究センター」が刊行する『児童文化研究センター研究論文集』（査読制）へ
の投稿や、修士論文発表会への参加を通じて、論文のまとめ方や発表の仕方を学ぶことができる。
- 4) 学生は、「児童文化研究センター」が主催する各種プログラム（研究会、講演会、プロジェクト等）への参加
を通じて、専門分野に関する社会的要請を理解することができる。

博士課程（後期）

- 1) 学生が児童文学・児童文化の専門的な研究の成果として博士論文を作成するために、「研究指導」科目を設置
する。学生は複数の教員の指導を受け、「課程修了および学位取得スケジュール」に基づき、本専攻の博士論
文審査基準にしたがって、博士論文を執筆していく。
- 2) 学生は、本学附属の「児童文化研究センター」が刊行する『児童文化研究センター研究論文集』（査読制）へ
の投稿や、研究発表会への参加を通じて、論文のまとめ方や学会等での発表の作法を学ぶことができる。
- 3) 学生が児童文学・児童文化固有の各ジャンルに適した研究方法を身につけるために、「児童文学研究法」を設
置する。学生は、必要に応じて、博士課程（前期）科目を履修し、研究の基礎となる知識や理論を幅広く拡充
することもできる。
- 4) 学生は、「児童文化研究センター」が主催する各種プログラム（研究会、講演会、プロジェクト等）に参加し
て内外の研究者と交流することによって、専門分野に関する社会的要請を理解し、専門領域ならびに関連領域
に関する最新の学問動向に触れることができる。

【国語国文学専攻】

1. 教育研究上の目的

国語国文学専攻（修士課程）は、国語および国語を用いて表現されたもの全般に関する研究をとおして体系的な専門
知識を身につけ、研究者、教育者をはじめ、わが国の文化の発展に積極的に寄与しうる人材の養成を目的とする。

2. 修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

国語国文学専攻は、学生が修了する時点において、課程修了の要件を満たし、学業成績並びに、学位論文または特別
の課題についての研究の成果に基づき、以下の能力を身につけたと認められる者に対し修士（文学）の学位を授与す
る。

- 1) 自らの研究関心によって必要なデータを収集・分析するための方法を身につけ、得られた知見を専門的な論文
などによって発表する能力。
- 2) 国語学、国文学、また、国語教育、日本語教育などに関する専門的な理論や幅広い知識、技能を修得し、日本
の言語文化に関する社会的な要請を理解することで、専門的な貢献をする能力。
- 3) 国語国文学、さらには隣接する諸領域の研究動向に関心を持ち、新たな学問的あるいは現実的問題に対応する
能力。

3. 論文審査基準

以上の目標を達成するために展開される教育活動および学修・研究活動の成果として提出される修士論文および特定の課題についての研究の成果は、以下の基準によって評価される。

・修士論文は、以下の基準によって評価される。

- 1) 学術上の創意工夫が認められるものであること。
- 2) 研究分野に関する知識が十分に備わっていること。
- 3) 研究の目的と方法が適切であること。
- 4) 論理的構成をとり、正確な記述であること。
- 5) 研究が倫理的に適切であること。

・特定の課題についての研究の成果は、以下の基準によって評価される。

I 課題論文（3本）

- 1) 3つの課題論文が、研究対象の専門的で多角的な分析として、その総合的な理解に寄与していること。
- 2) それぞれの課題論文について、研究の目的および方法が明確であること。
- 3) それぞれの課題論文について、記述が論理的で表現が緻密であること。
- 4) 3つの課題論文をあわせて、研究上一定の成果が認められるものであること。
- 5) 指導教員の指導および中間発表会における指摘が反映されたものであること。

II 教材研究

- 1) 自ら開発した教材と、実践的な知見に基づく研究成果の報告をともに含んでいること。
- 2) 教育実践上の成果が期待できるものであること。
- 3) 研究の目的および方法が明確であること。
- 4) 報告の記述が論理的で表現が緻密であること。
- 5) 指導教員の指導および中間発表会における指摘が反映されたものであること。

III 翻刻・注釈・現代語訳

- 1) 既存の翻刻・注釈・現代語訳が備わらず、研究上有用と認められる作品・資料を対象としていること。
- 2) 原文の内容を正確に把握した翻刻・現代語訳であること。もしくは、作品の理解に寄与する注釈を施していること。
- 3) 作品の研究上の位置づけや、翻刻・注釈・現代語訳にあたっての方針が、明確に示されていること。
- 4) 指導教員の指導が反映されたものであること。

IV 研究資料（年譜・参考文献目録等）

- 1) 既存の年譜・参考文献目録等が備わらない作家・研究領域を対象とし、網羅的な内容かつ研究対象の理解に寄与するものであること。
- 2) 研究対象の客観的位置づけや、資料作成にあたっての方針が、明確に示されていること。
- 3) 指導教員の指導が反映されたものであること。

4. 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）

国語国文学専攻では、修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる能力を身につけるため、以下のよう

に教育課程を編成・実施する。

- 1) 学生自身の関心と課題に基づく修士論文作成を目的として、「修士論文指導」科目を設置する。また、修士論文に代わる、特定の課題についての研究を希望する学生に対しては「特定の課題に関する研究指導」科目を設置し、複数の教員による指導を行う。これらの科目は「課程修了および学位取得スケジュール」、国語国文学専攻の「論文審査基準」に従う。
- 2) 国語学、国文学、また国語教育、日本語教育など国語および国語を用いて表現されるもの全般に関する専門的な理論・教養・知識・技能を身につけることで、広く社会に貢献しうることを目的として、専攻に関わる各時代・各分野の演習科目を設置する。
- 3) 言語文学に対して、より深く幅広い教養・知識を身につけることを目的として、他言語他文化を含めた講義「オ

ムニバス」科目を履修することができる。また、専攻内での隣接分野にも広く接することを目的として、修士論文または特定の課題についての研究の成果を執筆する年度には、年に一度開催される「研究発表会」で発表の機会を設け、専攻全体で指導を行う機会を持つ。

【フランス語フランス文学専攻】

1. 教育研究上の目的

フランス語フランス文学専攻は、フランス語、フランス文学・文化およびフランス語教育の研究において体系的に学識を深め、幅広い専門知識と研究能力、言語運用能力を持ち、教育・研究機関のみならず多様な分野において、文化の進展に寄与しうる人材の養成を目的とする。

2. 修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

フランス語フランス文学専攻は、学生が修了する時点において、課程修了の要件を満たし、学業成績並びに、学位論文または特定の課題についての研究の成果に基づき、以下の能力を身につけたと認められる者に対し修士（文学）の学位を授与する。

- 1) フランス語学、フランス文学、フランス文化、フランス語教育に関する体系的な理論と知識を学び、自らの研究の必要性に応じて文献、データを収集・分析し、そこから得られた知見をもとに独自の考察を行う能力。
- 2) 社会的な要請を理解し、研究の場において、または実践の場において、研究の経験を活かした貢献をする能力。
- 3) フランス語学、フランス文学、フランス文化、フランス語教育に関する最新の学問的達成を注視し、学問上の新たな課題にも柔軟に対応する能力。

3. 論文審査基準

以上の目標を達成するために展開される教育活動および学修・研究活動の成果として提出される修士論文および特定の課題についての研究の成果は、以下の基準によって評価される。

・修士論文は、以下の基準によって評価される。

- 1) 研究対象および関連事項を精査したものであること。
- 2) 研究の目的および方法が明確であること。
- 3) 内容の展開が論理的であること。
- 4) 記述の表現が緻密であること。
- 5) 研究上一定の成果が認められるものであること。
- 6) 指導教員の指導および中間発表会における指摘が反映されたものであること。

・特定の課題についての研究の成果は、以下の基準によって評価される。

I 課題論文（4本）

- 1) 4つの課題論文が、研究対象の専門的で多角的な分析として、その総合的な理解に寄与していること。
- 2) それぞれの課題論文について、研究の目的および方法が明確であること。
- 3) それぞれの課題論文について、記述が論理的で表現が緻密であること。
- 4) 4つの課題論文をあわせて、研究上一定の成果が認められるものであること。
- 5) 指導教員の指導および中間発表会における指摘が反映されたものであること。

II フィールドワーク・教材研究

- 1) 教育現場におけるフィールドワークの記録あるいは自ら開発した教材と、実践的な知見に基づく研究成果の報告をともに含んでいること。
- 2) 研究の目的および方法が明確であること。
- 3) 報告の記述が論理的で表現が緻密であること。
- 4) 研究上一定の成果が認められるものであること。
- 5) 指導教員の指導および中間発表会における指摘が反映されたものであること。

III 仏和翻訳

- 1) フランス語で書かれ公刊された作品で、かつ既訳のないものの日本語訳であること。

- 2) フランス語原文の語彙や文法を正しく理解していること。
- 3) フランス語原文のニュアンスを正確に伝えていること。
- 4) 作品の客観的位置づけや、翻訳にあたっての方針が、明確に示されていること。

4. 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）

フランス語フランス文学専攻では、修了認定・学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる能力を身につけるため、以下のように教育課程を編成・実施する。

- 1) 学生がフランス語学、フランス文学、フランス文化、フランス語教育に関する専門的な知識や技能を修得することを目的とした研究科目を置く。また、専門領域に関わらず、すべての基礎となるフランス語運用能力の向上を目的とした演習科目を置く。
- 2) 修士論文および特定の課題についての研究については、その作成を指導教員が指導するため、「修士論文指導」科目、「特定の課題に関する研究指導」科目を置く。また、学生が言語文学に関するより深く幅広い教養や知識を身につけ、専門的立場からの社会に貢献できるように、「オムニバス」科目の履修ができるようにする。
- 3) 以上の授業科目と並行する形で年間2回の中間発表会を催し、修士論文または特定の課題について、その中間成果のまとめを学生に促すとともに、研究成果を口頭で発表する訓練を行う機会を学生に提供する。なお、指導教員は、修士課程入学直後より学生との連絡を密にし、授業内、授業外において研究の進め方や論文の作成の仕方についてアドバイスを与え指導を行う。

【英語英文学専攻】

1. 教育研究上の目的

英語英文学専攻は、イギリス文学・文化、アメリカ文学・文化、英語学・英語教育学、国際社会・文化の領域において、体系的に学識を深め、高い専門性と幅広い教養を学び、修得した専門知識や研究能力を基盤に、将来、研究職や英語教育の場で活躍できる人材、ならびに高い英語運用力を活用して、国際社会にも寄与しうる人材の養成を目的とする。

2. 修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

英語英文学専攻は、学生が修了する時点において、課程修了の要件を満たし、かつ、学業成績並びに、学位論文または特定の課題についての研究成果に基づき、以下の能力を身につけたと認められる者に対し、修士（文学）の学位を授与する。

- 1) 英語圏の文学・文化、英語学・英語教育学、国際社会・文化に関する専門的な理論や知識を修得し、自らの研究関心に応じて必要なデータを収集・分析し、同時に収集したデータや先行研究に基づいて考察する方法を身につけ、得られた知見を発表する能力。
- 2) 社会的な要請を理解し、研究の場において、また実践の場において専門的な貢献をする能力。
- 3) 英語圏の文学・文化、英語学・英語教育学、国際社会・文化、さらには隣接する諸領域の研究動向に学際的な視野から関心を持ち、新たな学問的あるいは現実的問題に対応する能力。

3. 論文審査基準

以上の目標を達成するために展開される教育活動および学修・研究活動の成果として提出される修士論文および特定の課題についての研究の成果は、以下の基準によって評価される。

- ・ 修士論文は、以下の基準によって評価される。
 - 1) 学術上の創意工夫が認められるものであること。
 - 2) 研究分野に関する知識が十分に備わっていると認められるものであること。
 - 3) 研究の目的と方法が適切であると認められるものであること。
 - 4) 論理的な構成をとり、正確な記述であると認められるものであること。
 - 5) 研究が論理的に適切であると認められるものであること。
- ・ 特定の課題についての研究の成果は、以下の基準によって評価される。

I 課題論文（3本）

- 1) 3つの課題論文が、研究対象の専門的で多角的な分析として、その総合的な理解に寄与していること。
- 2) それぞれの課題論文について、研究の目的および方法が明確であること。
- 3) それぞれの課題論文について、記述が論理的で表現が緻密であること。
- 4) 3つの課題論文をあわせて、研究上一定の成果が認められるものであること。
- 5) 指導教員の指導および中間発表会における指摘が反映されたものであること。

II フィールドワーク・教材研究

- 1) 教育現場におけるフィールドワークの記録あるいは自ら開発した教材と、実践的な知見に基づく研究成果の報告をともに含んでいること。
- 2) 研究の目的および方法が明確であること。
- 3) 報告の記述が論理的で表現が緻密であること。
- 4) 研究上一定の成果が認められるものであること。
- 5) 指導教員の指導が反映されたものであること。

III 翻訳

- 1) 英語で書かれ公刊された作品であること。
- 2) 英語原文の語彙や文法を正しく理解していること。
- 3) 英語原文のニュアンスを正確に伝えていること。
- 4) 作品の客観的位置づけやコンテキスト、翻訳にあたっての方針が、明確に示されていること。

4. 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）

英語英文学専攻では、修了認定・学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる能力を身につけるため、以下のよう
に教育課程を編成・実施する。

- 1) イギリス文学・文化、アメリカ文学・文化、英語学・英語教育学、国際社会・文化領域の専門にかかわる学識を得ると同時に、専門分野の論文や資料を読み解き、自らの課題を発見、調査、論考、発表する能力を養うために、それぞれの分野の演習科目を置いている。学修の集大成として修士論文作成、ないし特定の課題についての研究の成果作成を課している。「修士論文指導」科目、「特定の課題に関する研究指導」科目において、論文や研究成果として完成する方法を学ぶ機会を設けている。
- 2) 「中間発表会」等の機会を設け、口頭による研究発表の方法についても学ぶ機会を設けている。
- 3) 加えて、言語・文学研究センター主催の英語圏文化・文学コロキウム研究会に参加を求め、学内外の研究者の研究発表と討論の場に参加して学ぶ機会を設けている。また、言語文学に関するより深く幅広い教養や知識を身につけるために、「オムニバス」科目を履修することができる。

【言語・文学専攻】

1. 教育研究上の目的

言語・文学専攻は、日本語、フランス語、英語およびそれらの言語を用いて表現されたもの全般に関する学術研究の方法を身につけ、国際的・学際的な視野にたつ深い学識と高度な専門的研究能力を磨き、専門分野に新たな知見を加えて、その発展に寄与し、また学識を広く社会に還元できる研究者、教育者の養成を目的とする。

2. 修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

言語・文学専攻は、学生が修了する時点において、課程修了の要件を満たし、かつ、学業成績並びに学位論文に基づき、以下の能力を身につけたと認められる者に対し博士（文学）の学位を授与する。

- 1) 日本語、フランス語、英語およびそれらの言語を用いて表現されたもの全般に関する深い学識と高度な専門的研究能力を身につけ、国際的な水準の研究によって当該学界に貢献する能力。
- 2) 日本語、フランス語、英語およびそれらの言語を用いて表現されたもの全般にかかわる社会的な要請を理解し、研究者としての学問成果を広く社会に還元し、後進の養成する能力。
- 3) 日本語、フランス語、英語およびそれらの言語を用いて表現されたもの全般またそれに隣接する諸領域の研究

動向に関心を持ち、学際的な視野にたって複雑な学問的あるいは現実的諸問題に柔軟に対応する能力。

3. 論文審査基準

以上の目標を達成するために展開される教育活動および学修・研究活動の成果として提出される博士論文については、以下の基準によって評価される。

- 1) 当該学界に学術上の寄与がなされるものであること。
- 2) 先行研究の取り扱いが適切であること。
- 3) 資料の取り扱いが適切であること。
- 4) 論理的構成をとり、正確な記述であること。
- 5) 研究が倫理的に適切であること。

4. 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）

言語・文学専攻では、修了認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に掲げる能力を身につけるため、以下のよう
に教育課程を編成・実施する。

- 1) 学生がそれぞれの関心と課題に基づく研究を深化させ、博士論文を作成するために「研究指導」科目を設置する。「課程修了および学位取得スケジュール」に基づき、言語・文学専攻の博士論文審査基準にしたがって、指導教員とともに論文の内容を吟味しながら、博士論文を執筆していく。
- 2) 本学附属の「言語・文学研究センター」の一員として、センターのプログラムに参加したり、『言語・文学研
論集』に投稿することができる。これを通じて、各学問分野における社会的要請に接し、学会等での発表の方法、投稿論文の執筆の作法を学ぶことができる。
- 3) 日本語圏、フランス語圏、英語圏の三つの領域の言語、文学、文化全般にわたる視野と問題意識を涵養するた
めに、三つの専門分野の教員が共同で担当する「オムニバス科目」を設置する。外部の講師も交えた多様な研
究に接することで、三つの領域全般の最新の研究動向に関する知識を得るとともに、学際的な視野を獲得し、
自らの関心と課題にふさわしい研究方法を見いだしていく。

課程修了および学位取得スケジュール

文学研究科における課程修了および学位取得までのおもなスケジュールは以下のとおりです。詳細については、履修要覧該当ページを確認するとともに、各専攻の指示にしたがってください。

1. 修士課程／博士課程（前期）

2026年度入学者用

年次	3月修了	9月修了	詳細
1	4月～5月		研究倫理教育の実施 *1
	4月～7月		指導教員の決定
	7月～1月		修士論文／特定の課題についての研究の成果 中間（構想）発表会 *1
	1月末		修士論文／特定の課題についての研究の成果届（国・フ・英のみ） *2
2	7月～10月		修士論文／特定の課題についての研究の成果 中間発表会 *1
	10月末	4月末	修士論文／特定の課題についての研究の成果 題目届
	発のみ 12月	6月	修士論文／特定の課題についての研究の成果 提出 〔提出要件〕前年度末において修了要件を16単位以上修得していること 〔評価要件〕所定の単位（30単位以上）を修得していること
	児・国・フ・英 1月		
	2月	8月	修士論文／特定の課題についての研究の成果 口述試験 *1
	3月	9月	課程修了・学位授与

*1 実施時期は専攻により異なる。

*2 国語国文学専攻、フランス語フランス文学専攻、英語英文学専攻では、「修士論文」に代えて「特定の課題についての研究の成果」の提出が可能のため、いずれを選択するかについて届出を行う。

2. 博士課程（後期）

2026 年度入学者用

年次	3月修了	9月修了	詳細
1	4月～5月		研究倫理教育の実施 *1
	4月		指導教員の決定
	4月～		指導教員による指導開始
	4月～		博士学位論文提案書（プロポーザル）作成
2	4月～		博士学位論文提案書（プロポーザル）提出 *1 〔提出要件〕1年以上在学し、「研究指導」を2単位以上修得していること 〔結果通知〕「合格」「不合格」 〔備考〕「不合格」の場合、あらためて提案書の作成より取り組みなおし
	提案書合格後～		博士学位論文執筆（専攻内に設置される指導委員会による指導） 〔備考〕1月～6月提案書合格者：12月または次年度6月に予備審査を申請 7月～12月提案書合格者：次年度6月または12月に予備審査を申請 期間内に論文を完成できなかった場合、提案書は無効、指導委員会は解散となり、あらためて提案書の作成より取り組みなおし
3 }	6月末	12月末	博士学位論文 予備審査申請 〔提出要件〕2年以上在学し、「研究指導」を4単位以上修得していること また、修了要件単位を修得済みもしくは修得見込であること
	4週以内	4週以内	博士学位論文予備審査委員会設置および審査 〔結果通知〕（博士学位論文の提出について）「可」「修正の上、可」「不可」 〔備考〕「修正の上、可」の場合、修正確認後、博士学位論文を提出可 「不可」の場合、提案書は無効となり、あらためて提案書の作成より取り組みなおし
	10月末	翌4月末	博士学位論文 本審査申請
	11月	5月	博士学位論文審査委員会設置および審査 〔公表準備〕公開審査終了後、論文全文データと公開許諾申請書を主査へ提出 ※やむを得ない事由により授与後1年以内に公表できない場合のみ、 審査委員会承認のうえ、要約データも同時に提出 〔結果通知〕「授与可」「授与否」
	1月	7月	博士学位論文審査委員会審査終了
	3月	9月	課程修了・学位授与

*1 実施時期は専攻により異なる。

※ 論文執筆に時間を要し、年度末までに課程修了を見込めない3年次は、1月（9月修了の場合は翌6月）に「在学延長届」もしくは「単位取得退学願」を提出すること。

※ 提案書作成や論文執筆に時間を要する場合は、一旦退学し、再入学することも可。論文再入学の条件は以下のとおり。

1. 退学から4月再入学までの期間が1年以上あること
2. 残りの在籍可能年数が1年半以上あること
3. 再入学手続時に博士学位論文提案書を提出のうえ合格すること

指導教員

大学院学生は、履修科目の選択、研究一般、学位論文等の作成、および各手続における承認等、全般にわたって指導教員による指導を受けてください。なお、指導教員決定までの期間は、所属専攻の各専攻主任が代わって指導教員の任にあたります。

1. 指導教員届

入学年度には、「指導教員届」（4月専攻ガイダンスにて配布）に指導教員の署名を受けて教務課へ提出する必要があります。修士課程／博士課程（前期）1年生は7月上旬、博士課程（後期）1年生は4月中旬の、それぞれ学事日程で示されている期日までに提出してください。

2. 指導教員の変更

特別の事情（サバチカル等による指導教員の不在、研究テーマの変更等）によって指導教員の変更を要する場合、「指導教員変更届」（教務課備付）に新旧の指導教員の署名を受け、学事日程で示されている4月中旬の期日までに教務課へ提出してください。なお、年度途中で指導教員を変更しなければならない事情が生じた場合は教務課へ申し出てください。

修了要件単位数およびカリキュラム

1. 修士課程／博士課程 (前期)

1) 全専攻 修了要件単位数

2026 年度入学者用

専攻名		発達心理学	児童文学	国語国文学	フランス語フランス文学	英語英文学
修了要件単位数		30 単位 *1 *2 *3				
修了要件単位数に含めることのできる科目と単位数の上限	他専攻科目	8 単位	8 単位	8 単位	8 単位	8 単位
	委託特別聴講科目	10 単位 *4	8 単位	4 単位	8 単位	8 単位

- *1 入学前に本学および他の大学院において修得した単位（本学大学院科目先取り履修で修得した単位を含む）の認定を希望する場合は、入学年度の履修登録申請期間終了までに教務課へ申し出る必要があります。
- *2 入学前既修得、留学、委託特別聴講の認定単位は、あわせて 10 単位を限度に、本学大学院における授業科目の履修により修得したものとみなすことができます。ただし、委託特別聴講科目については、上の表のとおり、所属専攻ごとに修了要件単位数に含めることのできる上限が定められています。
- *3 発達心理学専攻および児童文学専攻においては、指導教員の承認を得たうえで学部科目を履修することができますが、修得した単位を修了要件単位数に含めることはできません。
- *4 発達心理学専攻においてのみ、委託特別聴講で修得した単位を、科目によって他専攻科目として認定する場合があります。認定の別については、科目の内容により指導教員が判断します。他専攻科目として認定された委託特別聴講の単位は、大学院履修規程第 2 条第 3 項に定める本学の他専攻科目認定の扱いに準じ、8 単位を上限として修了要件単位数に含めることができます。

2) 発達心理学専攻 博士課程（前期）カリキュラム

2026 年度入学者用

	1 年次	2 年次	修了要件	
必修		修士論文指導 A (0) 修士論文指導 B (0) 修士論文 (0)	0 単位	
選択必修	臨床心理学特論Ⅰ (2) 臨床心理学特論Ⅱ (2) 認知心理学特論 (2) 臨床心理基礎実習 (4) 臨床心理学研究法特論 (2) 心理学研究法特論 (2) 投影法特論 (2) 保健医療分野に関する理論と支援の展開 A (2) 保健医療分野に関する理論と支援の展開 B (2) 福祉分野に関する理論と支援の展開 A (2) 福祉分野に関する理論と支援の展開 B (2) 教育分野に関する理論と支援の展開 A (2) 教育分野に関する理論と支援の展開 B (2) 司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開 (2) 産業・労働分野に関する理論と支援の展開 (2)	臨床心理査定演習Ⅰ (心理的アセスメントに関する理論と実践 A) (2) 臨床心理査定演習Ⅱ (2) 心理的アセスメントに関する理論と実践 B (2) 臨床心理面接特論Ⅰ (心理支援に関する理論と実践 A) (2) 臨床心理面接特論Ⅱ (2) 心理支援に関する理論と実践 B (2) 心理支援に関する理論と実践 C (心理療法特論) (2) 家族関係・集団・地域社会における 心理支援に関する理論と実践 A (2) 家族関係・集団・地域社会における 心理支援に関する理論と実践 B (2) 心の健康教育に関する理論と実践 (2) 心理実践実習 A (2) 心理実践実習 C (2) 心理実践実習 DⅠ (2) 心理実践実習 DⅡ (2)	30 単位 *1	
	心理実践実習 BⅠ (4)	心理実践実習 BⅡ (4) 臨床心理実習Ⅰ (心理実践実習 BⅢ) (2) 臨床心理実習Ⅱ (2)		

(一部科目を除き再度履修不可。開講授業科目表に「再度履修可」と記載されている科目のみ再度履修可。)

*1 上記カリキュラム表に記載されていない他専攻科目、委託特別聴講科目の単位を修得した場合は、「1. 1) 全専攻 修了要件単位数」の表に示す範囲内で修了要件単位数に含めることができます。

3) 児童文学専攻 博士課程 (前期) カリキュラム

2026 年度入学者用

	1 年次	2 年次	修了要件	
必修		修士論文指導 A (0) 修士論文指導 B (0) 修士論文 (0)	0 単位	
選択必修	児童文学特殊研究 A (2) 児童文学特殊研究 B (2) 児童文学特殊研究 C (2) 児童文学特殊研究 D (2) 児童文学特殊研究 E (2) 児童文学特殊研究 F (2) 児童文学特殊研究 G (2) 児童文学特殊研究 H (2) 海外児童文学特殊研究 A (2) 海外児童文学特殊研究 B (2) 海外児童文学特殊研究 C (2) 海外児童文学特殊研究 D (2) 海外児童文学特殊研究 E (2) 海外児童文学特殊研究 F (2)	伝承文学特殊研究 A (2) 伝承文学特殊研究 B (2) 児童文化特殊研究 A (2) 児童文化特殊研究 B (2) 児童文化特殊研究 C (2) 児童文化特殊研究 D (2) 児童文化特殊研究 E (2) 児童文化特殊研究 F (2)		30 単位 *1

(選択必修はすべて再度履修可)

*1 上記カリキュラム表に記載されていない他専攻科目、委託特別聴講科目の単位を修得した場合は、「1. 1) 全専攻 修了要件単位数」の表に示す範囲内で修了要件単位数に含めることができます。

4) 国語国文学専攻 修士課程 カリキュラム

2026 年度入学者用

	1 年次	2 年次	修了要件	
選択必修Ⅰ		修士論文指導 A (0) 修士論文指導 B (0) 修士論文 (0) 特定の課題についての研究指導 A (0) 特定の課題についての研究指導 B (0) 特定の課題についての研究 (0)	0 単位	
選択必修Ⅱ	国語学演習 (古代語) Ⅰ (2) 国語学演習 (古代語) Ⅱ (2) 国語学演習 (近代語) Ⅰ (2) 国語学演習 (近代語) Ⅱ (2) 古代文学演習 A Ⅰ (2) 古代文学演習 A Ⅱ (2) 古代文学演習 B Ⅰ (2) 古代文学演習 B Ⅱ (2) 中世文学演習 Ⅰ (2) 中世文学演習 Ⅱ (2) 近世文学演習 Ⅰ (2) 近世文学演習 Ⅱ (2) 近代文学演習 A Ⅰ (2) 近代文学演習 A Ⅱ (2) 近代文学演習 B Ⅰ (2) 近代文学演習 B Ⅱ (2) 近代文学演習 C Ⅰ (2) 近代文学演習 C Ⅱ (2) 近代文学演習 D Ⅰ (2) 近代文学演習 D Ⅱ (2)	中国文学特殊研究 Ⅰ (2) 中国文学特殊研究 Ⅱ (2) 日本漢文学演習 Ⅰ (2) 日本漢文学演習 Ⅱ (2) 日本語教育研究 A Ⅰ (2) 日本語教育研究 A Ⅱ (2) 日本語教育研究 B Ⅰ (2) 日本語教育研究 B Ⅱ (2) 日本語教育演習 Ⅰ (2) 日本語教育演習 Ⅱ (2) オムニバス A (2) オムニバス B (2)	30 単位	*2

(選択必修Ⅱ はすべて再度履修可)

- *1 国語国文学専攻では、修士論文に代えて、特定の課題についての研究の成果を提出することができます。1 年次 1 月にどちらを選択するかについて申請してください。
- *2 上記カリキュラム表に記載されていない他専攻科目、委託特別聴講科目の単位を修得した場合は、「1. 1) 全専攻 修了要件単位数」の表に示す範囲内で修了要件単位数に含めることができます。

5) フランス語フランス文学専攻 修士課程 カリキュラム

2026年度入学者用

	1年次	2年次	修了要件	
必修	フランス語演習Ⅰ (2) フランス語演習Ⅱ (2)	フランス語演習Ⅲ (2) フランス語演習Ⅳ (2)	8単位	30 単 位 *1
選択必修Ⅰ		修士論文指導A (0) 修士論文指導B (0) 修士論文 (0) 特定の課題についての研究指導A (0) 特定の課題についての研究指導B (0) 特定の課題についての研究 (0)	0単位	
選択必修Ⅱ	フランス語学研究A (2) フランス語学研究B (2) フランス語学研究C (2) フランス語学研究D (2) フランス語翻訳研究A (2) フランス語翻訳研究B (2) フランス語教育研究A (2) フランス語教育研究B (2) フランス語教育研究C (2) フランス語教育研究D (2) フランス語教育研究E (2) フランス語教育研究F (2) フランス文学研究A (2) フランス文学研究B (2) フランス文学研究C (2) フランス文学研究D (2) フランス文学研究E (2) フランス文学研究F (2) フランス文学研究G (2) フランス文学研究H (2)	フランス文化史研究A (2) フランス文化史研究B (2) フランス文化史研究C (2) フランス文化史研究D (2) フランス文化史研究E (2) フランス文化史研究F (2) フランス文化史研究G (2) フランス文化史研究H (2) オムニバスA (2) オムニバスB (2)		

(選択必修Ⅱはすべて再度履修可)

- *1 フランス語フランス文学専攻では、修士論文に代えて、特定の課題についての研究の成果を提出することができます。1年次1月にどちらを選択するかについて申請してください。
- *2 上記カリキュラム表に記載されていない他専攻科目、委託特別聴講科目の単位を修得した場合は、「1. 1) 全専攻 修了要件単位数」の表に示す範囲内で修了要件単位数に含めることができます。

6) 英語英文学専攻 修士課程 カリキュラム

2026 年度入学者用

	1 年次	2 年次	修了要件
選択必修Ⅰ		修士論文指導 A (0) 修士論文指導 B (0) 修士論文 (0) 特定の課題についての研究指導 A (0) 特定の課題についての研究指導 B (0) 特定の課題についての研究 (0)	0 単位
選択必修Ⅱ	英語学演習 AⅠ (2) 英語学演習 AⅡ (2) 英語学演習 BⅠ (2) 英語学演習 BⅡ (2) 英語学演習 CⅠ (2) 英語学演習 CⅡ (2) 英語学演習 DⅠ (2) 英語学演習 DⅡ (2) 英語学演習 EⅠ (2) 英語学演習 EⅡ (2) 英語学演習 FⅠ (2) 英語学演習 FⅡ (2) 英語学演習 GⅠ (2) 英語学演習 GⅡ (2) 英米文学演習 AⅠ (2) 英米文学演習 AⅡ (2) 英米文学演習 BⅠ (2) 英米文学演習 BⅡ (2) 英米文学演習 CⅠ (2) 英米文学演習 CⅡ (2) 英米文学演習 DⅠ (2) 英米文学演習 DⅡ (2) 英米文学演習 EⅠ (2) 英米文学演習 EⅡ (2) 英米文学演習 FⅠ (2) 英米文学演習 FⅡ (2) 英米文学演習 GⅠ (2) 英米文学演習 GⅡ (2) 英米文学演習 HⅠ (2) 英米文学演習 HⅡ (2)	英米文化演習 AⅠ (2) 英米文化演習 AⅡ (2) 国際社会・文化演習 AⅠ (2) 国際社会・文化演習 AⅡ (2) 国際社会・文化演習 BⅠ (2) 国際社会・文化演習 BⅡ (2) オムニバス A (2) オムニバス B (2)	30 単位 *2

(選択必修Ⅱはすべて再度履修可)

- *1 英語英文学専攻では、修士論文に代えて、特定の課題についての研究の成果を提出することができます。1 年次 1 月にどちらを選択するかについて申請してください。
- *2 上記カリキュラム表に記載されていない他専攻科目、委託特別聴講科目の単位を修得した場合は、「1. 1) 全専攻 修了要件単位数」の表に示す範囲内で修了要件単位数に含めることができます。

2. 博士課程（後期）

1) 全専攻 修了要件単位数

2026年度入学者用

専攻名	発達心理学	児童文学	言語・文学
修了要件単位数	10単位 *1 *2 *3		

*1 全専攻で「研究指導」を必修とします。「研究指導」はすべての年次・年度において毎学期履修してください。

*2 指導教員の承認を得たうえで、他専攻および修士課程／博士課程（前期）の科目を履修することができます。ただし、修得した単位を修了要件単位数に含めることはできません。

*3 本学大学院と協定を結ぶ他の大学院の科目（委託特別聴講）または本学が認定した外国の大学院の科目（留学）については、10単位を限度に本学大学院における授業科目の履修により修得したものとみなすことができますが、そのうち修了要件単位数に含めることができるのは、留学により修得した2単位を限度とします。委託特別聴講により修得した単位を修了要件単位数に含めることはできません。

2) 発達心理学専攻 博士課程（後期）カリキュラム

2026年度入学者用

	1年次	2年次	3年次	修了要件
必修	研究指導 (1) *1 心理学実験指導法Ⅰ (2) *2 心理学実験指導法Ⅱ (2) *2			10 単 位

(すべて再度履修可)

*1 「研究指導」はすべての年次・年度において毎学期履修してください。

*2 「心理学実験指導法Ⅰ」「心理学実験指導法Ⅱ」は各自が希望する年次に履修してください。

3) 児童文学専攻 博士課程（後期）カリキュラム

2026年度入学者用

	1年次	2年次	3年次	修了要件	
必修	研究指導 (1) *1			6 単 位	10 単 位
選択必修	児童文学研究法A (2) *2 児童文学研究法B (2) *2			4 単 位	

(すべて再度履修可)

*1 「研究指導」はすべての年次・年度において毎学期履修してください。

*2 選択必修は修了要件単位数を満たしていれば科目の組み合わせは問いません。

4) 言語・文学専攻 博士課程（後期）カリキュラム

2026年度入学者用

	1年次	2年次	3年次	修了要件	
必修	研究指導 (1) *1			6 単 位	10 単 位
選択 必修	オムニバスA (2) *2 オムニバスB (2) *2			4 単 位	

(すべて再度履修可)

*1 「研究指導」はすべての年次・年度において每学期履修してください。

*2 選択必修は修了要件単位数を満たしていれば科目の組み合わせは問いません。

授業・履修

1. 授業科目

1) 履修要覧

履修要覧は、大学院の学修において必要な基本事項、修了要件単位数、専攻別カリキュラム、資格課程別カリキュラムなどが掲載されています。なお、当該入学年度の履修要覧（冊子）は、在籍している間、修了まで続けて使用します。大切に保管し、必要に応じて随時確認してください。

2) 開講授業科目表

当該年度に開講される授業科目の一覧表は、専攻ごとに大学ホームページで確認することができます。開講授業科目表には、授業科目名、担当教員名、科目区分、開講期、開講曜日・時限、必選区分、授業形態、対象年次、他専攻開放の有無、履修上の注意事項などが掲載されています。

3) 時間割表

当該年度に開講される授業科目の時間割は、曜日・時限ごとに大学ホームページで確認することができます。

4) シラバス

当該年度に開講される授業科目のシラバスは、CAMPUS SQUAREで確認することができます。シラバスには、授業科目の達成目標・概要・計画、履修上の注意、授業時間外学修の内容、教科書・参考書、成績評価方法・基準などが掲載されています。履修科目選択の際だけでなく、履修中のコースガイドとしても随時参照するようにしてください。

5) 科目区分

文学研究科の科目区分は、専攻・課程ごとの専門科目で分かれています。

6) 開講期

授業科目には、開講期によって、前期科目、後期科目、通年科目（前期から後期まで通して行われる授業科目）、集中講義（春期または夏期休暇期間等に集中して行われる授業科目）の別があります。

7) 必選区分

授業科目には、必修科目、選択必修科目、選択科目の別があります。必選区分は、修了または資格取得に対し、それぞれの単位修得の優先度合いを表すものです。所属専攻や入学年度によっても異なりますので、当該カリキュラムをよく確認してください。なお、必修科目については、単位を修得できなかった場合、次学期または次年度以降に再履修することになります。

8) 対象年次

授業科目には、各カリキュラムにおいて履修するのに望ましい対象年次が示されています。対象年次が指定されている授業科目は、原則としてその年次において履修してください。ただし、自分より下級年次を対象とする授業科目を履修することは可能です。その履修に際しては、特に許可を得る必要はありません。

9) 授業形態

授業科目には、講義、演習、実験、実習、実技、または、それらを2つ以上組み合わせた授業形態があります。

10) 他専攻開放科目

各専攻専門科目の中には、その専攻に所属していない学生の履修が認められている授業科目もあります。開講授業科目表の他専攻開放欄に「○」のある授業科目が該当します。自分の所属以外の専門科目を履修して修得した単位の扱いは、「修了要件単位数およびカリキュラム」のページで確認してください。

11) 再度履修できる科目

大学院開講科目については、「修士論文」「修士論文指導A/B」「特定の課題についての研究」「特定の課題についての研究指導A/B」を除くほとんどすべての科目が再度履修可となります。ただし、発達心理学専攻博士課程（前期）専門科目については、資格取得の関係上、一部科目を除き再度履修不可となります（開講授業科目表に「再度履修可」と記載されている科目のみ再度履修可）。

12) 授業科目と修了認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）の対応

修了認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）で示す本学での学びで身につけてほしい知識・能力と授業科目との対応関係を示した一覧を大学ホームページで公開しています。適宜確認の上、体系的な学びを理解し、計画的に学修をすすめてください。

13) 科目ナンバリング

学問上の分類や学修段階・順序を示した科目ナンバリングを大学ホームページで公開しています。履修科目を選択する際の一助としてください。

2. 科目履修登録申請

1) 科目履修登録申請と履修上の原則

科目履修登録申請（以下、履修登録という）は、その学期に履修するすべての授業科目を所定の期日までに届け出るものです。履修登録にあたっては、履修要覧、シラバス、開講授業科目表、時間割表や、各種ガイダンスでの説明、専攻の指示等をあらかじめよく確認し、自分にとって必要な手続きを確実に行うようにしてください。履修上の原則は、以下のとおりです。

- ・対象年次が指定されている授業科目は、その年次において履修すること
- ・再履修科目と当該年次必修科目の時間割が重複している場合は、再履修科目を優先して履修すること

なお、原則として、所定の期日を過ぎてからの履修科目の登録・変更はできません*。必要な手続きを怠ったことにより発生する履修上の不利益は学生本人の責任とします。所定の期日までに履修登録を行うことのできないやむを得ない事情がある場合は、事前に教務課へ連絡して指示をうけてください。

※修了・資格取得要件に対してその条件を満たせない状態にある場合に限り、必要最低限の登録・変更を許可されることがあります。

2) 履修科目の選択・決定

すべての履修科目の選択・決定にあたっては、指導教員（登録申請時に指導教員の決定していない専攻の学生は専攻主任）による承認を必ず得てください。

他専攻科目、学部科目については、履修することのできる科目（大学院履修規程第2条別表）と修了要件に含めることのできる単位数の上限が専攻ごとに定められていますので、「修了要件単位数およびカリキュラム」のページを参照してください。履修することができる科目以外の授業科目を履修登録申請することはできませんが、授業科目担当教員へ申し出ることによって聴講を認められることもあります。

なお、プログラム（中学・高校教員免許取得プログラム、司書資格取得プログラム、司書教諭資格取得プログラムおよび登録日本語教員養成プログラムに限る）履修のために学部科目を履修する場合は、科目等履修生としての出願・登録手続きが別途必要となります。詳細については、次項「3. プログラムの履修（科目等履修生）」を参照してください。また、本大学院と協定を結ぶ他の大学院において開講されている授業科目を委託特別聴講生として履修することができます。詳細については、「委託特別聴講生制度」のページを参照してください。

3) 科目履修登録申請

履修登録の日程 (前期 3月下旬～4月初旬、後期 9月中旬)

大学ホームページ > キャンパスライフ > 授業・履修

当該年度の履修登録日程については、大学ホームページで確認することができます。

履修登録の方法

履修登録には「事前登録申請」と「本登録申請」の2つのステップがありますが、大学院開講科目は「本登録申請」のみCAMPUS SQUAREで行います。操作方法詳細については、大学ホームページを参照してください。

履修計画・指導教員による承認

履修要覧、シラバス、時間割表などを参照し、あらかじめ履修計画を立てたうえで履修登録期間にのぞんでください。履修科目の決定にあたっては、指導教員（登録申請時に指導教員の決定していない専攻の学生は専攻主任）による承認を必ず得てください。

履修することがあらかじめ確定している授業科目の登録確認

CAMPUS SQUARE > 履修 > 履修登録・登録状況照会

当該年次必修科目や履修することが確定している授業科目については、各自の履修登録・登録状況照会画面にあらかじめ表示されています。履修すべき授業科目が正しく登録されているかを事前登録期間内に確認し、誤りがあればすみやかに教務課へ申し出てください。

事前登録申請

※学部科目のみ対象 (学部科目の履修を希望するM発・M児の学生は、指導教員の承認を得た上で所属専攻へ申し出て手続きを行ってください)

本登録申請

CAMPUS SQUARE > 履修 > 履修登録・登録状況照会

すべての授業科目を本登録申請期間に登録します。登録不備がないか十分に確認のうえ、登録作業を終えてください。なお、博士課程（後期）1年次前期は、指導教員が担当する「研究指導」を自分で登録してください。

履修登録申請内容の最終確認

CAMPUS SQUARE > 履修 > 履修登録・登録状況照会

授業開始日より1週間以内に、その学期に履修すべき科目が正しく登録できていることを最終確認してください。万一、重大な登録不備が見つかった場合は、ただちに教務課へ申し出てください。

履修取消申請 (希望する場合のみ)

履修登録済の大学院開講科目の内、単位を修得しない授業科目については、指導教員の承認を得たうえで履修取消申請を行う必要があります。詳細については「大学院科目履修取消申請」のページを確認してください。前期科目・通年科目・集中講義は5月、後期科目・通年科目は10月の、それぞれ学事日程で示されている期日までにWEBフォームより申請してください。WEBフォームのURLは、申請期間直前にCAMPUS SQUAREでお知らせします。

3. プログラムの履修 (科目等履修生)

1) プログラムの履修

本学大学院学生は、科目等履修生として、学部におけるプログラム (中学・高校教員免許取得プログラム、司書資格取得プログラム、司書教諭資格取得プログラムおよび登録日本語教員養成プログラムに限る) を履修することができます。なお、プログラムは入学年度前期より履修開始することを推奨します。

2) 科目等履修生の出願および科目履修登録申請

プログラムの履修を希望する学生は、科目等履修生の出願手続きを以下のとおり行ってください。なお、科目等履修生の出願は、履修年度・学期ごとに毎回行う必要があります。

〔出願期間〕 当該年度学事日程に示す指定期間（前期：3月中旬～4月初旬、後期：7月初旬）

〔出願場所〕 教務課（11号館2F）

〔出願書類〕 履修願書、身分証台紙（教務課備付書式、身分証台紙は前期に提出した場合は後期提出不要）

3) 費用

本学大学院学生が科目等履修生としてプログラムを履修する場合、科目等履修生規程第8条に定める選考料、登録認定料および受講料は免除となります。

4) 身分証

科目等履修生としてプログラムを履修する学生は、身分証の交付を受け、常に携帯してください。

プログラムの履修においては、大学院学生としてのものとは別に、科目等履修生としての学籍・学籍番号を有することになります。授業出席・試験受験等にあたっては注意してください。

4. 履修

1) 学事日程

学事日程は、大学ホームページで確認することができます。例年3月中旬に翌年度の学事日程を公開します。授業日程はもちろんのこと、履修登録などの各種申請日程についても、各自でよく確認してください。

2) 授業の時間

授業の時間は、1限 8:50～10:20、2限 10:30～12:00、3限 13:00～14:30、4限 14:40～16:10、5限 16:20～17:50、6限 18:00～19:30 です。

3) 休講

授業科目の休講は、CAMPUS SQUAREでお知らせします。ただし、教室での対面授業に代えて遠隔授業が行われる場合は、担当教員より連絡します。配信日や配信方法など、担当教員の指示にしたがってください。また、緊急時（台風など）における休講措置については、大学ホームページ等でお知らせします。緊急時の休講措置基準については、学生生活ガイドブックを参照してください。

4) 補講

授業科目の補講は、CAMPUS SQUAREでお知らせします。補講は、学事日程に示されている補講日だけでなく、通常授業期間内に行われる場合もあります。また、通常と異なる曜日・時限・教室に補講を実施する場合もあります。CAMPUS SQUAREの補講情報に加え、担当教員からの事前連絡についてもよく確認してください。

5) 出席・欠席

授業科目ごとの方法により出席を確認します。

授業科目の欠席については、特に連絡の必要はありません。ただし、試験欠席の場合や授業内発表担当などの場合は、事前に（遅くとも当日中までに）、メール等で担当教員へ直接連絡し、必要な指示を仰いでください。

6) 教室

授業科目が行われる教室は、CAMPUS SQUAREのMYスケジュールで確認することができます。教室の変更（一時的な変更含む）は、原則としてCAMPUS SQUAREでお知らせします。ただし、授業進行上の理由で、CAMPUS SQUAREのMYスケジュールには反映されず、担当教員より使用教室を直接指示される場合もあります。特に、授業期間開始直後は多くの授業科目において教室変更が発生します。各自で適宜確認してください。教室番号は4桁の数字で表され、左から1桁目が建物名、2桁目が階数、3・4桁目がフロア内通し番号となっています。例えば、R. 3201は、

3号館2階01教室となります。なお、1桁目が「9」は本館、「L」は図書館を表しています。

7) 教科書

授業科目で使用する教科書は、アマカピア（購買部）のWEB販売サイトにて所定の販売期間に購入することができます。WEB販売サイトのURLや販売期間は、CAMPUS SQUAREにてお知らせします。必修科目など履修があらかじめ決まっている科目以外の教科書は、履修が確定してから購入するようにしてください。なお、教科書販売についての質問は、アマカピア（03-5313-1620／1号館地下）へ直接お問い合わせください。

8) 学習支援システム

本学における主な学習支援システムには、CAMPUS SQUARE（履修登録申請のほか、授業科目のシラバス・教室・休講・補講・授業連絡・成績、大学からのお知らせなどを確認できるポータルサイト）、manabacourse（授業科目の資料・コンテンツ配信、リアクションペーパー・レポート提出、オンラインテスト受験、授業指示や意見交換などが行われる学習支援システム）、白百合メール（@shirayuri.ac.jpの個別アカウント）などがあります。また、授業科目によっては、これ以外のツールを使用することもあります。学習支援システムを積極的に活用するとともに、自分にとって必要な情報を、日々責任をもって確認してください。

CAMPUS SQUARE <https://cs.shirayuri.ac.jp/campusweb/>
 manabacourse <https://shirayuri.manaba.jp/>
 白百合メール <https://mail.google.com/>

9) 大学ホームページ（授業・履修に関するページ）

履修要覧をはじめとする授業・履修に関する情報は、大学ホームページでも公開しています。スマートフォンなどから以下のページへアクセスして、必要な情報を適宜確認してください。

大学ホームページ > キャンパスライフ > 授業・履修（CAMPUS SQUAREのリンクからもアクセス可）

5. 成績評価

1) 成績評価方法

成績評価方法は、試験、レポート、課題、発表、授業内外での取り組みなど、授業科目ごとにそれぞれ適切な方法が設定されています。シラバスに記載されている授業科目ごとの成績評価方法・基準を確認するとともに、評価物の提出期日・内容、試験の日程・出題範囲・条件などについては担当教員からの説明をよく聞いて学修にあたってください。なお、試験の受験上の注意やレポートに関する注意事項については、学生生活ガイドブックで確認することができます。

2) 成績評価

成績評価とその基準は、以下のとおりです。

評 点	表 記	評 価 基 準	合 否
5	5	達成目標を十分に満たし、秀でている。	合 格
4	4	達成目標を十分に満たしている。	
3	3	達成目標をほぼ満たしている。	
2	2	達成目標の最低水準を満たしている。	
1	1	達成目標の最低水準を満たしていない。	不 合 格
試 験 未 済	未	試験未済	
成 績 認 定	T	留学等、学外で履修した科目を本学の授業科目として認定する。	認 定

3) 成績通知

成績は、前期は9月初旬、後期は3月初旬の学事日程で示されている成績発表日よりCAMPUS SQUAREで通知し、3月上旬には学生本人住所へ成績通知書を郵送します。授業科目の成績（通年科目の中間点を含む）については履修成績照会画面、修得済単位数については単位修得状況照会画面で確認してください。入学前既修得、留学、再入学、委託特別聴講などの理由により、学外で履修した学修を本学における授業科目の履修とみなして単位を認定された場合は、認定学期の成績発表日以降に、CAMPUS SQUAREの単位修得状況照会画面で認定科目名と単位数を確認することができます。なお、成績に関する明らかな疑義がある場合は、学事日程で示されている成績調査期間内に教務課へ申し出てください。

6. その他

1) 学則および各種規程

白百合女子大学大学院学則、各種規程は学生生活ガイドブックの巻末に掲載しています。

2) 学籍

休学、復学、退学等の手続きについては、学生生活ガイドブックで確認することができます。諸手続きには時間を要します。原則として期日を過ぎての手続きはできませんので、早めに指導教員または教務課への相談を開始してください。

3) 授業・履修に関するサポート

授業・履修についての質問は、研究全般に関しては指導教員へ、授業内容に関しては担当教員へ、それ以外は教務課または各研究室へお問い合わせください。

大学院科目履修取消申請

大学院履修規程第5条に定める「登録済みの大学院開講科目の内、単位を修得しない科目」については、指導教員の承認を得たうえで履修取消申請を行う必要があります。5月は前期科目・通年科目・集中講義について、10月は後期科目・通年科目について、それぞれ学事日程で示されている期日までにWEBフォームより申請してください。WEBフォームのURLは、申請期間直前にCAMPUS SQUAREにてお知らせします。

なお、修士論文もしくは特定の課題についての研究の成果の提出要件を満たしているにもかかわらず、修士論文もしくは特定の課題についての研究の成果を提出しない修士課程／博士課程（前期）2年生は、「修士論文未提出届」もしくは「特定の課題についての研究の成果未提出届」を教務課へ提出するとともに、「修士論文」もしくは「特定の課題についての研究」の履修取消申請を行ってください。

委託特別聴講生制度

大学院学則第 22～25 条に基づき、教育研究上有益と認められる場合、本学大学院と協定を結ぶ他の大学院において開講されている授業科目を委託特別聴講生として履修することができます。

〔協定校〕

本学大学院 全専攻・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 聖心女子大学大学院 全専攻
 清泉女子大学大学院 全専攻
 本学大学院 発達心理学専攻・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 上智大学大学院 総合人間科学研究科 全専攻
 日本女子大学大学院 人間社会研究科 心理学専攻
 本学大学院 フランス語フランス文学専攻・・・・ 大学院フランス語フランス文学専攻協議会（仏専協）

1. 手続き

委託特別聴講を希望する学生は、研究室または教務課にて各大学院の要覧・時間割を確認し、指導教員の承認を得たうえで、4月初旬までに教務課へ申し出てください。手続方法・期限は出願先により異なります。原則として、出願後は履修を取りやめることはできません。やむを得ない理由により履修を継続できない場合は、本学教務課へ届け出てください。

2. 聴講料

委託特別聴講における聴講料は、半期科目（2単位科目）1,000円、通年科目（4単位科目）2,000円となります。

3. 単位の認定

委託特別聴講により他大学院で修得した単位は、既修得と留学の認定単位があればそれらとあわせて10単位を限度に、本学大学院における授業科目の履修により修得したものとみなすことができます。

委託特別聴講認定単位は、修士課程／博士課程（前期）においては所属専攻ごとに定められている以下の単位数を限度に修了要件単位に含めることができます。博士課程（後期）においては修了要件単位に含めることはできません。

修士課程／博士課程（前期）	発達心理学	児童文学	国語国文学	フランス語フランス文学	英語英文学
委託特別聴講により他大学院で修得した単位のうち修了要件単位数に含めることのできる単位数の上限	10単位 *1	8単位	4単位	8単位	8単位

*1 発達心理学専攻においてのみ、委託特別聴講で修得した単位を、科目によって他専攻科目として認定する場合があります。認定の別については、科目の内容により指導教員が判断します。他専攻科目として認定された委託特別聴講の単位は、大学院履修規程第2条第3項に定める本学の他専攻科目認定の扱いに準じ、8単位を上限として修了要件単位に含めることができます。

修士論文および特定の課題についての研究の成果

修士論文および特定の課題についての研究の成果については、大学院学則、大学院学位規則、大学院履修規程、大学院学位論文取扱要綱、修了認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき取り扱われます。本要覧の「課程修了および学位取得スケジュール」のページもあわせて確認してください。

1. 修士論文または特定の課題についての研究の成果の選択について（M国・Mフ・M英のみ）

国語国文学専攻、フランス語フランス文学専攻、英語英文学専攻においては、修士論文の審査または特定の課題についての研究の成果の審査のいずれかを選択することができます。3専攻の修士課程1年生は、指導教員と相談のうえいずれを選択するかを決め、学事日程で示されている1月中旬の期日までに、「修士論文／特定の課題についての研究の成果提出届」を提出してください。申請フォームのURLは、申請期間直前にCAMPUS SQUAREにてお知らせします。

2. 修士論文または特定の課題についての研究の成果の提出について

1) 提出の要件

大学院履修規程第8条のとおり、前年度末までに修了要件単位のうち16単位以上修得していることが修士論文または特定の課題についての研究の成果（以下「修士論文等」という。）の提出の要件となります。

2) 題目届

修士論文等を提出する学生は、指導教員の承認を得たうえで、学事日程で示されている10月下旬の期日までに、「修士論文／特定の課題についての研究の成果題目届」を提出してください。申請フォームのURLは、申請期間直前にCAMPUS SQUAREにてお知らせします。

3) 題目変更届

届け出た題目を変更する場合は、指導教員の承認を得たうえで、修士論文等の提出前までに「修士論文／特定の課題についての研究の成果題目変更届」を提出してください。申請フォームのURLは、申請期間直前にCAMPUS SQUAREにてお知らせします。

4) 提出

修士論文等の提出については以下のとおりとします。届け出た題目と完全に一致した題目で提出するものとし、届出の題目を変更する場合は、前項のとおり変更届を提出してください。原則として本人が提出するものとし、一度受理した論文等は理由の如何を問わず返却しません。なお、論文を提出した者に対し、口述試験を行います。日程等詳細については所属専攻の指示にしたがってください。

【発達心理学専攻のみ】

- 〔提出期間〕 学事日程に示す12月中旬の3日間（土日含まず）
- 〔提出期限〕 提出期間最終日の16時30分まで（時間厳守）
- 〔提出方法〕 所属専攻指定の方法による

【児童文学専攻、国語国文学専攻、フランス語フランス文学専攻、英語英文学専攻】

- 〔提出期間〕 学事日程に示す1月中旬の3日間（土日含まず）
- 〔提出期限〕 提出期間最終日の16時30分まで（時間厳守）
- 〔提出方法〕 所属専攻指定の方法による

5) 未提出届

修士論文等を提出しない場合は、「修士論文／特定の課題についての研究の成果未提出届」を教務課へ提出してください。なお、科目履修取消申請期間前に未提出届を提出する場合は、「修士論文」「特定の課題についての研究」の履修取消申請を自分で行ってください。ただし、科目履修取消申請期間後に未提出届を提出する場合は、「修士

論文」「特定の課題についての研究」を履修取消することはできず、その評価は「未（試験未済）」となります。

6) 評価

大学院履修規程第9条のとおり、修士論文等の評価は、修了要件単位である30単位以上を修得した者についてのみ行います（「修了要件単位数およびカリキュラム」のページを参照）。

博士学位論文（課程博士）

博士学位論文については、大学院学則、大学院学位規則、大学院履修規程、大学院学位論文取扱要綱、大学院文学研究科博士課程（後期）における博士学位論文予備審査に関する細則、修了認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に基づく取り扱いとなります。本要覧の「課程修了および学位取得スケジュール」のページもあわせて確認してください。

1. 博士学位論文提案書（プロポーザル）の提出について

1) 提出の要件

博士課程（後期）に1年以上在学していること、「研究指導」を2単位以上修得していることが提出の要件となります。

2) 提出

提出時期や方法、書式等については、すべて当該専攻（言語・文学専攻の場合は専門分野、以下「当該専攻等」という）の指示にしたがってください。

3) 審査

審査に関することは、すべて当該専攻等の指示にしたがってください。

4) 結果通知

「合格」「不合格」のいずれかの判定を当該専攻より連絡します。

5) 結果通知後の流れ

「合格」の判定を受けた者は、合格と同時に設置される指導委員会による指導のもと、博士学位論文を執筆・完成させ、以下のとおり予備審査を申請します。ただし、この期間内に論文を完成できなかった場合は、提案書（プロポーザル）は無効、指導委員会は解散となり、あらためて提案書（プロポーザル）の作成より取り組みなおすこととなります。

1～6月 提案書合格者：12月または次年度6月に予備審査を申請

7～12月 提案書合格者：次年度6月または12月に予備審査を申請

「不合格」の判定を受けた者は、あらためて提案書（プロポーザル）の作成より取り組みなおしてください。

2. 博士学位論文の予備審査について

1) 申請の要件

博士課程（後期）に2年以上在学していること、「研究指導」を4単位以上修得していること、修了要件単位を修得済みもしくは12カ月以内に修得見込みであること、1. 5) で示す期間内であることが予備審査の申請の要件となります。

2) 申請

予備審査の申請は、以下のとおりとします。

〔申請期間〕 学事日程に示す6月末/12月の3日間 いずれも9:00～16:30

〔申請場所〕 11号館2階 教務課

〔申請書類等〕 1. 学位予備論文 正本1部・副本3部
2. 学位予備審査申請書 6部（うち5部はコピー可）
3. 学位論文要旨 6部（ ” ）

※論文書式は、当該専攻等の指示にしたがってください。

※申請書類書式は、申請予定者へ教務課よりデータでお渡しします。

3) 審査

予備審査に関することは、すべて予備審査委員会の指示にしたがってください。

4) 結果通知

博士学位論文の提出について「可」「修正の上、可」「不可」のいずれかの判定を教務課より白百合メールアドレスあてに通知します。

5) 結果通知後の流れ

「可」「修正の上、可」の判定を受けた者は、博士学位論文を提出することができます。ただし、「修正の上、可」の判定を受けた者は、必要な修正が施されていると、予備審査委員会が確認することを提出の要件とします。

「不可」の判定を受けた者は、同一の論文で再度の予備審査申請はできません。あらためて提案書（プロポーザル）の作成より取り組みなおしてください。

3. 博士学位論文の提出について

1) 提出の要件

博士学位論文の予備審査において、論文の提出について「可」「修正の上、可」の判定を受けていることが提出の要件となります。ただし、「修正の上、可」の判定を受けた者については、必要な修正が施されていると、予備審査委員会が確認することが提出の追加要件となります。

2) 提出および受理

博士学位論文の提出は、以下のとおりとします。論文・申請書類の提出をもって受理となります。

〔提出期間〕 学事日程に示す10月末／4月末の3日間 いずれも9:00～16:30

〔提出場所〕 11号館2階 教務課

〔提出書類等〕

1. 学位論文	正本1部・副本5部
2. 学位申請書	8部（うち7部はコピー可）
3. 学位論文要旨	8部（　　　　　）
4. 修正指示書兼確認書	8部（　　　　　、予備審査で「修正の上、可」の判定を受けた者のみ）
5. 参考論文	1点あたり6部（提出の必要がある場合のみ）

※論文書式は、当該専攻等の指示にしたがってください。

※申請書類書式は、申請予定者へ教務課よりデータでお渡しします。

※申請書類は、不備のないよう正確に記載してください。

氏 名 → 外国籍の方の氏名は、以下のとおり記載してください。

論文題目 → 論文・申請書類へは、同一の題目を記載してください。

副題がある場合は、副題も必ず記載してください。

題目が外国文の場合は、学位申請書のみ題目の和訳を付記してください。

3) 審査

審査に関することは、すべて審査委員会の指示にしたがってください。

4) 審査済論文全文データCD、機関リポジトリ登録・公開許諾申請書の提出

公開審査後すみやかに、審査済論文全文データCDと機関リポジトリ登録・公開許諾申請書を審査委員会（主査）へ提出してください。学位授与後1年以内の全文公表ができないやむを得ない事情がある場合は、要約データも追加提出してください。

5) 結果通知

博士学位授与の可否については、大学へ登録している本人住所あてに教務課より文書郵送にて通知いたします。

6) 課程修了および学位取得

博士学位授与が可とされた者は、学位記授与式において、博士課程（後期）修了と同時に博士の学位が授与されます。なお、学位の種類については、発達心理学専攻は「博士（心理学）」、児童文学専攻および言語・文学専攻は「博士（文学）」となります。

7) 学位論文全文の公表

博士学位論文全文は、学位授与日から1年以内に、白百合女子大学学術機関リポジトリ、次いで、国立国会図書館において公表されます。やむを得ない事由がある場合には、本学研究科委員会の事前承認を経て、事由解消までの間、全文に代えて要約が公表されます。

在学延長・単位取得退学

博士課程（後期）3年生は、指導教員と相談のうえ、学事日程で示されている1月中旬の期日までに翌年度の学籍に関する書類を教務課へ提出してください。なお、当該年度末において博士課程（後期）修了および博士学位授与が見込まれる学生は、いずれの書類も提出の必要はありません。

研究継続のために、翌年度も引き続き在学を希望する学生・・・「在学延長届」
修了要件単位数を満たし、当該年度末をもって退学を希望する学生・・・「単位取得退学願」

専修免許状の取得

1. 専修免許状の種類および免許教科について

中学校及び高等学校一種免許状を取得（見込を含む）している学生は、修士課程を修了（修士課程に1年以上在学し、30単位以上修得した場合を含む）し、所定の授業科目の単位を修得することにより、本人の申請に基づいて専修免許状を取得することができます。ただし、取得できる専修免許状は、原則として一種免許状と同一教科に限ります。専修免許状取得希望者は、「教育職員免許状（専修免許状）取得申請書」を期日までに教務課（資格担当）に提出してください。

なお、本学において取得できる免許状と専攻の組み合わせは、以下のとおりです。

課程認定を受けた専攻 (修士課程)	免許状の種類	免許教科
国語国文学専攻	中学校教諭専修免許状 高等学校教諭専修免許状	国語
フランス語フランス文学専攻	中学校教諭専修免許状 高等学校教諭専修免許状	外国語（フランス語）
英語英文学専攻	中学校教諭専修免許状 高等学校教諭専修免許状	外国語（英語）

2. 専修免許状を取得するための基礎資格と最低修得単位数

免許状の種類	基礎資格	本学大学院修士課程における 授業科目の最低修得単位数
中学校教諭専修免許状	修士の学位を有すること。 (修士課程に1年以上在学し、30単位以上修得した場合を含む。)	24 単位
高等学校教諭専修免許状		

3. 一種免許状に係る単位の修得について

一種免許状に係る単位を修得するためには、継続の学生を除き、事前に教務課（資格担当）までご相談いただいたうえで（原則として、中等教職課程担当教員との面談を行っていただきます。）、科目等履修生（学部）としての登録が必要となりますので、期日までに手続を行ってください（「授業・履修」の「3. プログラムの履修（科目等履修生）」参照）。ただし、登録にあたっては、指導教員の許可が必要となります。単位の修得状況にもよりますが、2種免許相当（教育実習及び教職実践演習を除く。）の単位を修得していない場合は、最低でも3年間の学修が必要になります。

4. 教育職員免許状の取得

教育職員免許状取得条件（授与条件）を満たした者は、都道府県教育委員会に申請することにより、当該免許状を取得することができます。本学の規定に基づいて、専修免許状取得に必要な条件を満たした学生については、本人に代わり、大学が東京都教育委員会に免許状の申請をすることができます（以下、大学一括申請）。大学一括申請を希望する学生は、2年次に所定の手続き（宣誓書への署名、本籍地の確認等）を期日までに行い、免許状交付手数料等を納入してください。申請に関する手続きの連絡等は、原則としてCAMPUS SQUAREの掲示板又はE-mailで行いますので、適宜確認してください。教育職員免許状は、学位記授与式当日に、各専攻を通してお渡しする予定です。なお、修了できない場合等は、大学一括申請の対象から除外します。その他にも、事情により大学一括申請の対象とならない場合は、個人申請となります。

5. 対象授業科目一覧

本学大学院修士課程において、専修免許状を取得するための授業科目として認定されているものは、以下のとおりです。

1) 「中学校教諭専修免許状（国語）」及び「高等学校教諭専修免許状（国語）」

認定を受けた専攻：国語国文学専攻

2026年度入学者用

免許法施行規則に定める科目区分等			本学における開設授業科目等								
科目区分	最低修得単位数		左記に対応する開設授業科目	単位数等							
	中学校教諭 専修免許状	高等学校 教諭専修 免許状		中学校教諭 専修免許状		高等学校教諭 専修免許状					
				選択 必修	履修 方法	選択 必修	履修 方法				
大学が独自に設定する科目	教科及び教科の指導法に関する科目	24	24	国語学演習（古代語）Ⅰ	2		2				
				国語学演習（古代語）Ⅱ	2		2				
				国語学演習（近代語）Ⅰ	2		2				
				国語学演習（近代語）Ⅱ	2		2				
				古代文学演習AⅠ	2	これらの科目から24単位の選択必修	2	24 単 位 選 択 必 修	2	これらの科目から24単位の選択必修	
				古代文学演習AⅡ	2		2				
				古代文学演習BⅠ	2		2				
				古代文学演習BⅡ	2		2				
				中世文学演習Ⅰ	2		2				
				中世文学演習Ⅱ	2		2				
				近世文学演習Ⅰ	2		2				
				近世文学演習Ⅱ	2		2				
				近代文学演習AⅠ	2		2				
				近代文学演習AⅡ	2		2				
				近代文学演習BⅠ	2		2				
				近代文学演習BⅡ	2		2				
				近代文学演習CⅠ	2		2				
				近代文学演習CⅡ	2		2				
				近代文学演習DⅠ	2		2				
				近代文学演習DⅡ	2		2				
合計	24	24	本学が定める最低修得単位数		24				24		

2) 「中学校教諭専修免許状（フランス語）」及び「高等学校教諭専修免許状（フランス語）」

認定を受けた専攻：フランス語フランス文学専攻

2026年度入学者用

免許法施行規則に定める科目区分等			本学における開設授業科目等				
科目区分	最低修得単位数		左記に対応する開設授業科目	単位数等			
	中学校教諭 専修免許状	高等学校 教諭専修 免許状		中学校教諭 専修免許状		高等学校教諭 専修免許状	
				選択 必修	履修 方法	選択 必修	履修 方法
大学が独自に設定する科目	24	24	フランス語演習Ⅰ	2		2	
			フランス語演習Ⅱ	2		2	
			フランス語演習Ⅲ	2		2	
			フランス語演習Ⅳ	2		2	
			フランス語学研究A	2		2	
			フランス語学研究B	2		2	
			フランス文学研究A	2		2	
			フランス文学研究B	2		2	
			フランス文学研究C	2		2	
			フランス文学研究D	2	これらの科目から	2	これらの科目から
			フランス文学研究E	2	24単位	2	24単位
			フランス文学研究F	2	選択	2	選択
			フランス文学研究G	2	必修	2	必修
			フランス文学研究H	2		2	
			フランス語翻訳研究A	2		2	
			フランス語翻訳研究B	2		2	
			フランス文化史研究A	2		2	
			フランス文化史研究B	2		2	
			フランス文化史研究C	2		2	
			フランス文化史研究D	2		2	
			フランス文化史研究E	2		2	
			フランス文化史研究F	2		2	
			フランス文化史研究G	2		2	
			フランス文化史研究H	2		2	
			フランス語教育研究A	2		2	
			フランス語教育研究B	2		2	
			フランス語教育研究C	2		2	
			フランス語教育研究D	2		2	
フランス語教育研究E	2		2				
フランス語教育研究F	2		2				
合計	24	24	本学が定める最低修得単位数	24		24	

3) 「中学校教諭専修免許状（英語）」及び「高等学校教諭専修免許状（英語）」

認定を受けた専攻：英語英文学専攻

2026年度入学者用

免許法施行規則に定める科目区分等				本学における開設授業科目等				
科目区分		最低修得単位数		左記に対応する開設授業科目	単位数等			
		中学校教諭 専修免許状	高等学校 教諭専修 免許状		中学校教諭 専修免許状		高等学校教諭 専修免許状	
					選択 必修	履修 方法	選択 必修	履修 方法
大学が独自に設定する科目	教科及び教科の指導法に関する科目	24	24	英語学演習 A I	2		2	
				英語学演習 A II	2		2	
				英語学演習 B I	2		2	
				英語学演習 B II	2		2	
				英語学演習 C I	2		2	
				英語学演習 C II	2	これら	2	これら
				英米文学演習 A I	2	の	2	の
				英米文学演習 A II	2	科	2	科
				英米文学演習 B I	2	目	2	目
				英米文学演習 B II	2	か	2	か
				英米文学演習 C I	2	ら	2	ら
				英米文学演習 C II	2	24	2	24
				英米文学演習 D I	2	単	2	単
				英米文学演習 D II	2	位	2	位
				英米文学演習 E I	2	選	2	選
				英米文学演習 E II	2	択	2	択
				英米文化演習 A I	2	必	2	必
				英米文化演習 A II	2	修	2	修
				国際社会・文化演習 A I	2		2	
				国際社会・文化演習 A II	2		2	
国際社会・文化演習 B I	2		2					
国際社会・文化演習 B II	2		2					
合 計	24	24	本学が定める最低修得単位数	24		24		

博士課程（前期） 公認心理師カリキュラム

1. 公認心理師について

1) 公認心理師について

公認心理師は、公認心理師法で定められている国家資格です。公認心理師とは、公認心理師登録簿への登録を受け、公認心理師の名称を用いて、保健医療、福祉、教育その他の分野において、心理学に関する専門的知識及び技術をもって、次に掲げる行為を行うことを業とする者をいいます。

- (1) 心理に関する支援を要する者の心理状態の観察、その結果の分析
- (2) 心理に関する支援を要する者に対する、その心理に関する相談及び助言、指導その他の援助
- (3) 心理に関する支援を要する者の関係者に対する相談及び助言、指導その他の援助
- (4) 心の健康に関する知識の普及を図るための教育及び情報の提供

2) 公認心理師になるには

公認心理師になるには、次の3つのステップが必要です。博士課程（前期）で履修できるのは以下に記載している(2)のみで、さらに加えて(1)と(3)が必要であることを十分に理解した上で、今後の学修計画や進路選択を行いましょう。

- (1) 公認心理師カリキュラムをもつ大学において、所定の科目を履修し、卒業する。
- (2) 公認心理師カリキュラムをもつ大学院において、所定の科目を履修し、修了する。もしくは、指定された施設で学部卒業後2年間の実務経験を積む。
- (3) 国家試験である公認心理師試験に合格する。

2. 本学における公認心理師カリキュラム（大学院）の履修について

1) 対象

公認心理師カリキュラム（大学院）は、文学研究科発達心理学専攻博士課程（前期）の学生が対象となります。

2) 履修

「3. 公認心理師カリキュラム（大学院）に対応する科目」に示すとおり、公認心理師カリキュラム（大学院）においては、文部科学省令・厚生労働省令で定められている所定の科目すべての単位を修得する必要があります。入学年度により履修科目名が異なる場合がありますので、履修にあたっては十分注意してください。

3) 学外実習における実習費および単位認定時期

「心理実践実習A」「心理実践実習C」を履修する年度に、実習費（参考：心理実践実習A：40,000円、心理実践実習C：40,000円）の納入が必要となります。期間内に納入手続きを行わない場合、履修することはできません。また、一旦納入された実習費は、いかなる理由があっても返還することはできません。なお、実習費の他に、予防接種関係費用、白衣クリーニング代、交通費、食事代、証明書発行手数料等の実費が自己負担となります。

「心理実践実習A」「心理実践実習C」については、実習時期が年度をまたぐことから、その単位認定は博士課程（前期）修了年度末となります。

4) 公認心理師カリキュラム（大学院）に関するサポート

公認心理師カリキュラム（大学院）に関する質問は、発達心理学科研究室へお問い合わせください。

3. 公認心理師カリキュラム（大学院）に対応する科目

2026年度入学者用

	公認心理師法施行規則に定める科目	本学における開講科目	対象年次	単位数	必要な単位数
公 認 心 理 師 に 対 応 す る 科 目	① 保健医療分野に関する理論と支援の展開	保健医療分野に関する理論と支援の展開 A *1	1・2	2	2
		保健医療分野に関する理論と支援の展開 B *1	1・2	2	
	② 福祉分野に関する理論と支援の展開	福祉分野に関する理論と支援の展開 A	1・2	2	2
		福祉分野に関する理論と支援の展開 B	1・2	2	
	③ 教育分野に関する理論と支援の展開	教育分野に関する理論と支援の展開 A *1	1・2	2	2
		教育分野に関する理論と支援の展開 B *1	1・2	2	
	④ 司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開	司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開 *1	1・2	2	2
	⑤ 産業・労働分野に関する理論と支援の展開	産業・労働分野に関する理論と支援の展開 *1	1・2	2	2
	⑥ 心理的アセスメントに関する理論と実践	臨床心理査定演習Ⅰ (心理的アセスメントに関する理論と実践A)	1・2	2	2
		心理的アセスメントに関する理論と実践B	1・2	2	
	⑦ 心理支援に関する理論と実践	臨床心理面接特論Ⅰ (心理支援に関する理論と実践A)	1・2	2	2
		心理支援に関する理論と実践B	1・2	2	
		心理支援に関する理論と実践C (心理療法治論) *4	1・2	2	
	⑧ 家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践	家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践A *1	1・2	2	2
		家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践B *1	1・2	2	
	⑨ 心の健康教育に関する理論と実践	心の健康教育に関する理論と実践	1・2	2	2
	⑩ 心理実践実習 (実習時間 450 時間以上)	心理実践実習 A *2*3	1・2	2	14 (12) *6
		心理実践実習 BⅠ *4	1	4	
		心理実践実習 BⅡ *4	2	4	
		臨床心理実習Ⅰ (心理実践実習 BⅢ) *4	2	2	
心理実践実習 C *2		1・2	2		
心理実践実習 DⅠ *5		1・2	2		
心理実践実習 DⅡ *5		1・2	2		
本学が定める最低修得単位数					32 単位 (30 単位) *6

*1 隔年開講科目

*2 学外実習

*3 「心理実践実習 A」の履修にあたっては、「保健医療分野に関する理論と支援の展開 A」の単位を修得済みであることを強く推奨します。

*4 発達臨床心理学コースの学生のみ履修可 (発達心理学コースの学生は履修不可)

*5 発達心理学コースの学生のみ履修可 (発達臨床心理学コースの学生は履修不可)、再度履修可

*6 () 内は、発達心理学コースの学生の最低修得単位数

博士課程（前期） 臨床心理士カリキュラム

1. 臨床心理士について

1) 臨床心理士について

臨床心理士は、心の問題に取り組む“心理専門職”の証となる資格です。臨床心理士に求められる専門行為とは、次のとおりです。

- (1) 種々の心理テスト等を用いての心理査定技法や面接査定に精通していること。
- (2) 一定の水準で臨床心理学的にかかわる面接援助技法を適用して、その的確な対応・処置能力を持っていること。
- (3) 地域の心の健康活動にかかわる人的援助システムのコーディネーティングやコンサルテーションにかかわる能力を保持していること。
- (4) 自らの援助技法や査定技法を含めた多様な心理臨床実践に関する研究・調査とその発表等についての資質の涵養が要請されること。

2) 臨床心理士になるには

臨床心理士になるには、公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会が実施する試験に合格することが必要です。同協会が発表している主な受験資格は次のとおりです。

- (1) 指定大学院（1種・2種）を修了し、所定の条件を充足している者
- (2) 臨床心理士養成に関する専門職大学院を修了した者
- (3) 諸外国で指定大学院と同等以上の教育歴があり、修了後の日本国内における心理臨床経験2年以上を有する者
- (4) 医師免許取得者で、取得後、心理臨床経験2年以上を有する者

2. 本学における臨床心理士カリキュラムの履修について

1) 対象

臨床心理士カリキュラムは、文学研究科発達心理学専攻博士課程（前期）のうち発達臨床心理学コースの学生が対象となります。

2) 履修

「3. 臨床心理士カリキュラムに対応する科目」に示すとおり、臨床心理士カリキュラムにおいては、日本臨床心理士資格認定協会で定められている所定の科目を修得する必要があります。本学においては、協会の定める必修5科目（16単位）に対応する本学開講科目9科目（20単位）、および選択必修科目群（A、B、C、D、E）からそれぞれ2単位以上で計10単位以上、合計30単位以上を修得する必要があります。

3) 臨床心理士カリキュラムに関するサポート

臨床心理士カリキュラムに関する質問は、発達心理学科研究室へお問い合わせください。

3. 臨床心理士カリキュラムに対応する科目

2026年度入学者用

	臨床心理士資格認定に必要な科目	本学における開講科目	対象年次	単位数	必要な単位数
必修	臨床心理学特論	臨床心理学特論Ⅰ	1・2	2	20 *2
		臨床心理学特論Ⅱ	1・2	2	
	臨床心理学面接特論	臨床心理面接特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践A）	1・2	2	
		臨床心理面接特論Ⅱ *1	1・2	2	
	臨床心理査定演習	臨床心理査定演習Ⅰ（心理的アセスメントに関する理論と実践A）	1・2	2	
		臨床心理査定演習Ⅱ	1・2	2	
	臨床心理基礎演習	臨床心理基礎実習	1・2	4	
臨床心理実習	臨床心理実習Ⅰ（心理実践実習BⅢ）	2	2		
	臨床心理実習Ⅱ	2	2		
選択必修A	心理学研究法特論	心理学研究法特論	1・2	2	2
	心理統計法特論	—	—	—	
	臨床心理学研究法特論	臨床心理学研究法特論	1・2	2	
選択必修B	人格心理学特論	—	—	—	2
	発達心理学特論	心理支援に関する理論と実践B	1・2	2	
		心の健康教育に関する理論と実践	1・2	2	
	学習心理学特論	—	—	—	
	認知心理学特論	認知心理学特論	1・2	2	
	比較行動学特論	—	—	—	
教育心理学特論	教育分野に関する理論と支援の展開A	1・2	2		
選択必修C	社会心理学特論	家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践B	1・2	2	2
	人間関係学特論	—	—	—	
	社会病理学特論	—	—	—	
	家族心理学特論	家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践A	1・2	2	
	犯罪心理学特論	司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開	1・2	2	
	臨床心理関連行政論	—	—	—	
選択必修D	精神医学特論	保健医療分野に関する理論と支援の展開A	1・2	2	2
	心身医学特論	—	—	—	
	神経生理学特論	保健医療分野に関する理論と支援の展開B	1・2	2	
	老年心理学特論	福祉分野に関する理論と支援の展開B	1・2	2	
	障害者（児）心理学特論	福祉分野に関する理論と支援の展開A	1・2	2	
	精神薬理学特論	—	—	—	
選択必修E	投影法特論	投影法特論	1・2	2	2
	心理療法特論	心理支援に関する理論と実践C（心理療法特論）	1・2	2	
	学校臨床心理学特論	—	—	—	
	グループ・アプローチ特論	—	—	—	
	臨床心理地域援助特論	—	—	—	
		修士論文	2	0	0*3
本学が定める最低修得単位数					30単位以上

*1 「臨床心理面接特論Ⅱ」の履修にあたっては、「臨床心理面接特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践A）」の単位を修得済みであることを強く推奨します。

*2 本学では、9科目（20単位）を必修科目とします。

*3 修士論文のテーマと内容が臨床心理学であることが求められます。

博士課程（前期） 臨床発達心理士カリキュラム

1. 臨床発達心理士について

1) 臨床発達心理士について

臨床発達心理士とは、発達の臨床に携わる幅広い専門家に開かれた資格です。臨床発達心理士に求められる専門行為とは、次のとおりです。

- (1) 発達心理学を中心とした心理学諸分野の科学的・理論的な知識。
- (2) 人間が実際に発達する場に関する社会的・実践的な知識。
- (3) 人間の発達をアセスメントし支援する臨床的な知識・技能。

2) 臨床発達心理士になるには

一般社団法人臨床発達心理士認定運営機構が発表している主な受験資格はタイプⅠ～タイプⅣまであります。文学研究科発達心理学専攻博士課程（前期）にかかわるタイプⅠ（大学院修了タイプ）および、タイプⅡ-Ⅰ（現職者大学院修了）について以下に記載します。その他のタイプについては、同機構Webページで確認してください。

(1) タイプⅠ（大学院修了タイプ）

大学院の博士前期課程において、必要な教育歴と実習経験を満たすものであり、大学院博士前期課程終了後、臨床発達に関する実践経験年数が3年未満の者や、大学院博士後期課程の者もこれに含まれる。以下、3つの条件を満たす必要があり、一次審査では書類審査に加えて、筆記試験を受験することが求められる。

- ① 発達心理学隣接諸科学大学院博士前期課程を修了している、または修了年度で修了見込みである。
- ② 5つの指定科目のうち、必修2科目8単位、選択必修1科目4単位以上の単位を大学院の授業、または、臨床発達心理士認定運営機構が主催する「指定科目取得講習会」で取得している、または申請年度において取得見込みである。尚、「認知発達とその支援に関する科目」「社会・情動の発達とその支援に関する科目」「言語発達とその支援に関する科目」については、〈基礎〉と〈支援〉の各々を満たして4単位とすること。
- ③ 200時間以上の臨床発達支援に関する臨床実習の経験を有する、または申請年度において修了見込みである。現職者が、大学院に入学した場合など、一定の条件で臨床経験を臨床実習に換算することもある。

(2) タイプⅡ-Ⅰ（現職者大学院修了）

大学院修了の現職者が申請できる。以下、3つの条件を満たすとともに、一次審査では書類審査に加えて、筆記試験を受験することが求められる。ただし、筆記試験の受験を臨床実務経験に関する事例報告書の審査によって替えることができる。

- ① 発達心理学隣接諸科学大学院博士前期課程を修了している、または修了年度で修了見込みである。
- ② 3年以上の臨床発達支援に関する臨床実務経験を有する。
- ③ 5つの指定科目のうち、必修2科目8単位、選択必修1科目4単位以上の単位を大学院の授業、または、臨床発達心理士認定運営機構が主催する「指定科目講習会」で取得している、または申請年度において取得見込みである。

2. 本学における臨床発達心理士カリキュラムの履修について

1) 対象

臨床発達心理士カリキュラムは、文学研究科発達心理学専攻博士課程（前期）の学生が対象となります。

2) 履修

「3. 臨床発達心理士カリキュラムに対応する科目」に示すとおり、臨床発達心理士カリキュラムにおいては、一

般社団法人臨床発達心理士認定運営機構で定められている所定の科目を修得する必要があります。本学においては、指定6科目（12単位）と臨床実習科目の修得が求められます。

3) 学外実習における実習費および単位認定時期

「心理実践実習A」「心理実践実習C」を履修する年度に、実習費（参考：心理実践実習A：40,000円、心理実践実習C：40,000円）の納入が必要となります。期間内に納入手続きを行わない場合、履修することはできません。また、一旦納入された実習費は、いかなる理由があっても返還することはできません。なお、実習費の他に、予防接種関係費用、白衣クリーニング代、交通費、食事代、証明書発行手数料等の実施が自己負担となります。

「心理実践実習A」「心理実践実習C」については、実習時期が年度をまたぐことから、その単位認定は博士課程（前期）修了年度末となります。

4) 臨床発達心理士カリキュラムに関するサポート

臨床発達心理士カリキュラムに関する質問は、発達心理学科研究室へお問い合わせください。

3. 臨床発達心理士カリキュラムに対応する科目

2026年度入学者用

	臨床発達心理士カリキュラムに定められている科目		本学における開講科目	対象年次	単位数	必要な単位数	
必修	臨床発達心理学の基礎に関する科目	4	認知心理学特論	1・2	2	4	
			福祉分野に関する理論と支援の展開A	1・2	2		
	臨床発達支援の専門性に関する科目	4	教育分野に関する理論と支援の展開B	1・2	2	4	
			福祉分野に関する理論と支援の展開B	1・2	2		
	臨床実習	200時間	心理実践実習A	*1*2	1・2	2	12
			心理実践実習BⅠ	*4	1	4	
心理実践実習BⅡ			*4	2	4		
心理実践実習C			*1	1・2	2		
心理実践実習DⅠ			*5	1・2	2		
選択必修*3	社会・情動の発達とその支援に関する科目	4	発達 の 基礎	心の健康教育に関する理論と実践	1・2	2	4
			支援	心理支援に関する理論と実践B	1・2	2	
	認知発達とその支援に関する科目	4	発達 の 基礎	—	—	—	
			支援	—	—	—	
	言語発達とその支援に関する科目	4	発達 の 基礎	—	—	—	
			支援	—	—	—	
本学が定める最低修得単位数						24単位	

*1 学外実習

*2 「心理実践実習A」の履修にあたっては、「保健医療分野に関する理論と支援の展開A」の単位を修得済みであることを強く推奨します。

*3 本学では、選択必修として「社会・情動の発達とその支援に関する科目」へ2科目のみ設定しているため、両科目の単位修得が求められます。

*4 発達臨床心理学コースの学生のみ履修可（発達心理学コースの学生は履修不可）

*5 発達心理学コースの学生のみ履修可（発達臨床心理学コースの学生は履修不可）、再度履修可

※ 臨床発達心理士カリキュラムは、臨床発達心理師認定運営機構が主催する「指定科目取得講習会」（有料）でも受講可能です。

詳細は同機構Webページ（<https://www.jocdp.jp/>）で確認してください。

